大正六年九月十四日 第三種郵便物認可・昭和十一年九月二十五日印刷納本・昭和十一年十月一日發行（毎月一回一日發行）

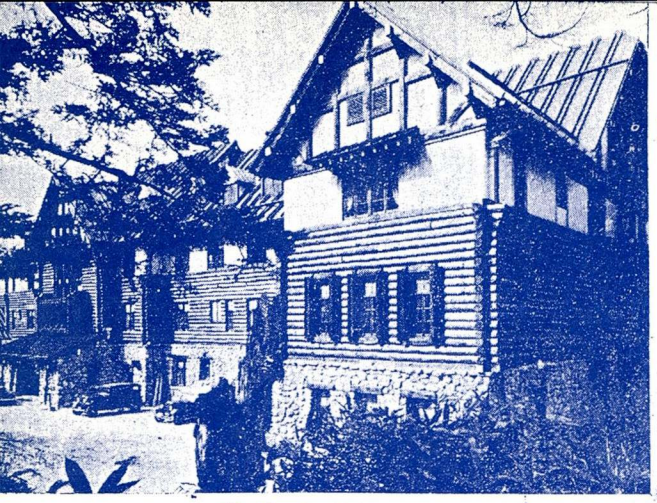
建築と社會

10

オリンピック
建築特輯號

第十九輯第十號　昭和十一年十月一日

日本建築協會

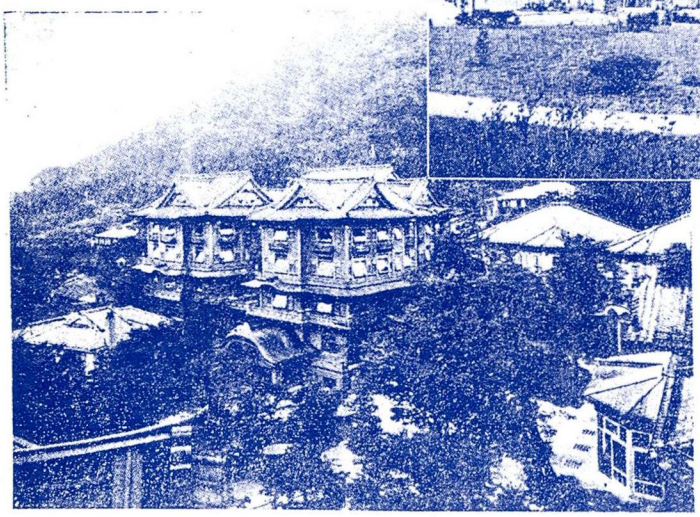


上高地ホテル
設計 高橋貞太郎殿
施工 大倉組殿

オリンピックを前に
新装を誇る
ホテル建築



河口湖畔
富士ビューホテル



箱根富士屋ホテル
新館花御殿

設計 富士屋ホテル株式會社殿
施工 川原組殿

諸建築材料及附帯設備一式
設計監督・工事請負並材料販賣

三機工業株式會社大阪支店

大阪市北區中之島三丁目（大阪三井ビル内）
電話土佐堀（44）8365(5) 1776. 3103

本店 東京市麹町區有樂町（三信ビル内）
電話銀座（57）5140(10)5941（7）

支店 大阪・名古屋・福岡・大連・京城
出張所 札幌・函館・新京・奉天・臺北・廣島

工場 東洋鋼材株式會社川崎工場…川崎市渡田

取扱店 三井物産株式會社各地支店出張所

（型錄贈呈）

待望の巨篇遂に完成

約一年有餘幾多の苦心と多大の犧牲とを拂つて遂に完成を告げた本書は、明治開化の洋風建築輸入時代より大正、昭和の三代に亘る近代建築を悉く網羅したもので住宅をはじめ銀行、諸會社、商店、劇場、學校、病院、官公衙、ホテル、クラブ、カフエー、事務所、百貨店、ビルディング、停車場、溫泉、橋梁、記念塔、燈臺等に及び、しかもこれを竣工年代別に配列し各建築の寫眞及び平面圖並に內容を詳細に說明したるもの、何人も未だかつて敢行し得ざりし近代建築史は本書によつて完璧の域に達したといつても敢へて過言ではない。故に建築專門關係者のみならず、各種企業家その他の人と雖も本書を座右に備へて趣味と實益とを兼ねる好作侶たるべく敢へてお薦めする所以である。

・近代建築書譜刊行會編・

本書は絕對に再版せず賣切れざるうち卽刻御申込を乞ふ

近代建築書譜

近畿篇

菊倍版(縱一尺橫七寸五分)堂々七百頁の大冊 裝幀頗る優美・見返し 藤田嗣治畫伯揮毫

內容全部アートペーパー使用・鮮明なる高級印刷・

挿入寫眞及平面圖約一千五百餘枚・登載建築物約八百有餘・附錄技術施工者及建築主要關係業者紹介等

定價一冊金拾五円

下記御便利の所へ御申込下されば直ちに現品をお屆けいたします地方の方は前金又は申込金參圓御送付下さい殘金は代金引換郵便にて現品を御屆けします

(各地取次販賣人を求む御紹介を乞ふ)

內容見本進呈

發賣所 日刊土木建築時報社
大阪市西區靱北通一丁目二十六番地
電話土佐堀四〇三二番
振替大阪四一二六七番

東京支局 東京市赤坂區青山高樹町二〇
電話青山四二四番

滿洲支局 新京興安大路三五一興安莊
電話二ノ一六二三番

賣捌所 丸善株式會社大阪支店
大阪市東區博勞町四丁目心齋橋筋

後世に貽すべき一大文献

建築と社會

第19輯 第10號　昭和11年10月發行

十月號

目　次

オリンピヤ祭の競技……原　隨園（1）
古代希臘の競技と競技場……森田慶一（6）
オリムピアス・おぼえがき……瀧澤眞弓（18）
オリンピヤ大祭とオリンピツク雜考……中尾保（30）
オリムピツク競技施設に就て……小林政一（43）
建築と宣傳……田誠（49）
オリンピツク大會に際して建築家に望む……木下東作（17）
ベルリンオリムピツク村計畫について……和田登（50）
ガルミツシユパルテンキルヘンに於ける冬季オリンピツク競技及び建築施設……匂坂弘美（61）
オリンピツク東京招致と市廳舍問題……龜井幸次郎（67）
オリンピツクと大阪……小泉嘉四郎（73）
オリンピツクと大阪……本多正道（75）

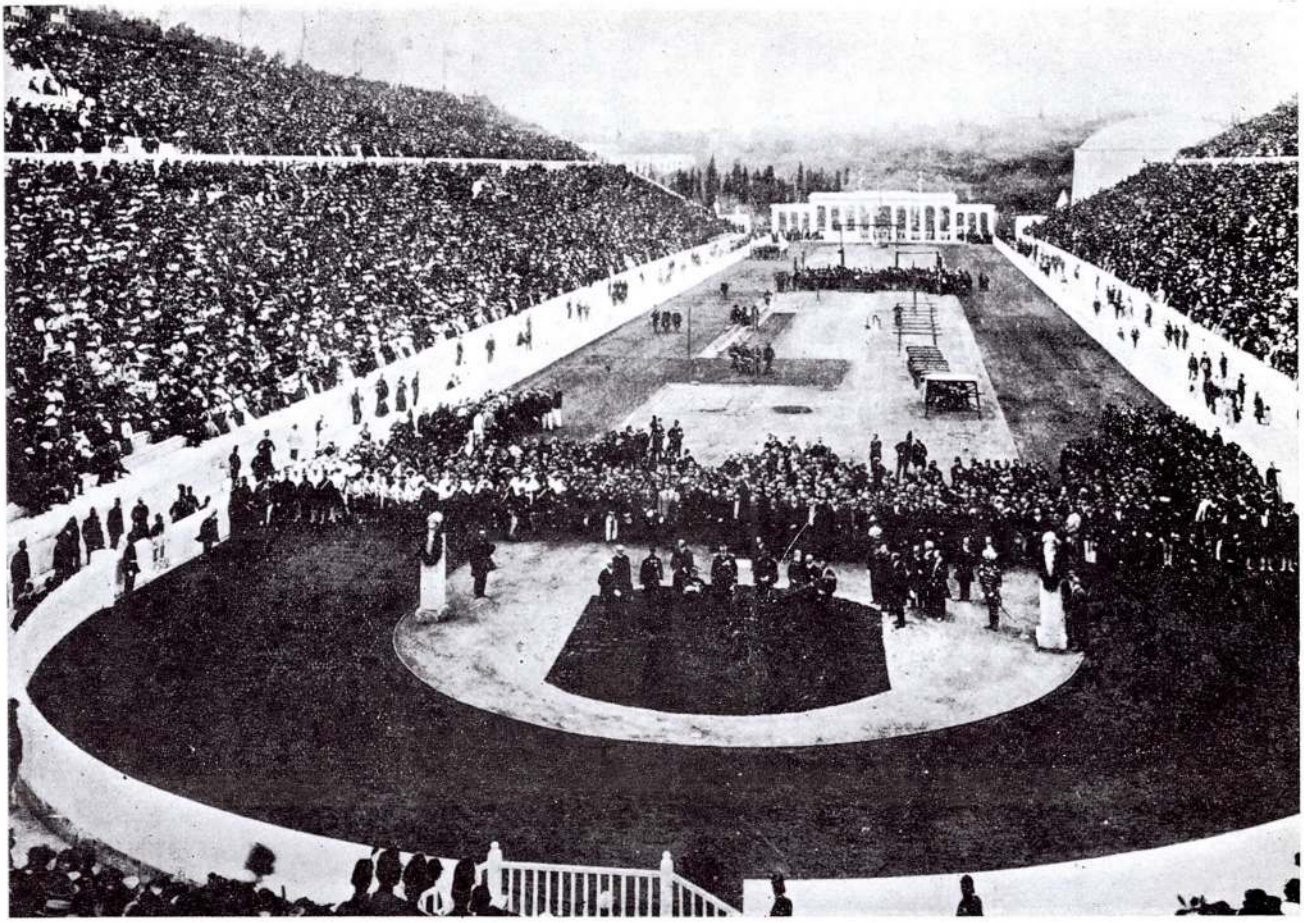
• 都市計畫時報欄 •

〃綠地帶〃都市の敷地計畫……（77）
交通島……吉田信武（84）
特種建築物規則……（88）

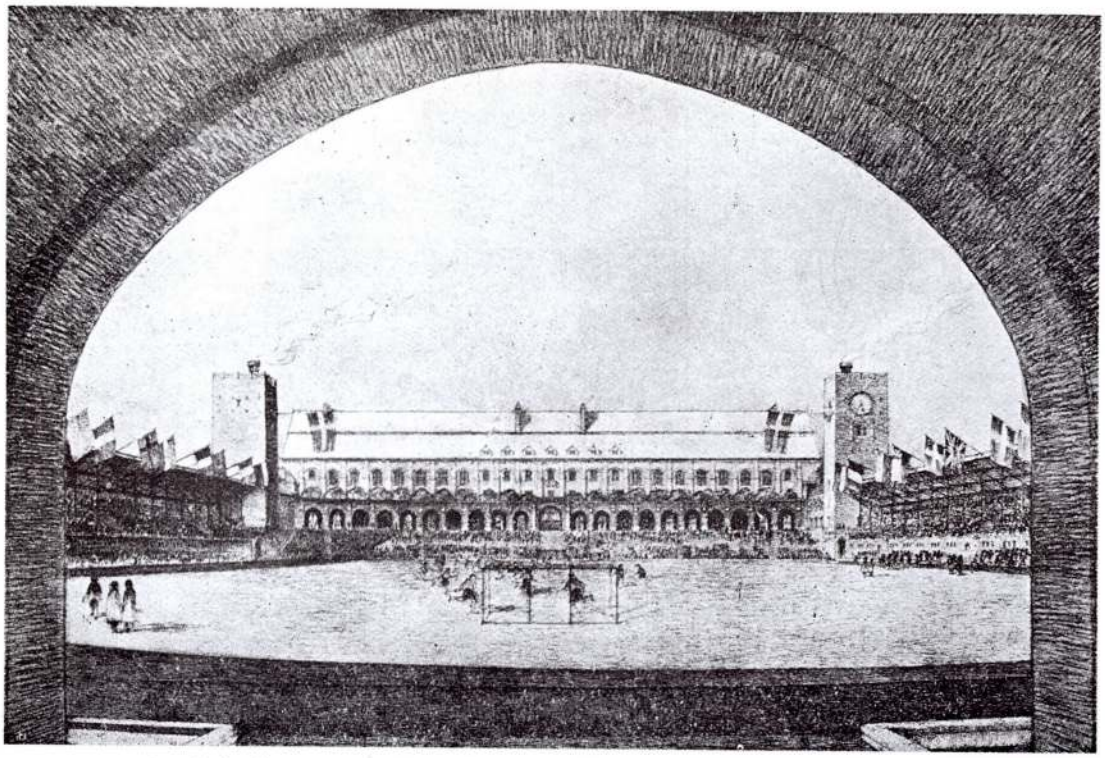
• 新建築欄 •

山中觀光ホテル　神戸日本ビル
西村福治氏邸　Cachan の新市廳舍（オランダ）
Piccadilly の雜貨店（イギリス）　坑口に設けられた浴室兼酒保（イタリー）
Hampstead の住宅（イギリス）　Cleveland の住宅（アメリカ）
新式列車「マーキユリー號」（アメリカ）

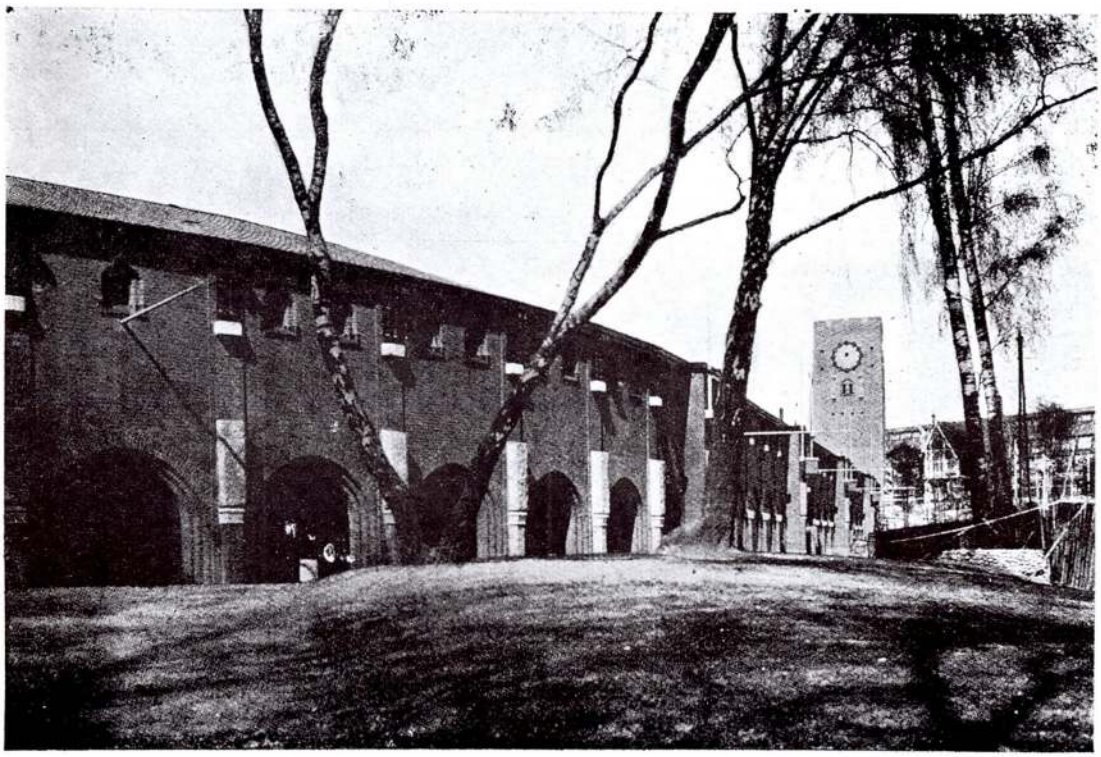
會報……（94）



競　技　場　全　景



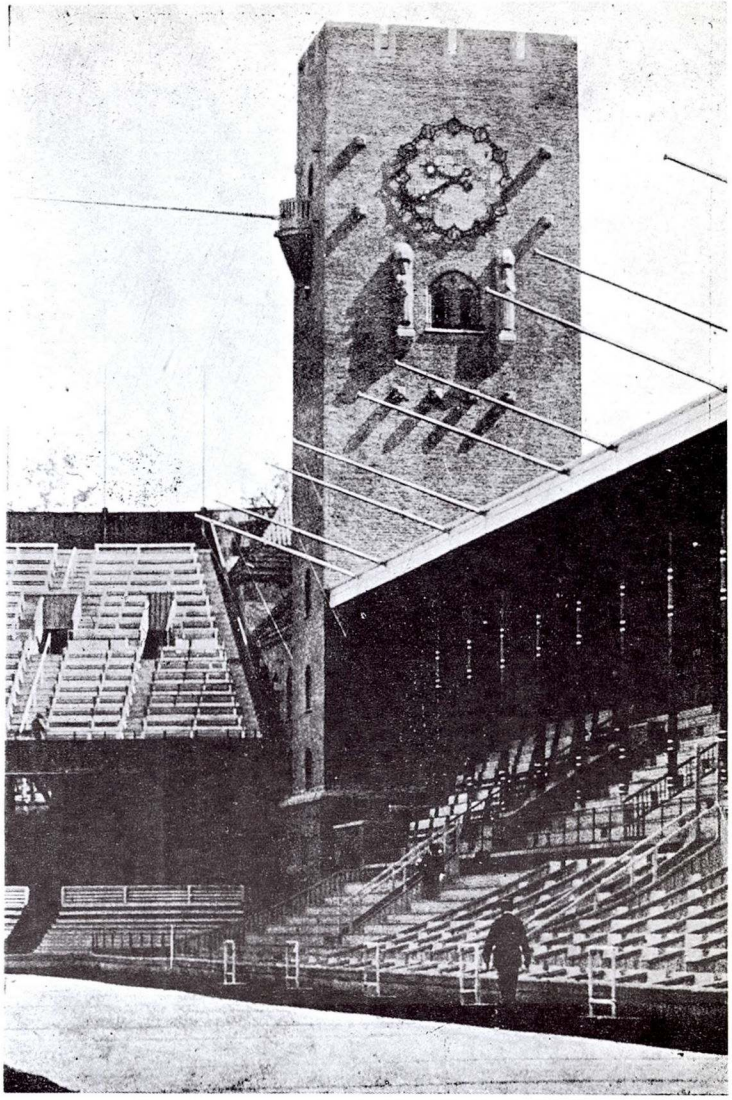
スタデイオン入口より場内を望む

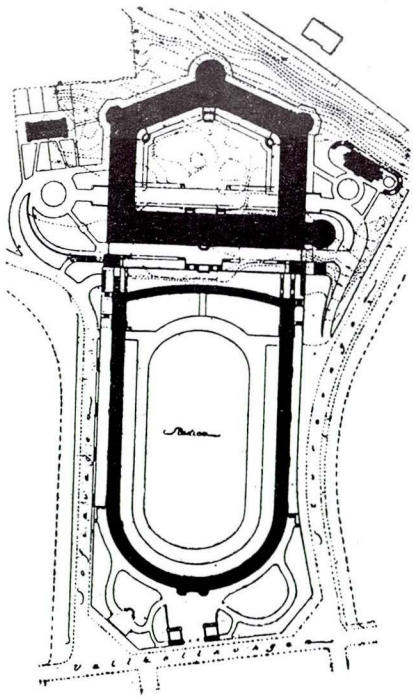


スタデイオン外部

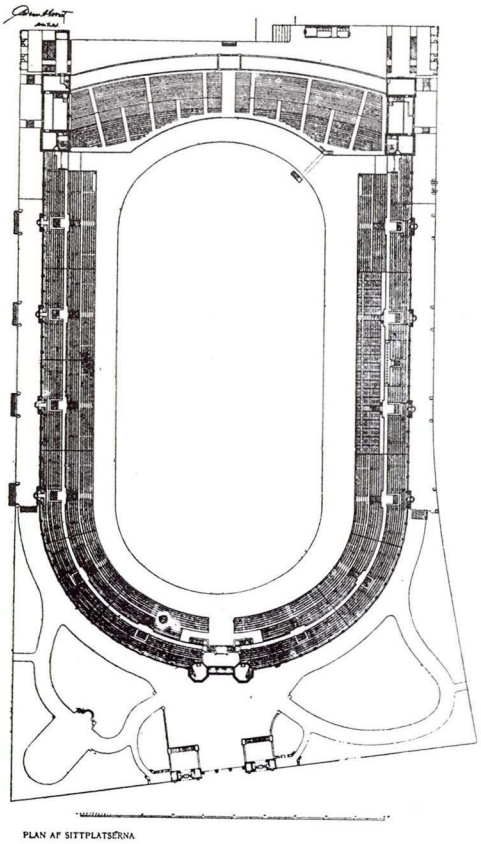
※2 “第5回オリンピック” (1912年ストックホルム)

スタンド一隅の高塔

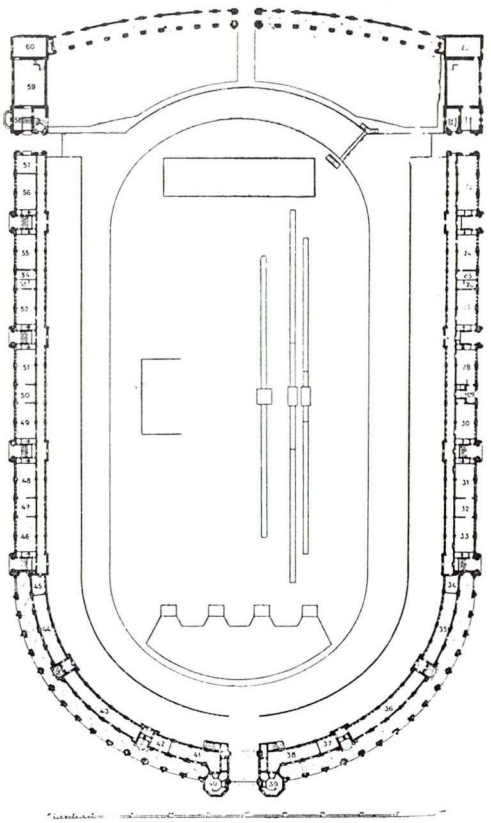




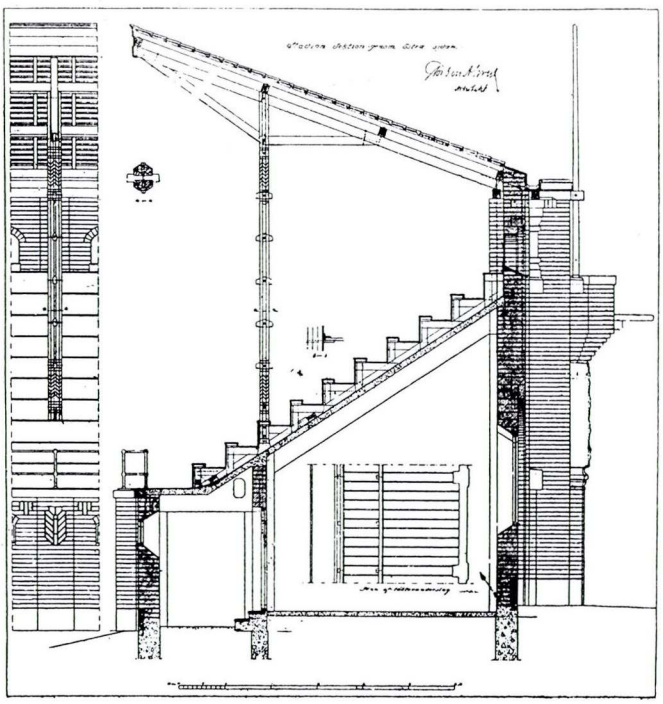
配　置　圖



スタデイオン觀覽席平面圖

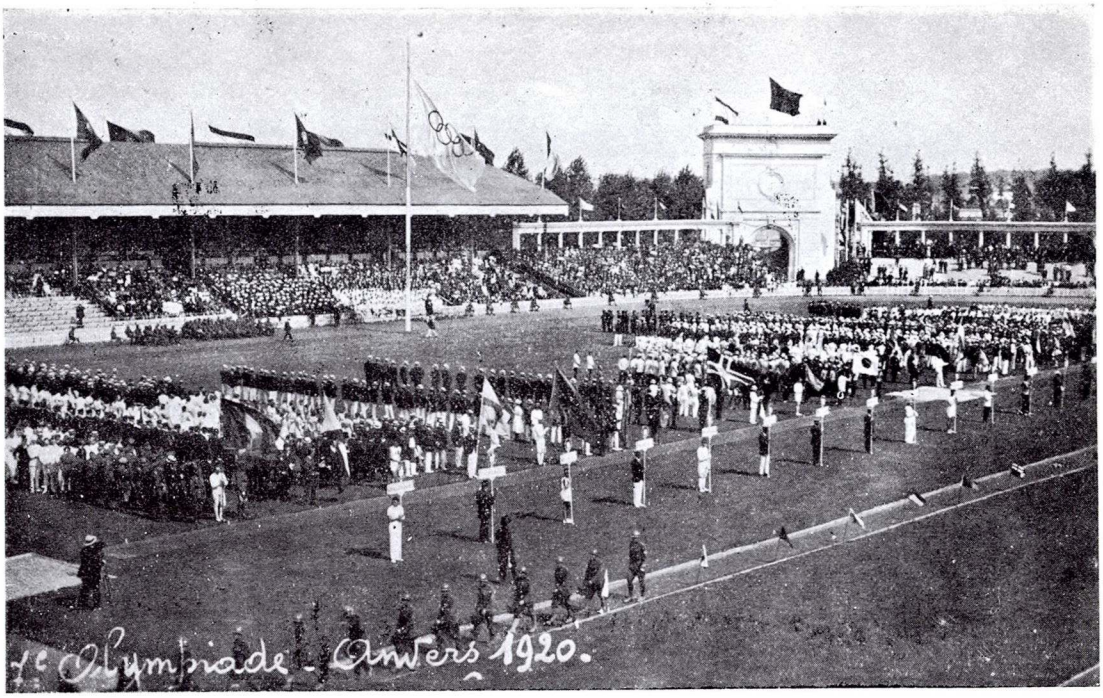


スタデイオン配室平面圖

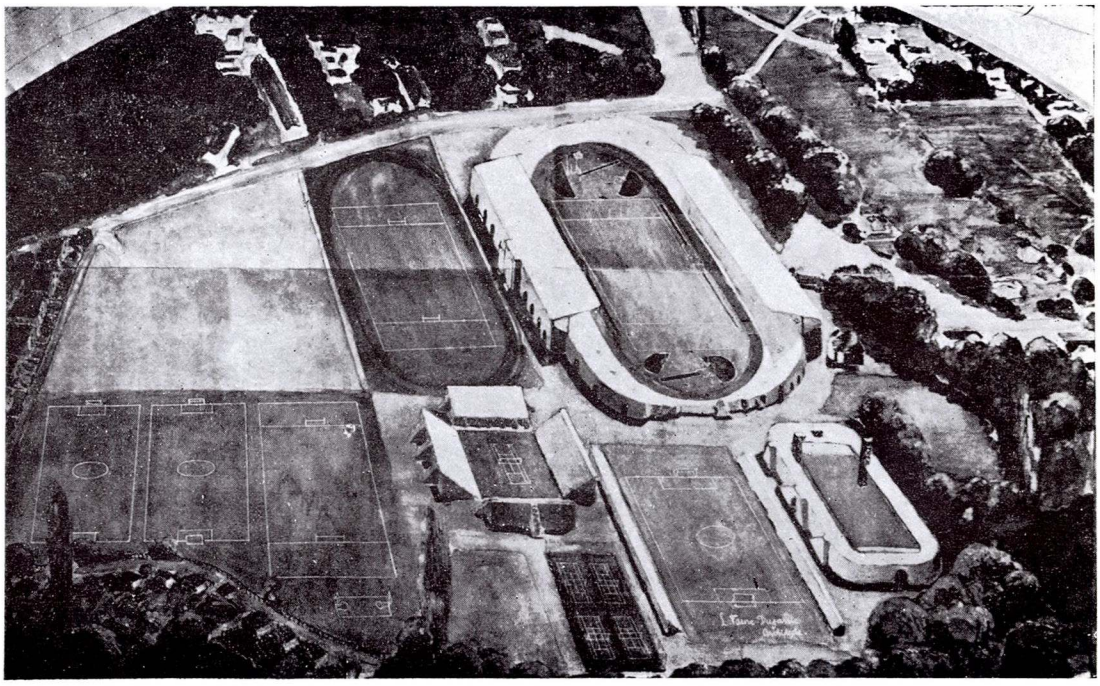


スタンド斷面圖

×4 “第5回オリンピック” (1912年ストツクホルム)

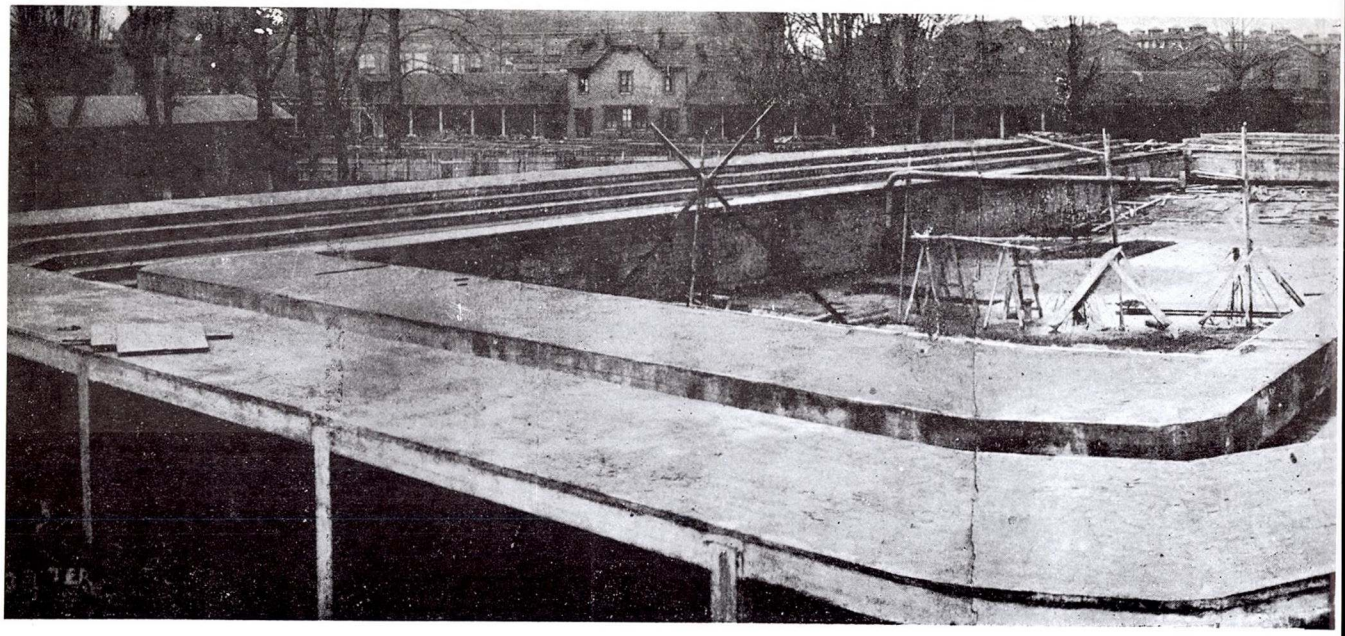


第７回オリンピック競技場全景（1920年アントワープ）

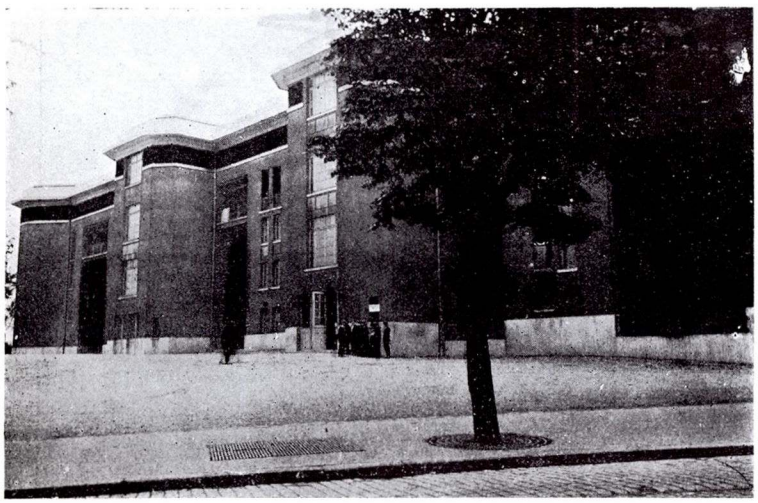


全　　景

“第８回オリンピック”（1924年パリー）　5x

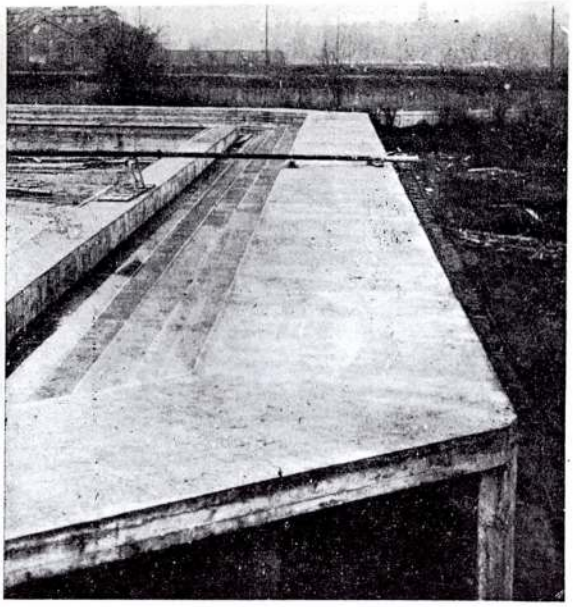


工　事　中　の　水　泳　場

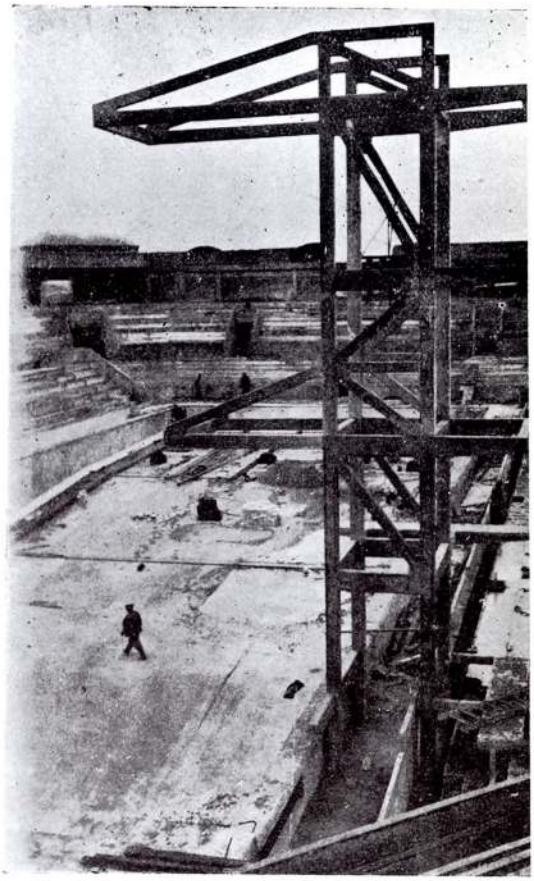


水　泳　場　外　觀





プール飛込臺



蹴球場全景

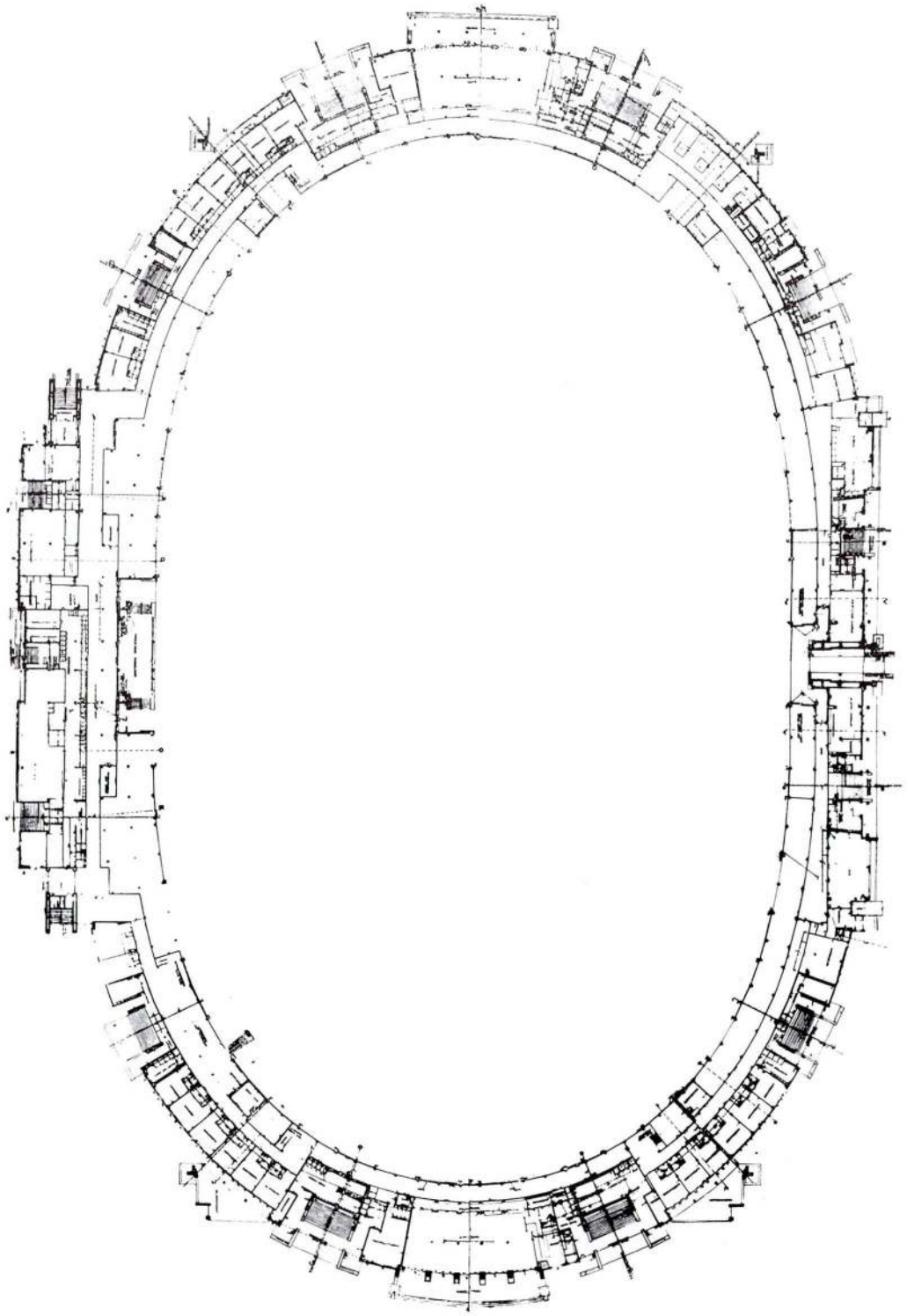




全　　景

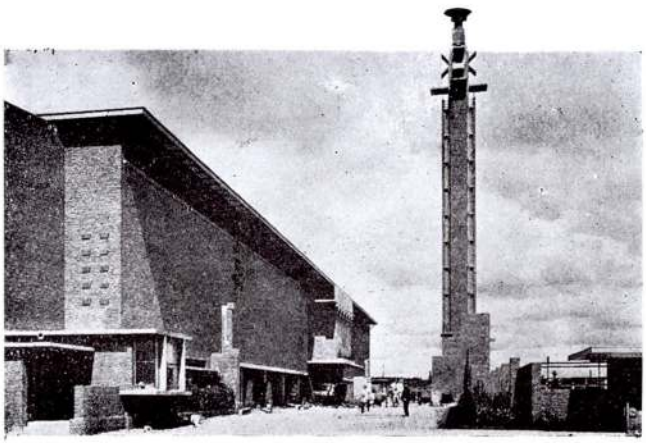
×8 第9回オリンピック（1928年アムステルダム）

スタディアム平面圖





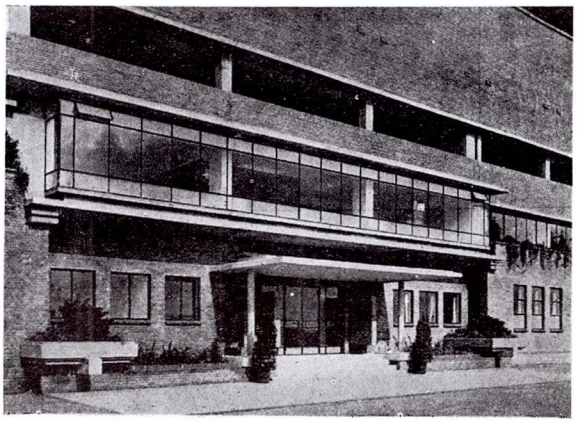
マラソン出を門手選ン



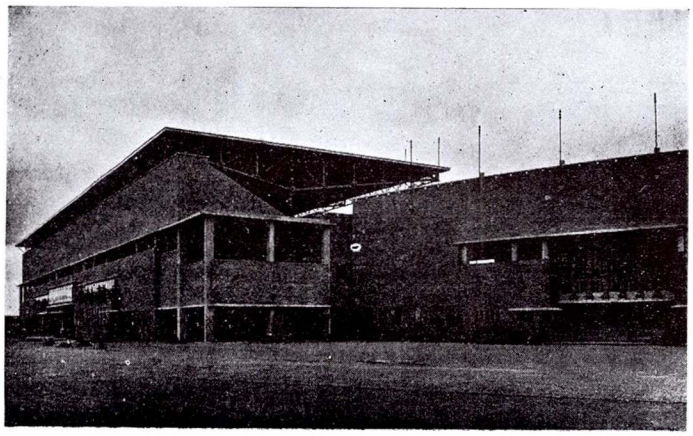
マラソン塔



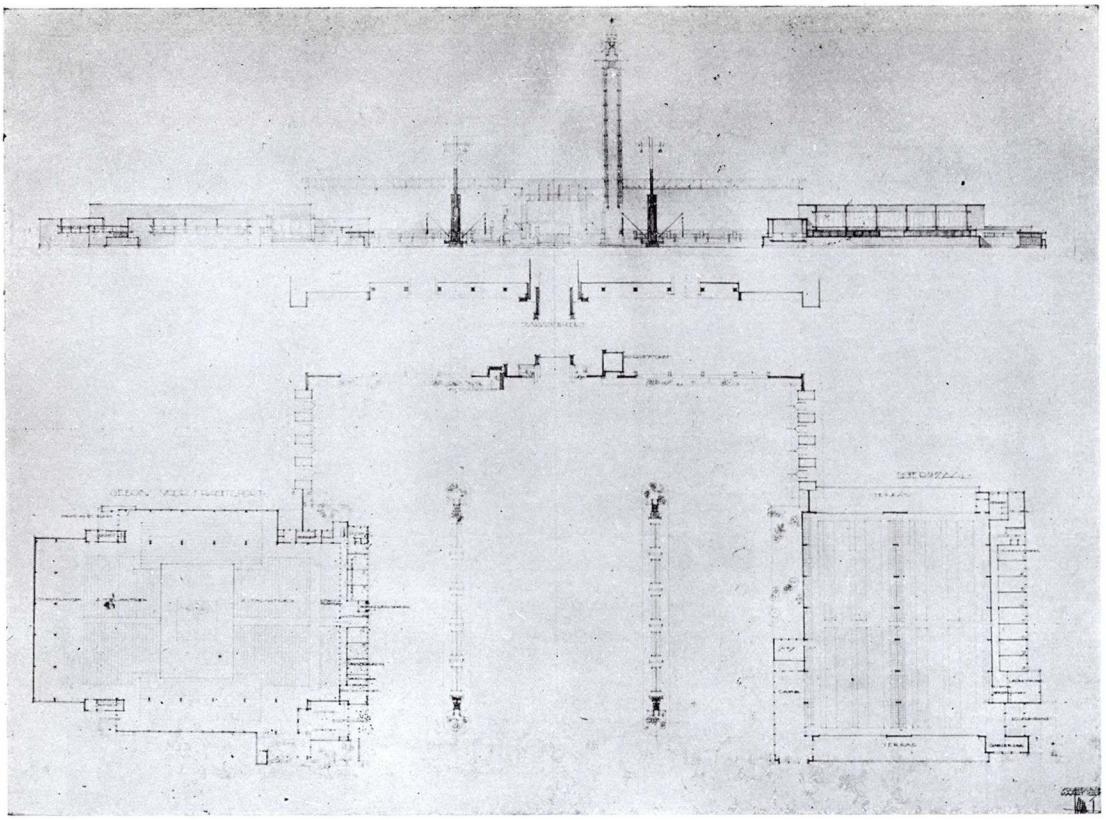
向つて　左側メインスタンド及レスリング場
　　右側（遠くの方）はフエンシング場



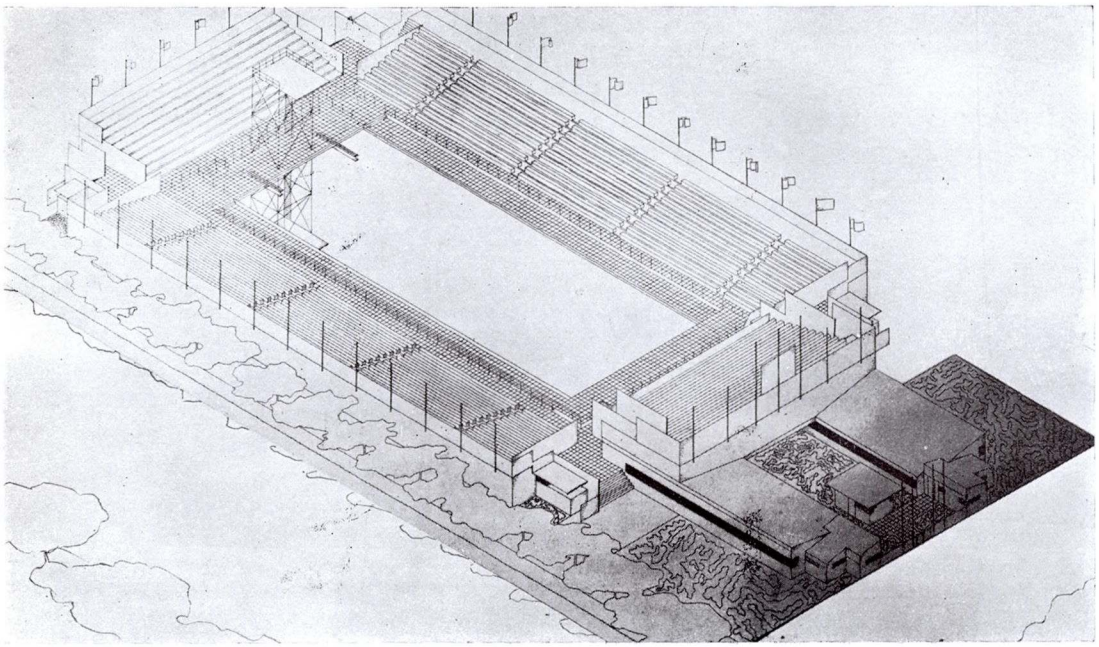
メインスタンドへの入口



メインスタンド背面



立面圖及レスリング場(左)フエシング場平面圖

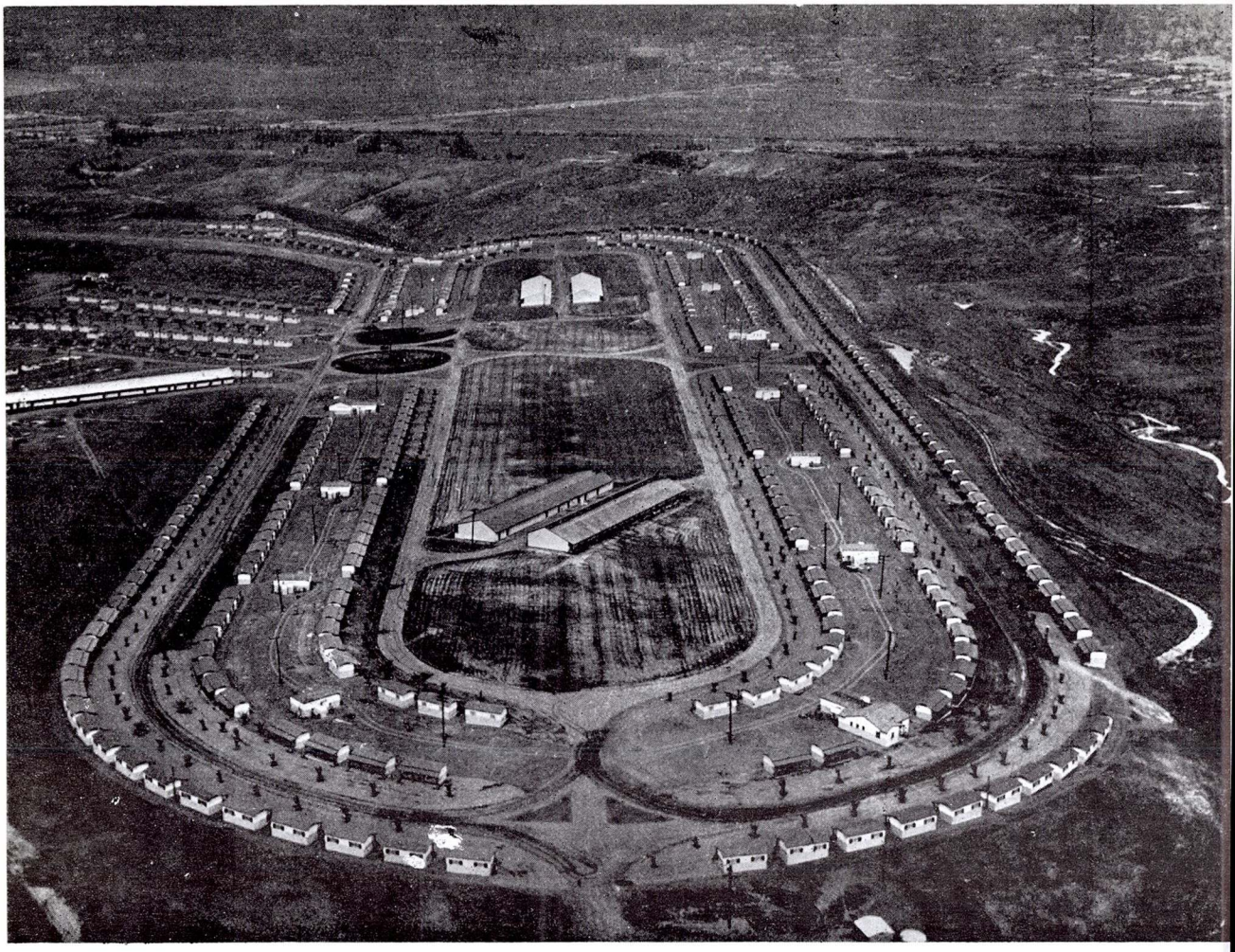


水泳場配景圖

×12 第9回オリンピック (1928年アムステルダム)

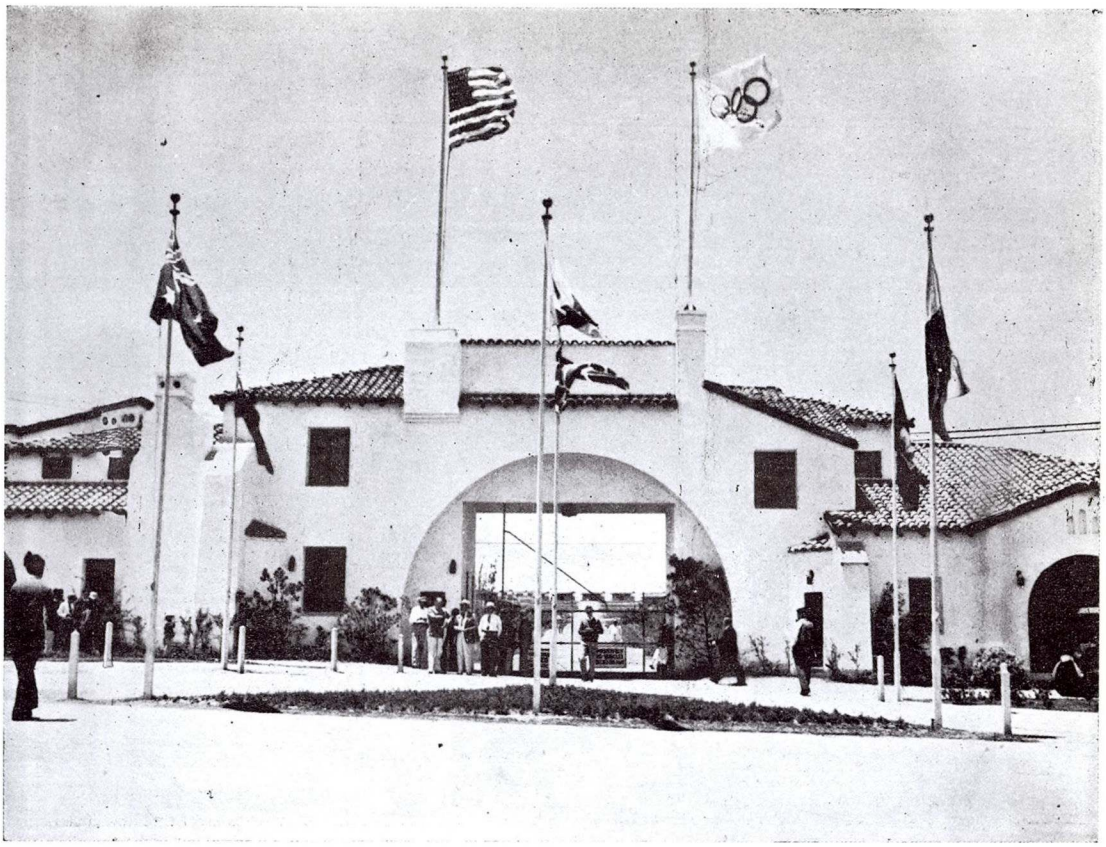


メインスタンド全景

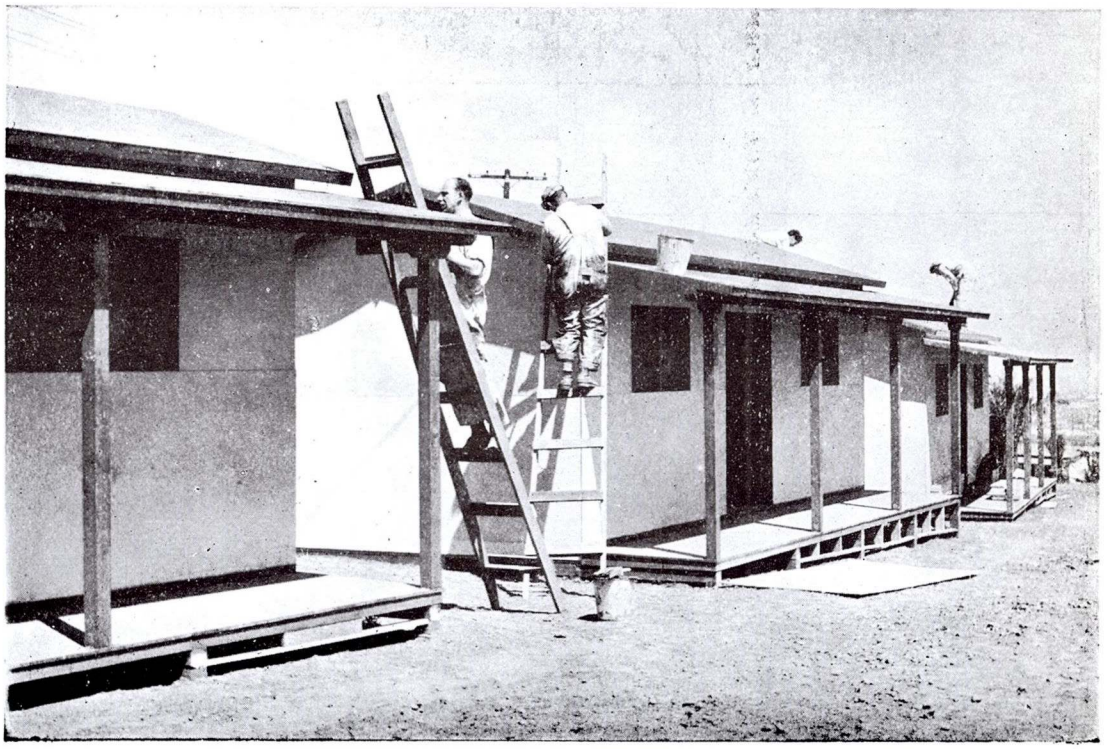


オリンピツク村全景

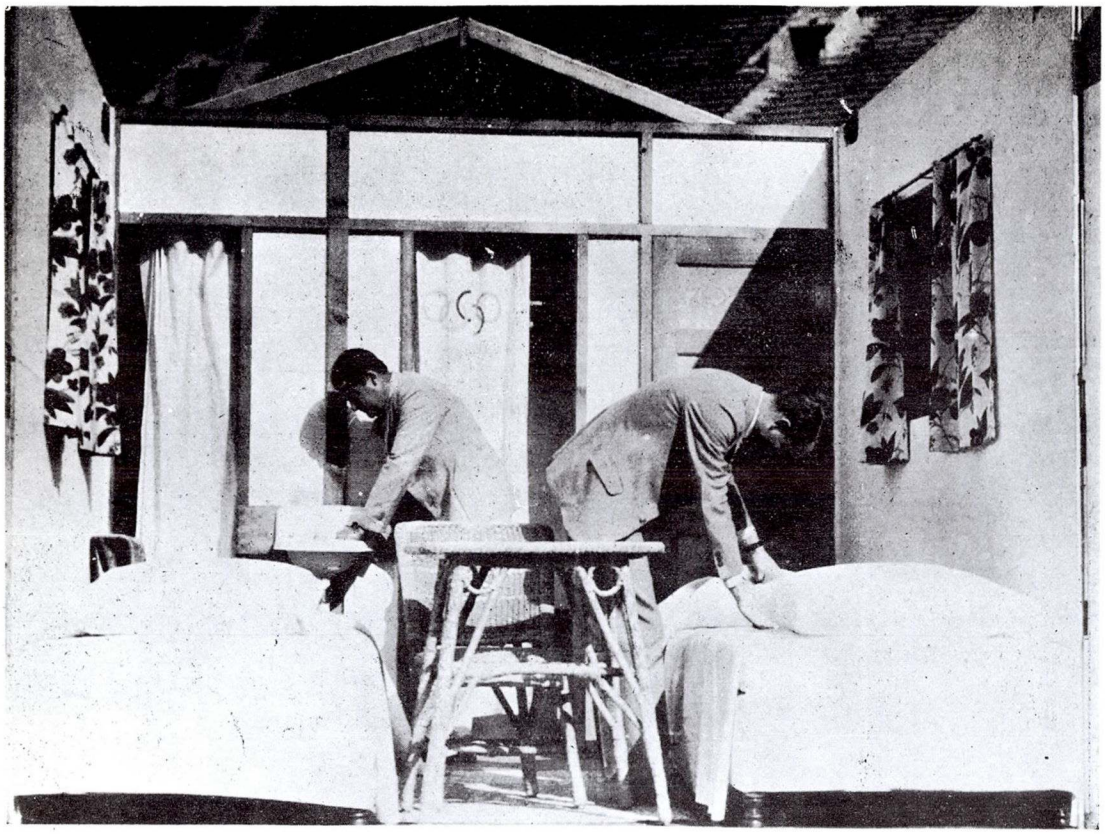
×14 第10回オリンピツク（1932年ロスアンゼルス）



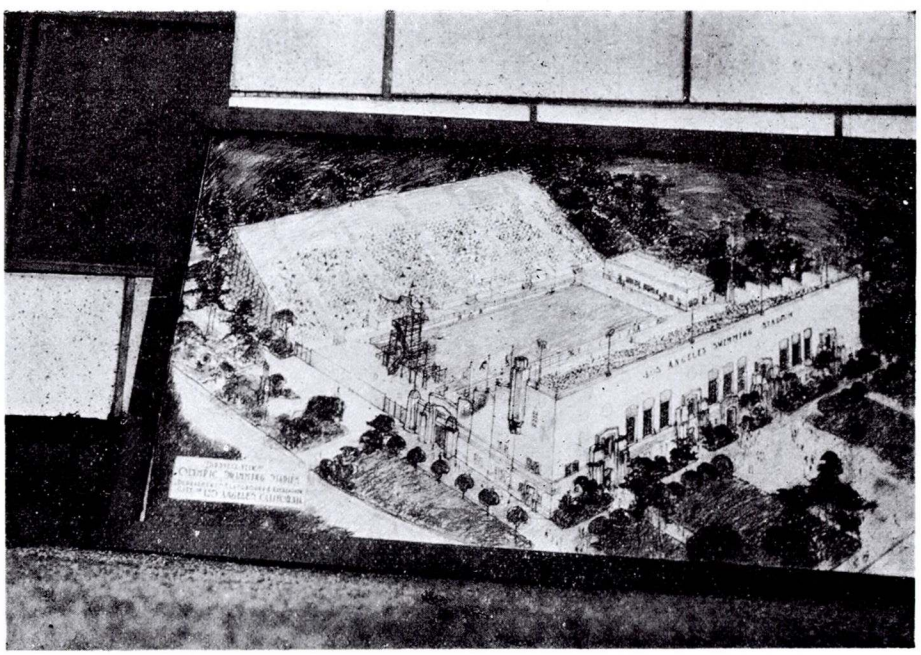
オリンピツク村の入口



オリンピツク村の家

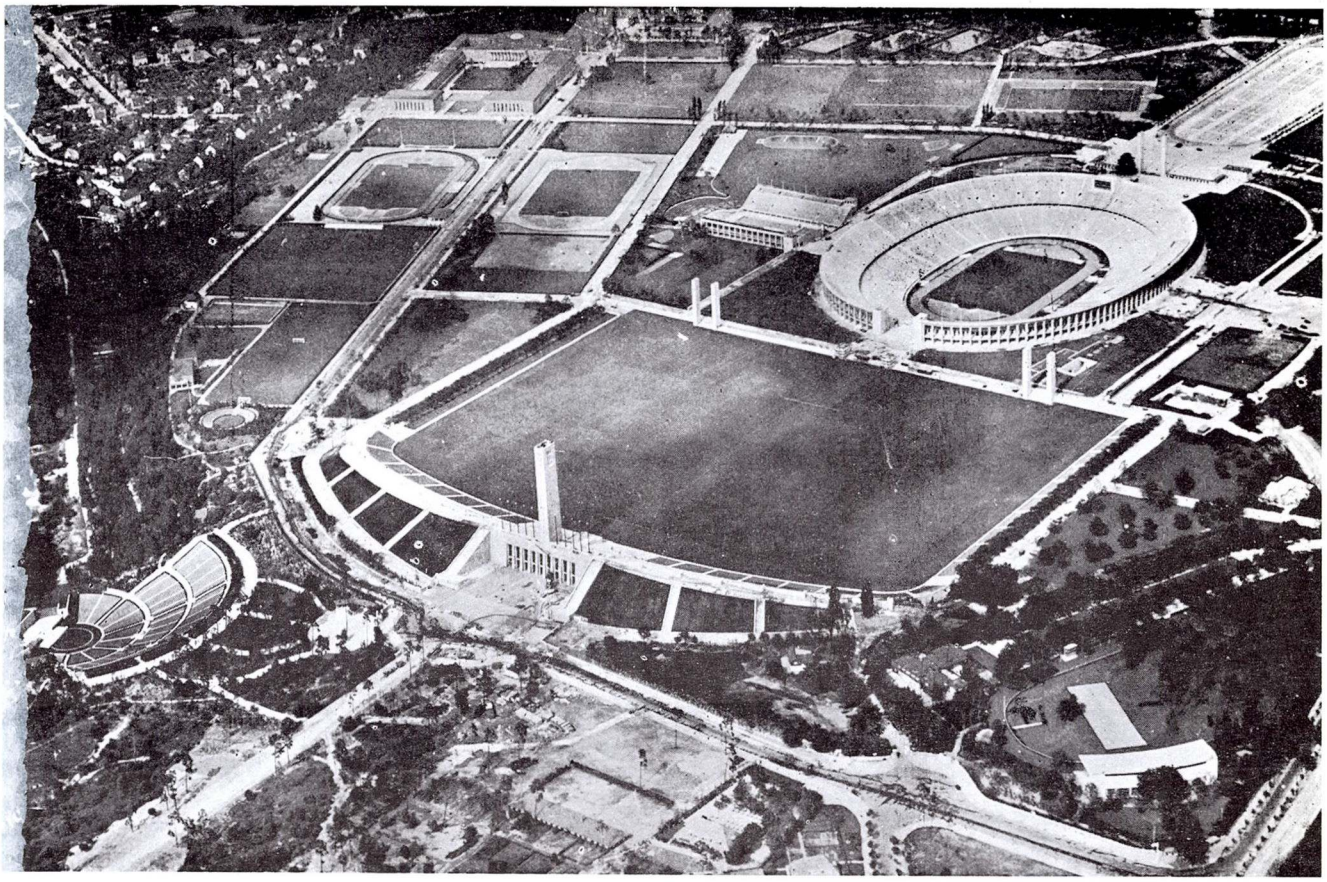


オリンピック村の家の内部

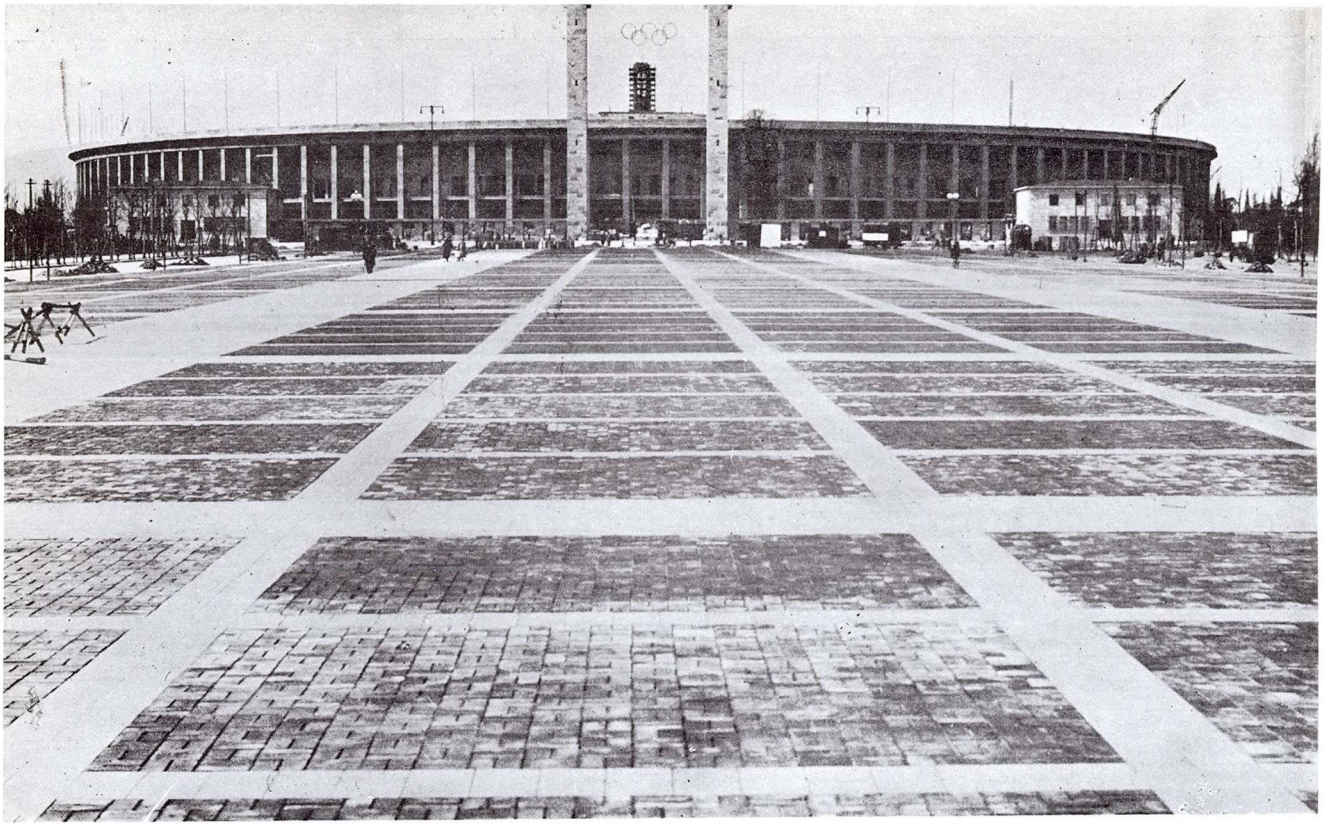


水泳場配景圖

×16 第10回オリンピック（1932年ロスアンゼルス）

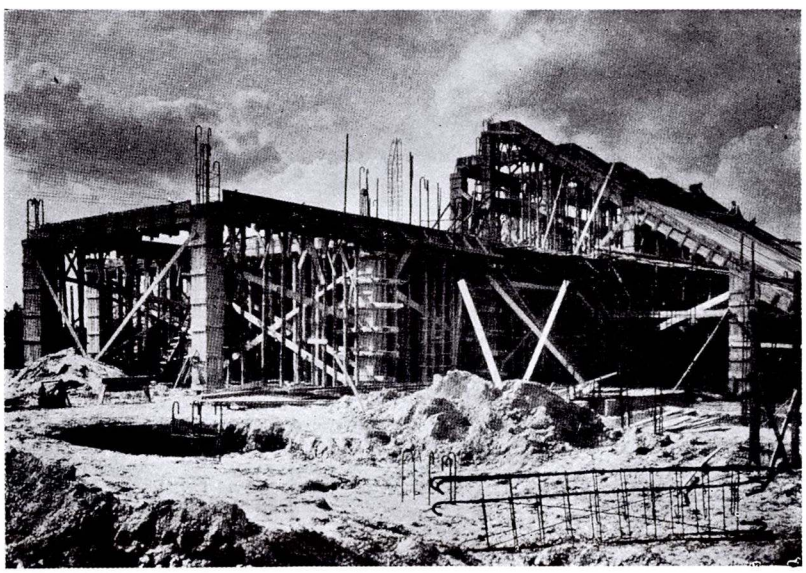


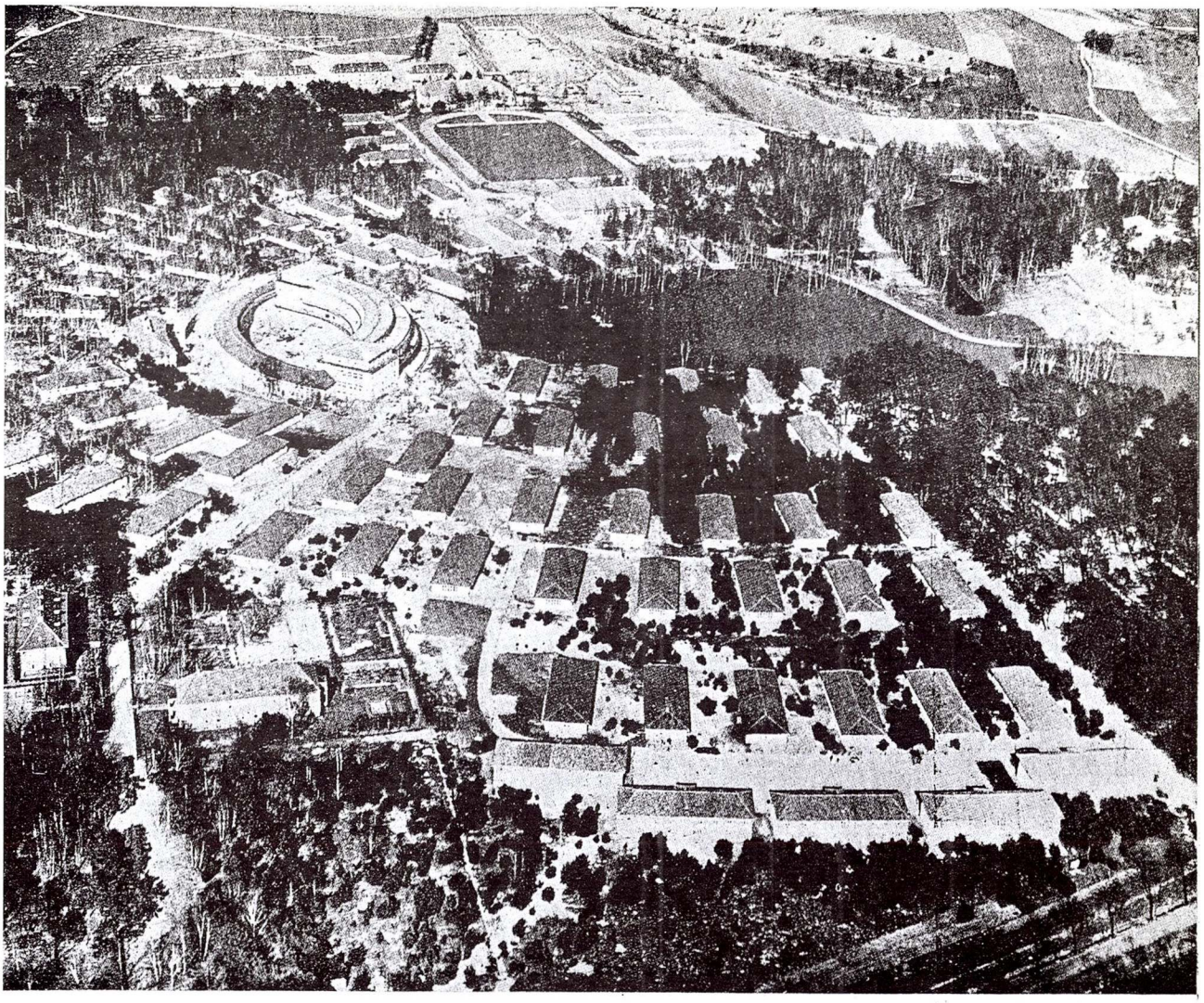
全　　景



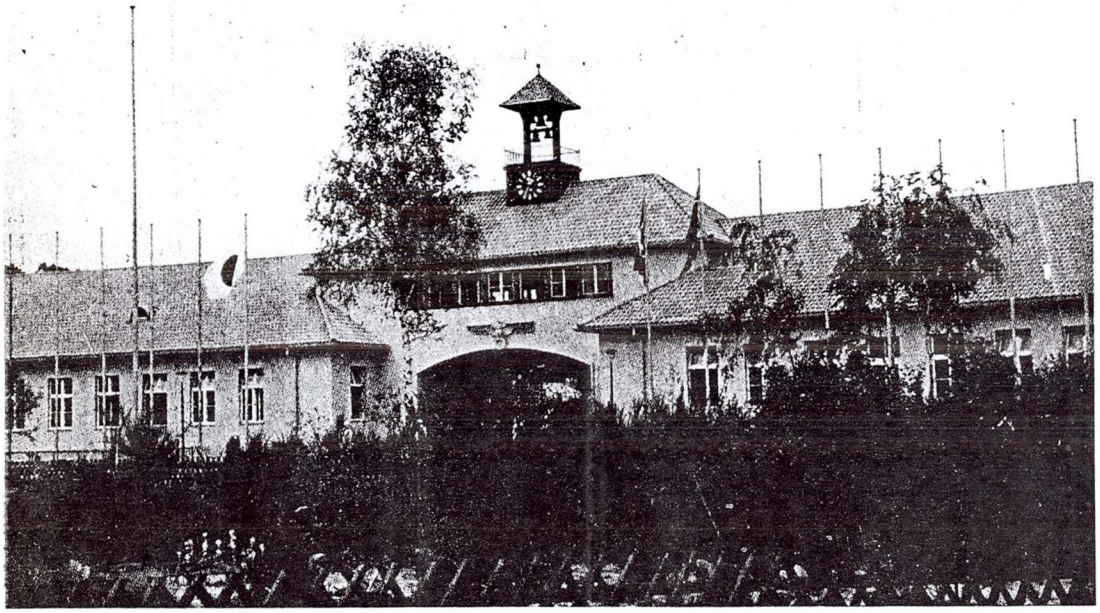
正面道路（シユワルツブルグ道路）
より見たるスタデイオン

工事中の水泳場

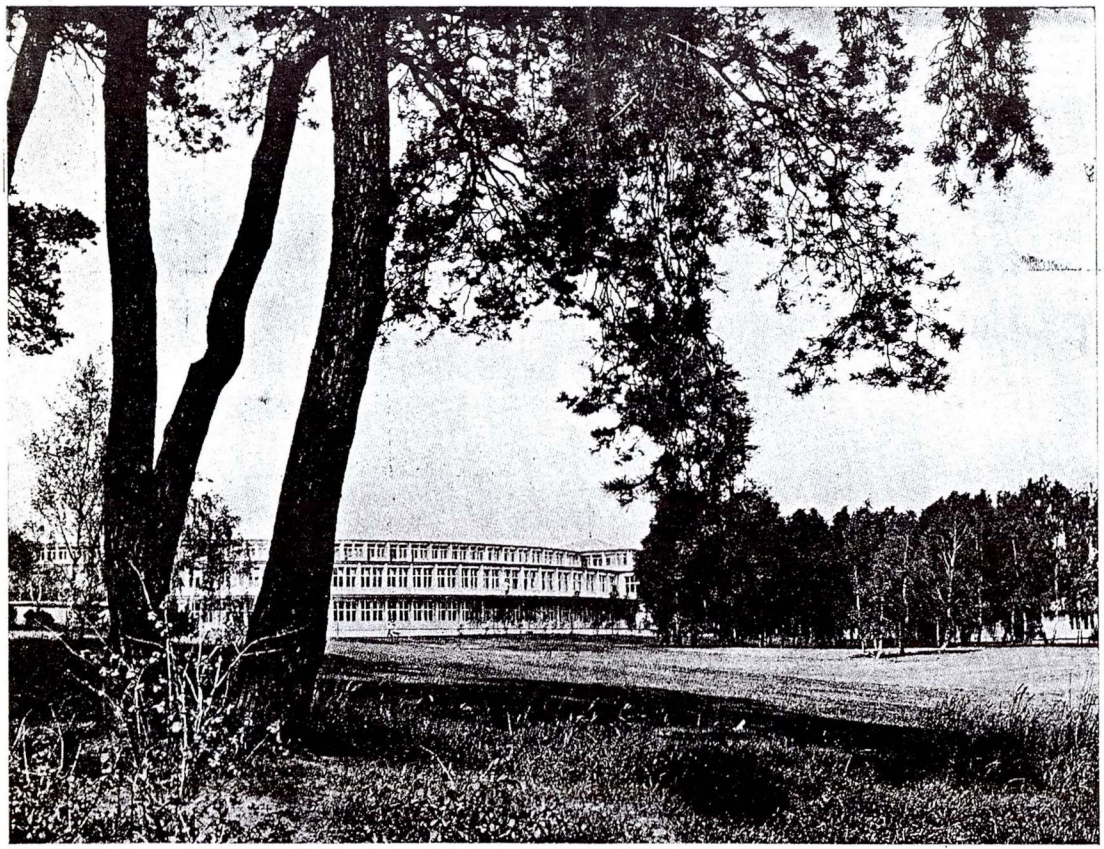




オリンピツク村全景



村　の　正　門



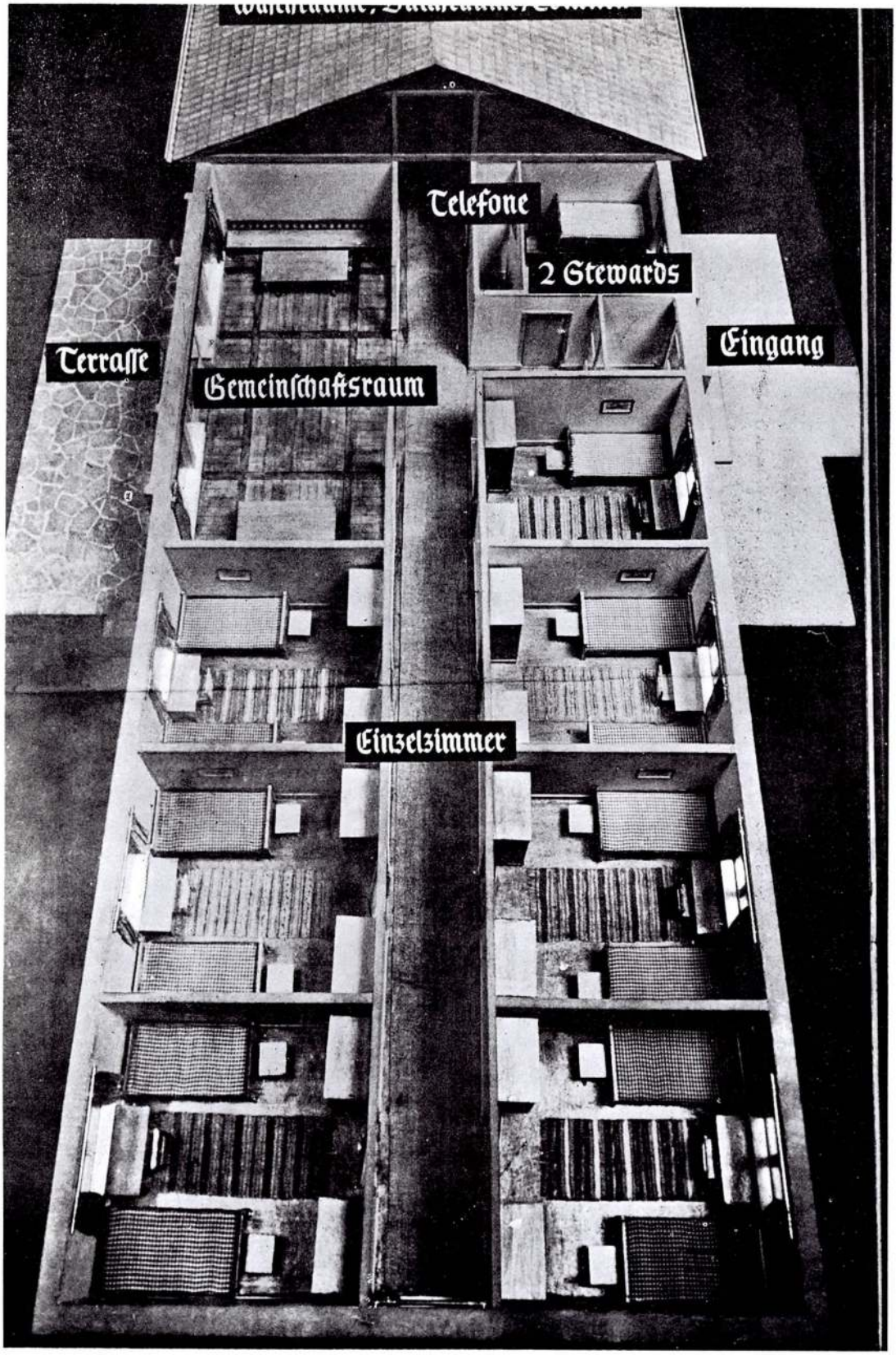
オリンピツク村食堂外面



オリンピツク村の食堂内面



オリンピツク村選手宿舎



オリンピック村宿舎内部

オリンピア祭の競技

原　隨園

1. 希臘人とオリムピアの祭

希臘にとつて、我國の元冠にも比すべき國難は、波斯戰役であつた。波斯王クセルクセスは大軍を率ゐて進軍し、テルモピライの險岨をも攻略した。スパルタの勇士三百名がレオニダス王と共に祖國の難に殉じたのであつた。後間もなく若干のアルカディア人が波斯軍に投降した。波斯人が「一體希臘人は何をしてゐるのか」と尋ねた時に「人々は今オリンピアの祭を行つて居り、人々は競走や戰爭をみてゐる」と投降者は答へた。波斯王は「希臘人は氣が臆してゐるのだ」と輕蔑したが更に「その競技の賞與には何をもらふのか」と再び尋ねたので、「勝利者は橄欖の枝の冠を貰ふのだと答へた」。之をきいて波斯の名士トリタンタイクメスは叫んだ。「何といふ國民に吾々は戰をしかけたものであらうか。彼等は金をうるために競爭するのでなく、實に榮譽の爲めに爭ふのだ」と讃嘆した。

之は波斯戰役のことをかいた歷史家ヘロドトスの傳へるところである。未曾有の國難に際しても、悠々と祭式を行ひ、競技を試みた希臘人の襟度は、波斯人をも驚かしたのであるが、一方オリンピアの祭とそれに伴ふ競技とは、國難に當つても、之を廢しえない程重大な民族的な行事であつたのである。

2. オリンピアの競技

はじめは夏至の後の最初の滿月の日に祭典を行つたといはれるが、近代の研究ではむしろ八月頃の滿月の日に行はれたと信ぜられてゐる。非常に暑氣酷しく飲料水も不十分であつたので、見物も容易ではなかつた。奴隷が命令を遵奉しないときに主人はよく「そんなに横着をするとオリンピアに送るぞと叱つたといふ話さへある。

紀元前七七六年に第一回の競技が行はれ、エリス人のコロイボスといふ男が勝利をえたと傳へられてゐる。最初の競技は唯競走（dromos）であつたが、次第に競技の種類が增加した。以下に表示すれば

1. 第 1 回（776 B C）　競　走
2. 第 14 回（724 〃）　スタデイオン往復競走（dioulos）
3. 第 15 回（720 〃）　長距離競走（dolichos）
   1. 競走　2. 跳躍 halma　3. 圓板投 diskobolia　3. 槍投 akontisma　5. 角力
4. 第 18 回（708 〃）　5 種競走（Pentathlon）

5.	〃	角　力	(Pale)
6.	第23回 (688 〃)	拳　闘	(Pygme)
7.	第25回 (680 〃)	成馬4頭立戰車競走	(hippon teleion dromos)
8.	第33回 (648 〃)	拳闘角力	(Pankration)
9.	〃	競　馬	(Keles)
10.	第37回 (632 〃)	小兒競走	
11.	〃	小兒角力	
12.	第41回 (616BC)	小兒拳闘	
13.	第65回 (520 〃)	武裝競走	(hopliton dromos)
14.	第70回 (500 〃)	騾馬2頭立戰車競走	(Apene)
15.	第71回 (496 〃)	牝馬競馬(之は84回まで)	(Kalpe)
16.	第93回 (408 〃)	成馬2頭立競走	(Synoris)
17.	第99回 (384 〃)	4頭立駒競走	(polon harma)
18.	第128回 (268 〃)	2頭立駒競走	(Synoris polon)
19.	第131回 (256 〃)	駒 競 走	(Polon keles)
20.	第145回 (200 〃)	少年拳闘角力	

その他第96回 (396B.C.) には太鼓手、傳令の競技があつた (Salpinkton, Rerykon) が之はスタデイオンや競馬場で行はれたのではない。又音樂、競技はオリンピアには行はれなかつた。

3. 競 技 の 日 數

此の表によつてみらるる如く第十四回の祭から競技種目が次第に增加したので、大人の競技と戰車競走とを同日に行ひ、拳闘角力を夜間に行ふ事もあつた。戰車競爭と就中五種競技が手間取つたといふことである。のみならず競技だけが眼目でなくそれは祭典の一部として行はれたのであつて、祭典の爲めの供犧が重大な行事である。そこで遂に第七七回 (472B.C.) 以後、競技の日數が五日に延長され、後には六日間に延長さるに到つた。

第一日、太鼓手及傳令の競技。誓約その他の準備を行ふ

第二日、小兒の競技

第三日、午前は競馬、午後は五種競技を行ひ、夕方には、英雄就中アキレウス、ペロツプスに墓前供犧をする。

第四日、大祭日で此の日が滿月に當る。大供養が行はれる。

第五日、午前は競走、往復競走、長距離競走など所謂「輕い競技」を行ひ、午後には角力、拳闘、拳闘角力などの「重い競技」を行ひ、最後に武裝競走を行ふ。

第六日、勝利者に加冠し夕方プリタネイオンにおいて加冠者への饗宴が行はれた。

かくして紀元後三九三年まで大體行はれたが、三九四年テオドシウス一世の時に廢止が宣告されるまで持續した。

4. 競 技 の 解 說

此の競技の中で最初から存したといふ競走が最も重大であつて、此の勝利者が主として記錄にとどめられる。一スタディオン即ち約一九二米を走るので、出發點には界石があり、出發の便宜の爲めに設けた出發溝の如き窪みが存する。往復競走は從つて二スタディオン走るのであり、長距離競走は七乃至二四スタディオンで、大凡一・五—四・五キロである。壺の繪に表現さるる所では、走法は現代と同樣の姿勢をとり、短距離の場合は上腿部を高く大股にふみ出して、手を開き之を激しく振つて動作を敏活ならしめてゐるが長距離の場合は、胴體は殆ど眞直に脚は輕くあげ、歩武を狹く、腕は脇につけて殆ど動かさない。中距離はほぼそれらの混合姿勢をとつてゐる。

武裝競走は、楯、兜、槍、脛當をつけて往復競走をするのである。はじめはかくの如く全武裝をしたのであるが、次第に簡略になつた。五世紀の間に先づ脛當てが次いで槍が除外され、後には兜もつけぬことになつて、唯楯だけをもつて走ることになつた。均等の重量を負擔させるために、オリンピアのヅエウス神殿には25箇の楯が準備されてゐたといふ。

跳躍、圓板投、槍投、は五種競技の內に入るだけであつた。跳躍は助走して石の闕より前方の掘穴までとぶので、之れを越す者は大に賞揚される。足跡の最後の線で倒るが、はつきりしなかつたり、踏みなほしたものは無効である。跳躍者は手に重り（Halter）をもつて跳躍を助け、更に笛吹きが居て輕くとべるように之を鼓舞したといふ。

圓板投は純然たる體育として希臘人の行つたところである。圓板は徑約20センチ、重量1·5乃至4·5キロで、最初は石製で後に金屬板も用ひられた。

圓板投げは有名なミロンの彫刻をはじめ美術品に色々殘つては居るが技術の詳細はなほ不明な點があるといはれる。指と手で堅く圓板をにぎり二・三度腕を空ら搖りして上半身を埋める樣に構へて恰かも物を地中からひきあげる如き姿勢をとつて、一段高い限界(Balfis)から投げる。

槍投は實戰の武術から出たものであらうが、投槍（Akontion）は人體の高き位であり、槍柄は秦皮又は松を用ひ、先端には鈍くした穗をつける。重心に薄き革皮の紐を捲きつけるが、その端はわな（Ankyle）になつて居る。人差指と中指とを此のわなには·め他の指で柄をにぎる。そして一段高い限界から投げるのであつた。

角力（Pale）は希臘では一番普通の遊戲であつたかと思はれる。その角力場（Palaistra）角力者（Palaistrites）は、それぞれ一般に競技場の意であり競技者一般をさしたのである。又競技の前に橄欖の油を皮膚に塗りこんだり、砂をまくことは、此の競技者の習慣から來たといはれる位で競技の基準的なものであつた。背、肩、膝、臀、が地上につけば投げられたのであり、三度投げられれば敗けであつた。絞め、足取り、指を挫くことは合法的手段として許されてゐた。此の競技は單なる體力腕力によるものもあり、業を主とする者もあつたといふ。

拳闘は今日は殘酷に近く感せられるが、昔は軟かい革皮の紐で四指をまいたので、メイ

リカイ（Meilichai 軟かい）と呼ばれた程であり、且つ主として頭をねらふのが常であつた。競技全體が職業化した結果紀元前三世紀頃からは丈夫な革の筋が入るやうになり、遂には金屬の鉄がつくにいたつて殺人的の道具となつた。カエスツス（Caestus 倒すもの）とよばれる程で、グラデイアトール（決闘士）の様な競技となつてしまつた。倒れてしまへば勿論敗北であるが、敵手は人差指をあげて降服のしるしとしたこともあつた。

角力は投げるのが主眼だから、寝業はない。然るに拳闘角力は、あらゆる手段を以て相手を克服する競技だから蹶ること、逆をとること、倒れた相手を絞ること、眼球をおそうことなどが許される。武器をもたぬ決戰である。だから最も悲壯な競技であつて、全く命がけである。従つて競技者も少なく時には敵手なくて戰はずして優勝することもあつた。その時は、「土つかず」（Akoniti）と呼ばれた。

競馬、戰車競爭は最も華麗な觀物であつた。然しそれだけに贅濱な競技であり富者の參加する競技であつた。そして騎乘者が加冠されるのではなくて、馬、戰車の持主が加冠されるのである。

5. 優勝者への賞與

次にオリンピアの優勝者には野生橄欖の枝で作つた冠が與へられる。（Ste Phanites, Stephanophoros と呼ばれる）。それはジエウス神殿の西堂神域、アルテイス（Altis）にある橄欖の樹を、兩親がなほ存命せる子供が、黄金の鎌をもつて伐採するのである。一説によると第七回目から橄欖の冠が與へられたが、それ以前は林檎が賞として與へられたとも傳へられる。その最初に橄欖の枝で加冠されたのはメツセンアのダイクレスといふ人であつたといはれる。本來の賞與はそれだけであるが、後にはその優勝者を生んだ市が市の榮譽として之に賞金を贈り、生涯公費を以て市廳で公食を與へて之を表彰したといはれる。アテナイではソロンがオリンピア勝者には五百ドラクマイの賞金を與へるといふ法律を出して居る。その他オリンピア或はその母市に肖像が建設され、或は詩人によつてその勝利が頌讃せられることもあつた。

かくの如く勝利者は國家から非常な優遇をうけた。このことは時に不當だと感せられぬこともないではない。既に六世紀の哲學者クセノフアネスは、自己の學識はかゝる人間の體力や馬の躍走するよりも遙かに遼秀であるべき筈であり、従つて學識以上に競技を表彰するのは不當であると唱つてゐる。吾々を反省せしむるものがあらうと思ふ。

6. 審　　判

さて此等の競技ははじめにのべた如く祭典の一部であつた。祭の間には神の平和（Ekecheiria）が得られねばならなかつたから、昔此の地方の祭典はピサ、エリスなどの有力な實力のある市が主宰した。従つて競技の監督もかゝる地方君主の手にあつた。然るに第

五〇回（580B.C.）からヘラノディカイと名けられる審判官が設けられて特に監督をすることになつた。最初は二人であつたが、第七五回（484B.C.）から九人となつた。それはエリスの部族（Phyle）が九つあつたから各部族から一名づゝ出すことになつたからである。かくて部族の消長と共に十人、十二人、八人となり、後は概して十人と定まつたやうである。

此の審判官は、「誓ひの神ヅエウス」（Zeus Horkios）の神殿で宣誓をさせる。此の神の像は兩手に電光をもつて僞誓者を罰するの姿をしてゐる。審判官は此の神像の傍において、競技者その父兄、訓練者を集め、猪の肉をきつて、競技に不正をしないことを誓はせ、特に競技者には向ふ十ヶ月間正しく訓練をうけしことを併せて誓はしめる。又子供や競走に參加する馬を檢查するものは、公平に決定し、收賄ないことを誓ひ、更に合格不合格の候補者について知るところの秘密を守ることを誓つた。此の神像の足下には青銅板があつて僞誓者には恐ろしき罰の來るべしといふ詩が書かれてゐる。

7. 參加者その他

競技に參加するものは、自由市民にして風評の惡しからぬ男子ならば許されるのが原則であるが。政治的事情から特定の市が除かれることもあつた。そのために國籍を僞つて參加せるものもあり、婦人の勝利者の名も傳はつてゐる。最後にはアルメニア人のアルダヴァツドの名さへ優勝者として傳へられてゐる。然し婦人の競技はオリンピアでは、別の時にヘラの祭に行はれるのであつて、原則として婦人は一定の地域以內に立ち入ることすら禁ぜられ、オリンピア競技は全裸體で行はれた。誓約にもある如く競技は公明正大を眼目とするから、號令より早く出走したりする如きは違反であつて加冠されない。後には競技に贈賄して勝をえんとする如きものも生じたので、違反者に罰金を科して、之をもつてヅエウスの像を鑄造した。或は私怨をはらすために相手をうつたと思はるゝ場合には勝者と雖も加冠されず、反つて罰金を科することもあつた。或は勝つても違反によると判定されて加冠されず、發狂したものさへある。或は所定の時期に來會せざりしものは之を除外して戰はざる候補者に加冠した。かゝる違反處罰はたゞにオリンピアばかりでなく、他の競技でも同樣であつて不正手段にて倒されし死者に反つて加冠した例さへある。

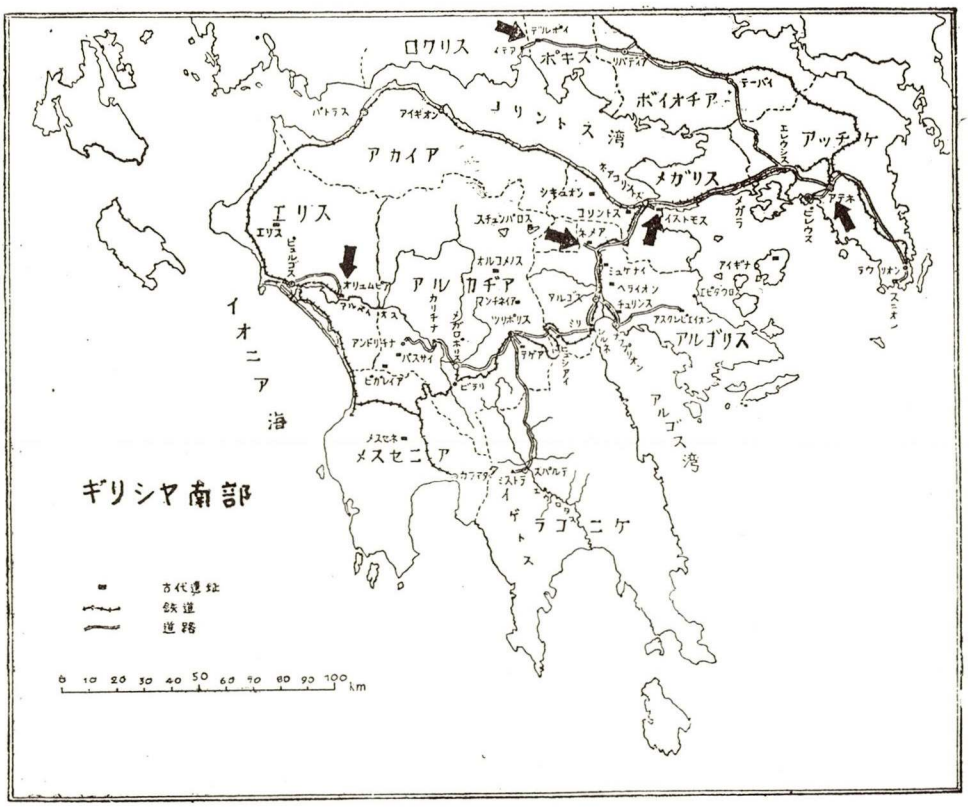
此の競技の創始者は、或はヴエウスといひ、或はヘクレスといひ、或はペロツプスともいはれ色々傳說があり、又色々の解釋がある。然し本來競技は祭典の一部なのであつて、祭と共に古い起源をもつものである。そして祭は、終始宗教的である筈だが、それにも關らず、古代希臘の政治的統一が特定の神社を中心として行はれたといふ政治的半面がある。そのために地方の政治的勢力の消長に伴つて祭の主宰者が變化する。オリンピア祭もはじめ、ピザ後にエリスが主宰し、更にスパルタの勢力が勃興して後はスパルタもエリスと共に主宰者となつてゐる。又主宰者の變化に伴つて、主宰者のもつ信仰が優勝となり時には壓倒的となり、時には舊信仰と混合する。かゝる複雜な事情が伏在するために、オリンピア祭の主神並びに競技創始者の傳說が愼重な批判を加へられなければならないそれらは餘りに專門的な問題であり別に發表したこともあるから省略する。

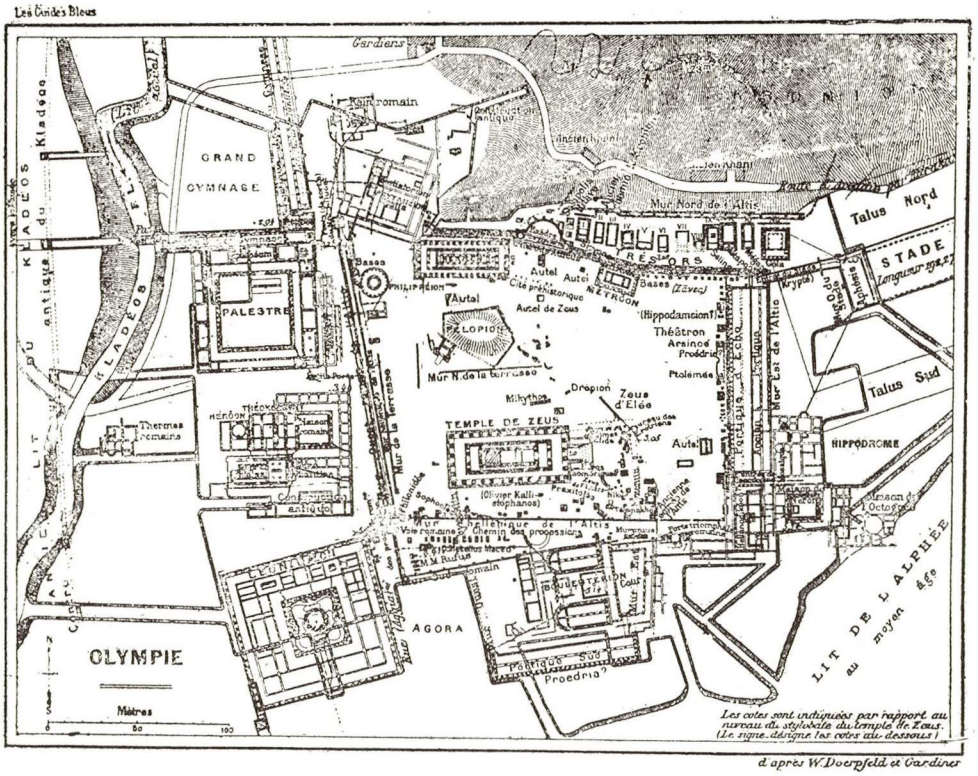
古代希臘の競技と競技場

森田慶一

現代行はれてゐるに國際オリンピアの競技は、その思ひ付きは古代希臘のオリユムピア祭の競技にあるかも知れないが。その内容はそれとは全然獨立したもので何等古代の競技の約束に縛られるものでない。然し今回の伯林大會が、ドイツ人の儀式癖から、相當古代的な要素を採り入れたので、古代競技への關心も亦新にされた傾向がある。この機會に古代希臘の競技とその競技場を一瞥することも無駄ではあるまい。

祭と競技　古代希臘に於ける競技は、それが民族共通の大競技でも、地方的な競技でも、その多くは多くは何れかの神の祭と結び付いて行はれてゐる。有名な四大競技と云はれるオリユムピア、ピユチア、ネメア、イストミア（Olympia, Pythia, Nemea, Isthmia）の祭の競技に就て見ても、オリユムピアはオリユムピアにあるヅエウス神の祭であり、ピ




Les Guides Bleus
GRAND GYMNASE
PALESTRE
Thermes Romains
Gymnase antique
Bouleuterion
Prytanée
Philippeion
Autel de Zeus
PELOPION
Mur N. de la terrasse
Mur de la terrasse
Nymphée
Exèdre d'Hérode Atticus
Odéon
Mur Nord de l'Altis
Talus Nord
STADE
Talus Sud
HIPPODROME
TEMPLE DE ZEUS
Zeus d'Elée
Mur de l'Altis
Mur Est de l'Altis
Mur Ouest de l'Altis
Mur Sud de l'Altis
Porte romaine
Chemin des processions
Porte triomphale
Exèdre de Hadrien
Exèdre de Regilla
Bibliothèque
Salle des Mosaïques
Salle des Sculptures
Salle des Bronzes
Salle des Trésors
Salle des Métopes
Salle des Nikés
Salle des Victoires
Salle des Offrandes
Salle des Acrotères
Salle des Architectes
Salle des Moulages
Salle des Céramiques
Salle des Terres cuites
Salle des Stucs
Salle des Inscriptions
Salle des Casques
Salle des Boucliers
Salle des Cuirasses
Salle des Jambières
Salle des Armes
Salle des Objets divers
Salle des Monnaies
Salle des Médailles
Salle des Pierres gravées
Salle des Ivoires
Salle des Bijoux
Salle des Verres
Salle des Lampes
Salle des Vases
Salle des Figurines
Salle des Statues
Salle des Reliefs
Salle des Inscriptions

に成立し、人々は互に何等脅威を受くることなく競技に参加し、見物することができたのである。「祭の競技」が最も盛であつたのは自然である。

この「祭の競技」の内でもオリユムピア祭の競技は古代的のもので、今の國際競技もその名を借りてゐる次第であるから、以下オリユムピア競技を中心に話を進めよう。

オリユムピア　オリユムピアのヅエウス神域はペロポンネソス半島の西の地方、アルカヂアの山地から流れ出たアルペイオスの河がエリスの平野へ出る所、小さい丘に圍まれた谷間の小平野にあり、ほぼ一邊 200m 位の方形をなし、北にクロニオンの丘を負ひ、南はアルペイオスに近く、西は北から流れてアルペイオスに注ぐクラデオスの小流で界せられ、東は谷間に沿つてスタヂオンとヒツポドロモスが張り出してゐる。神域はAltisと云はれてゐるが、それは語原的に灌木林を意味すると云はれてゐる。實にその言葉の通りに、今も背のあまり高くない柔い松に蓋はれた靜かな廢墟である。この神域の施設一般に就ては嘗て建築學研究第77號「ペロポンネソスの旅」の中にその大要を紹介して置いたから參照されたい。

オリユムピア祭　オリユムピア祭及びその競技の始まつたのは極く古いことで確かには定め難いけれ共、希臘の紀年法で第 1オリンピアードの初年が逆算して B.C. 776 年になるし、その頃から大體この競技を供なう祭が行はれてゐたと考へて差支へない。そして、これは第293オリンピアード(A.D. 393) まで記錄があるから、紀元4世紀を以て終をつげたと云つてよい。

オリンピアードは現今と同じく 4年で、4年目、希臘風に云へば5年目毎(penteterikos)、に大祭が催され、その季節は冬至から8月目又は 9月目の滿月を中心とした5日と定められてゐるから、從つて今の曆では8月の上旬から9月下旬に至る間の滿月の頃にあたる。

祭の始まる數ヶ月前に、神域の管理都市であるエリスの役人がヅエウスの使者として諸國を巡つて祭の日取を報ずる爲にオリユムピアを出發する。この使者は到る處の各都市でプリユタネイオンに招ぜられ、そこで聖爐に神酒を灌ぎ、犧牲を屠つて、ヅエウスの名によつて休戰を宣言する。この時からエリスの地には武器を携へたものは一人も入ることが許されないのである。

祭の 1月程前になると、諸國の選手とその監督はエリスの町に集つて、そこのギユムナシオンで競技司官の監視の下に猛烈な練習が開始され、競技司官が技倆劣れりと認めたものは躊躇なくその場で除外される。

祭の日が二三日程後にせまると、エリスの高官、競技司官、監督、選手等は行列を整へてオリユムピアに出發する。エリスの町はオリユムピアの地から約 50km をへだて西よりの北に位してゐるので、その行列の通る神聖道路はエリスから今のピルゴス迄南下し、ここからアルペイオスに沿つて東に折れるので、行列は道程から云つて今のピルゴスに一泊するのである。

一方見物の面々は老若貴賤取交ぜて（但し既婚の婦人はこの期間神域に近づいて競技を見ることが禁ぜられてゐた）、あるもの埃つぽい神聖道路を徒歩で、あるものは船を利用して川を溯航し、アルカヂアの農夫は驢に荅つて陸續と神域に集つて來る。この客の爲に極く粗末な小屋掛も行はれたであらう、便利な天幕を持參に及ぶものもある、もつと賢い輩はストアの石壁の床に睡む。然し大部分のものは附近の野に河原に星空を天井に眠つたに相違ない。ここではホテルの心配等無用である。

前景氣はもう充分はずんでゐる。神域の南のアゴラには諸國の商人がそれぞれ珍らしい商品を列べ立てて客を呼んでゐる。詩人が自作の詩を朗唱し、學者が知識の道を說き、政客が政治を談じて居るのもこの神域の周圍である。

當月の12日は祭の初日である。朝から神事が執り行はれる。多分ヅエウスの大神壇には犧牲が捧げられ、ペロプスの塚山にはその血が灌がれたことであらう、ブーレウテリオンでは嚴格な選手の資格審査が開始され、合格者は中央廣間に安置された雷電のヅエウスの前に嚴かに宣誓を行ふ。

競技者の少年、成年の級別もここで行はれる。オリユムピア競技は民族の競技であるから勿論奴隷や他民族は選手資格がない。女も一般には缺格者である。然し嚴格な資格規定は資料が殆ど缺けて居て確かなことが云へない。

第二日から競技が始まる。早朝から競技關係者の行列が、恐らくプリユタネイオンに勢揃ひして、先頭には競技司官（Hellanodikai）が立ち、觸れ役、喇叭手がつづき、諸國代表、選手、監督、戰車、馬がアルチスの周圍を練つて、東南の隅からヒツポドロモスに、又東北の隅からスタヂオンに繰込む。見物は既に競走路の兩側斜面にそれぞれの席を占めてゐる。競技司官、諸國代表、神官、その他の高官連には決勝線の附近に特別席が設けられてゐることは勿論である。



オリユムピア神域の復原模型。
方角は左が北、右が南。右よりの大殿堂がヅエウス神殿、左下の中殿堂がヘラ神殿。プリユタネイオンは左下圖版外。右垣外の建物がブーレウテリオン。左上の神域外がスタヂオン。

やがてファンファールが起つて、競技開始が報ぜられる。觸れ役が大きな聲で選手を呼び出し、そこで組合せやコースが定つて競技が進められる。

オリユムピアに於ける競技は所謂體力競技と馬術競技の二種であるが第二日から第四日に渉つて3日間行はれ

る。その間に如何なるプログラムに従つて競技が行はれたかは一概に云へないが、ほぼ全競技が見られるように三日間に割當てられてゐたものであらう。



短距離競走の走者。

勝者は普通第一等が定められるのであるが、時に二等三等も定められることがある。優勝者が定まると觸れ役がその名を告げる。例へば「アテナイ人なるヘルモクレズの子ニキアス」と云ふように生國と父の名を併せて。そして競技司官はこの勝者に標として棕梠の一葉を與える。

かくして競技もプログラム通りに終をつげ、祭の第五日が明ける。有名な橄欖の冠は大抵この日に與えられる。この冠はゾエウス神殿の脇に生へてゐる神聖な野生の橄欖、所謂「カリステフハノスの橄欖」、の枝から作られるもので、祭の間神域内の黄金象牙造の机の上に置かれ、競技司官が親ら勝者の頭上に冠するのである。

冠を戴いた勝者は兄弟や友人に取巻かれながら、それぞれの感謝の意をこめた奉献物を神に捧げ、勝利の歌を高々と合唱し神域内を練りまわる。そしてその夜はプリユタネイオンに盛な勝者の饗宴が催される。見物の群集もそれぞれに散じ、その間に交つて戰に敗れた若者が、頸をうなだれて我身の不幸をなげきながら、迎へる者もない故郷へ歸つて行く、全力を盡して敗れると云ふような譽め言葉はここでは通用しない。それに引かへして勝者は王者の如く故郷に迎えられ饗宴がつづき、頌歌が献ぜられる。ピンダロスやシモニデスの頌歌はこれである。



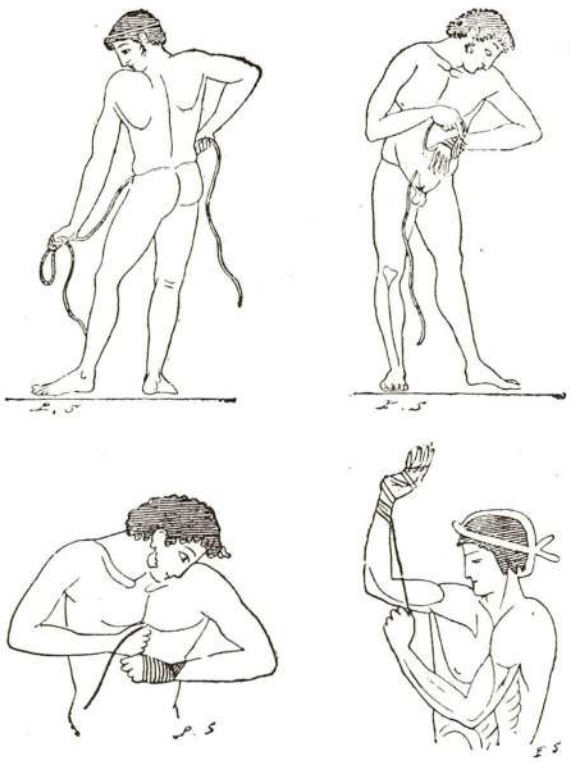
長距離競走の走者。現代競技の寫眞と比較されたし。

競技種目　オリユムピアの競技種目は時代によつて異なるが、最盛期にはほぼ次のやうなものであつた。

體力競技では

1) 競走 (dromos)
2) ボクシング (pygme)
3) レスリング (pale)
4) パンクラチオン(pankration)
5) 五種競技 (pentathlon)

馬術競技では



ボクシングの準備に革紐を手に巻き着けてゐる。

1） 騎乗競走（hippodromia）

2） 戰車競走（harmatelasia）

競走は普通 1スタヂオン距離、2 スダヂア距離及び長距離で、長距離は20スタヂアに及ぶものがあつた。競走路は後に述べるように1スタヂオンの直線路であるから、2 スタヂアの競走はこの直線路を往復し、長距離のものは出發線と到着線の各中央に建てられた柱を廻つて幾回も往復したものであらう。一組の走者の數は不定であるが、オリユムピアの出發線の區分は20名分あるから、相當多數の一組があつたのであらう。尙 1スタヂオンはほぼ 180m位にあたる。走者はすべて全裸であつたが、hoplitodromos と云つて武裝競爭も行れた。

ボクシングは今日のように相手を撲つて屈服させる技で、手袋のかわりに細長い、多分 3 m以上もある、革紐を手に巻き付けて、相手よりもむしろ自分の手を保護してゐた。勝敗は相手が手を擧げて屈服の意を示すまでは繼續される。休憩時間や回數はない。

レスリングは今のと異なつて臥わざは認められてゐない。相手の腰より上が地に着けば勝つのである。投わざも屢々用ひられる。レスリングにしてもボクシングにしても重量級の區別は勿論ない。

パンクラチオンは、その語が示す通り（pan 全、kratos 力）最も猛烈なもので、ボクシングとレスリングを二つながら用ひ、その他、噛み付くこと、眼等の柔軟部に指を突込むことを禁ぜられてゐるだけで、大抵のわざを使ふことが許されてゐたらしく、徹底的に



ボクシング競技の圖
褌を着けてゐるのは例外である。

相手を屈服させて勝敗を決するのである。時には力盡きて尙屈服を示さずその場に命を落すものもあり、又勝利が宣告された瞬間、息絶えて、榮冠が空しく冷たい骸の上に置かれるような悲しい場合も起つたと云はれる。

パンクラチオンの荒々しいのに引かへて、五種競技は如何にも希臘らしい競技である。これはジャンプ、圓盤投、槍投及び競走、レスリングの五種目からなり、始めの三種目では笛の音に合せて、その運動のリヅムが鑑賞されたのでないかと想像されてゐる。

ジャンプはすべて走幅跳で、今と異なる所は兩手に錘を持つて跳ぶことで、即ち踏み切ると同時に激しく錘を持つ兩手を前方に水平に投げ出してはづみをつけ、足が地につく瞬間には、多分、その錘を後に振り遂つて、少しでも足を前方に追ひ出したものであるらしい。錘は石か青銅製で、1.5kg 位から 4.5kg までである。



レスリングの種々の技を示す。



レスリングの投げ技を示す。笞を持つてゐるのは監督。



パンクラチオン競技練習の圖。

圓盤投は今と同じであるが、投げる前の躰の動きは、必ずしも今のように躰を廻轉させるやり方ではなかつたようである。 Myron の有名な圓盤投の像はよい參考資料である。圓盤は今遺つてゐる物で見ると直徑で17乃至30cm、重さで1.35乃至 4.76kg で青銅製レン



走幅跳。手を前に投げ出してはづみを付けてゐる。右の人物は監督で、屢々笞を以て選手を激勵する。これはパライストラに於ける情景。



走幅跳に於てまさに足が地に着かんとする瞬間。手の位置を注意せよ。下方に3本杭様のものが見えるのは他の跳者の着地點を示してゐるのである。

ズ形のものである。

槍投の槍は背の高さが標準で、木製の柄の先端に青銅の穂先を付け、革紐の把手が重心の附近にあつて、これに指を入れて投げたものである。

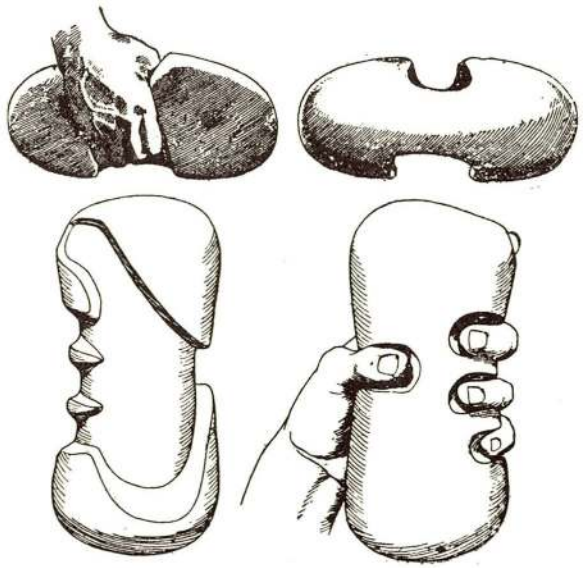
此上の三種目は單獨では競技されたのではなく、常に五種競技の一部として行はれたのである。この五種競技の勝敗が如何にして決せられたかと云ふことは未解決の謎として殘つてゐる。二三の假說もあるけれ共略す。

以上の體力競技に屬する種目は全部スタヂオンで行はれたと見てよい。然し、ある說では、ボクシングやレスリングやパンクラチオンは神域の東北の一角所謂テアトロンの場所で行はれたとも云ふ。

馬術競技の方はすべて競走である。走距離の長さは72スタヂアに達するものもある。騎馬競走は人も馬も全裸で、鞍もなければ鐙もない、たゞ手綱一つが頼りである。

戰車競走は四頭立又は二頭立が原則で、馭者は勿論戰車上に立つて馭するのである。

ヒツポドロモスも後に述べるように今のレース・コースとは異つて細長形であるから、兩端にあるポールの外側を廻つて規定回數だけ競走路を往復するのである。こ



ジヤンプ用石錘。大英博物館藏

れも一競走の頭數が多いのでターンの所で屢々落馬や戰車の轉覆が起つて悲慘な結果を起したことも少くなかつたと云はれる。

競馬のスタートの狀況は明瞭ではないが、相當複雜な仕掛が一般に想定されてゐる。



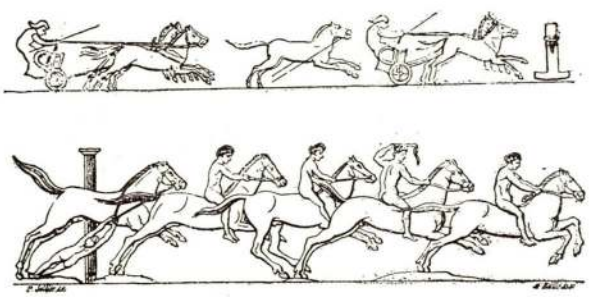
走幅跳及び槍投競技。左の人物は双笛を吹いて運動にリヅムを與えてゐる。

競技場　競技に關する建築施設を廣く解釋すれば、オリユムピアの神域及びその附近の建築物は一として競技に關係しないものはないと云へる。然しその內でも直接關係あるものと云へば、スタヂオン、ヒツポドロモス、パライストラ、ギユムナシオン(stadion, hippodromos, palaistra, gymnasion) の四つである。

パライストラ及びギユムナシオンは一般に都市施設としての體育館であつて、ここでその都市の青年が日々鍛練さるる所である。然るに、オリユムピアは全希臘の共同聖域であつて、その附近には都市が存在しない。何の爲にこのような體育館が必要であつたか。競技の爲に集つた選手の僅かの期間中の練習場と考へざるを得ない。又恐らく選手の宿泊所ともなつたであらう。こう云ふ性質の建物であるから、この二つはオリユムピアの建物中でも比較的後世のもので、その細部の手法はこれ等がやつと紀元前一世紀頃のものに過ぎないことを示してゐる。ここではその詳細は略するが、このオリユムピアの體育場は希臘の他の例よりも比較的よく保存されて、ウヰトルウヰウスの記事によい手本を與えてゐる。

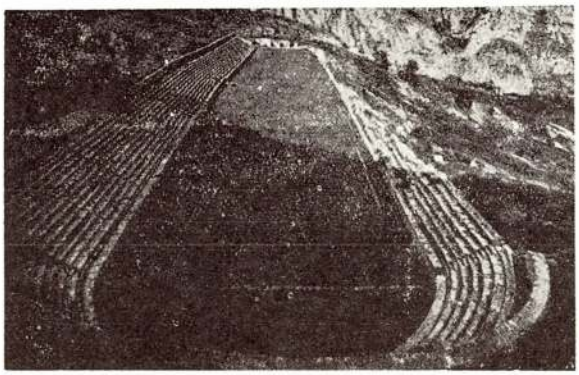
スタヂオン　オリユムピアのスタヂオンは神域の東北に隣り、東の方に延びて、その競走路の平面は神域の地盤より一段低くなつてゐる。

競走路の兩側は斜面をなして見物席を形成してゐる。その北の斜面はクロニオンの丘の南麓の自然斜面を利用してゐるが、南の斜面は人工的に土堤を築き、ヒツポドロモスの北の斜面の土堤を兼ねてゐる。



上圖は四頭立戰車競走。下圖は騎乘競走。兩圖に見ゆる柱はコースの回轉端を示す標柱。

競走路のある面は、ほぼ、長さ 212m 幅 32m の矩形で、兩側斜面から土砂が流れ込まないように緣石が周らされ、それと平行に石の樋が連り、所々石の水溜がある。これは排水用の溝と枡でもあるらしいが、それにしては不充分なので、恐らく上



デルフオイのスタヂオン。
古代希臘のスタヂオンとしては最もよく保存されてゐるもので、山腹の斜面に造られ、南側の人工の階段席は一部分破壊されてゐるが、北側の天然斜面を利用したものは完全に殘つてゐる。見物席の列は走路の軸線に對して平行でなく、僅か凹曲線をなし、視線のさへぎられることを少くしてゐる。

水の供給路で、競技者の飲用に設備されたものと考へられてゐる。この競走路の排水の問題は、他の希臘のスタヂオンでに既に解明されてゐるものもあるが（例へばデルポイの如き）、オリユムピアでは適當な說明が與えられてゐない。

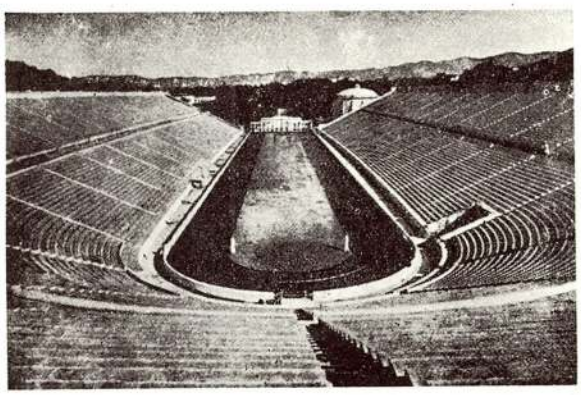
競走路は出發線（aphesis）と到着線（terma）が規定され、その間の長さが1スタヂオンである。このスタヂオン單位は600希臘尺に相當するのであるが、全希臘必ずしも一致してゐるのではなく、大體180m位になるのである。オリユムピアのものは少し大きく192.25mになつてゐる。參考の爲二三のスタヂオンの例を擧げると、

アテネ	184.96m
デルポイ	177.55m
エピダウロス	181.30m

等で相當な開きがある。

競走路の方向はオリユムピアではほぼ東西であるが、アテネのものはほぼ南北であるし、その他の例を見ても一定してゐないようである。

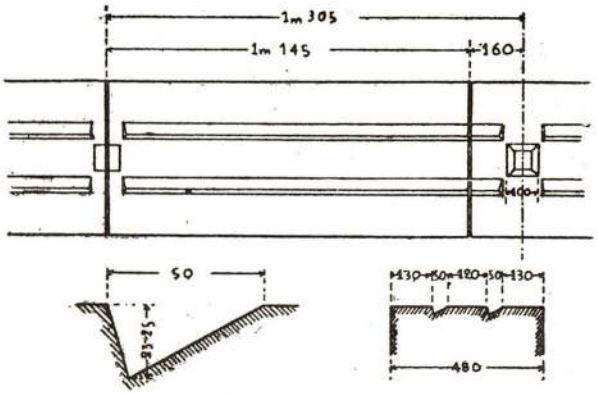
出發線と到着線は石灰石の恒久的な閾になつてゐて、幅約48cm長さ約27mある。この石の閾の表面には二條の藥研形の溝が刻まれ、踏切りの足掛りとなるようにできてゐる。兩線とも共に20名分の餘地があつて、1名當り約1m30の幅が與えられてゐる。この一人の占むる幅は閾の上に木柱を立てて區分したらしく、その枘穴が殘つてゐる。中央の穴が一つだけ大きいのは、ここに長距離競走の際のターンの柱が立てられたのであらう。



アテネのスタヂオン。
これは古いパナテナイアのスタヂオンの廢址を1895年に復興したもので、1896年の第1回オリヒック競技がこゝで行はれた。約七萬人の收容能力がある。

見物席は走路に沿ふ斜面である

が、三、二世紀になると希臘の多くのスタヂオンは、希臘劇場がそうであつたように、恒久的な石の階段席を採用するようになる。然し、不幸にして、オリユムピアのスタヂオンはそんな立派な階段席を最後迄もたなかつたようである。見物席の斜面は單に、恐らく、芝生に蓋はれた自然斜面であり、これが有名なオリユムピア祭の競技が行はれたスタヂオンかと思ひ惑ふ程である。前に述べたように北斜面は自然の傾斜を利用してゐるが、南の斜面は人工的で、時代と共にその土堤の高さも種々に變化してゐるようである。一般に希臘のスタヂオンの見物席の斜面は 1/2 位から 1/6 位の傾斜であるが、オリユムピアでは極く古い部分は 1/12 位の緩い傾斜のものもあるが、大部分は標準的な傾斜であつたと考へなければならぬ。青芝の上に横たはつて競技を見たと云ふ想像も、一應は裕然たる昔のスポーツにふさわしいけれ共、やはり大會には木製の一時的な階段席が造られたと考へる說の方が正しいようである。オリユムピアの見物席の收容人員は二萬人と計算する人もあれば四萬人と勘定する人もある。



オリンピア競技場の出發線中央部實測圖。
各石の長さは不定で必ずしも走者一人の幅と一致してゐない。二條の溝の間にある四角は木柱の納穴で、右よりのものは中央柱の穴で少し大きな柱が建つようになつてゐる。

かように一般席は粗末なものであつたであらうが、競技司官やその他高官、神官連の席は相當立派なものが考へられなければならぬ。然し未だかかる特別席の存在は確かめられて居ない。オリユムピアのスタヂオン址は未だ全部の發掘が濟んでゐないのである。


オリユンピア競技場の出發線。ポーズせるは森忠一氏。

ヒツポゾロモス　オリユムピアの競馬場はスタヂオンと平行にその南に一段低く位置してゐたと考へられてゐる。その位置は今畑と變つて何一つ遺つてゐない。それは中世紀にアルペイオスの河床が變化してこのドロモスの位置をすつかり洗つてしまつたからである。

オリンピツク大會に際して建築家に望む

木　下　東　作

オリムピツク大會招致運動が成功して愈よ今後四年には其實行が迫つて來た、夫れに要する建築物の數も少なくないと思はれる、自分は夫れ等を各獨立の、連絡のないものにしたくない。

而かも費用に對して實際價値が多く、其使途に對して十分に便利で、結局剛堅、質實なものが良いのではないかと思はれる。先づオリムピツク大會と同じ趣意で、古代ギリシャの樣式に、純日本式の色調を判然と加へたやうなものが、良いのではあるまひかと、考へられる。

（16頁續き）

從つてこの復原は單に文獻によつて想像されてゐるに過ぎない。

以上オリユムピアを代表として希臘の競技と競技場を一瞥して來たが、希臘の競技は體力競技や馬術競技のみでなく、ピユチアの如きは音樂競技も重要な種目であり、あの華やかな行列のパナテナイヤの祭やデイオニユアのあつたアテナイでは音樂や舞踊や劇の競技が體力の競技にも增して盛であつたのである。ここでは聖火繼走も行はれてゐる。競技場にしてもオリユムピアのものは極めて簡素であるが希臘の他の地にはもつと完備した競技場施設も殘つてゐるのである。然し今はそれ等に言及する餘裕がないので、甚だ物足らぬ所があるが、他の機會に讓りたい。

オリムピアス・おぼえがき

瀧澤眞弓

オリムピアド　現代の國際オリムピック大會は、周知の如く、古代ギリシャの遺風傳承として、毎四年に一回づゝ行はれる。が、此の四年といふのは一寸他に類例のない特殊な期限である。少くとも今日の慣習や常識から見れば不思議でさへある。それ故に、嘗て此の問題は學界の一つのトピックでもあつたのである。所で、多くの人は既に氣がついてゐるであらうが、四年といふ周期は今日の太陽暦に存在する。閏年なるものがそれだ。そして偶然かどうか、當分のうちオリムピック大會は、丁度その閏年毎に開催されると思つて差支あるまい。さて、問題の手掛りは斯んな所にもあるであらうか。

ギリシャのオリムピア祭典は「夏至」の後の最初の「滿月」の頃に行はれたと傳へられる。そして、その「暦法」は神社の祭司の手によつて取扱はれてゐた。オリムピア祭典は當時の暦法と深く關係する所があつたにちがひない。今、此の問題を取敢へず手許のガアヂナアの著「オリムピア」(E.N.Gardiner: Olympia, its History and Remains) について當つて見るに、大要次の如くである。即ち、古代ギリシャの祭事は農業文化の形態をもつ。農業は必然に太陽的な季節の周期を求める。が原始的暦法は太陰暦を用いてゐた。當然其所には太陰暦の太陽暦的調整が要求されて來る。かくて、ギリシャでは何時の頃からか——それはオリムピア祭典の歴史的記錄が始まつた紀前776年頃にも當るであらうか——太陰の99月を以て8年とする所謂「八年法」が採用されてゐた。此の8年のうちに3回の閏年を適宜挿入するのである（即ち、12×8+3=99)。此の言はゞ宇宙的單位としての8年の周期に基いて、毎8年に祭典を行ふ風習は既に古くよりデルプオイに存した。が——恐らくは常識的に—— 8年は稍長きにすぎる。されば此の「大年」を二分して、その初めと眞中と、つまり毎4年の祭典が制定されるに至つた、といふのである。然らば何故「夏至」の頃に行はれたか。それは丁度麥の收獲が片づいて、やがて來るべき葡萄や果實の取入れを待つ迄の約一月半ほどの「農閑期」に相當したといふのである。

後に、紀前432年頃から19年を大年として其中に7閏年を置く暦法が採用されたさうだ(平山清次氏「暦法及時法」) が一旦制定された祭典は之がために變更されなかつた。

とにかく歴史的に公認された最初のオリムピア祭典の年は紀前776年に相當し、その時から引つゞいて毎回の優勝者の名が傳へられてゐる由である。ギリシャ人は、何時の頃よりか、此の第一回の年を歴史上の紀元元年と措定した。所謂「オリムピア紀元」がこれであり、それより次々のオリムピア祭毎の期間を歴史的單位として「オリムピアス」と呼んだ。



圖 1. ベルリン大會のメダル

これは「四年紀」とでも譯すべきであらうか、これが後世の「オリムピアド」なる語に相當するものである。從つてオリムピア祭は夫々のオリムピアドの第一年の夏に催されたといふ事になるのである。而して近代の國際オリムピック會議も亦その初は「オリムピアド」の語を斯かる意味で用いてゐた筈である。

オリムピアドなる語の本來の意味は正に上述の如き四年紀を指すとされる。普通の語學辭書などにも然う記してある様だし、又それ以上の問題には立入つてゐないやうでもある。が、近頃のジヤアナリストたちの言ふところの「オリムピアド」なるものは之とは少しく異るものゝやうである。それは全く「オリムピック大會」そのものを指してゐるとしか思はれない。其所で、この新しい用語法は一種の濫用ではないかといふ不安が——少くとも語學上の正統派から見て——一應起つて來るであらう。若しも私の見る所にして誤ないとすれば、斯ういふ新傾向は前回のロスアンゼルス大會の時以來頓に甚しくなつた様である。然らば之は言はゞ一種のアメリカニズム的現象であらうか。現に、聞くところによれば、今回のベルリン大會に當つてドイツの學者の間に此の濫用問題が論議されるに至つた程であり、そして大會組織委員會が調査した結果、既にギリシヤの昔に於ても此語が「オリムピア競技祭」の意味で用いられてゐた實例をヘロドトスの「歷史」の中に見出すに至つて皃がついた由である。とにかくドイツ人も亦此度の大會に此語を愛用したといふ實例は既に屢示された所である（圖1）。

「オリムピアド」の問題は以上のやうな經路で解決されたかと思はれる。解決したとすれば其れ以上追求する要はない筈である。が、私は、それでも此の用語法が嚴格な意味に於ては——既にヘロドトス自身に於てさへ——依然として問題ではあるまいか、と考へてみた。そこで念のため Liddell & Scott のギリシヤ語大字典を點檢して見る事とした。然かも、その結果は、意外にも、問題自身の方が却つて問題的になつてしまつたのである。

「オリムピアド」に相當するギリシヤ語は前述の如く „Olympias" である。さて上揭の字典によれば此語の意味は次の如き順序で示されてゐる。

(1) 「オリムピアの競技」ヘロドトスに出づ、又屢ピンダロスにあり。〔ヘロドトスの文獻中の箇所を示し、更にオリムピア競技に關する詩人として有名なピンダロスを擧げてゐる事は注意すべきであらう—— 瀧澤註〕

(2) 「オリムピツクの優勝」

(3) アツチカ（アテナイ）の常用語として「四年紀」。

斯う見直してみると、「四年紀」なる意味は、むしろ新しくアテナイ人の方言として成育したものではないかとさへ思はれる。固より私は語學者ではないが、私は此語を前にして今更乍ら一つの問題を考へざるを得なかつた。即ち、ギリシヤ文化なるものが、往々にして、アテナイ文化のレンズを透して眺められる傾向はありはしまいかと——斯く言ふ私の此の一篇もまた。——が、とにかく、吾々は安心して、來るべき「トーキョー・オリムピアド」と朗らかに呼びかけて差支ないわけであらう。

オリムポスとオリムピア　大神ゼウスを主神として八百萬の神々が集ひに集うたと言はれる「オリムポスの山」(Olympos, Olympus)はテツサリア州の北境、マケドニア州に接する連山のうちにある。「オリムピア」も亦ゼウスを主神とする聖域ではあるが、ペロポンネソスの西邊エリス州の、丘と川との間に横はる低地である。此位の事は、西洋の地理乃至歷史を學んだ程の人ならば、誰しも承知の如くである。が、それが屢混同されてゐる。現に今度のベルリン大會を機に日本で出版された「オリムピツク讀本」と銘打つた著述に於てさへ、オリムピアの土地を指して「この小さな盆地、オリムパスの谷間は、ギリシヤの神々が住み給ふた……」と書いてある程だ。「神々が住み給うた」とか「オリムパス」とか言へば當然あのテツサリアの山を思ひ浮べねばなるまいに、と、實は先夜建築協會の倶樂部室で話してゐた所、最近京大の森田教授と共に「ペロポンネソスの旅」(「建築學研究」

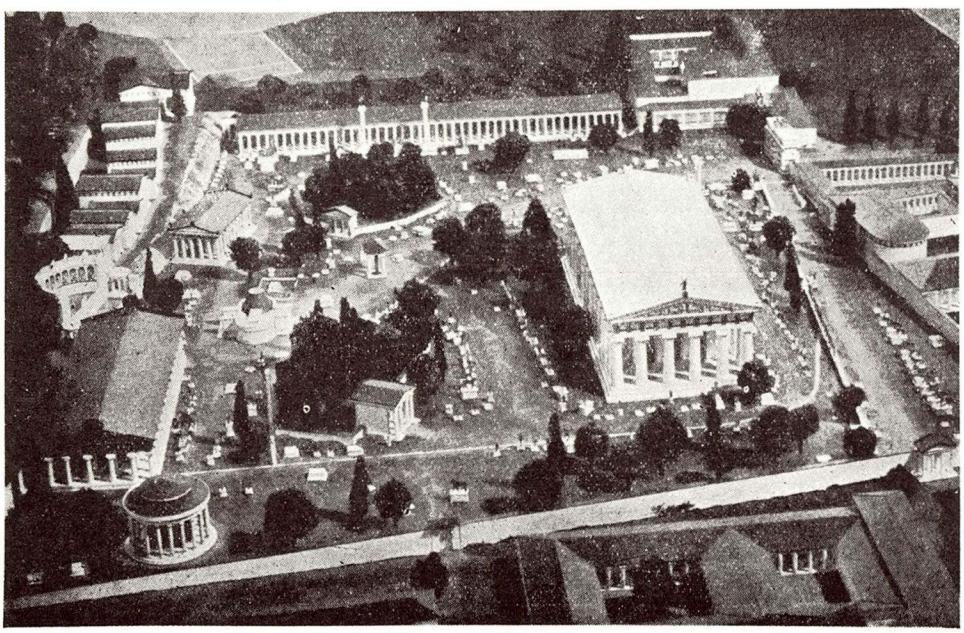


圖 2. オリムピア聖域の復原模型（スタヂオンは左上隅に少し見えてゐる）

第75、76、77輯參照）を試みて歸られた森忠一君から注意された「クルチウスの書物に、オリムピアの土地も昔はオリムポスと言はれた山が書いてありますよ」と。

實は其時私は偶然にも、而して迂濶にも、本稿の參考にと丁度その書物を入手し所持してゐた。早速調べてみた所なるほど書いてある「その川の北岸の丘を古の人はオリムポスと名づけた、これぞ嘗て此地の神聖なる山頂を表示したところの名前である」と。如何にも簡單で何となく心もとないが、何しろオリムピア遺跡發堀で有名なクルチウス（Ernst Curtius）の言である。これは更めて調べ直す必要があると、歸途電車の中で考へつゝ、ふと私は何時か何かで此の問題について讀んだ事のあるのを思ひ出した。不覺にも六年程前に讀んだのを全く忘れてゐたのである。それはギリシヤ史の權威、京大の原隨園教授の「オリムピア祭における主神その他の問題」（『史潮』昭和六年六月號所載）なる一文であつた。さて原教授の考證によれば「オリムポスの名は……テツサリアにおけると同名のものが、エリスにある、とストラボン〔ギリシヤ末期の地理學者——瀧澤註〕にみえて居る。が此の他にはエリスにオリムポス山の名は見當らない」由である。が結局「オリムピアの名は、オリムポス山の崇拜から來た。云々」と結論されてゐる。

ところで Olympos の語は語根 LAMP— に由來すると言はれる。それは「輝ける、明るい、白い、雪の、秀でたる」などいふ意味の語で、しかも外來的な匂をもつたものださうだ。上古のギリシヤの邊境であつた北方の白い雪に輝く秀峰が「オリムポス」と呼ばれるに至つたのは如何にも自然であらう。それが何時の時代か、ゼウスの信仰と共に南下して、まづ一つの山の名に、ついで低地に移つて聖域「オリムピア」と轉訛したものであらう。

ヴインケルマンとゲーテとをもつドイツは「古典主義」を理解する國であるにちがひない。更にクルテイウスをもつドイツは、特にオリムピアへの愛着を強く感じてゐるにちがひない。今回のベルリン大會が、特に聲を大にして「ギリシヤの復活」を歌つた心持も首肯されるやうに思ふ。「オリムピアの聖火」をリレーによつて、又その聖域の「橄欖の枝」を飛行機によつて、わざわざ取寄せるなど、誠に未曾有の盛觀であつた。が、斯ういふ古典主義は、とりも直さずドイツ的な古典主義ではないだらうか。ドイツ人は、由來クラシシズムの形式をよく提示してくれた。が、本當のヘレニズムの精神の具現は、となると、どうも何かと疑問が湧いて來はしまいか。來るべき「トーキョー・オリムピアド」を控へた吾々の深く省みるべき問題である。

遮莫。あの聖火リレーの「炬火」は、ギリシヤ語ならば「ラムパス」ではあるまいか。それはオリムピアの語と共通な LAMP— から來たもので、從つて現代語の燈火を意味する「ラムプ」と共通の語根をもつものだ。そこで「オリムピアからのラムパス」で果してドイツ人に駄酒落として承認され得るか否か、を私は知らないが、プラトンはその「饗宴」篇の中でわざと斯んな地口を言はせてゐる "Pausaniou de pausamenou"（パウサニヤスがヤスんだ）——固よりプラトンは、之によつて當時流行のソピスト風の修辭法に於ける形式主義を揶揄したのかも知れないけれども。

マラトンの飛脚　紀前490年の秋、ペルシヤの大軍はマラトンの岸に上陸する形勢となつた。此の國家の一大危機を前にしては宿年の國内的確執に拘はるべきでない。アテナイは急をスパルタに報じて援兵を乞ふべく、一人の飛脚を傳令として走らしめた。その名をプエイディピデスといふ。彼はアテイナイよりスパルタまで、嶮路幾山河を超えて二晝夜足らずで駈け着けた。しかし、スパルタでは宗教上の信仰から「滿月」にならぬうちに出

兵する事を不吉として、漸く援兵がアッチカに到達した時は既に戰勝の後であつた。が、とにかく此の話はヘロドトスの傳へる所である。然し乍ら、此の「歷史の父」のドラマチツクな文章は、マラトンの戰に當つて、たゞ戰前に此の一人の傳令を「飛脚」として登場せしめてゐるだけである。

然らば、世のいはゆる「マラトンの走者」とは、そもそも何所から來た者であらうか。突如として、戰終れるマラトンの野から、一氣に駈けぬけて來て「萬歲々々、わが軍勝てり」と叫ぶと共に氣息絕えたといふあのエピソードの勇士は。遺憾ながら此の勇士の存在は古代に於ても既に多分の疑惑に包まれてゐた。かな

圖 4. デルプオイのスタヂオン

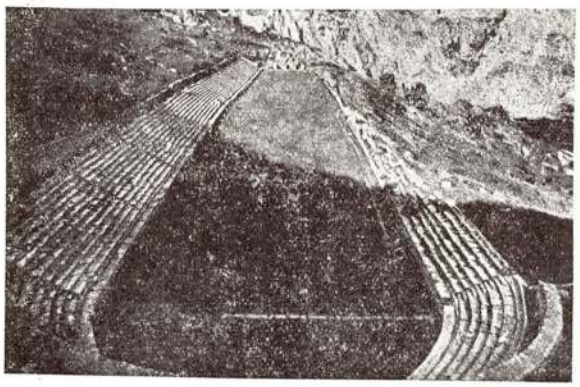


圖 5. エピダウロスのスタヂオンのスタート・ライン





圖 3. マラソン競走第一回の優賞者ソチリオス・ルイス

り後の世に至つて、遂に此の勇士も亦戰前の飛脚と同一人なるフエイピデスだと主張されるに至つたのださうである。(Pheidippides 又は、Phidippides, 但之等は Philippides の訛であらうとも言はれる) いづれにしても此の勇士の實在性は疑はしい。從つて、近代オリムピツク競技の最大種目たる所謂「マラソン競走」——私は「マラトン競走」と言はせたいのだが——の由來なるものは、未だ歷史的公認記錄とはなつてゐないわけである。

近代のオリムピツク競技にマラソン競走なるものを發案した

のは、フランスの學士院會員にして比較言語學の權威ブレアル教授（Mishel Bréal）ださうだ。とにかく此の學者の言語學的造詣によつて「マラソン競走」の名は現代人の耳に甚だドラマチツクな響をもつ事となつた。架空的人物の上に空想してゐた古代人の夢を、現代に至つて始めて實現した形である。斯ういふことも亦一種の、且つ甚だ興味のある「古典」の復活といふべきでもあらう。

近代オリムピツクの第一回大會がアテネで催された時、此の競走のコースは古來の傳承通り、マラトンからアテネまでの山道であつた。しかも其時の優勝者は一位より三位まで悉くギリシヤ人であつた。ギリシヤでは本當にマラトンの戰に勝つたやうな騒ぎだつたさうだ。その第一の勇士は一介の農夫ソチリオス・ルイス（Sotirios Luis）といふ青年であつたが、一躍世界的な人物となつた（圖2は當時の彼の姿。禮裝は賞品として洋服屋其他から寄贈されたものださうだ）。今年六十八歳の彼は、往年のマラトンの勇士たる資格を以て、ヒツトラア總統のためにオリムピア聖域の橄欖の枝を携へてベルリンに乘込み、また炬火リレーにも要纍として最後の一役を演じた、といふ現代のエピソードは既に周く人々の知る所である。

橄欖の冠　マラトンの戰から丁度十年の後、ペルシヤの大軍は再びギリシヤに侵入した。此の度はヘレスポンドを渡つて南下した。テツサリア州は既に陷り、テルモピレの險も遂に拔かれた。折しも陣門に降り來つたアルガヂアの兵士を、クセルクセス王はマルドニオス將軍と共に引見した。將軍は訊問した「ギリシヤ方の動靜は如何」と。だが、それに對する答は意外であつた「ギリシヤ人は今オリムピアの競技祭を致して居ります。武藝や戰車の競技を見物して居るのです」と。そこだ重ねて「勝つた時の褒美は何か」と問ふに「橄欖の冠」との答。茲に陣中一人あつて憮然として嘆じて曰く「吁、マルドニオス閣下、金銀を求めずして名譽をと求むる者に吾々は渡り合ふのであるか」と。これも亦ドラマチツクなヘロドトスの記す所である。之を舒せる彼の、自らギリシヤ人たるの矜持、面目躍如たるものがある。

さて此の一片の挿話も亦、果して眞實の歷史であるか否かは疑はしいかも知れない。が、たしかに此年は第75オリムピアドの第一年に相當し、オリムピア祭典は擧行された筈である。そもそもオリムピアの競技祭は元來地方的な祭典であつたが、此の祭典が名實共に全ギリシヤ的な盛觀を現出したのは、恐らくマラトンの戰勝以後の事であると思はれる。未曾有の國難を契機として汎ギリシヤ主義は全土に橫溢した。かくて紀元前五世紀に於ては此の祭典も亦ギリシヤ文化と共に、その黄金時代を現出したのである。たとへ、ペルシヤの大軍が南下しつつあつたにしても、此の民族的、宗教的な大祭典を忽にした筈はない。いはんやゼウスは軍神として國家の守護神である。問題は、ギリシヤ人が國家的危急に對して平然としてゐたといふ事にあるのではなく、實に此の一大非常時に際してもオリムピアの競技は順調に行はれたといふ事にあるのである。ヘロドトスは野蠻なバルバロスの侵略に對して、ギリシヤ人が如何に高度の文化を持てるかを誇かに歌ひ上げたのである。

「黄白を求めず名譽を求める」而して與へられた榮冠は素朴な橄欖の小枝である。近代の

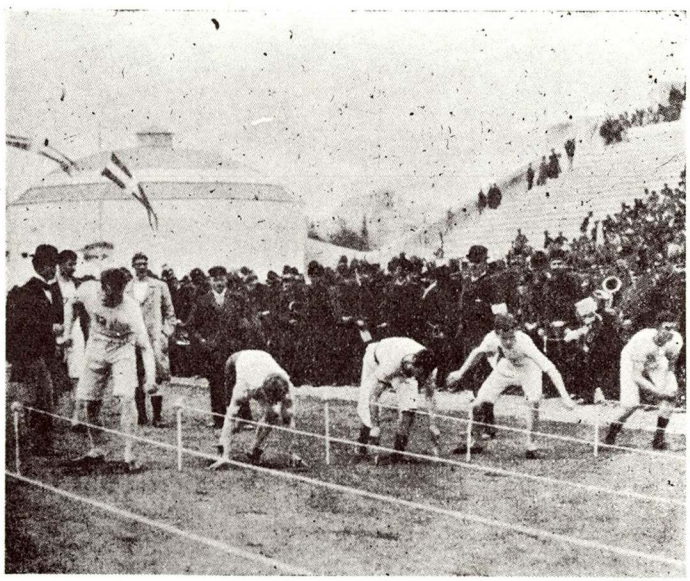
人々は、これこそスポーツ精神、いはゆる「アマチュアリズム」の象徴だといふ。又オリムピア競技祭の時には約三ケ月間の「神聖なる休戰」が宣せられた。スポーツはあくまで平和主義であらねばならぬ、勝敗を目ざして行動する事さへスポーツ精神と相容れぬものがあると言はれる。曾てクーベルタンがオリムピア競技の復興を提唱した時に、それが國家的敵愾心を誘發するといふ廉で、一部の反對を買つた事さへあつた。が、ギリシヤの時代も今日も、世の中は要するに浮世である。歷史的現實は必ずしも理想的要請にそぐふものではないかに見える。



圖 6. ギリシヤ人のスタートのポーズ

ギリシヤの各州がその神聖なる平和の下に、言はゞ平和の戰士を派遣して競技せしめた當時の態度を、唯今日の一應の國際的道義觀からのみ律する事は、必ずしも歷史的現實を得る道ではないであらう。實に古代のオリムピアの勝者は、歸還と共に國家の名に於て讃頌歌を贈られ、その彫像が立てられたのである。アテナイに於ては、國費を以て全く凱旋將軍と同等の資格にて遇せられた事は、プラトンの「ソクラテスの辯明」の中からも讀みとる事が出來る。その「國家」篇の中には、當時のスポーツマンの職業化的傾向を問題とした一節もある。世の中が墮落しても、スポーツだけは墮落せぬ、などいふ事はあり得ない話であらう。

圖 7. 第一回大會に於ける 100m. 競走のスタートのポーズ



ギリシヤ文化の沒落と共に、オリムピアの競技も沒落の途をたどつた、外形に於ても內實に於ても。「大詩人ピンダロスはそのオリムピア頌歌の中で戒めた、勝利を狙ふことはオリムピア的精進の大敵だと。しかし時代の流れは事態を全く顚倒した：オリムピア的精進は失はれて、勝つ事のみがすべてとなつた。そして西紀393年におけるビザンチン皇帝テオドシウス第一世の禁令は、要するに瀕死の身に止めを刺したものである」と、リヒテル教授（Dr. F. Richter）はベルリン大會の宣傳誌（Olympishe Spiele 1936; Nr.1）に書いてゐる。

スタヂオン風景　ギリシヤの競技場は直線走路の細長いものであつた（圖4）。見物席も古い頃は單なる斜面の土間か、精々が木製の棧敷であつた。オリムピアでは、すぐ側の「クロノス」丘の斜面がそのまゝ一時的の見物席と化した程である。堂々と大理石を以て疊まれた座席の如きは比較的後期のものに屬する。さて、此の競技場の走路の長さが丁度"1 stadion"であつた。それは吾々の尺で略600尺である（英國尺で約 606ft. といふ數量をあげてゐる人もあるが、今度の大會に當つてドイツ人には 192m. と言つてゐる者もある。詳細については諸說多少の出入がある。元々ギリシヤ各州に特殊な尺度があつたのである）。この走路の長さの呼稱が、やがて競技場そのものゝ名稱に轉化した。走路は數本のセパレート・コースから成立つて居て、長距離競走の場合には（恰も今日の水泳場のやうに）同一のコースを何回か往復したのである。

「出發點から目標まではよく走るが、歸りには駄目になる走者……然し、本當の走者は決勝點に歸つて來る」（プラトン「國家」）

スタート・ラインには細長い石を敷き、其上には、恐らく足掛りのために、二條の溝が彫込んであつた（圖5）。

ギリシヤ人は、いとも明朗な素裸で競技を行つたものゝやうである。現代語の"Gymnastics"はギリシヤ語"Gymnastike"から來たものだが、"Gymnos"とは「はだか」といふ意味である。ギリシヤ文化の精華なる彫刻術への理解は此所から出發せねばなるまい。ギリシヤ人は、その神々をも裸體のスポーツマンの姿で表現し、然かも此の傾向はオリムピアの作品に於て特に顯著である。否むしろ、スポーツそのものが立派な「藝術」(techne)として尊重されたのである。

「知慧の愛求（philosophia）と體育の愛求（philogymnastia）」といふ並稱がプラトンの「饗宴」篇にある。體育を尊重したギリシヤ人の心持が此の語の表現にあふれてゐる。プラトンが「カルミデス」篇の書き出しに、ソクラテスをして語らしめた言葉は次の如くである。曰く「ゆふべ僕はポチダイアの軍隊から歸つて來たのだが、暫く御無沙汰してゐたので、お馴染の所へ行つて見たくなつてね、タウレスの角力場へ出かけたのさ」と。勇敢な兵士・體育の愛求者・知慧の愛求者、しかも若い時は彫刻術の修業もしたといふソクラテス——これがギリシヤの「最良の市民」の姿であつた。

ギリシヤの繪（主として壺繪）などには、よく髯面の男が活躍してゐる（圖8）。が彼等は案外の若者だつたやうである。尤も多くの例はまだ髯の生へるに至らぬ青少年を畫いて

はゐるが。私は固よりそれ等のものゝ年齢の差別や限界については詳でない。が、取りあへず次のやうな文章を茲に紹介して置かう。



圖 8. 短 距 離 競 走

ソクラテス「……ホメロス……あの詩人が歌つてゐる。髯崩えでし若さこそ、げに優美の極みなれ、と。その男盛りに今アルキビアデスは榮えてゐるのさ」(プラトン「プロタゴラス」)。

また「アキレウスはパトロクロスのみならず、あらゆる勇士よりも美しかつたし、未だ髯も無かつた。從つて(ホメロスも言つてゐるやうに)遙かに年下であつた……」(プラトン「饗宴」)。

走者のスタートのポーズは、ギリシヤ時代と今日とでは異つてゐたらしい(圖6)。否、近代競技に於いても、第一回オリムピツクの頃には、依然として言はゞギリシヤ風のポーズであつた(圖7)。但し、唯一人アメリカの選手(圖の左から二番目のコース)だけが、略今日のやうなポーズを試みてゐる。此の新しいポーズをアメリカ人以前に試みた者があるか否かを私は知らない。又前に掲げたスタート・ライン(圖5)の上にギリシヤ人の足がどんな風に置かれたかも知らないのである。

圖 9. 長 距 離 競 走



競走中のポーズがその競走距離によつて自ら異る事は言ふまでもないが、此のポーズをギリシヤ人は短・中・長の距離に應じて夫々に畫き分けてゐるのは流石である。茲にはたゞ



圖 10. ベルリン大會に於ける 200m. の第二豫選

短・長二種の例だけを較べて見る(圖8及9)。それは正しく今日のポーズと比例的だ(圖10及11)。短距離の走者たちの、開いた手を振つての猛烈なスプリント。私は此の小さい名畵に對して、ギリシヤ人の藝術的技能に驚嘆する。之に比して、長距離の走者の上半身を立て、拳を固めての悠々たるストライド。既に古くギリシヤに於て、言はゞ日本の「日比野式走法」が行はれてゐたかとさへ思はれる程である。

スポーツ彫刻の傑作として藝術史上あまりにも有名なのは、ミロンの作として傳はる「圓盤投」(diskobolos)の像である(圖12、尤もその原作は既に失はれ、今日傳はるものは數種の模刻である)。圓盤投はギリシヤの「五種競技」(pentathron)の一であつて、之と趣の異つた作品も種々あるにはあるが、ミロンの示した此のポーズは一つの典型ではなかつたかと思はれる。全く同一のポーズを畵いたと思はれる壺繪があるのは面白い(圖13)。が、恐らくそれよりも面白いのは、嘗てアメリカの水泳選手として聞えたワイズミュラアによつて模倣的に試みられたポーズ

圖 11. ベルリン大會に當つてレデラア教授の作つた四人の走者



であらう（圖14）。

競技成績の數量記錄をとる事は、ギリシヤに於ては殆んど行はれなかつたやうである。元來、幾何學的性格のギリシヤ人は何事につけても「比」とか「より大、より小」とかいふ相對的形態に多大の興味を感じてゐたやうだが、測尺による言はゞ絕對的な算術的數量には興味がなかつたやうである。が、或る銘詩の一節によれば、プアイロスなる者が、今日のレコードにして、約 16,50m. の巾跳をなし、またキオニスなる者も殆んど比肩し得る跳躍をなしたとある由である。だが——敢て私は結論を言へば——此の文學的數量は、科學的に之を證明する事は不可能であらう。何しろ今日の人間力を以てしては、全く信じ得べからざる數量だ。現代の超人的黑人選手オウンスの出した世界記錄と雖もその半に稍足らぬのである。今回の大會で、三段跳に於て日本選手の作つた世界記錄でさへ 16m. フラットであつた。だが此のギリシヤ人の文學的數量の可能を主張する論者も少くない由である。それは、ギリシヤ人は跳躍に際して兩手に鍾石を握つてゐたからである（圖15）。その目方は 2～4,5 kg. 位あつたといふ。その惰勢の助力によつて跳んだといふ事は、たしかに有力な條件となる。が、又一說には、巾跳は三回づゝ行はれ、その合計が記錄されたのだともいふ。此の方は、しかし乍ら、數量としてはむしろ少きに過ぎはせぬだらうか。

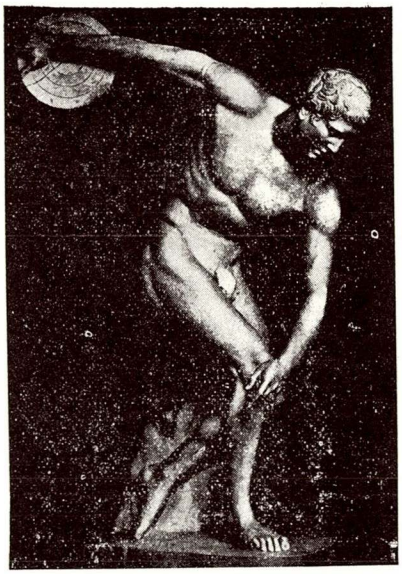


圖 12.　ミロン作デイスコボロス

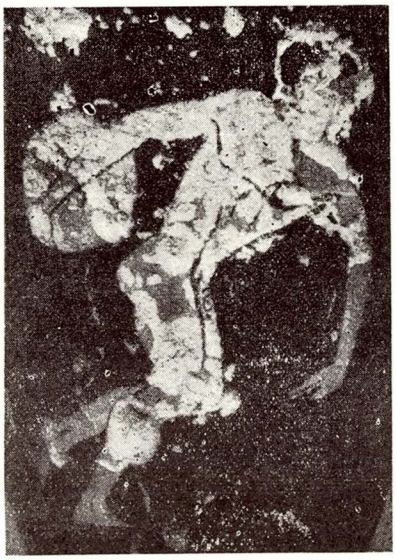


圖 13.　壺繪のデイスコボロス

圖 14.　ワズイミユラアの
デイスコボロス



長さの測定の場合はさること乍ら、時間の記錄



圖 15. ギリシヤ人の巾跳

など、全然不可能だつたと見ねばなるまい。素朴な日時計以外に、大凡時計なるものをギリシヤに於て考へ得るだらうか——オリムピアのスタヂオンを見守れるは、名にし負ふ神「クロノス」(Chronos=time) の丘ではあつたが。

神宮外苑　古代オリムピア競技は單なる運動會ではなかつた。それは實に神聖なる行事の一部門だつたである。が、現代オリムピツクが此點に於て、果して眞に「ギリシヤ的」の名に値してゐるであらうか。

茲には「ギリシヤ的」とは何か、の問題は暫く措く。が、とにかくオリムピアの競技は神域に於て行はれた。而して吾々もまた神域に於ける競技の機會を明治神宮の外苑に於て持つてゐる。此の日本的特色こそは、正に言ひ得べくんば「同時にギリシヤ的」ではないか。此所にこそ日本的にして同時にギリシヤ的なるオリムピアドが期待さるべきであるまいか。此の問題こそ根本的である。ヘレニズム復興といふ呼聲の下に、あのオムピアの「遺跡」から炬火を將來したことなど、何んといふ末節的形式主義であつたらうか。何といふ子供じみた「お祭騒ぎ」であつたらうか。オリムピツクは勝義の「まつり」の精神に立ちかへらねばならぬ。

巨大なベルリンのオリムピツク・スタヂアムの壯觀は正に現代の驚異であらう。が、それはギリシヤ的と言はんよりも、むしろローマ的である。それは實にローマのヨロツシウムの如く壯麗である。吾々も亦、來るべき東京オリムピアドに於て、斯くの如き壯麗を希はねばならぬであらうか。

さて、私は建築家である。巨大壯麗なるスタヂアムの建設は、固より斯界のために希ふ所である。いはんや此事は日本文化の宣場のためには無二の好題目でもあらう。が、私は同時に此の世界的題目に對して、少くとも一度は自らの專門意識を超越して見ることの必要を感ずるものである。　(Sept. 1936)

オリムピヤ大祭とオリムピツク雜考

中尾保

オリムピツク大會を1940年にいよいよ日本で開催することとなり東京はオリムピツクシティーと決定した。

これはあらゆる方面から觀て可なり大きな問題としに考慮せなければならぬ。躍進日本の威力が遂に斯くあらしめたことはいふまでもない。

一體オリムピツクがアジヤの地で催されるやうにならうとは歐米では最初から夢想だもせなかつたことである。

有色人種があれだけ競技に活躍して來ることも彼等には全く豫想してゐなかつたのである。日本へ引致するについては一通りの苦心ではなかつたが到頭オリムピツクが、歐米の地を離れて、始めて萬國オリムピツクの實を示すわけであるが、これも日本の國際的地位が如何に向上したかを物語るものであるといふことを日本國民全體がはつきりと念頭に入れてその準備にかゝらねばならぬ。

オリムピツクが單なる運動競技だけの問題でなく「文化の競技」であることも認識しておくべきである。

古代ギリシヤのオリムピヤ競技會はギリシヤの各都市がその文化を競つたものである。殊に麗しいことにはそのオリムピヤの競技期間中は都市の間で爭ひをしてゐても戰が始つてゐても休戰してその間は全く平和安穩の狀態でなければならなかつた。今日の萬國オリムピツクは、不幸1916年第6回ベルリン大會が歐洲大戰のため中止のやむなきに到つたことはまことに遺憾である。今や世界は西に東に危機を孕み、一觸即發の狀態ではあるがオリムピツクに向つてはギリツヤと同樣和平に復するところまで進んでほしいものである。

オリムピツクを語るについて先づその由來たる古代ギリシヤとオリムピヤ大祭のことを記して見やう。

古代ギリシヤの武術と體育

オリムピツク競技の種目はギリシヤの武術から出たものである。ギリシヤの武術は主としてペルシヤに備へるべく研究されてゐた。ギリシヤは國内いたるところ山嶽を繞らし平野は殆んどなくその上良い馬がゐなかつた。ペルシヤの駿馬に對抗してゆくためには馳走で身輕な戰法を案出せなければならなかつた。又ギリシヤのやうな山岳起伏してゐる土地

では、乗馬よりは寧ろ徒歩の方が余程便利であつた。それ故ギリシヤの武術の第1は走ることであつた。日本でも南龍公の如きは1足、2水、3膽、4藝と云つて足の達者なことを武士たる第1條件においたのも故あることである。ギリシヤでは「走ること」について「跳び上ること」次に「物を投げること」を武術の3原則とし、それに水泳が加はり遂にレスリング、ボツクシング、フエンシングといつたやうなものが出來て來た。それ故競技として競走、跳躍、投擲、5種（peutathlon）水泳、レスリング、ボツクシング、フエンシングのほか、女子の舞踊まで加へられた。

ギリシヤの教育法はアテネ式とスパルタ式とで多少異つてはゐるが何れも人間は身體と精神とから成る2元論であつた。これを正しい比例を以つて教育し、精神もよくし、身體もよくすることを教育の本義とした。また美しい肉體には美しい精神が宿つてゐることを條件とした。

ギリシヤの修養法は、自由7學科（文法、修辭、論理の3課 Trivium と算術、幾何、天文、音樂の4課 Quadavium）とヂムナジムに於ける訓練とであつた。

殊にスパルタでは男子に限らず女子も體育を行ひ、主として競走、相撲、圓盤投、槍投を行ひ、殊に舞踊を好んだ。是は「リクルグス」のいつた。

「健康なる母は、國家に健康なる子供を献ず」

「處女の身體を練磨せしむることは、他日良妻賢母としての任務を全うせしむると同時に、その出産の苦痛を輕減せしむるものなり」

の教訓を實際に行つたもので、女子體育の根本が茲に芽ざしてゐると云ひ得る。

無論是等諸種の運動はギリシヤの各小邦國で相競つてこれを奬勵し、時々行はれる神の祭典の時に各々對抗的に行はれた。その祭典の中で有名であつたのはオリムピヤ（Olympia）イスシアン（Isthmian），ネメイアン（Nemeian），及びピーシヤン（Pythian）の4箇所で開かれたものであつた。その中でオリンピヤの祭が最も盛大であつた爲に、やがてそれが總てを代表するかの如くになつて了つた。

此の各地の大祭に於ける競技に對する熱は之に對する勝利によつて得たる名譽心に由り益々向上せられ、

○オリムピヤの競技に於てはハイネ（Haine）の祭壇よりの橄欖樹の冠、

○イストミアンの競技に於てはオランダ三つ葉の枯れた小枝の花環、

○ピシアンの競技に於ては月桂樹の花環、

○ネメイアンの競技にては野生オランダ三つ葉の小枝で作つた花環、

をもつて各々その優勝を表彰し、更に之によつて國民の肉體向上及び精神上の力を保持し、その後繼者の勢力を高め得るものであるとした。

此のイストミアンの大祭は始めアテネ後にコリント（Corinth）の監督下に行はれ、イオニヤ族の大祭ではポサイドンを祭り、毎2年目に1回行はれた。ピシアンの大祭は2世紀

おそく始められホイキスに於けるパルナサス山麓に於てデルフキーのアポロを祭り、始めは毎 8年目 1回、後に毎4年目1回行はれた。

ネメイアンの大祭はアルゴリス（Azgolis）に於てジユウス（Zeus）の神を祭り、毎2年目毎に行はれた。

斯くオリムピツク競技を國家教育の重要なる手段として、之を宗教上の祭禮及び慣習と連關して行つたことはミノス、リクルグス、ソロン等の執政者の執つた國策が賢明であつたことが窺はれる。

オリンピヤの大祭

競技が盛にギリシヤに行はれるに至つた原因の主なるものは、ギリシヤ民族が特に競技好きの國民であつたためで、唯に競技のみならず、音樂、作詩、ドラマ、吟誦に至る迄を競爭的に行ふに至つた。

起原　オリムピヤの神事は、ドーリヤ族が北方より此の地に移住してきた當時、即ち B. C. 1000年以前に既に行はれてゐた。ギリシヤは當時北方より移住してきた種々の部族によつて植民せられ、後にアケーヤン（Akaean），エオリヤン（Eorian），イオニヤン（Ionian），ドリヤン（Dorian）等の部族を成したが、此の部族移動以前已にオリンピツク大祭の存在が唱へられてゐる。勿論それは神話的の傳說であつて、且つこれについても一定の確說がない位である。

始め天の神第1代の王クロノス（Cronos）の子ジウス（Zeus）はキユリテイーズの神達であるヘルクレス（Hercules），エピミデス（Epimides），ピオニウス（Pionius），アイエジウス（Eieisius），及びアイダス（Aidas）等に託された。その神たちはクリートのアイダ（Aida）よりオリンピヤ（Olympia）に旅行し、その5人の最年長者たるヘルクレスは兄弟達と野生の橄欖樹（オリーブ）の冠を賞品として、競走した。之がオリムピツク・ゲームの始まりで、5人の神によつて行はれたために5年目に1回開くことになつたといはれてゐる。尙其他ジウスが天の王位をその父クロノスと爭つた地がオリンピヤであつて、競技會は其勝利の祝賀記念のために行はれたとも云はれてゐるが何れも當にならぬ。要するに B. C. 776年の大會を正式の第1回として、爾後 4年目毎に行はれ、千年もつづいた。

神木の由來　オリムピツク競技會の賞品に橄欖樹を與へることについては次の傳說がある。

オリムピツク・ゲームを父ジウス（Zeus）の紀念に開いたヘルクレスはオリーブを、その祖先の住つた國、ダニューブ河の源に近いハイ・パボリア（High Pavoria）より齎し歸りその葉をオリムピツク・ゲームの勝利者に與へたと云はれてゐる。アポロ（Apollo）の神を非常に崇拜してゐた當時のギリシヤ人は、アポロはデルフキー（Delphi）の神託が終ると直ぐ初夏の候には戰車にのつてハイ・パボリヤに行くと傳へてゐた程、ギリシヤとハイ・

パボリヤとの關係は密接で、ギリシヤ人發祥の地であると考へられてゐるが、それが果して現今の何れの地に相當するかは疑問で、オーストリヤ、チロール、スヰス、北イタリー等と色々に云はれてゐる。

それ以後はデユケリオン（Ducaerion）の洪水後50年に、ヘルクレスの子孫クリシナス（Crisinas）がヘルクレスのために祭壇をオリムピヤに設け、競技會を開いて之を奬勵した。クリシナスはイスリウス（Isulius）のために位を奪はれたがイスリウスは自ら國を治めることを欲せず、オリムピツク競技會の勝利者にその國を與へた。

エンデシオン(Endesion）の後 1代の間にペロツプス此の祭典を美且大にした。アミツシオニー（Amissioni）は更に此の競技會を奬勵し、ペレイウス（Peleius)，ニウリウス（Niulius）は協同して大祭典を開き、オデイウス（Odius）及びアムフイバリオン（Amphivalion）の子ヘルクレス（Hercules）は大いに之に盡力した。當時アケデイヤ人のアイオレウス（Aioleus）はヘルクレスの牝馬を借りて、競馬に勝ち、カータスは競走に、ヘルクレスはパンクレーシヨンに、ポラワツクスはボツクシングに勝つたことが傳へられてゐる。

後一時衰へたが、オキシルス（Okisilus）がエリス（Elis）國を支配するに至り、再び競技會を開いた。此のオキシルスは片目の騾馬を曳いてゐた騾馬使であつたが、ドーリヤ族が一時戰略上ペロポネサス半島に歸つた時、デルフヰーの神託に「ドーリヤ軍の大將に三眼の人を選ぶべし。然らざれば兵士は進軍せず」とあり、士氣大いに沮喪した時、クレスフオンタイス（Cresphontheis）に見出されて、軍議の主權を執るに至つた人である。彼の妻はパイリヤ（Paiilya）と云ひ、イイトルス（Iitolus)，ライアス（Laias）の二子があり、イイトルスの死んだ時、その骨を市の內外何れにも埋むべからずとの神託により、傳令や、喇叭手が競技を通告する圓壇に近いオリンピヤに入るべき門の所に葬つた。このイイトルスの墓に對してオリンピツク競技の選手の三十日間の練習を指導するヘラノデイシイが供物を奉る習慣があつた。

此の時代には一時この競技會は盛になり、イフイタス（Iphytus）が始めて第一審判長（Heranodisi）となり、ゲームを主宰した。併しオキシルスの治世の後に至つて再び衰運に向ひ、一時中絕の狀を呈した。

此の時代にオリムピツク競技會の開催期を中央とし、前後の一定期間は名國相互間に休戰するといふ規定を設けた。此の時代のギリシヤは小國都市が互に勢力を爭つてゐたが、その休戰期間には、如何に吳越の間でも、決して兵を動かさなかつたといふ。或時此の規約を破つて、祭典の最中敵國を襲つた都市は、遂に聯合軍の爲に取挫かれたといふ面白い精神的の美談も殘つてゐる。併し當時のギリシヤは內亂交々起り、加之流行病の爲、國力大いに疲弊した。

大祭の再興　此際に當つてペロポネサス半島のエリス國王イフヰトスはピチアンの女祭

司が受けたデルフヰーの神託に從ひオリムピヤに一大祭典を擧げ、大競技會を開いて、その沈滯の氣を一掃せんと企した。之が第一回のオリムピヤードで B.C. 776 であつた。アテネのリシアスは大いに之を喜び、「吾々の戰爭により、惡疫により破壞された土地に平和と幸福を齎したのは、實にオリムピツク・ゲームを創始したヘラクレスの賜である」と云つたと云はれてゐる。一說にはリクルグスがイフヰトスと協議して再興したとも云はれてゐるが何れでもよい。

オリンピヤの地勢　オリンピヤは昔からの靈地であつて、ペロポネソス半島の西部、現在のモレヤ半島にある。山間谿谷の地で、エリスより徒歩二日路、昔の交通の開けない時分には、その位置が偏在する割合には交通が容易で、海上をトリリム（Trirym）といふ三段櫓の船に依つて、極く近く迄、來ることが出來たに相異ない。現今では南ギリシヤ、即ちペロポネサス半島の西岸に注いでゐるアルフエオス河（R. Alpheios）の北で、河口から十哩の上流にある。その西方のエクス山から流れるクラデオス河（R.Kladeos）がアルフエオス河に合するデルタ上にあるので、土地豐饒現今でも西方に連る低い丘には、橄欖が野生してゐる。それはヘラクレスが北方より齎したものとされてゐる。此の森にジウスの神を祀る。當時は楡、ポプラ、葡萄多く、農作物に富め、家畜も豐富な所であつたに相異ない。

現在では東方は遙に展開してフエロンの山を望み、その西寄の方に南西から西北にかけて、低い小山で圍まれ、アルチスの森を負ひ、北東にクロノスの丘に圍まれた場所の廣い地域に殿堂の廢墟と、長方形のスタデイオンの一部が發掘されてゐる。大理石を埋めたスタートラインは踏締めた人の足跡で、數箇の凹所が出來てをり、又競技者が胸轟かしつゝステイデイアムにはいつてきたトンネルの廢墟も殘つてゐる。

ゼウスの神殿は平地の稍中央にあり、その南に協議室、その西北にはジムナジユーム、パレストラ、ローマ式浴場が二ケ所ある。その他祭壇、建築物、彫像及び紀念碑の跡が四方に立つて居り、荒凉たるルーインとなつてはゐるがアルフエオスの淸流は永久へに二千年の昔の面影を變へない。

布告使　大會が愈々始まることになると、その數週前から三人の布告使一橄欖の冠と、布告使のスタツフを持つてエリスを出發し、各都市に向ふ、それは 1.〃神聖休戰（Secret truth）〃, 2.〃祭典の案內〃で此の月から三ケ月は如何なる事情あるも、交戰は出來なかつた。

審判者　是より先、審判者（Heranodisi）が選ばれる。審判者は始めはイフヰタス（Iphytus）一人であつたが、その死後はオキシルス（Oxylus）の子孫のみ之を務めて居り、第四十九回のオリムピアード迄はそのまゝ續いたが、第五十回に至り二人となり、それは

全エリス族から選擧したものであつた。第七十五回のオリンピアードに至つて九人となり、第百三回のオリンピアードの時に一時スパルタに征服されたメツセニヤが、エパミノンダスの力により獨立して新に加入し、十二部族となり、各その十二部族から一名づゝ抽籤によつて任命された。第百四回オリンピアードの時には不幸にして流血の災をみ、エリスとピザの爭鬪が起つて、アルカデイヤ人が四部族の住地を占領したゝめ部族の數が八箇となり、從つて八人のヘラノデイシイが選出された。第百八回のオリムピアードには又十人となつて、そのまゝ最後に至つた。此のヘラノデイシイが神聖でないことを行つた疑があると、選手はエリスの元老院の秘密會に上告することが出來るやうになつてゐたなどゝいふことがある。

審判員が任命せられて後委員長アリタキース(Allitakies)を任命し、その下に委員アリイラー(Allierer)を置き、競技會の管理、儀式の監視、プログラムの進行を司つた。それは前の祭典後直に任命され、全オリムピアードを任期とする。

ヘラノデイシイはヒラ(Hira)の泉にて祓(トムニイ)をなし、豚を生贄(イケニエ)として、神に祈り始めて任務に就くので、その犧牲式はジウスの祭壇で行はれた。ゼウスの祭壇はヒラの神殿とその北のアルテイス(Alltis)の中にあるペロツプスの森の中間に建つてゐる。此の森はアムヒワリオン(Amphiwalion)の子ヘルクレスがペロツプスに献じたもので、壘壁に圍まれた中で牡羊を殺し、森と神殿の間に選手の奉納物を置いた。ゼウスの祭壇はアイダ山のヘルクレスがパガマム(Pagamum)のジウスに供えた犧牲の大腿骨で建てられてゐる。祭壇は第一礎石と其前にある祭壇から成り、犧牲は前壇で屠られて、その大腿は圓壇上の上壇に供へられて炙られる。炙るにはヘルクレスがセスプロツシヤ(Cesprossia)からギリシヤに齎し來つたと云はれてゐる白ポプラを用ひた。

斯く生贄を供へて後、各ヘラノデイシイは次の如き宣誓を行つた。

1. 邪心なく、且つ公平に審判す。
2. 情實に下に少年選手の推擧を爲さず。

之には當時選手の入選運動が激烈であつた爲であるが、當時はその他尚多くの迷信が行はれて居り、神に祈り、其の神託や豫言を信ずることも甚だ多かつた。その後に其任期間の任務に關する大體の手筈を定めた。

選手　選手は一定の資格を有するものより選出された。その資格は

1. 純粹なるギリシヤ人たること
2. 瀆聖罪を犯さゞること
3. 獨立民にして他より掣肘を受けぬもの、即ち選擧權剝奪の燒印を捺されないもの
4. 智、德、體育に於て特に優秀なるもの
5. 十ヶ月の準備練習を行つたことをエリスの役人に承認を受けること

にして、豫め生贄をジウスの神前に供へて祈願し、且誓言をする。それは

1. 勝利を得んがために不正、卑劣な手段をとらないこと

2. 祭典の神聖を汚さぬ爲に、十ヶ月の練習を行ふこと

で、今日の競技大會の開かるゝ時に代表者が宣誓を行ふのは此の型式を習つたものであるが、實際には此の型式のみならず、一般の競技會でもその精神を汲み入れねばならぬことゝ考える。建築家もこの精神が必要である。

尙このオリムピック・ゲームの選手となることは、市民一般の憧憬の的であつて、之に選ばれるものは模範青年に限られ、市はその青年の爲に一切の費用を支辨した。選手は一定の期日に及んで、その所屬の都市及び父と自分の名を届出る。是を怠るものは罰金を課せられるか、競技權を失ふ。

選手は一定日にエリスに集合し、ヘラノデイシイの監督の下にジムナジアム内にて三十日間嚴重な練習指導を受けた。其の期間ヘラノデイシイは絶對的の監督權を有し、且體罰を行ふことも許されてゐた。三十日後技能の檢査を行ひ、不適者を除外した。その時の宣告は

「練習期間勤勉で、且つオリムピックゲームに出場するに愧ぢざる練習を積めるものは、滿身の勇を鼓して出場せよ。怠慢、卑劣の行爲の爲に處罰せられたるものは速に此地を去り、己の慾する所にゆけ」

であつて其の合格者のみがオリムピヤに伴はれた。

行列　大祭の二三日前にエリスからオリムピヤに行列する。その行列は二日間で、順序は審判、役員、選手、指導者、馬、競車、持主、騎主、附添者で、その道筋はエリスの都から丘の麓を通つて、街道に出て、海岸に向ひ、河に沿つて上り、ピエラ(Piera)の泉にあるレトリニー(Letrini)に一泊し、一頭の豚を屠つて生贄とし、その翌日再び河を遡つてオリムピヤに入り、競技者、指導者、附添者は直に檢閲を經て後、ジウスの神像の前に坐し、選手は生贄を神前に供へて祈願をした後、ジムナジウムに收容された。(ギリシヤのジムナジウムは一種の訓練所であつた)。

由來此の大祭の目的は人類の父オリムピヤの十二神の中の大神として、ギリシヤ人の崇敬の的であつたジウス神の神慮を慰めることであつた。オリムピヤのジウスの殿堂にはフイデアス(Phideus)の作になる像が安置されてゐた。此大祭は何事も此ジウスを中心として行はれてゐたのであつた。これが今日のオリムピックと甚しく相異する點である。

日取　其の大祭の日取は毎4年目の夏至の後の最初の滿月を中心として、始めは一、二日後には5日間に行はれた。が此の地方での最も良い季節であつたからである。

參觀者　此の大祭を目がけてギリシヤの各部族の人々や、附近の外國の王侯、使節、資産家達が大勢此所に集來して、此の大祭に參列し、或は見物した。是等の人々は何れも兵器を帶同することを許されず、且つ此の附近には宿舍がなかつたために、富者や貴族はアルチスの森の外圍にテントを張つて宿營し、一般の人々は森の中や、木影に野宿を試み、

殆ど此の地方の山野は人を以て滿される位であつた。

勿論此の大祭に附いて其競技の前後にはそれ等の參觀者は、名所の見物、殿堂や彫刻の拜觀を行ひ、大祭を當あ込んで行はれるホーマーの誦詩、有名なヘロトタスのペルシヤ戰爭軍談勝利者を歌つた古詩の吟誦等を聞きなどして遊び廻り、競技當日には早いもの勝ちであつたから、早朝から吾れ先きと競技場に押かけた。併し競技場へは觀覽者と雖も女人禁制であつた。唯宗教上の考えから處女の競爭だけ、後に至つて加へられた。

競技の日程　競技の日程は始めに一日で、而かも早朝から終日行はれたが、終には三日間となり、五日間となり五世紀頃の最盛時には次の如く

第一日　準備、神饌奉納(B. C. 396 以後は報告係、喇叭手の競技を此の日に行つた。)即開會式である。

第二日　競車、競馬、五種競技

第三日　少年競技

第四日　レスリング、ボツクシング、パンクレアチオン

第五日　饗宴

といふプログラムになつてゐた。

競技の順序　競技はクロノスの丘の麓にあるステデイアムとジウスの祭壇の東方にある廣場に分れて行はれ、審判者及び競技者は殿堂境内の東北から、地下道によつてステデイアムに出た。

審判者は紫の袍衣を着け花環で飾られ、競技者は之に次いで進み、毛で編んだ紐で鉢巻をして出場し、時としては木の枝、松明等を片手に持つて大聲を揚げて走つた。審判と選手の入場を了ると報告係は競技の開始を報告し、次で選手及びその都市、父の名を報告し、掲示板に記載され、更に勝敗の決定された時は、名乘りを上げた。

競技種目　競技種目は何れも熟練、力量、忍耐を要するもので、最初は徒歩競走一種に限られたが常に增減あり、終に次の24種に及んだ。内六種は少年に限られてゐた。今之を列擧すると

1. 徒歩競走　初めの十三回オリムピアード迄は唯一の競技であつた。
2. デイアウロス(Diauros)　第十四回オリムピアードの時始めて行はれた。之はステイデイアムを二度走る競走で、第一回勝者はピザのヒペラス(Hyperas)であつた。
3. トリゴス(Trigos)　第十五回オリムピアードに始まり、三周競走である。
4. レツスリング(Wrestling)　第十八回オリムピアードに始まり、ラセデモニヤ(Lacedemonia)のユーリボータスが第一回勝者である。
5. 五種競技(Pentathlon)　第十八回オリムピアードに始まり、ラセデモニヤのランピスが始めて勝つた。その種目は跳躍、競走、圓盤投、槍投、相撲
6. キセスタス(Xestas)　第十八回オリムピアードに始まる。
7. 四頭立馬車競走　第二十五回オリムピアードに始まり、シーダンのパコンタスが第一回勝者

8. パンクレーション　第三十三回オリムピアードに始まり、シラキユースのリグダミス(Ligdamis)勝つ
9. 競馬　第三十三回オリムピアードに始まりクラニノニヤ（Craninonia）のクロノクシダス(Chronocwsidus）が勝つた。
10. 少年競走　第三十七回オリムピアードに始まり、エリスのポリニシス（Polinisis)勝つ
11. 少年レツスリング　第三十七回オリムピアードニ始まり、ラセデモンヤのヒポスチニス（Hyposcinis）勝つ
12. 少年五種競技　第三十八回オリムピアードに始まつたが、直に廢せられた。
13. 少年キセスタス　第四十一回オリムピアードに始まり、フキレートス(Filetus)勝つ
14. 武裝競走　第六十五回オリムピアードに始まり、ヘリアン(Hellian）のダマレタス（Damaretus）勝つ
15. 騾馬競爭（Apeine）　第七十回オリムピアードに始まり、八十四回目には廢せられた。
16. 牝馬競馬　第七十一回オリムピアードに始まり前者と共に廢せられた。
17. 二頭立馬車競爭　第九十三回に始まつた。
18. 傳令競走
19. 喇叭手競走　共に第九十六回オリムピアードに始まつた。
20. 仔馬四頭立馬車競爭　第九十九回オリムピアードに始まり、シベリリダイス（Siberirideis）勝つ
21. 仔馬二頭立馬車競爭　第百二十八回オリムピアードに始まり、　ベリシチー（Bericiti）勝つ
22. 仔馬競馬　第百三十一回オリムピアードに始まり、リシヤのツツポレマス勝つ
23. 少年パンクレーション　第百四十五回オリムピアードに始まり、イーオリヤのフキデイマス勝つ
24. 少年騎乘　始まつた時は不明だか、行なれたことは確實である。

猶この他音樂、詩歌、劇の競爭もあつた。

賞品　勝利者は橄欖樹の冠と、椰子の杖を與えられた。その橄欖樹はニシフワス(Nymphus）殿堂の後方、アルチスの森の中にある聖木と考へられてゐる木を兩親の現存せる小兒が、黃金の庖丁にてその枝を切り、之を以て環冠を作り、之を一度神前に捧げて後、更にヘラノデイシイガ之を下し、之を勝者に授けるのであつて、物質的には極めて價値は少かつたが、その意義は甚だ深いものであつた。

その授與式は一競技毎にか、或は最後に一括して行はれた(不詳)。受賞後競技者は新裝して、月桂冠を頂き、笛を吹きつゝ鄕里へ歸つた。その賞品以外に、群集は花環、花束、その他の贈物を勝者に贈つて、その勝利を祝した。勝利者歸國後は、凱旋の祝宴を開き、その得たる月桂冠は氏神に奉納して、その社前に肖像を造り、詩文を作つてその偉勳を唱へ、又オリムピヤの靈場にも肖像を立てた。

賞品はその初期にあつては、物質上よりも寧ろ神聖そのものを與へられて居り、又その凱旋歡迎に際しても極めて質素簡潔で、唯その誠意の籠つたものであつたが、追々熱狂の度增すに及び、その方法も物質的に價値を高め、凱旋の時には、市の城壁の一部を撤して

凱旋門を造り、社會も之に厚待を與へ、租稅の免除、寄附の輕減、一生涯の食事の招待、或は劇場の無料名譽席、又は兵役の特典等を與ふるに至つた。

オリムピヤ大祭の衰運

ギリシヤが隆盛に向ふ間にあつては、この體育の結果は、最も與つて效果があつたが追々その大本を忘れて競技にのみ熱中するに至つては、人心の變化に伴つて、唯勝利のみを競ぶようになり、無理をしてでも勝たう、狡いことをしても勝てばよい、といふやうな者が出來てき、又優勝に對する賞品も益々物質的の臭味を帶び、アテネの如きは優勝者は市賓として、常は上席を與へ、スパルタにては、王の護衞兵として、その一生の生活を安定にし、或は免稅をするなどといふやうになり、甚しきに至つては、ドリアンにては、一國事犯者を、オリムピック競技の勝者であつたといふ程由の下に、不問に付す等といふ條理のあわぬ方法をとるようになつた爲に、人心は益々惡化して行つた。尙硬教育の結果が、獨立獨行の强制となり、少年にして、その自活を爲し得る者への賞揚が却つて竊盜しても捕へられなければよいといふような誤つた考に迄進んで行つた。道德は頽廢し、德義は地を拂つて、國民を强くする爲の硬教育や體育は、一變して逆に非常な惡い結果につきすゝみ、遂にギリシヤは滅亡せなければならなかつた。かくてギリシヤは體育の敗頽と共に國力疲弊し、終にマケドーニヤ、ローマの勢力の下に併合せらるるの悲運に陷つた。

尤もオリムピヤの競技は、394年ローマのテオドシウス一世の登場迄、幾分變形されつゝも續いたが、キリスト教がローマの國教となり遂にそれは異教徒の遺物として、斷然禁止されてしまつた。（A. D. 394年）

その後大震災のためにオリムピヤの殿堂は破壞され、アルフエオス河は氾濫して、その歷史的競技場は浸蝕され、長く煙滅に歸した。1875年に至り、クルチウスの監督下にドイツの發掘隊によつて發掘せられ、フランスの探險隊によつて發掘された、デルフヒー神殿にある競技場と共に、現今殘れる最も完全に舊態を殘すスティディアムとして、有名である。

此他ギリシヤではイストミアン、ピシアン、ネメイアンの大祭あり、尙アルカディヤに於けるエツアンの競技會、アテネの將軍で且政治家であつたミルティヤデスがセルソネース（Chersonese）に開いたもの、スパルタの王レオニダスや旅行家パンサニウスがスパルタに開いたもの、政治家ジモレオンがシラキユースで開いたもの等があつたが、これらは皆紀念競技會であつた。猶此の他古くはアレキサンダー大王が友人ヘフエスチオンの爲に開いたり、又第一回神聖軍戰死者の冥福の爲に再興されたピシアンの競技會や、ギリシヤがペルシヤに勝つて再興されたエロイテリアン、ゲームや、アテネが國家の爲に斃死した市民の爲にアカデミヤに開いた競技會もあつたが何れも古いことに屬するものである。

萬國オリムピツク大會とは何か

萬國オリムピツク大會の企ては、已に1852年、オリムピヤのステイデイアムの發掘が企てられた時に、アテネの或富豪に依つて計畫されたが、事成らずして中絶した。その後1875年發掘の工竣つて、世人の之に着目する者多くなり、遂に1894年クエール・ド・クーベルタン（Piere de Cverdin）男爵の發議により巴里のソルボーン大學に開かれた協議會に於て、列國の代表者が、滿場一致を以てその開催に讃同し直に萬國オリムピツク競技委員會を組織した。その目的は古代ギリシヤに於ける國民の愛國的體育の精神を尊重し、スポーツに因つて各國、國際間の平和を確立せんが爲であり、又それと同時に國民體育の向上を謀り、精神的の訓練を爲すためであつた。即ち第1回を1896年、最も關係の深いギリシヤのアテネに開き、爾來每4年目に各文化國を順次開催地とすることになつた。

今この開催地とその年次を次に列擧する。

第1回	ギリシヤ	アテネ	1896年
第2回	フランス	パリ	1900年
第3回	アメリカ	セントルイ	1904年
番外	ギリシヤ	アテネ	1906年
第4回	イギリス	ロンドン	1908年
第5回	スウエデン	ストツクホルム	1912年
第6回	ドイツ	ベルリン	(中止)1916年
第7回	ベルギー	アントワープ	1920年
第8回	フランス	パリ	1924年
第9回	オランダ	アムステルダム	1928年
第10回	アメリカ	ロスアンゼルス	1932年
第11回	ドイツ	ベルリン	1936年
第12回	日本	東京	(豫定)1940年

第1回萬國オリムピツク大會にはアテネの舊來のステイデイアムを修理して使用し、マラソン走路も歷史的のそれを修理して使用した。そのステイデイアムは大理石造で、稍細長い感はあるが、一見心持のよいトラツクを持つて居り、選手はスタンドの下からトンネルを通つてトラツクへ出て來るやうになつてゐる。

1906年にアテネで臨時大會が開催された。1908年のロンドンの時は參加者2500人に及び1912年のストツクホルムの時に至つて3000人になり、それ以來回を重ねるにつれて發達し今日の盛大をなすに至つたものである。

オリムピツクの將來

國際親善と體育奬勵のために出來たオリムピツクが益々發展して行くのは慶すべきこと

であるが、隆盛に赴くにつれてそこにまた弊害を作ふものである。興業化しつゝあるオリムピツクの弊害を今こゝで列擧する必要はないがギリシヤの轍を踏まざらんことを切望する、たゞ一言しておき度いことは、白人種が競技に優勢なる地位を保つてゐる中はオリムピツクも續くであらうが有力人種がこれに代る時代が來ればオリムピツクも永續するとは考へられない、現に有色人種が次第に進展し行く有樣を白人の眼には何う映じてゐるかゞ知り度い、「人類」といふ言葉は白人種のみを意味してゐるとの歐米人達の人類觀をこの際少くとも日本人だけでも心に止めておく必要のあることを敢てこゝに一言しておく。

オリムピツクと建築

オリムピツクに關連して直接にまたは間接に諸種の建築物が造營されることになるが、建築家は互にオリムピツクなるものを充分理解して、チームワークをとることが必要なことゝ思ふ。

直接必要な建築物は競技場と宿舍とである。（ロサンゼルス以來ギリシヤのジムナジウムの例に倣ひオリムピツク村を建設することゝなつた）。

間接のものは數多あるが第1オリムピツクシテーにおける諸設備である。交通通信に關するものや、ホテルの增設だけでも相當なものとなる。その他觀光地における設備、各地の映畵館や劇場、主要都市で行はれるオープンゲームの競技場等に到るまですべてこれ建築家の頭と手を要するものである。

オリムピツク競技場は半假設物でよい

オリムピツク競技場の主なるものは陸上競技場と水泳場であるが次回より野球が加へられるであらうから野球場もその主要物の一つとなる、そのほか圓形競技を是非一つ新設すべきである。

明治神宮外苑の競技物を擴張してこれに當てることゝなつたが擴張といふよりは根本から改造せなければならぬ。設計に關しては多くの建築家、科學者等を集めて建設委員會を組織して萬全を期すべきではあるが、競技場の擴張部分は臨時的假設物にした方がよからう。何となればオリムピツク大會後陸上競技場に10數萬の觀衆を入れることは絕對にないからである。大會後は直ちに縮少の出來るやう設計しておかねばならぬ。

テレビジヨン時代來る

テレビジヨンの發達とトーキー映畵の進步は競技場設計に向つて從來の古い觀念を一新せしめて來た。競技場のキヤパシテイーは10數萬人を限度すべきで20萬、30萬を想像することはあまりにも愚である。競技の種類にもよるが陸上、蹴球、野球等の如きも14.5萬を限度としてよい。否寧ろ10萬位を限度としたい。肉眼で觀るにはそれ以上の人員を收容することは全く無意味である。

殊に水泳場等はセイゼイ 3萬人を超しては興味がなくなつてしまふ、2 萬人未滿を理想とする、日本でオリムピツクが開れてもこれを見ることの出來る人は全人口に比して取るに足らぬ少數の人々である、世界の全人口から見ると更に問題にならぬ。しかるにその興味は世界的である。少くとも日本で行ふことになれば日本人の半數だけでも見せてやり度い、それには何うしてもテレビジョンとトーキー映畵によつて競技場を日本全國に擴張すべきである、否世界中に擴げることを考案してよからう。

テレビジョンはその場のエクザイトメントを放送し、更にトーキーに收めて記錄とし津々浦々にまで持ち廻るところに近代文化の有難さがある。それには從來の競技場と全く觀念を變へ各種映寫とラジオの放送のため特別な設備を施さねばならぬ、觀覽者に多少の迷惑はあつても止むを得ぬことであらう。

それ故一建築家の臨時的な他動的な知識による設計に據らず、多くの專門家を集めてブレーントラストによる設計が望ましいことになる。

ホテルの問題

現在の日本にホテルが十指を屈する程もない現況にある、東京に三つ大阪に二つ兵庫縣二つ奈良縣に一つ京都に二つと云つた有樣で他は皆名稱はホテルであつても設備にサービスに全くホテルとしての條件を缺いたものばかりである。

本當のホテルは東京をいふに及ばず各地に急造又は改造して 4年後には東京には少くとも數十個地方にも數十個造らねばならぬ、その上今日のインチキホテルを如何に小さくとも本式のホテルに變更してもらはねば國辱である。日本旅館の存在も決して惡いことではないが生活樣式や禮儀作法が日本と西洋ではあまりにも異るのでこれを利用することは極少であらう。日本旅館の一大缺點は室內のサービスがないことである、室內の設備を良くすれば纔式であつても決して惡るくはなからう。各室に洗面所に便所と或は湯殿を着け押入を完全なものとしてロック出來るやうにすればそれで充分である、室の設備がサービスであることを日本人によく知らしめたい。

觀光地の建物

風致問題に對する役人や政治家の認識不足が去つて仕舞はない以上觀光地に良い建物が出來ない、この點日本の建築家が藝術的良心がなささうであるがこれにも建築家、藝術家等の專門家等から成る委員制度を一日も早く設置して外國人に笑はれぬやうにしてもらひ度い。

オリムピツクに關連して云ひ度いことは數知れずあるが紙數の關係上止めて置くが要するに此際建築家は目先の利慾を捨てゝ何處までも指導的に進むことが建築家として重大な責任であると云ひ度いのである。

オリンピック競技施設に就て

小林政一

第12回國際オリンピックが東京に來ることになつたことは誠に喜ばしい次第である。招致委員の努力の賜であると思ふが、半ばは來まいと考へて居つたので意外の大成功であつたと思ひます。所でいよいよ來ると決まつて見るとこれからが中々大變です。競技の種類から方法、競技場の設備、外客誘致等いろいろのことを方針を定めて準備を進めて行かねばならぬのですが、それにはこれから出來る國際オリンピック組織委員會が、萬事細大洩らさず、之に當つて行くのです。

第10回のロスアンゼルス位ならば、大した事にも考へなかつたが、今度の伯林大會は設備にしても極めて大規模で、競技のやり方も實にキチンとして一糸亂れない統制ぶりであつたそうですし、外客を歡待するにも誠に到れり盡せりであつたそうですから、非常に評判がよかつたので、この後を受けてやる東京大會は中々容易でないと思ふ。レワルド博士に劣らぬ程の敏腕家がリーダーとなつて號令し、新しい機軸をどしどし出して行かないと世界の人々をアット言はせる譯には行かぬと思ふ。それだけ東京大會は實にツライ立場にあると思ふ。

東京大會の內容は組織委員會が成立して見ないと全く分りませんが、從來の考へから二、三の愚見を申述べて見たいと思ひます。

敷地に就て

オリンピック競技場の敷地は色々の施設を含んで大略15萬坪以上ないと充分と言ふ譯には行かぬと思ひます。伯林の競技場は全部では非常に廣い面積で約40萬坪です。從つてあの眞似は到底出來ませんが相當餘裕のある面積が必要です。それには大體15萬坪位は少くとも必要であると思ふ。

次に山手方面の高燥の地を選ぶべきだと思ひます。或人は月島方面の埋立地がよいと主張する者がありますが、海岸は空氣が重くつて運動場には大體に於て適さないと思ふ。特に低濕で深く掘下げる事の出來ない所や、樹木、芝などの生えない所、工場地帶に近くて空氣の惡い所などは全々資格がないと思ふ。

舊式な頭の所有者は運動場と言へば直ぐ埋立地などのヒドイ廣地を聯想するかも知らないが、近代式の運動場はそんなものではない。住宅地以上に衞生的な、高燥な、風致のよい、綠の多い土地を選ばねばならぬのです。私は斯樣な次第で月島說に反對するのです。

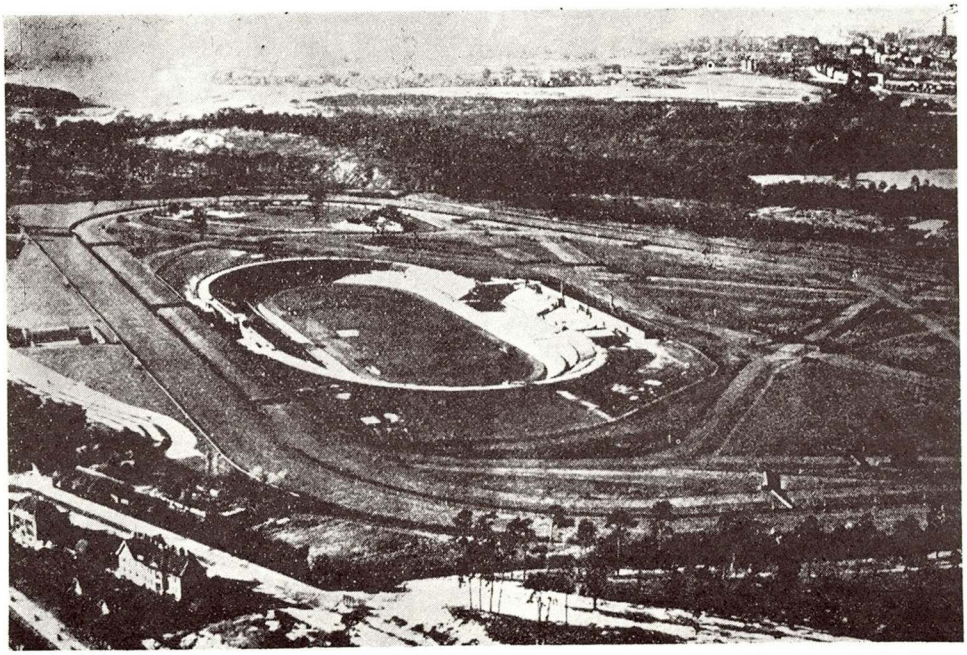
東京の山手方面の郊外に新に敷地を求めて建設するのが、最も理想的であるが、若しそれが出來ないならば已むを得ず外苑を擴張するより途がないと思ふ。

大體4年と言ふ期間は次回の準備には餘り餘裕のある期間ではない様です。伯林大會の場合を見るも、ロスアンゼルス大會がすむで直ぐ改築工事に取りかかつた(獨逸内務省で)やうでしたが、最後には隨分急工事をやつて間に合せたやうです。ですから本當から申せば我國でも34年前から準備にかかつて置くべきであつたと今になつて考へます。

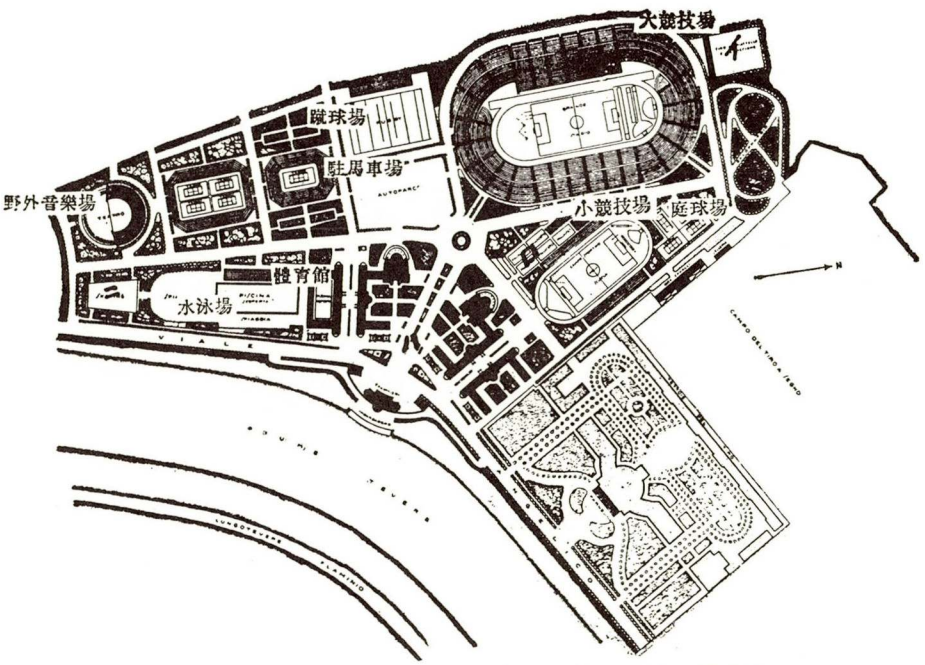
伯林競技場に就て

話は中斷するが今回オリンピック大會が行はれた伯林の競技場に就て一言して置きます。あの競技場は1913年カイゼルに依つて計畫され、第6回オリンピック大會が茲で開かれる筈であつたが、大戰のため中止され、大戰終熄後再び工事が續けられ、先年完成し、その後第11回即ち今回のオリンピック大會のために大改造をされたものである。大體このグルーネワルド運動場には2つの部分がある。その1つは獨逸大競技場、水泳場、競馬場の外に體育高等學校、冬季運動館などのある部分で、もう1つは獨逸綜合運動場、體育館などのある部分で、これを長い地下トンネルで連絡して居つた。

今回改造されたのは右の内主として大競技場と水泳場であつて、其の他周圍に自動車置場、廣場、觀覽席の僅かなポロー競技場、庭球場等を配置し、西側の谷間にエツカルト野外音樂場を新設したのである。元の競技場は相當に大きなものではあつたが、ランニング

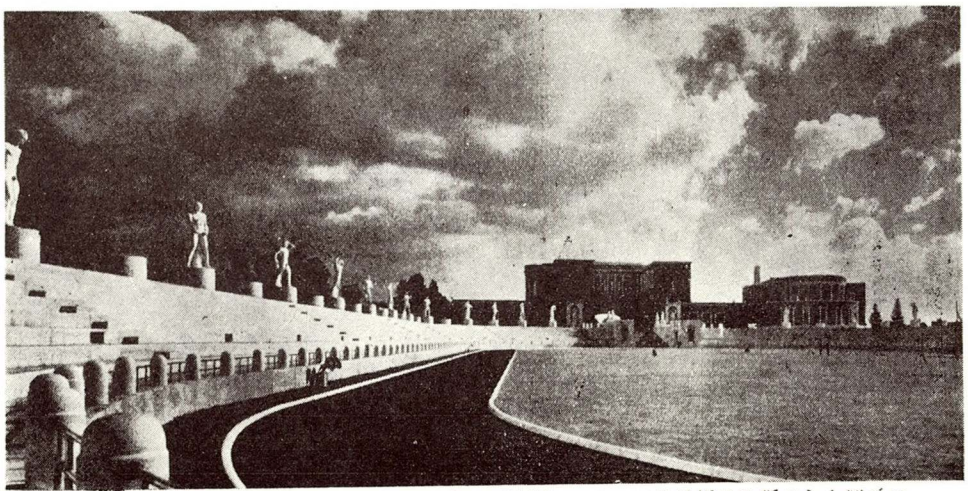


第1圖　改築前の獨逸大競技場、その右側にあるのは水泳場又右端に獨逸綜合運動場の一部が見ゆ

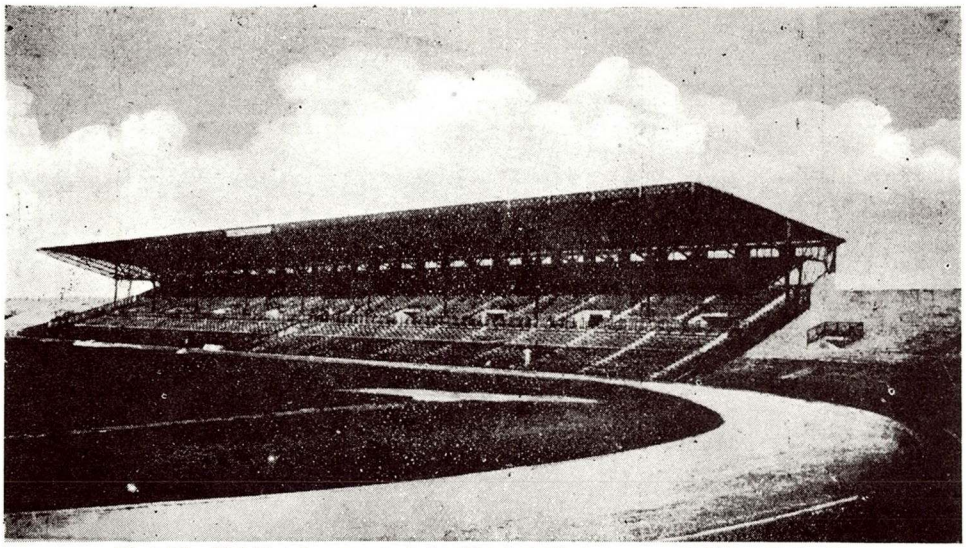


第２圖　羅馬市フォロームツソリニ（Foro Mussolini）の配置圖

トラックが600米のもので使用上不便であり、又水泳場が場内に設けられてあつたので、オリンピック大會には使用出來なかつた爲め、今回は元のものを全部取壞はして改築したのである。今回改築された競技場は收容人員10萬なそうであるから規模はロスアンゼルスと大體同様であるが、總てが行屆いて且つ壯大でぎやうぎやうしく出來て居るのでこの點で人々は驚かされたやうである。水泳場は明治神宮外苑の水泳場と略ぼ同じ位らしいので大したことはないと思ふ。



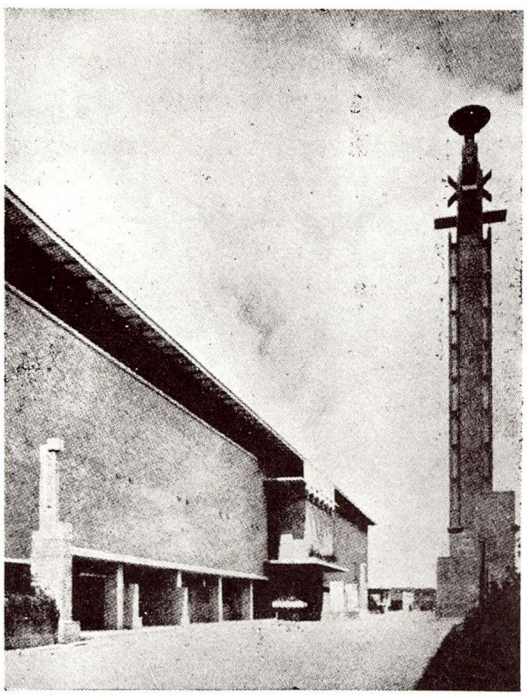
第３圖　羅馬市フォロームツソリニ内の陸上競技場　スタンドの外周に各縣から１個づつ寄贈された47の大理石像が立並んで居る。



第 4 圖　第8回オリンピック大會が開かれた所 Colombes 競技場（巴里郊外）
隣りに立派な水泳場があつたが今は取壞された。

斯様に考へると伯林大會場と言つても、競技場だけが圖抜けて大きいだけで、その他には大したものも無いやうであるが、只40萬坪と言ふ宏大な敷地を占め、各種の所有運動設備が設けられてあることには驚かざるを得ない、又この點では世界一のものである。

羅馬でもテーベ河畔にフオロームツソリニ（Foro Mussolini）と稱する大綜合運動場を數年前から建設を初め、次回オリンピック大會を目指して總ての準備を進めて居つたが、次回は日本に來ることになつたので、嘸そ殘念であつたらうと思ふ。然しこれとても伯林には到底及ばないと思ふ。

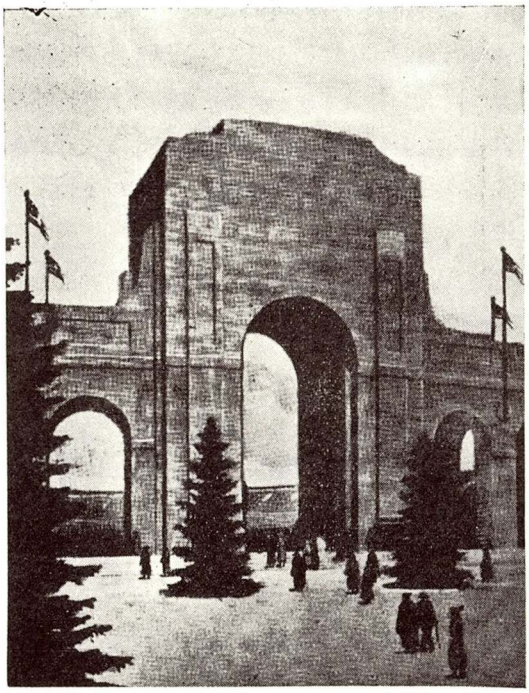


第 5 圖　第9回オリンピック大會が開かれた
アムステルダム競技場

必要な施設

東京大會につき必要な設備に就ては過般來、オリンピック招致委員會で研究せられた所によるとその大要次の通りである。

1. 陸上競技場　現在の外苑競技場を擴張して觀覽者10萬人を收容し得る競技場となす。ここが大會の中心となるのである。



第 6 圖　第10回オリンピック大會が開かれたロスアンゼルス競技場

2. 水上競技場　現在の外苑水泳場を擴張し觀覽者3萬人を收容し得るものとする。
3. 戸外球技場　觀覽者約5萬人を收容し得るものを附近に建設する。
4. 馬術競技場　世田ヶ谷に建設される馬術協會の馬術競技場を使用する。
5. 射撃競技場
6. 漕艇競技場　東京府戸田村に設くる。
7. ヨット競技場　横濱本牧海岸にて行ふ。
8. 室內競技場　目下御茶ノ水に計畫中の運動會館ともう1ヶ所を外苑相撲場に建設して之にあてる。
9. 庭球競技場　外苑附近に建設する。
10. 演武館　外苑憲法記念館傍に建設する。
11. 藝術競技場　繪畫、彫刻などの美術展覽會場と、音樂競技會場が必要である。
12. 冬期競技場、スキー、スケート
13. オリンピック宿舍
14. 野球場、外苑野球場を使用する。

大體以上のやうな設備が必要である。但し庭球、武術、野球はオリンピック種目以外の選擇競技として考へられて居るものである。何を選ぶかは主催國の自由である。又冬期競技即ちスケート、スキーは日本に來るや否や未定のものである。

日本式特徵を發揮せよ

オリンピック大會は回を重ねらるるに從つて段々と、競技場の規模が宏大になる許りでなく、競技會のやり方に於ても種々の新機軸が出されて來て居る。例へば第8回巴里大會のときには選手合宿所や、立派な水泳場が評判のものであつた。第9回アムステルダム大會では美術的な建築とマラソン塔で引き立てられた。次いで第10回ロスアンゼルス大會では大スタジウムとオリンピック村が特に人氣を引いた。今回の伯林大會ではギリシヤからの聖火、壯大なる競技場、整然たる總ての陣立、大合唱團等が評判が良かつたやうである。

さて東京大會では何に依つて特徴付けるか。この根本問題が中々の考へ所であると思ふ。私は開場式でも、競技のやり方でも、大いに日本式にやるのがよいと思ふ。又競技場の建築にしてもロスアンゼルスや伯林を眞似ずに大いに日本式を發揮し獨特の内容、外觀にするのがよいと思ふ。大演武場を建てて武道の眞髓を彼等に見せてやることも大切だと思ふ。日本式のオリンピック村を造つて輕快なる生活樣式を彼等に味はさせてやるのも良かるべく、餘興として盆踊大會などを催して見せるのも妙案だと思ふ。

私はこの機會を以てスポートを通して、建築は勿論、音樂、美術、その他總ての方面に於ける日本新文化の眞髓を示してやることが最も大切であると思ふ。

外　容　歡　待

オリンピック大會につき、外國選手は勿論、見物人を多數誘致し、之を歡待して歸してやることは極めて大切なことである。それには現在競技場以外の各種の方面の設備は如何であるかと考へると誠に心細い感じがする。例へば、旅館、劇場、音樂場、美術館、飮食店等の完備である。

伯林大會では毎日押せて來る見物人が10萬から15萬人と概算され、その内ホテルの寢臺數は約3萬位しか無いので、殘り7萬人に對しては一般の住宅を提供し、1泊3馬克、4･5馬克、6馬克の3級に分つて泊めることにしたそうである。日本の場合でもやはり10萬以上は毎日東京に押寄せることと思はれるが、その内外國人が何程來るかが問題である。何れにしても、ホテルは現在のままでは非常に不足であるのは勿論であるし且つ内容も貧弱である。もつと高級な大ホテルを建設する必要があると思ふ。觀光局で考へて居るやうに5萬人とか8萬人とかの外國人が來たならそれこそ大變である。帝國ホテルが多少の增築をしたり、或は1、2のホテル位新築したつて到底收容し切れないであらう。そんな場合には會社や、事務所などのビルデングを開放して宿泊せしめるのが1番近道だと私は思ふ。

次に芝居方面では歌舞伎、東劇等であるが之等に就て考へて見ても、眞夏數千の客を迎へて果して滿足を與へ得るであらうか。

宴會場にしても、東京會館だけで足りるであらうか、音樂會場は如何、喫茶休憩所等は何うかと斯樣に考へて見ると誠に心細い氣がするのである。

何しろオリンピック競技會は會期が眞夏であるので誠に始末が悪い、都人も皆酷暑を避けて海や山に逃れ去る時季である、それに多數の各國人を迎へるのであるから中々容易でないと思ふ。如何にしたら彼等に滿足を與へ得るかと云ふことを考へると大問題であると思ふ。

建築と宣傳

田誠

オリムピツクはその成り立ちが示すやうに、全く國際的の祭典を意味するものであるし、その五輪の旗が示すやうに、五大洲の國々を平等に連ねる國際平和の象徴でもある。從つて國際的な旅客往來の增進を圖る國際觀光事業關係者はこの大會の盛況を齎すために重い責任を負擔するもので、特に對外宣傳とか、外客に對する高尙なサービスとか、あらゆる方面に整備改善の途を講じ、東洋で初めてのオリムピヤートをして、今迄十一回に亘り歐米に開かれた大會にも遜色のない成果を收めさせねばならぬと思ふ。

そこでオリムピツクの年にはどの位の外人が來るかといふ豫想であるが、丁度その年は申す迄もなく皇紀二千六百年のめでたい年で、建國記念萬國博を初め、多數國際的、國家的な催しが相次いで行はれ、又一團數十人乃至數百人を數へる國際會議が幾つも日本各地で開かれる情報がある。無論オリムピツク目當のツーリストが一番多いことであらうが、兎も角同年中に日本へやつて來る外人は八萬人を下ることはあるまい。若し設備宣傳その宜しきを得て積極的な誘致方策が採らるれば、十萬人にも上るであらう。又外人の平均滯在日數も近頃では段々延びて來て、十五日前後に達してゐるが、これも廿日位には延びるであらう。さすればその延人員は二百數十萬に上り、その消費額は優に二億萬圓を越えることと思ふ。

オリムピツク大會や萬國博のやうな非常に巨額な費用を投下するものは、その資本の回收のためにも亦外客誘致に一層の努力を拂はねばならぬものと思ふ。オリムピツクのやうな國際環視のイベントを一旦引受けた以上、その成否は正に國家の體面に及ぶものといふべきであらう。從つてオリムピツクそのものの優秀なる施設を望むは勿論のことであるが、ホテルや旅館の新設、改良とか、觀光道路の整備とか、或ひは滯在期間延長の一助として慰樂設備を充實するとか、色々建築方面の使命が重加されるであらう。然しこれと併行して、又時には先驅して、世界あらゆる國々に宣傳網を擴げ、宣傳手段を驅使して、より多くの外人を招かなければ、名實ともに世界の日本として又東洋の覇者として輝かしい成果を收めることは困難であらうと思ふ。即ちオリムピツクに際する建築施設と誘致宣傳、この兩者がともども必要なことを強調したいのである。

伯林オリムピツク村計畫について

和田　登

皇紀2600年日本東京に於いて開催される萬國オリムピツク大會に於いて、最も興味ある問題は約4000人の萬國選手を收容するオリムピツク村の聚落計畫であらう。敷地の選定、建築並び聚落の計畫、實地の方法等を通じ全面的に貫通する都市計畫的考慮、更に大會閉會後、そのオリムピツク村を如何に利用するかの具體的考慮等、前以て充分研究さるべき問題であらう。

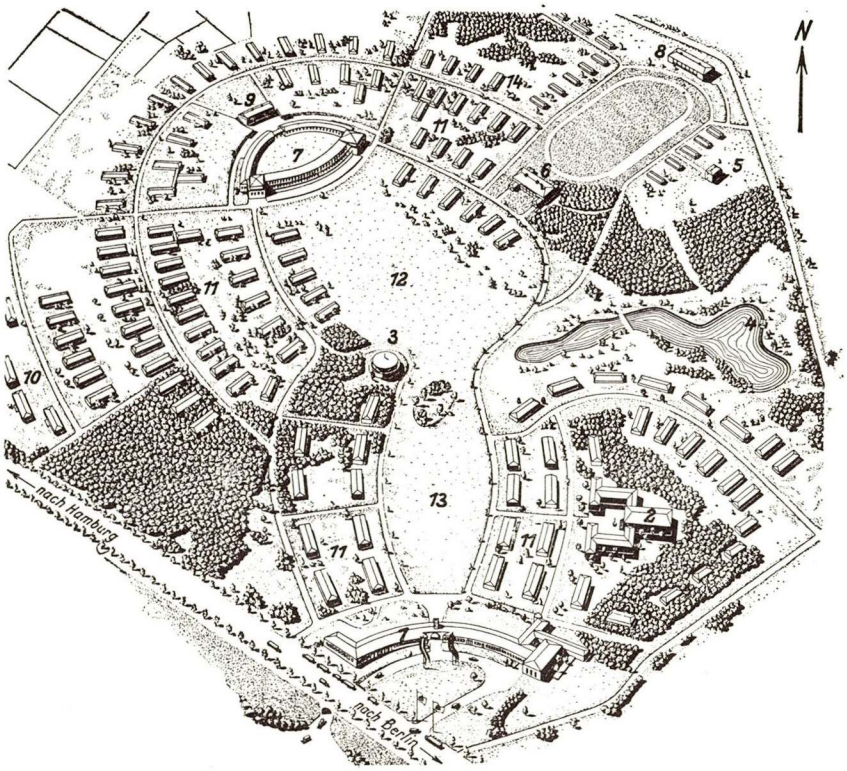
今伯林オリムピツク村の實情について簡單に記して見よう。

i　オリムピツク村の敷地及聚落計畫

前會の Los angels 大會の例に做つて、萬國約4000人のオリムピツク選手を收容するに足る大聚落計畫を爲すに當つて、先ず第一に逢着する問題は土地の選定の問題であつた。オリムピツク、スタデイアムから餘り遠くなく、且つ安靜な場所にして、選手のコンデイションを最高潮に保ち、その實力を充分に發揮せしめ得るに足る環境を持つ大聚落の計畫こそ、正に困難な問題として獨乙主腦部を惱ました。この時に當つて、獨乙國防大臣 Blomberg 氏が伯林—ハンブルク國道に沿つた Döberitz に於ける國防軍所有の領地を自由に提供して呉れたので、この敷地の選定の問題は實にうまく解決したのであつた。この土地はオリムピツク、スタデイアムから約 15km 隔つた處であつて稀に見る田舍ではあるが、ベルリンノハンブルグ國道に依る自動車交通に便を得、更に風光明媚にして、未だかつて人工的な專橫を許さなかつた、無垢の地域である。これは正にこの聚落計畫の爲に、自然に依つて捧げられた最適の土地であつて、幾分の造園計畫を加へることに依つて、自由な藝術的な聚落形態を作り出すに相應はしい土地であつた。

國防大臣は1934の夏オリムピツクスタジアムの建築家 Wener March, 及造園家 Wiepking Türgensmann 等に命じて、Los angels 大會の經驗を基礎として、この特異な大聚落をば計畫することを委任したのであつた。

先ず配置圖を見てみよう。Fig. (1) 敷地の中央部には長く延びて、ゆるやかな傾斜を持つ草原がある。周圍には深い森林があり、森の中の凹地には美しい「森の池」がある。この草原に於ける聚落計畫的價値は全く、この景觀の特異性に應じて居るものであつて、南から北にかけて段々上昇し丘陵をなし、且、東から西にかけては驚異すべき多樣性を持つ森林を自由に備へて居るのである。これ等のものの保存といふ事は全くこの計畫に於いては、基礎的前提となつたのである。住宅と道路とが中央の草原の周圍に、ゆるやかな丘陵のコンターラインにそつと配置された。敷地に更に東方に、一つは Hindenburg 館の方へ、一つは平坦な練習競技場のある一角へ擴がつて居るのだ。國道と草原との接する地點即ち村の入口近くは圓弧平面の長い平屋の建物、事務所並に應接所が置かれ、草原の上手の方には之と對持して三階建の美しい建築、選手食堂が計畫された。この二つの主要建



物のほぼ中間部には草原に面し一段高く、藁葺屋根の陵堡が建つて居る。ここからは、食堂や事務應接所、村の入口、白樺の美しい森、池、そして、點在する住宅群、が一目にして看守出來るのである。この土地の以上の魅力は先ず地理的過去に基礎づけられて居る。Döberitz 法の高臺の一部として氷洞時代の地理的條件に全くそのお影を蒙つて居るものであつた。古代に於いては高臺の一部にのみ人類が生活してゐたらしい。今でも住居跡が發揮される。この原始的景觀が今日まで幾分の變遷はあつたが殘存されて居て、古い植物群落——松、白樺、白揚、柳、等が多數に殘つて居るのもその裏書を爲すものと見ていい。聚落計畫に當つて、この原始的景觀に全く同化し盡し、且つ造園計畫が完全にその技術を發揮し得たのであつた。數世紀の推移に依つて生じた谷及び斜面に依る土地の極端な不小坦は特に草原の上部に於いては Wiepking 教授の造園技術に依つて、約100000立方米の土壤が運搬をされ平かに均された。そして草原の周圍の景觀を印象的なものとしたのであつた。生長した樹木、白樺や、櫸の一部が住宅建築の基礎構築に當つて、注意深く他へ移植されたが、多部分の樹木は全くそのまま保存されたのであつた。

ii 建　築　計　畫

再び配置圖を擴げ之に目をやるならばこの大地域に配置された主なる建築物は次の様である。(Fig. 1)

1. 事務及應接所
2. Hindenburg 館
3. 陵　　堡
4. ザウナ(フイランド選手の爲め入浴場)
5. 司 令 部
6. 屋内水泳場
7. 各國選手食堂
8. 體 育 館
9. 機 械 室
10. 給 水 場
11. 住　　宅(平家建)
12. 住　　宅(二階建)

1. 事務及應接所　(Fig. 2, 3, 4)

ベルリンからオリムピツク村の入口に達した遠來の客人は先ずこの建物で案内を乞はねばならない。乘り捨てた自動車は合理的な動線を畫くパーキングに依つて交叉することなくスムースに國道に沿つて歸林することが出來る。この建物はゆるやかな圓弧型の平面を持つ平家建で、中央入口の向つて左翼には稅關、荷物室、郵便局、電信電話室、銀行、スポーツ案内所、商店等、右翼の方には萬國各代表委員事務室、及選手面會所、食堂等が配置されて居る。このオリムピツク村は閉會後陸軍の兵營、衞戍病院として利用されるものでこの建物は兵士面會所としての計畫の一端がこゝにもすでに伺ひ得られるのである。

2. Hindenburg 館 Fig. 5.6.

この建物の兩翼の部分はフエシング、重量場、ボクシング等の練習のために用ひられる。中央の集會堂では講演、映畫等が開かれ、等夕各國選手はここに集つて、社交的な會合をもよほすことが出來る。

3. 陵堡 (Fig. 7)

陸軍の手に渡つた曉は酒堡となるべき建物で、圓形の平面をもつた田園的意匠の休息所である。

4. ザウナ (Sauna) (Fig.8)

「森の池」の側にフイランド選手のために特に作られた木造の蒸氣風呂で、この様な鄕土的風習に對する獨乙オリンピツク村計畫者の親切を無視することは出來ない。

5. 司　　令　　部

閉會後の村の利用に對する獨乙國防軍の明快な意圖がここにも現はれて居る。

6. 屋 内 水 泳 場　(Fig. 9, 10)

鐵筋コンクリート造の建物 5本のコースを持つた。 25m プールがこの中にある。この外に藥湯、マツサージ室、蒸氣風呂等が用意されて居る。建物の廣い窓面の下三分の一が電氣仕掛に依つて開閉し選手は自由に外部に通じうるのである。

7. 選　手　食　堂　(Fig. 11, 12)

丘の上部に芝生に面して、鐵筋コンクリート三階建の美しいテラスセン、タイプ建等が建てられた。

各國選手は自國に於けると同樣の料理を攝取することに依つて、初めて、コンディションを整へ、優秀な記錄を出すことが出來るといふ多年の經驗より41の異なつた料理室が用

意され、各國選手の食堂が之に直結されて居る。食堂は清潔で、前面のテレスを越えて、遠く、美しい村の芝生、森、建物を望むことが出來る。

8. 體　　育　　館　(Fig. 13, 14)

20m×50m の平面を持つ鐵骨造ボクシング、體操等の練習場である。

9. 住　　宅　(Fig. 15, 16, 17, 18, 19)

住宅の計畫に當つて多くの困難にもかかはらず、 Wenner March, Walter Ma'ch等の建築家は最大の努力を拂つて、餘り野卑でなく質素なしかも景觀に順應した建物を設計した。故に建築自體としてよりも、むしろ周圍の樹木との自然的調和に重點を置いたのであつた。1939年の春、滿綠の候、綠の中に 140戸の住宅が建ち擧、白樺の森は美しく映えて、美事な調和が醸成された。この住群は配置に依つて、平面の相違した二種の基本的タイプを持つて居る。Los angels 大會の時は一戸二室四寢床の單一タイプであつたが、今度の計畫では各棟10～14室を持つた合宿舍風のものである。A型は配置に依つて當然長手の中央より入るもので中央休息室型、B型は側面より入るもので廊下の突當りに休息室を配した終端休息室型である。何れも中央廊下式で兩脇に寢室を配し、各室は二個の寢床、椅子テーブル等を設備して居る。更に各棟には洗面、髯剃盥、溫冷シヤワーが用意されて居る。休息室は四圍の見晴しを良くし、室內は明快な意匠になり、特に壁面には壁畫が畫かれた。壁畫面は全棟合計 300餘、この國のアカデミー藝術家を動員し製作したもので、各棟は各獨乙の「都市」等 Berlin, Könisberg, Kassel, Stuttgart Karlsruke の名前を持ち、壁畫はその都市の發展の歷史、エピソードをモーチフとしたものである。

遠來の各國選手に對して獨乙の各都市の文化的、生產的、並藝術的發展を理解せしめんとする獨乙國民の絕大なる好意からであらう。

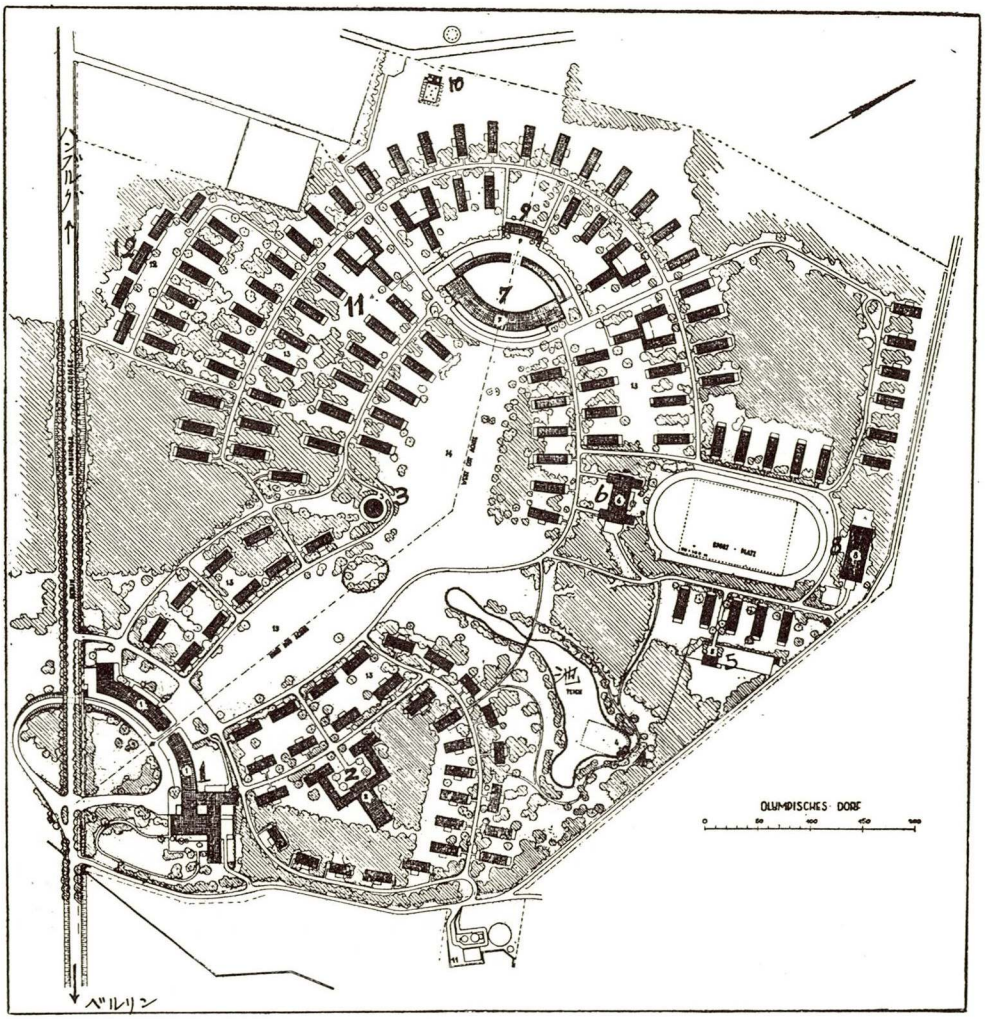
尙この壁畫の外に、各棟出入口には漆喰レリーフ依つて、表象的な記號が裝誼されて居る。

iii　オリムピック村計畫とその計畫思想

『獨乙國防軍は Hitler 總師の命令に從つて、オリムピック村建設の任務を引受け、之が完成に正に捨見の努力を拂つたのであつた。然して、それと同等の熱意をもつて、國防軍は軍に教育されたる接客の作法と友誼とをもつて、遠來の萬國選手の饗應と保護とに當つたのであつた。オリピムツク村の思想は運動競技の精神と高き人間的思想の奉仕に就いて、各國民が親善せんとするもので、之こそ正に他になき特異のものであらう。注意深く保護された、このオリムピツク村の平和が若き各國選手達に、戰場に於ける活動を離れ、お互に思想を交換し、然して、オリムピツク競技の眞の高き意義を認識せしめるに役立たんことを期す。この重要なる目的をもつて、我國防軍は全力を盡した、そして組織的技術的要求を充分滿足させ更にオリムピツク村に藝術的、文化的形態を與へることに特

に優れた仕事をしたのであつた。願くば獨乙の國民が、獨乙の風物が、そして獨乙の藝術がこの國を訪れた遠來の客人の眞實な、そして永久な友誼を獲得せんことを祈る、』以上は國防大臣 Blomberg の言葉である。之によつて、オリムピック村計畫に於ける計畫主張の基本的命題が理解されるであらう。運動競技を通じて文化交換の使命を遂行し、そして、その國の眞の文化、經濟、藝術的特異性の認識が各國人の腦裡に浸潤する時にこそ、更にその國の建築家がその國の特異にして、明快に建築的主張をもつて、オリムピック聚落計畫に當る時に於いてこそ、正にオリピック招致の意義も亦あるであらう。

（Zentralblatt der Banderwaltung, Bauwelt 誌より）

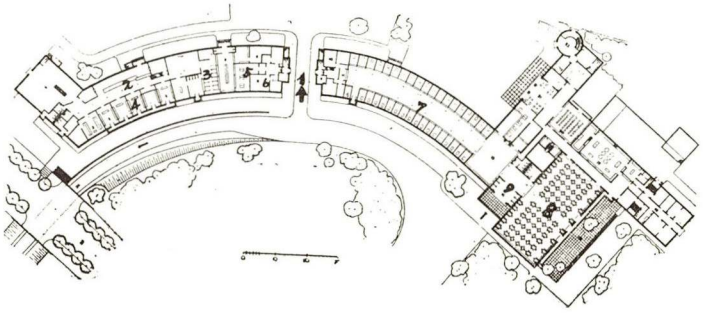


第　1　圖

配　置　圖



第　2　圖

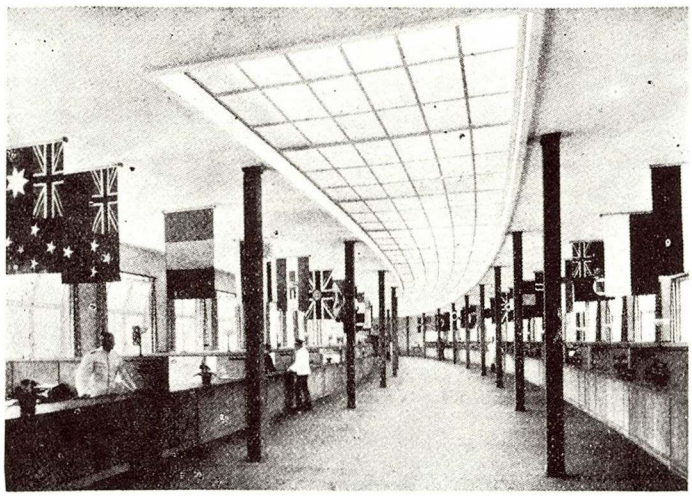


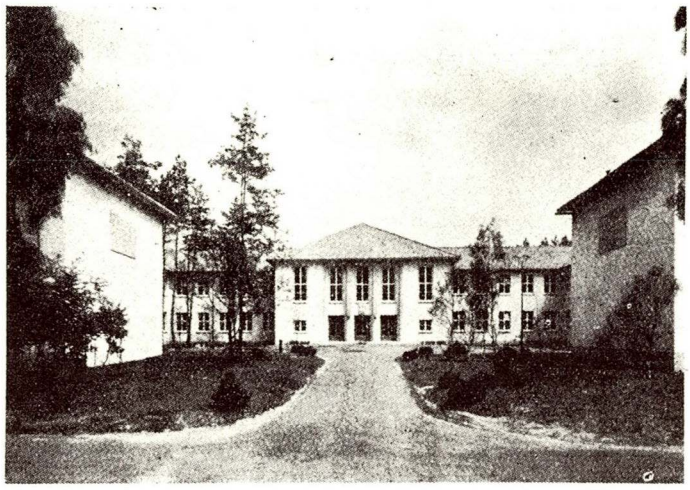
第　3　圖

1 村の入口
2 稅　關
3 電話室
4 商　店
5 銀　行
6 スポーツ案內
7 各國代表廣間
8 食　堂

第　4　圖

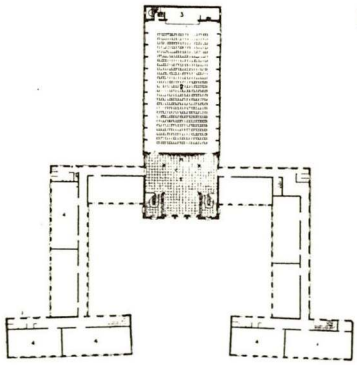
各國代表事務室廣間



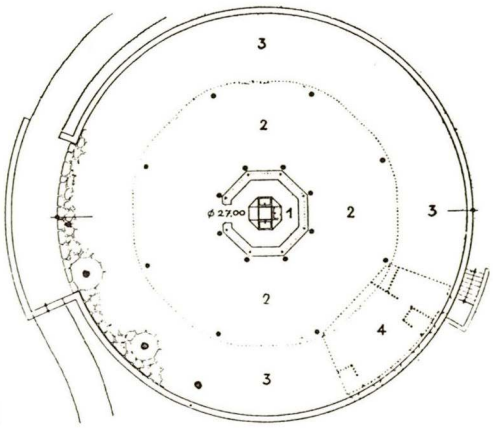


第　5　圖

ヒンデンブルグ館



第　6　圖

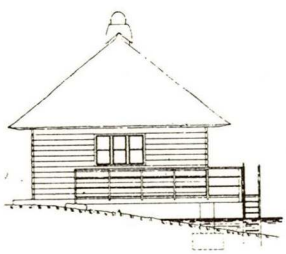


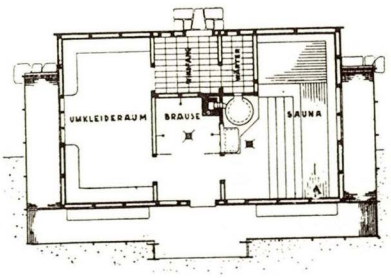
第　7　圖

陵　　堡

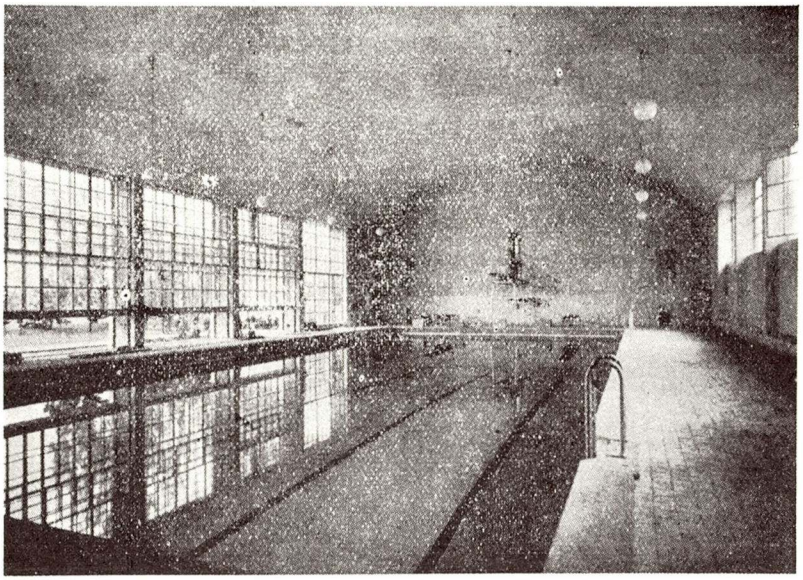
第　8　圖

ザ　ウ　ナ



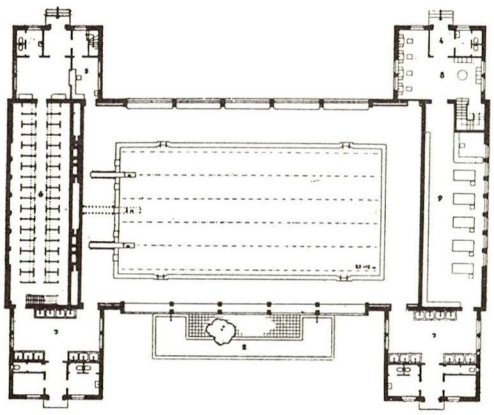


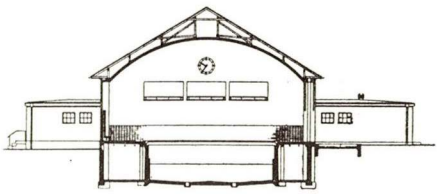




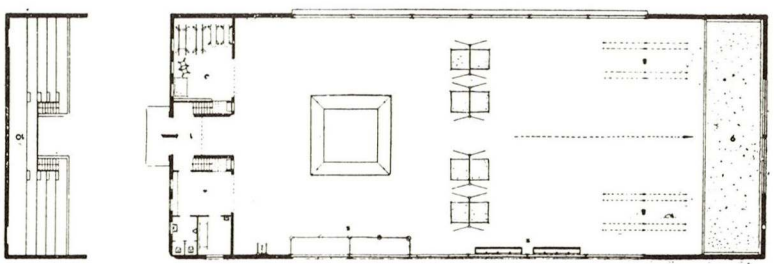
第 10 圖

屋內水泳場



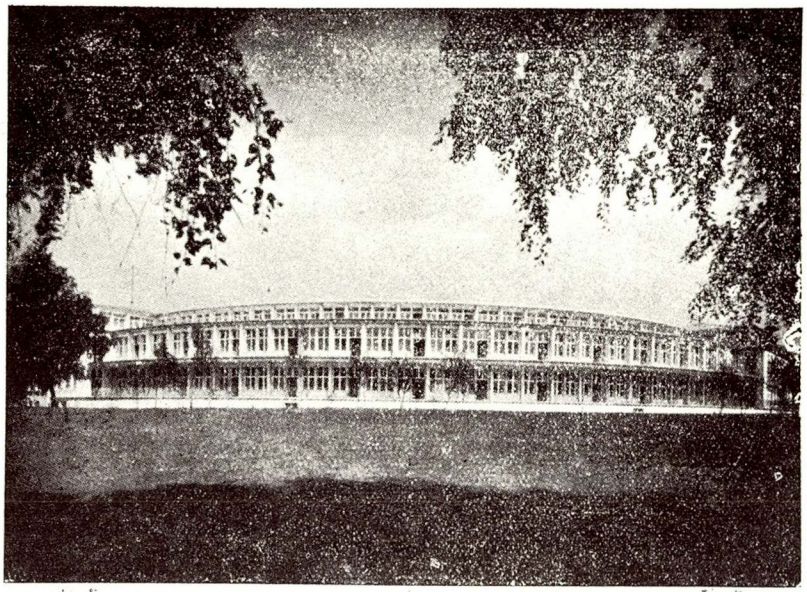


第 9 圖



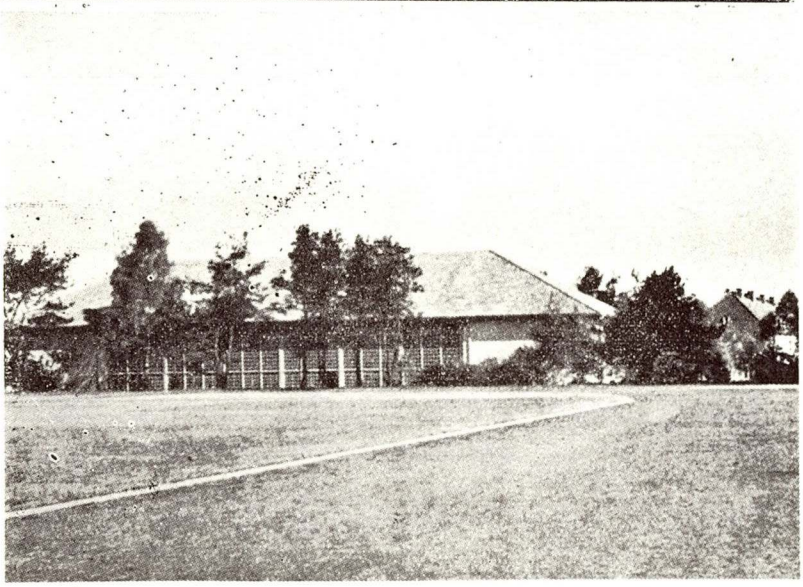
第 13 圖

體育館平面圖



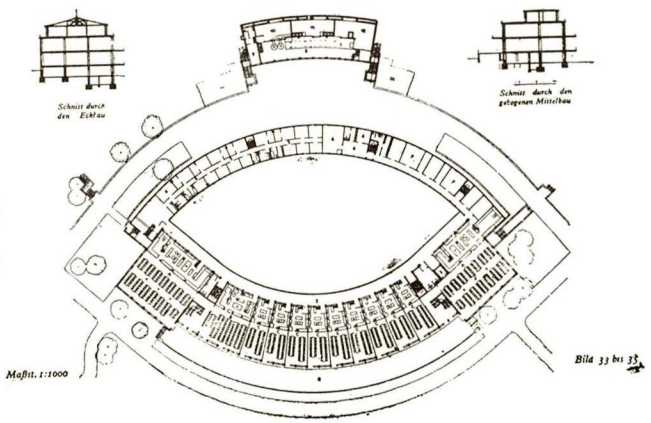
第 11 圖

選手食堂



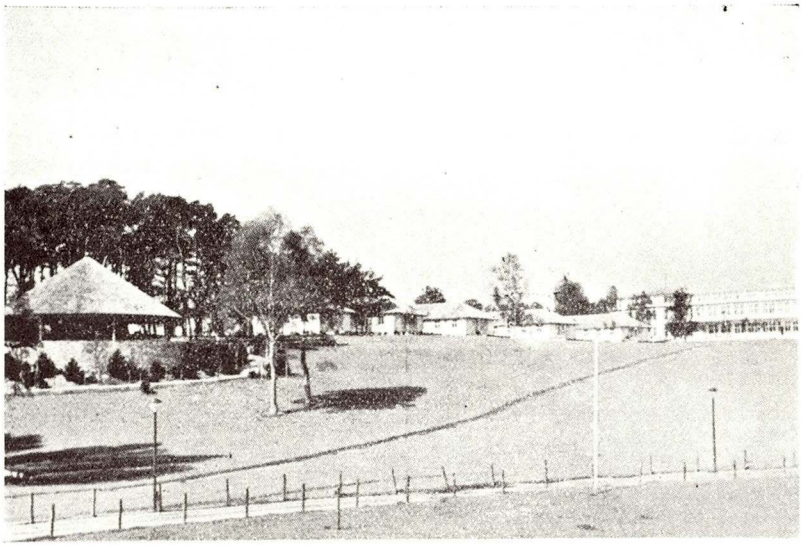
第 4 圖

體育館外觀



第 12 圖

選手食堂平面圖

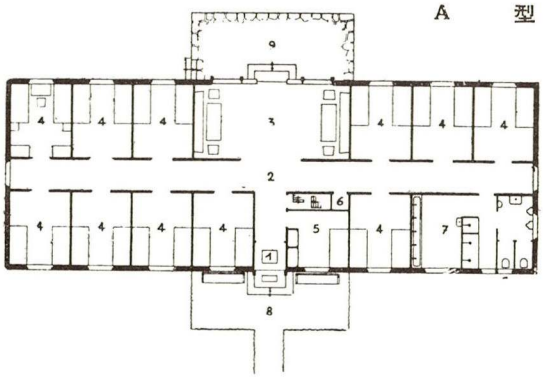


第　16　圖

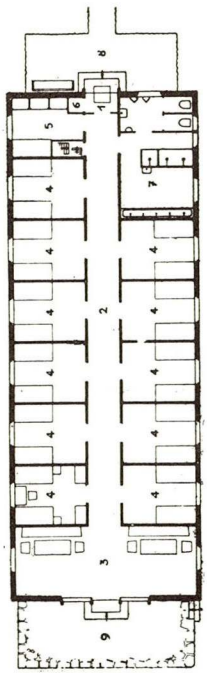
芝生より陸堡、住宅群、選手食堂を望む

第　15　圖

A　型



B　型



第　17　圖



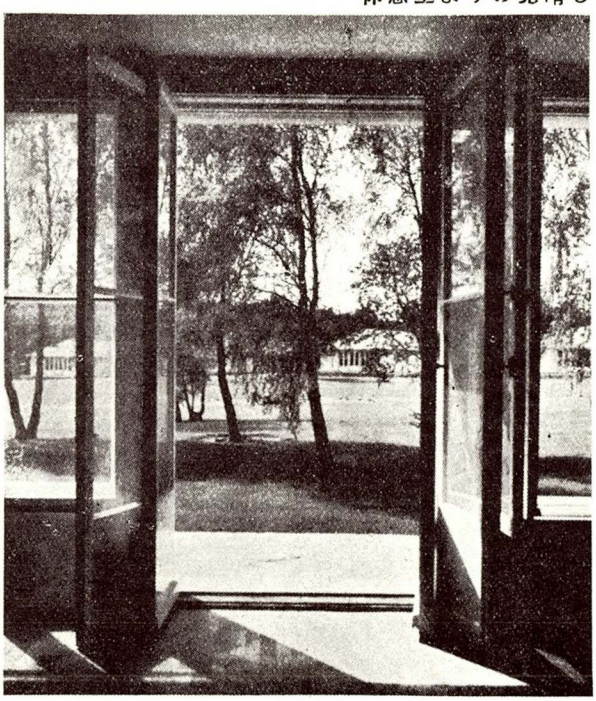


第　18　圖
住　宅　群



第　19　圖
寢　室

第　20　圖
休息室よりの見晴し

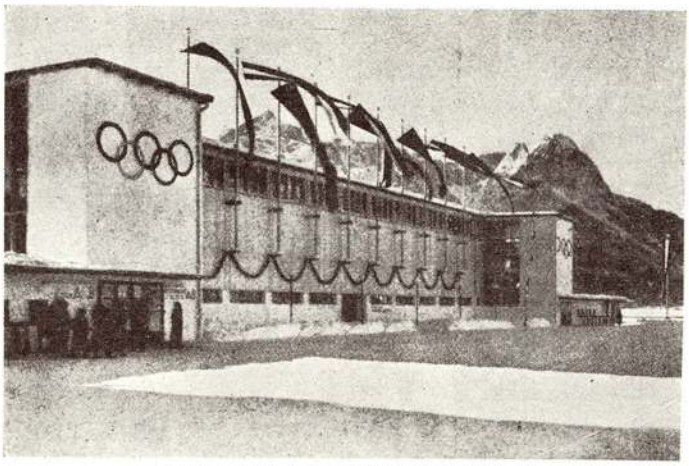


ガルミツシユーパルテンキルヘンに於ける冬季オリムピツク競技のスポーツ及び建築施設

匂坂弘美

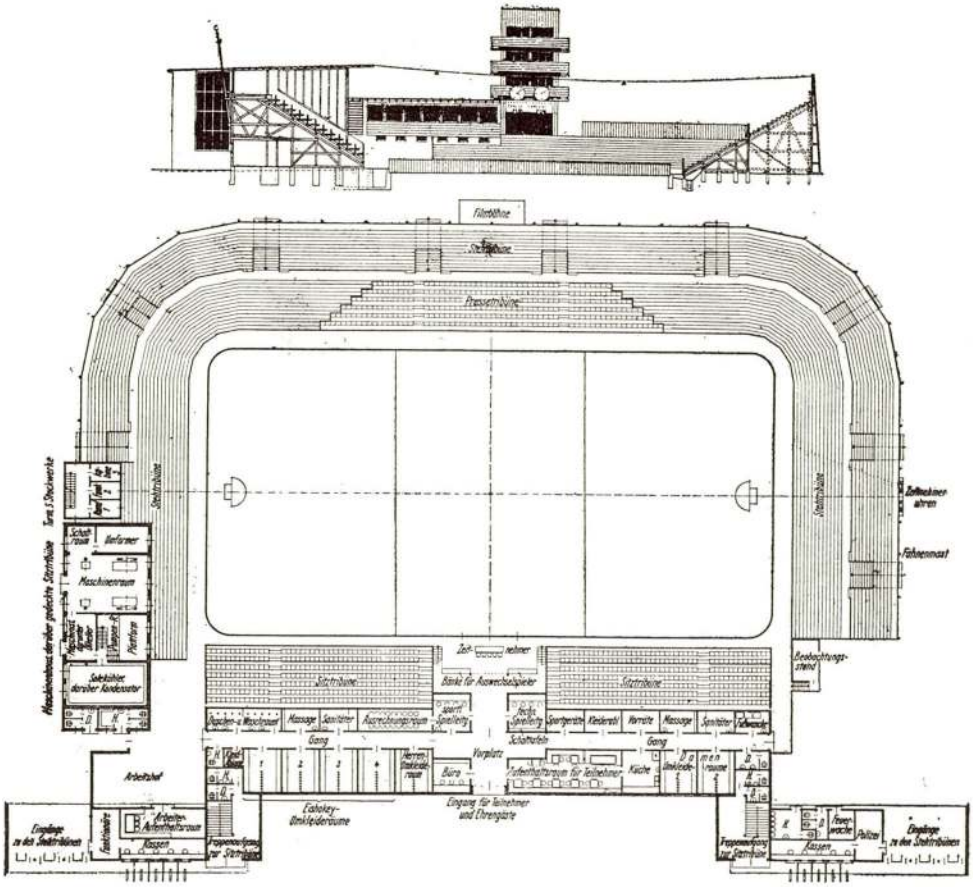
1931年に獨逸は第11回オリムピツク競技誘致に成功し同時に冬季オリムピツク競技開催の權利をも獲得した。

冬季競技は夏季競技に比し新らしい歷史を有するもので第8回夏季オリムピツク競技が巴里で開催された1924年に、冬季オリムピツク競技が初めて Chamonix で試驗的に行はれた。その際非常な成功を收めて以來冬季競技はオリムピツクの行事となつて了つた。次回1928年の冬季オリムピヤードはSt. Moritz 1932年には Lake Placid だつた。今年2月6日から同16日にかけて Garmisch-Partenkirchen で行はれた冬季オリムピツク競技は開始以來第5回目である。此の競技場の運動及び建築施設の爲に組織された建設委員會は委員長に München の Ritter von Halt 博士が副委員長には le Fort 男爵が任命され、尙 Garmisch-Partenkircnen の市長 Scheck 氏が大いに盡力されて居る。建造物に對してはオリムピツク建造物委員會があり會長は Münchenの地方建築課長 Brücklmeier氏が、オリムピツク建設



オリムピツクスケート競技場、主要入口





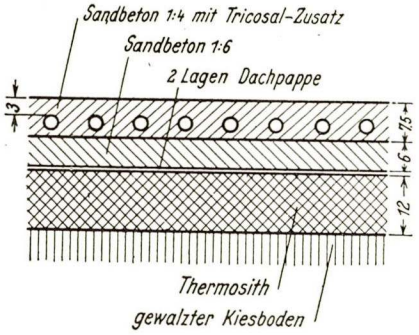
所長には工學士 Dürr 氏が當つて居る。

オリムピツクスケート競技場

此れはアイスホツケー及びフイギュアースケーテングに用ひられる。Garmisch Patenkirchen の周圍部には多くの湖水があり就中 Rieszer 湖等は良好な氷だが天候の影響を皆無にする爲に此の人工競技場が設置される事になつた。

人工競技場の廣さはアイスホツケーの國際競技規定に基き 30m×60m で長さ 60mのメインスタンドの下に衣服預室、更衣室、シヤワー室、浴室、協議室等がある。此の兩翼に切符賣場、南側に撮影臺東側に機械室がある。リンクの周圍部は全部立見席で全收容量は10000人である。

機械室。 Kondensar を持つた2臺のアムモニア壓縮機は 240000kcal/ch の能力を持ち蒸發管からカルシウム鹽が噴出し此れが Schleuder pump で主導管に送られ其處から全長 20km に達する細管に分散される。



冷却床の斷面氷面はリンクの長邊方向に13cmの高差を有するかな雪融の天氣の日は融水は流され新らしいのが形成される

hard Pabst 博士に依る。木造建物は Garmischの建築家 Hanns Ostler 氏。

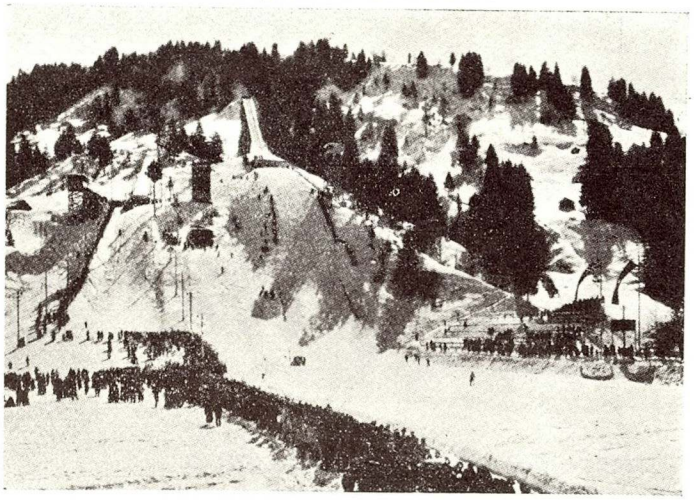
オリムピツク スキー競技場

Garmisch には前からKochelberg の大跳躍シヤンツエと Gudiberg の第2シヤンツエとがあつた。Kochelbergは地盤が風化しやすいÖlschiefel だつたので地盤も雪質條件も良好な Gudiberg を選び舊シヤンツエを改造し其の近くに大オリンピヤシヤンツエを築造した。

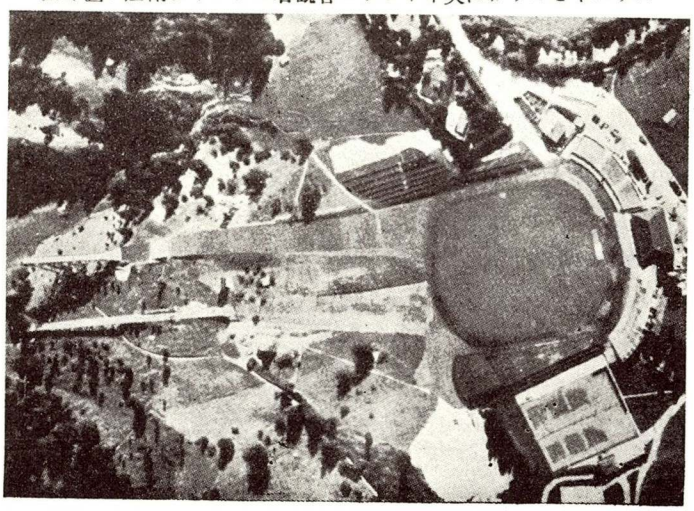
小オリムピヤーシヤンツエは以前からのを有名な Oslo（ノルウ

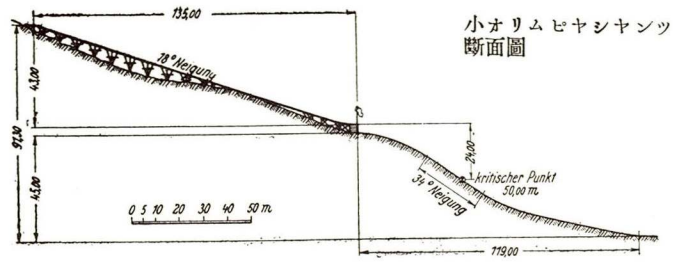
冷却床。所謂間接冷却法が採用され割栗を均してその上に 12cm/kz の Thermosith を敷いて地中からの熱を遮斷する。次に2層のアスファルトルーフイングをしてから厚さ 6cm に調合比1:6のモルタル層を打つ。最後に 7.5cm の Tricosal 混和劑を入れた調合比1:4のモルタルを打ち上面から 3cm の所に氣體配給管を布く平均30°冷却されると此の混凝土版の上に 2,5～3cm の氷層が出來る。機械及びリンクの設計及び工事監督は Berlin-charlottenburg のRic-

左小、右大オリムピヤシヤンツエ

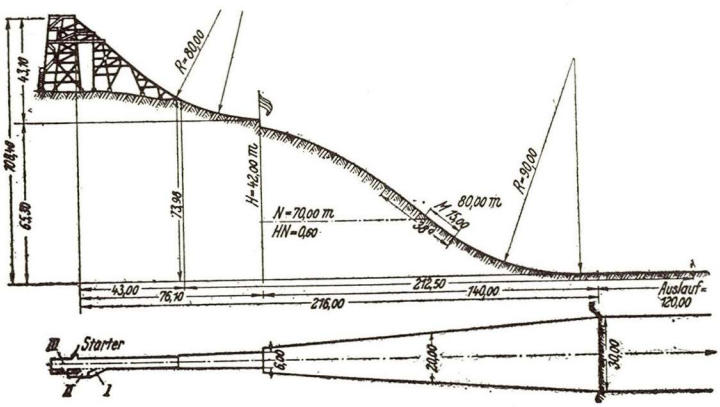


鳥瞰圖、左兩シヤンツエ右觀客スタンド中央にオリムピヤハウス





小オリムピヤシヤンツエ断面圖



大オリムピヤシヤンツエ斷面圖。

跳躍者は短時間に高差約 115mを經過しその際の落差は42mである。 25m/s の速度及び80mの跳躍距離に達する適當な測定が要る。大シヤンツエの80mの所に臨界點 (kritischer punkt) がある。斯くの如き跳躍に際しては着陸の際のショックが可成りである。だが着陸路は現在の規則に從つて此の點から15.nの所迄同じ傾斜を持つて居るから跳躍者がそれ以上のショックに耐へれば80m以上の跳躍も可能である。此の點の先は退場路の彎曲した傾斜が始まる。今迄此のシヤンツエで出た最高レコードはノルウエーの Sörensenが出した84mである。

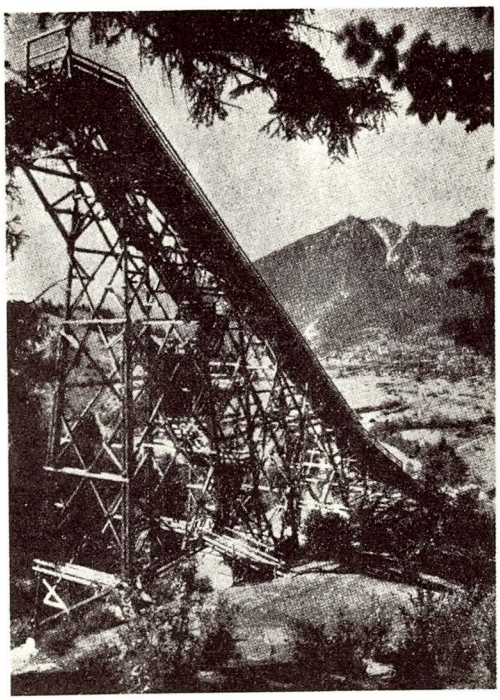
エー）のHolmenkollen シヤンツエに倣つて改造した。助走路と着陸面に土工事を行ひ助走路には特に木造棧橋を架けた。助走路の勾配は18° で出發點と退場路の高差 91.30m 跳躍落差25m位で 50m の跳躍が出來る。夜間使用に對して跳躍者が眩暉を感じない様な照明がしてある。

新造の大オリムピヤシヤンツエには特殊跳躍に用ひられる關係上高さ 43m の助走櫓を建設した。塔櫓の階段を昇つて出發點に達する。助走距離は 70m 位で約35° の傾斜を持つて居る。

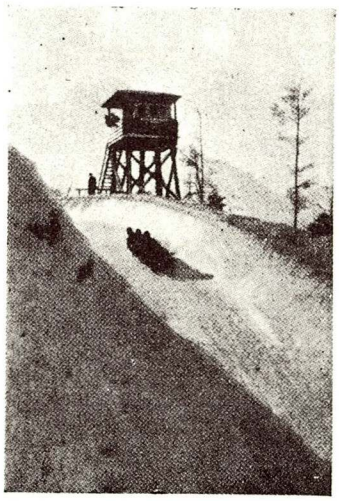
觀客席。坐席スタンドと立見スタンドが半圓に收められて居る。グレンデそのものでも立見出來るから80000人位が相當良く見え全收容力は 100000人位である。メインスタンドの眞中に Olympia Haus があり下階は觀客サービスルーム、協議室、更衣室等上階には大テラセがあつて、全競技場を見渡し得る。

跳躍進行係塔が兩シヤンツエの間にありすべての重要な場所と電話で連絡して居る。此處に電光數字が出て跳躍者の番號と跳躍距離が發表される。小シヤンツエの近くの高さ30mの鐵塔にオリムピツク聖火が大會開始と共に點ぜられ開會中燃え續ける。燃料はプロパンガスである。オリムピツクスキー競技場は Garmisch-Partenkirchen 市長 Scheck 氏の建案で、ウインタースポーツ專門家 C.J. Luther 氏（München）及び市建築技師 Albinger 氏の一般計畫で建造された。

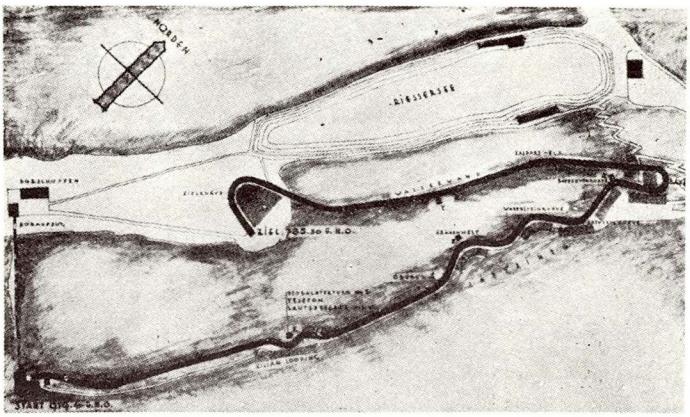
オリムピック ボツブレースコース



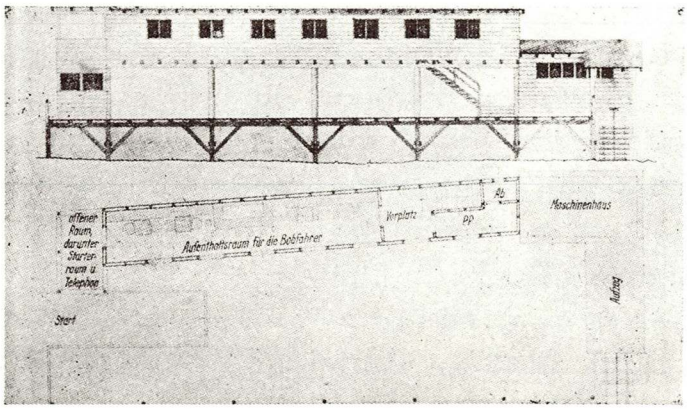
此のコースは Lake Placid のオリムピツクボツブコースの經驗を持つて居る St. M. Zentzytzki の手になる。 Rieβer See スポーツクラブが以前から持つて居たコースを改良したもので大體直線的な2つのコースを約 30m の半徑を持つた所謂バイエルカーブで連絡して居る。ボツブレースコースの築造については先づ速度が問題になる。1925年の國際平均速度は 50km/h であつたのが 70km/h になり今日では最高 100km/h 迄上つて居る。此の間無論橇が改良され、滑走技術もずつと進歩した。その他カーブの數と形及びその續き具合が速度に關係して來る。 Garmisch-Partenkirchen のコースは特に科學的に考慮されて居る。設計者は亦特にカーブの勾配が橇の自主的運動を妨げない様に設計する事に腐心した。直線コースとカーブの間にはパラボリツクな勾配を持つた過渡コースがある。コースには延長 1600m の14箇所のカーブがある。出發點の高さ 918,40m 決勝點の高さ 785,30m でその高差は 134,10m である。コースの横斷的勾配は束ねた柴でつけられその上に Rieper See から切り出した大きさ 28.28.20cm 位の氷塊を積んだ。雪は橇の重さで變形するからいけない。特に大切なバイエルカーブは太陽の直射を避ける爲鐵骨を立てて天幕を張つた。



尙橇と操縱者の爲めに出發場所にケーブルを設け終點近くには橇置場がある。此の建物は Garmisch の建築家 Hans Ostler 氏に依る。スタートハウスは以前の機械小屋を增築した。觀客席はコースの各所に可成展望の利く様に分散した。それでもコースの一部しか見る事が出來ないから各觀客席にはラウドスピーカーを設けて競技者の全過程をその場所で知り得る様にした。コース全般に沿つて立見席として使用される道をつけた。斯くて全部で約10000人の觀衆が見物出來る。競技經過は



スタートハウス



電話で連絡された各所の放送塔から放送される。

先に述べた様にコースが確實な事即地盤沈下に依るカーブや勾配の變化が起らない様にする事は最も必要な事であつたから此のコースは既に1933年から築造され初めた。1934年の世界選手權大會の經驗で充分改良され1935年の獨逸選手權大會でボツブレースコースとして充分優秀な事が認められた。此の時の獨逸選手 Kilian の記錄は1分18.7秒だつた。

Zentral Blatt der Bauver waltung 1936. 6 抄譯

オリムピツク東京招致と市廳舍問題

（此の小論を敢て牛塚東京市長閣下に呈す）

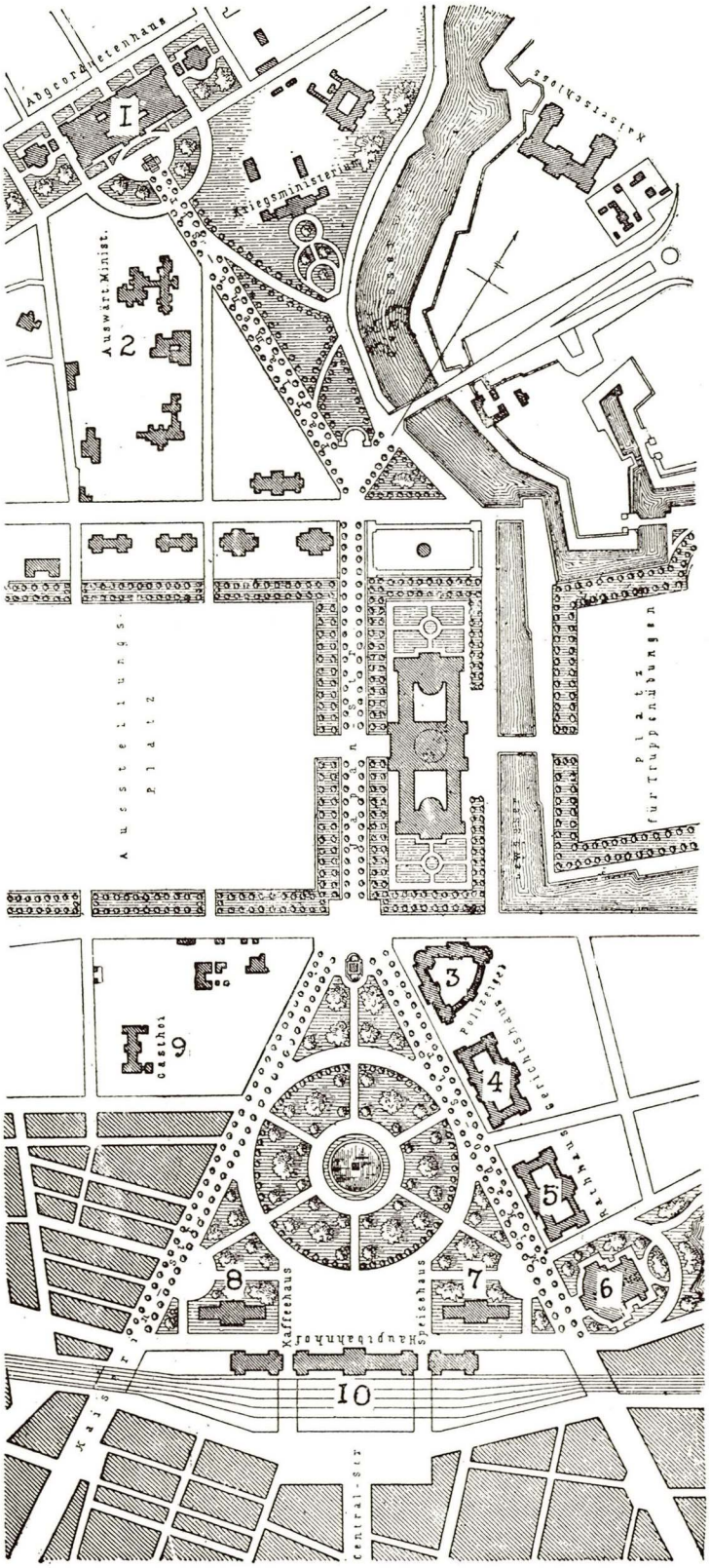
龜井幸次郎

○

我々は先づオリムピツク大會東京招致成功を喜ぶ者である、喜ぶ者であるが故に、之れが成果に就ても人一倍關心を持つ譯である。故に身内の者が世間へ出て恥をかゝざる事を願望する心持でオリムピツク大會に就て考へ得る一問題をとらへて市長閣下に苦言を呈する次第である。そこで無數にある問題の内此處に取り上げたのが市廳舍建築問題である。即ち〃市廳舍の建築を如何にするや〃と云ふ問題を四年後のオリムピツクを迎へるべき緊急事として論及し、市長閣下の猛省を促すと同時に識者への注意に訴へたのである。

一般に東京市民と大阪市民との氣質の上に於ける差違は、何事によらず善惡の別なく東京人は議論倒れで實行に乏しいが、大阪人は實行が主で、實行し得ない如何なる名論（又は迷論と雖も其處に何等の價値を認めないと事ふのが大阪堅氣である。即ち實行してこそ初めて其處にその具體的事物をとらへて價値判斷をなし得る事が出來るので、東京人の如く名論の陳列によつて自己の存在價値を高めんとすることに急で目前の緊急事の實行を防害する様なことは決してしないのである。であるから、一口に大阪と東京との氣質の差異を言つて仕舞ふならば〃大阪の實行東京の名論〃と云ふ様になりはしないかとも思ふ。

以上の如き氣質の相違と云ふ事を前提として東京市の市廳舍問題を論ぜんとするのであるが、此の市廳舍問題に關する限り、東京市に市制が施かれた當初からの問題にして、それが時折國家的慶事などのあつた度に世論の注意を惹いて來たのである。即ち何にか國家的イヴエントのある毎に借家住ひの現狀から逃れて帝都に相應しい市廳舍を建築して世界の大都市に伍し得る日本の帝都としての面目を完備せんと屢々試みられて來たところの問題である。だが然し廳舍の建築意匠の善惡は別として、市廳舍の位置又は敷地の問題に關しては政治、經濟の中心地たる丸の内附近が最適地であると云ふ意見が此の問題發生當初から期せずして一致して居つた處の思想的流れであつた。それは我國の政府が獨乙の建築家エンデ及ベクマレの兩氏を招聘して國會議堂を中心としたシヴイクセンターの設計をなさしめた明治初年頃より昭和の今日、前市長永田秀次郎氏時代に到るまでの確固不變の思想的背景であつた。然るに牛塚市長の時代に到るや常識では到底考へられない位置に新しい市廳舍を持つて行く案が提出されたのであつた。而もその案に對し建築學會、市政調査會及輿論を代表する一流新聞等の反對があつたに拘らずそれを押し切つて市長は此の案を



1. 貴衆兩議院
2. 外務省
3. 警視廳
4. 裁判所
5. 市廳
6. 劇場
7. 大食堂
8. カフエー
9. 旅館
10. 中央停車場

第一圖

エンデ及ベツクマンによる東京の中樞地區計畫圖、一號が市廳舍の位である。

市會に提出し市會を通過せしめたのである。之は恐らくは牛塚市長獨特な金力による了解運動が効を奏したのであるまいか。と云ふのは昨日まで此の問題の爲め、市長の椅子の投出が今日が明日かと、期待されて居つた程市會と市長との對立が切迫した狀態であつたにも拘らず、一夜にして颱風が横にそれるの現象を呈し、市會の軟化が翌日の新聞を賑はした事は、500萬東京市民の悉知して居る事實であつた。此の思はざる結果を見た市民の市會に對する不信任には物凄きものがあつた。そして、市會議員の行動に對し漸く疑惑の目を注ぐ様になり。同時に市政に關心を持つ諸團體の蹶起を促したのであつた。先づ市政調査會の市議淨化運動と呼應して建築學會と共同戰線を張り月島反對運動を起したのである。或は又京橋及深川區の兩區長を除いた東京市全區長の市廳舍の月島へ新築に對する反對運動も時を同じくして起つたのであつた。毎日の新聞は之等反對運動の記事に就いてむしろ同情的態度を持續して其の日の紙面を賑すと云つた狀態で、一時は實に喧々囂々たるものがあつた。

○

顧みれば昭和六年、今よりあしかけ五年程前の冬、調度永田市長の頃、漸々市廳舍問題も長年の懸案で市會も此の問題を何んとか處置せねばならないと云ふ氣運になつて來た時、市政調査會内に事務所を置いて居た我國唯一の都市美協會では、左記の如き3條項決定し、之れが回答を名氏並に有力者に求めたのである。即ち、

1. 最近の都市建築の傾向に就て一希望と感想並に都市美增進の方法。
2. 東京市民生活より見たる東京市廳舍の要望に就て。
3. 右の位置敷地に就て。

以上の條件に對して43通の回答を得たのである。今此の43通の回答の第3項のみ分類して見ると次の如きものであつた。

1.	大手前附近並に憲兵隊跡	10.
2.	日比谷公園内	6.
3.	丸ノ内附近、東京驛附近又は丸ビル前	6.
4.	只單に市のシヴイクセンターを要望するもの	5.
5.	現府廳舍(現市役所の借りてゐるところ)	3.
6.	大手前印刷局、中央會議所、農林省のある一圓の地帶	2.
7.	現在の位置に接近したところ	2.
8.	現在貴衆兩議院のあるところ	1.
9.	有樂橋と鍛治橋の間	1.
10.	位置を示し得ざる者	9.
	合　　計	45.

備考　回答數43に對して分類數の合計45とあるは一人にて候補地を二ヶ所擧げて來たものあるが爲めなり。

第　2　圖

市廳舍建築敷地として擧げられた候補地

1. 憲兵隊本部
2. 舊內務省及現大藏大手町附近
3. 大手町附近印刷局、農林省、會計檢査院
4. 丸ノ內附近、丸ビル前空地
5. 東京驛とその附近
6. 現東京府廳現京市役所
7. 鍛治橋、有樂橋間の敷地
8. 日比谷公園
9. 現貴衆兩議院



以上の分類により考察するならば位置を示さざるものを除いた全體即ち總數の80%が市の中央部——政治、經濟の中心地——を要望して居る事が明にされたのである。又位置を示し得ざる者は畵家や文士等の如き職業の人が大部分で殘りの小部分は市の要職に地位を置いて居る關係上明言を避けたのであつた。

都市美協會では以上の結果で力を得、下記に示す様な建議書を提出したのである。

市廳舍建築に關する建議書

（會長名を以つて永田市長へ提出せるもの）

1. 市廳舍建築ハ迅速ニ實現セラレタキ事。
2. 市廳舍ハ丸ノ內方面ヲ適當ト認ム

更ニ憲兵隊司令部跡ヲ以テ實現可能ニシテ最適ナルモノト認ム右敷地ヲ基本トシテ將來ノ擴築ヲ考慮セラレ度キコト。

3. 建築設計ハ懸賞競技ニ附セラレ度其ノ募集並ニ審査方法ハ從來ノ因習ニ捉ハレズ最モ合理的ニ是レヲ行ハレ度キ事。

尙ほ以上の回答を送つて來た人々のなかには倉橋藤治郎氏、星島二郎氏、塚本靖氏、阪谷芳郎氏、下村海南氏、石井柏亭氏、故千葉龜雄氏、末廣嚴太郎氏、及故柳澤保惠氏等の名氏が居つた。

之要、市廳舍位置の問題が現牛塚市長の時代に到るや輿論や市民の要望を押切つて横車的不合理な暴論を押して居ると云ふ事は上記の事實に徵するも最早論ずる餘地のない程、明かな事柄であつた。それにも拘らず、市會をしてあたかも牛塚市長の代辨者の如く軟弱なものとなし、或は百鬼夜行の利權亡者の集團と化し、常に正論者の敗北の如き狀態にして仕舞つたのはニユヨークの市會がタマニー一派に毒された如く、東洋のタマニーが市會に巢を喰つて居ることを意味するものでなくてなんであらう。而して此の横車押の結果廳舍問題は依然として中ぶらりんとして居て、その迷惑を被つて居るのは只單に 500 萬市民だけでなく全國民があらゆる意味に於て迷惑を被つて居る譯なのである。何故なれば東京市は尠くとも帝都である。帝都であるが故に全國民の協力によつて帝都があの震災の痛手を被つた中から以前にも增して立派な整然とした都市として復興した譯なのだ。であるから尠くとも東京市に關する限り、あらゆる角度から見て全國民の意氣が通つて居ることを忘れてはならない筈である。

故に市廳舍の建築問題は一市長の利益や名譽心等の爲めに市會の壟斷にまかせ市民の要求や希望、或は全國民が皇居のおはします帝都としての要望や信賴、等を無視さしておく譯けには行かないのである。

○

有史以來の都市計畫事業として世界の都市計畫史へ輝しい一頁を殘した彼の帝都復興事業も東京市民の力で完成したのだなんて、錯覺に落入つて居る東京市民は一人もない筈で

ある。即ち國の援助と全國民の同情と協力によつて實現した事は周知の事實である。

此の事實を基礎とし、或は過去に於て東京市が實行せんとして實行出來なかつた多くの公益事業等が只單に調査費倒れに終つた數多くの事實に鑑み、四年後に實行せねばならぬ東京オリムピック大會に對し左の如き見解を有するのである。即ち斯如き國家的イヴェントは國家が主體となつて之れを行はざれば、東京市や體育協會等のよくするところでない事は火を見るより明かなことである。勿論理論的には東京市が招致するのだから東京市がやるのは當然であると云ふ事になるには相違ないが、京東市が直接此の事業の執行者になり得ないのは身から出た錆として諦めた方が利口だと思ふ。然らば東京市として四年後のオリムピックに備へる爲めに〝如何なる事業が殘されて居か〟と云ふ事が必然的に考へられる譯である。

皇紀二千六百年を迎へ、之を期として行はれる萬國博覽會も勿論東京市として重大な問題であるには相違ない。然し萬國博覽會は依然として萬國博覽會で多少の關聯はあるにせよオリムピックではない。けれども此處に取り上げた問題は兩方に關係のあるのは勿論であるが此處では便宜上オリムピックプロパーの問題の一つとして此の市廳舍問題を考へたのである。

何程、國の力と全國民の協力を以つてすれば十數萬人を收容し得るスタヂアムも或は數萬人の座席を持つ競泳場も或は數千人の外國選手を迎へ得るオリムピック村も建設する事は容易に可能であると想像されるのである。故に此の際東京市としては、復興された帝都に應しい市廳舍の建築が四年後のオリムピックに備へ得る緊急なる問題として取上げる事が最も賢明な方策であると主張するのである。

名譽心にかけては人一倍心臟の強い牛塚市長が、あの古い〝**借家住ひ**〟の府廳舍の建物に於て、各國選手を迎へ「東京市の鍵」を渡す、いとも嚴肅なる觀迎セプションを行ふことを、想像しただけでも愉快な事でないに相違ない。ましてや皇紀二千六百年の萬國博覽會に備へる爲めにも全く緊急な問題として考へ得るのである。

だが然し此處で問題になるのは市長がはたして心から帝都たる東京市を愛して居るであらうかと云ふ事である。そして又此の市長の愛都市の强弱はただちに此の市廳舍問題に多大な影響を與へるものであることは容易に想像が付くのである。

何事にも、面目問題にこだはつて重要な緊急事を實行せざる東京市民堅氣を此の際早く清算して帝都たる東京市を愛するべく過去の不合理を改める事が此の輝かしいオリムピック大會を迎へるにあたり牛塚市長の最も賢名方策の一つではなからうか。

牛塚市長閣下よ!!!

今からでも遲くない。全日本國民の爲めに我國の帝都たる東京市が數千にあまる各國代表選手を迎へるに應しい新市廳舍を帝都の中心地帶に建築し歷代市長のみならず500萬東京市民の要望を實現して欲しいものである。そして輝しい皇紀二千六百年と躍進日本の帝都を外國に示し得た名市長の名を永久に、市廳建築の基礎の上に印せしめられん事を熱望して此の稿を終る。(盲文多謝)

オリムピツクと大阪

——その1——

小泉嘉四郎

1940年の國際オリムピツクの開催地、即ち世界横斷的大祝典の第12回目の中心が東京に決定された事は、全日本國民と共に、眞に喜びに堪えない。次回オリムピツクは恰かも皇紀2.600年に當つて居り、これを機に我日本の文化を大いに世界に發揚するべく、既に萬國博覽會、及び日本文化萬國大會、日本ペン倶樂部會議——これは世界各國の文化の代表者、例へば、英國ペン倶樂部會長 H.G. ウエルス、佛文豪アンドレ・ジイド、印度の哲人タゴール翁、獨逸の哲學者フツサール等250餘名を我國の一堂に會し、東西文化の渾然たる融和が計られるものである。——の開催が決定されて居ると聞いて居るが、尙この外に種々の文化施設の計畫が、この4ヶ年間を準備期として、進展して行くであらう。

我大阪市は、直接には次回オリムピツクゲームの開催地に當つては居ないが、ここの4年後の國際的祝典を目標として何を爲すべきであらうか。先ず第一に考へられる事は諸種の運動施設であらうが、これ等の問題については他の多くの論文で取り上げられる事と思ふから、こゝには重要でありながら而も比較的等閑に附され易い方面を見て行く事にしやう。

I 都市美の整容

國際的祝典への、海外よりの來客を迎へるに際して、現在の我大阪市の美觀を更に整へると云ふ事は文明都市としての作法であらう。これについて具體的な事項の二、三を擧げれば

a. 大阪市玄關の完成

現在工事中の大阪驛が1940年迄に竣工さるべきは更めて言ふ迄もないであらうが、更に驛附近一帶の街路、建築物、交通施設等もこれと平行して建設を促進しなければならない。

b. 御堂筋の完成

綠地帶、地下鐵を含む24間巾の御堂筋は現在大阪市の代表道路として偉容を保つて居るが、更に望み得べくば、その兩側の建築物も1640年迄に整へたいものである。

c. 美觀地區内の電柱の取り除き電柱と電線は我國都市特有の都市醜の一つであるが、これは中之島一帶の美觀地區内だけでも取り除くべきであらう。

d. 廣告物、看板等の取締り

e. 主要交叉點に於ける轉轍塔の建設

f. 街頭時計の增設

等が考へられる。

II 中之島中央公會堂の改築

「オーデイトリアムは都市の文化を代表するものである」。と云はれて居るが、現在の中之島中央公會堂は新らしい大阪の文化を容れるには餘りに古い革囊であり、又現在のオーデイトリアム建築計畫學の水準から見れば其の機能上最早使用に堪えないものと斷じても敢て過言ではあるまい。最近數年間の中央公會堂の使用回數、種目の實際に徵しても明らかなる如く、現在の大阪市は中央公會堂と云ふ「名」だけ持つて居ながら、その「實」は持ち得て居ない狀態である。

來るべき第12回國都オリムピツクは唯にスポーツのみでなく、更に藝術文化の廣汎に渉つて國際競技が行はれ、數期に分かたれて藝術週間が催されるであらうが、この2.600年の文化事業を機に大阪市は眞に優れたオーデイトリアムの建設をなすべきではないであらうか。

隣都、神戸市は2.600年を目指して、工費五百萬圓を投じて我國最新最大の公會堂の建設を急いで居る。

若し、我大阪市が2.600年に際しても現在の中之島中央公會堂以上のものを持ち得ないとすれば、當然大阪市に於て開催さるべき2.600年の輝やかしい文化事業も、たゞ大阪市に適當なオーデイトリアムが存在しないと云ふ理由のみで、その中心を神戸市に移されなければならなく成りはしないかゞ憂慮される。

大阪市は、今、眞の意味の市民の爲の「文化と休息の殿堂」の建設の機に臨んで居ると云ふ事をこゝに再び繰返しておき度い。 (11.9.11·)

オリムピツクと大阪

——その2——

本田正道

1 何をなすべきか

1930年、或は皇紀2600年なる一つの時間的概念が遂に我々建築家にも種々の大きな關心を要求する事になつた。即ち申すまでもなく東京オリンピアードの競技場設備、之に關係ある各種の必要な施設、或は皇紀2600年の記念事業等が、殆ど何れも建築的な施設を伴ふものであり、從つて建築物の建設となつて國民の前にあらはれ、世界の目に映ずる事が多いために、必要な施設を如何に設計々畫し、記念事業として何を計畫するのが適切であるかは、建築家にも提供されてゐる問題である。そして今、直接のオリンピツク主催地でない大阪の我々市民には「如何になすべきや」の問題よりも先づ「何をなすべきや」の問題が提出されてゐるやうに思はれる。

2 市民の殿堂

現在大阪市に於ける記念事業案として噂に上つてゐるものには運動競技場、公會堂、體育館、靖國神社等がある。何れもそれ相當の意義を持ち、實行に手頃であり、又そろひもそろつて市民の殿堂として華やかな連想の中に見せ物としての價値を持つ。常識的に考へると、どうもその中の一つ或は二つが實行されそうな氣がする。しかし、二百萬市民が何を希望し、又は彼等に何が必要であるかを知る事は容易ではない。そこで近視者は御苦勞にもその限られた視野から次のやうな愚案を想出し度くなる。

3 生活二重奏の夢

所謂ラツシュ・アワーと稱する時刻に、猫も杓子一つの方向めがけて殺到するざまを見ると、何となく反抗心が起つて來る。都會の寄生虫どもがわざわざ同じ時刻に同じ時間だけ働きに出かけやうとするから都會はいやが上にも雜踏し、いやが上にも彭張すると、總括的に晝と夜と二交代で働く制度習慣をつくつたら、あらゆる點に於て大節減を得、而も能率の增加すると云ふ事になる。交通機關、ビルディング、其他あらゆるもの皆晝夜ブツ通しで使用されるのだから、同じ機能を發揮するのには施設は半分ですむ。或は朝夕のひどい片交通が切半され、どこへ行つてもゆつたりとしてくる。誠に有効な計畫である。しかし之は都會の被壓迫階級たる猫や杓子の夢であつて、未だ如何なる大爲政者も此樣な統

制法を案出したと聞いた事はない。只現代の物質文明の程度に於ては、既に之位な事は可能であると云ふに止まる空想である。

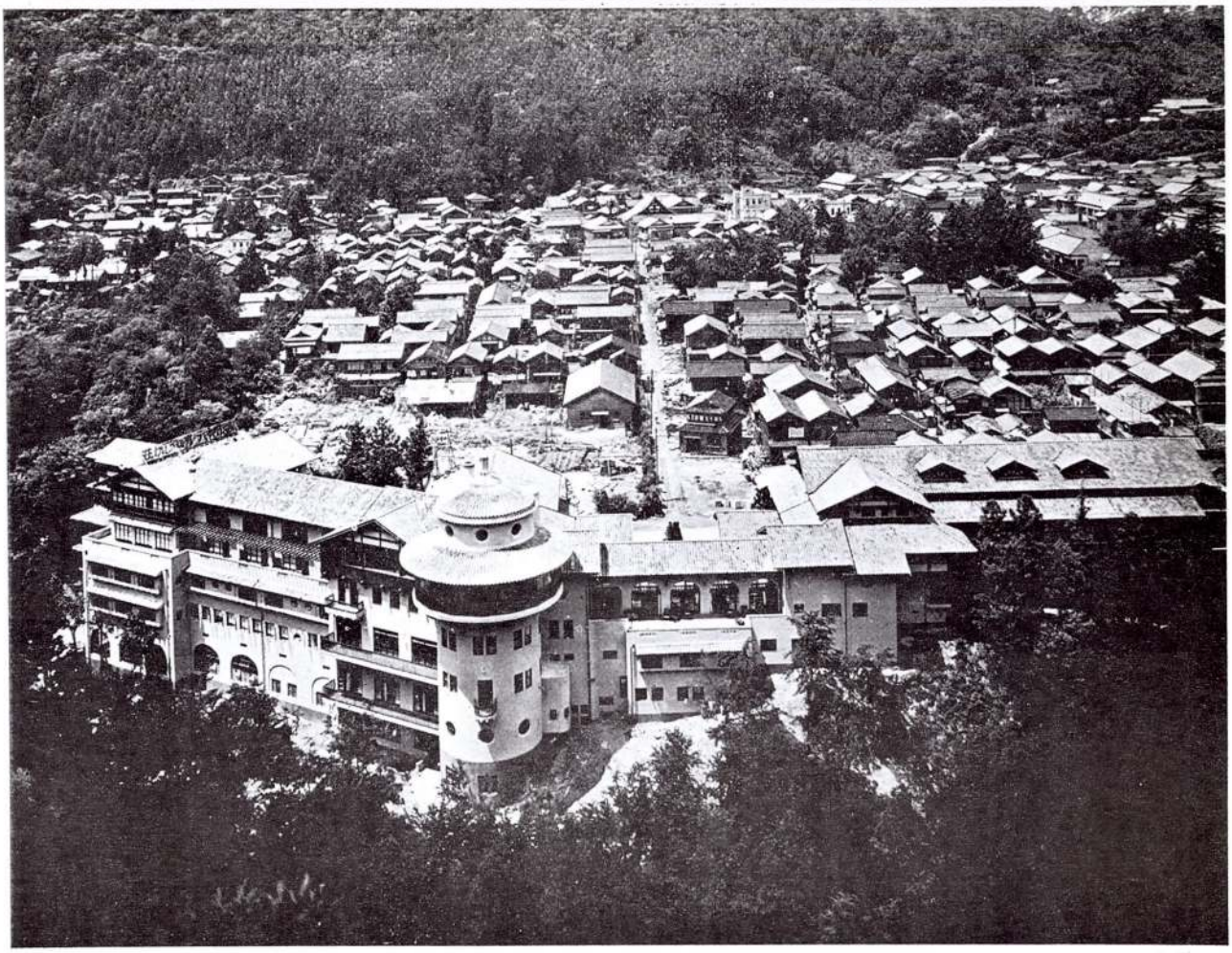
けれども此の主旨は勿論現在隨所に局部に實行されてゐる事であつて、次に述べる「何をなすべきかの私案一個も又此の主旨から出發したものに過ぎない。

4　小學校のスポーツクラブ化

思ふに各種の施設中小學校程市民と密接な關係のあるものは他にその例が少い。現代に於ける小學校の地位は往時の教會又はお寺以上に區民の親しみを持ち區の中心をなし、教化、體育、慰安、場合によつては避難の場所となる事が出來る。現在250に餘る大阪市の小學校が此様な地位を持ち、此様な設備を持つ事が出來たならば市民の幸福は少なく。而も最も公平に恩惠享受出來ると思はれる。

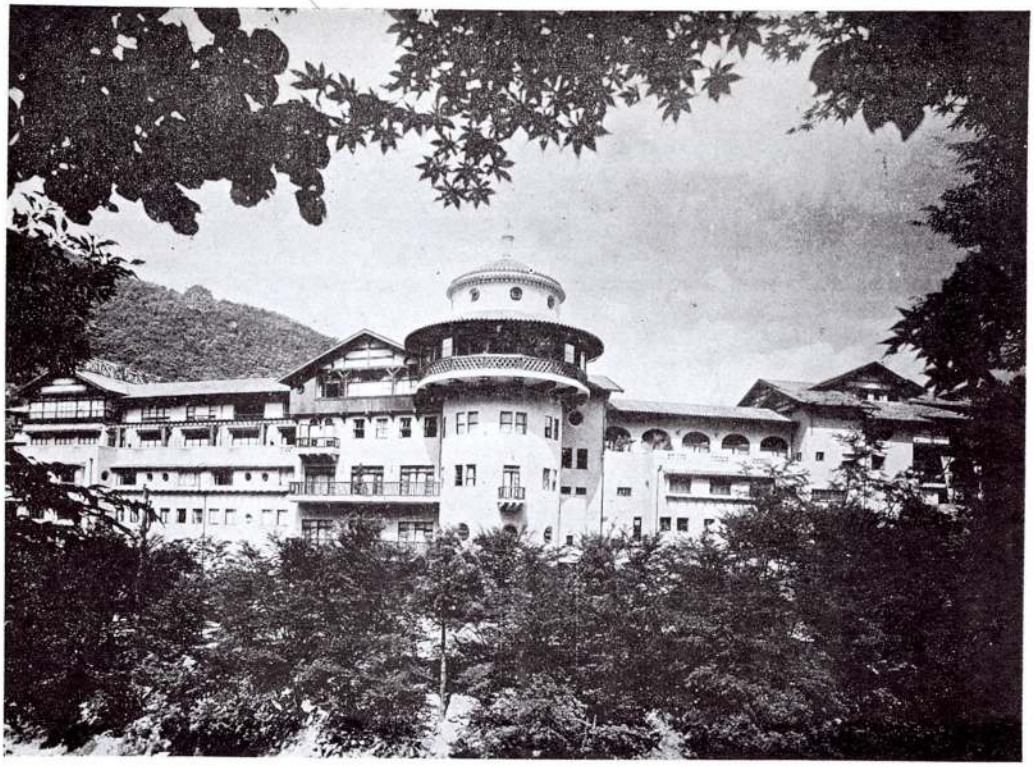
特に小學校は年少者のための施設であるがために比較的使用時間が少ないから、放果後或は夜間にもつと有効に利用し度くなる。勿論現在でも青年學校或は青年團の集會等に盛に小學校が利用されてはゐるが、更に進んで小學校を區民の教育所であり、集會所であり、スポーツ・クラブであるやうに積局的に計畫したならば、その利用價値は如何に增大し、市民の健康に益し、市民の福利を增大するか分らぬ。即ち先づ全體的には、開放すべき各部分を有効に利用出來、且つ完全に區劃出來る如く計畫し、出入に對する取締、更衣設備、運動器具の設置等は大體スポーツ・クラブに準ずるものとする。又適當の間隔に校外女子專用の學校を選定して、之には女子に必要な設備をする。又既に考慮されつゝある小學校にプール設置の案を更に一步進めて、全小學校に更衣、淨水等の設備をもつた水泳プールを設置して開放する事が出來るならば、運動の他に防火、防ガス等の主要な役割を演ずる事か出來る。

壯丁の體格向上が叫ばれてゐる秋、一ケ半ケの體育館や競技場よりも如何程有効適切な施設であるか知れないと思はれるが、左をかへりみ、右をかへりみ、文部省の規則等に思を至らすと、地を離れて空想の彼方に飛び去らうとしてゐる。誠にはかなき考案ではある。



全景

"山中観光ホテル" 設計・施工・大林組

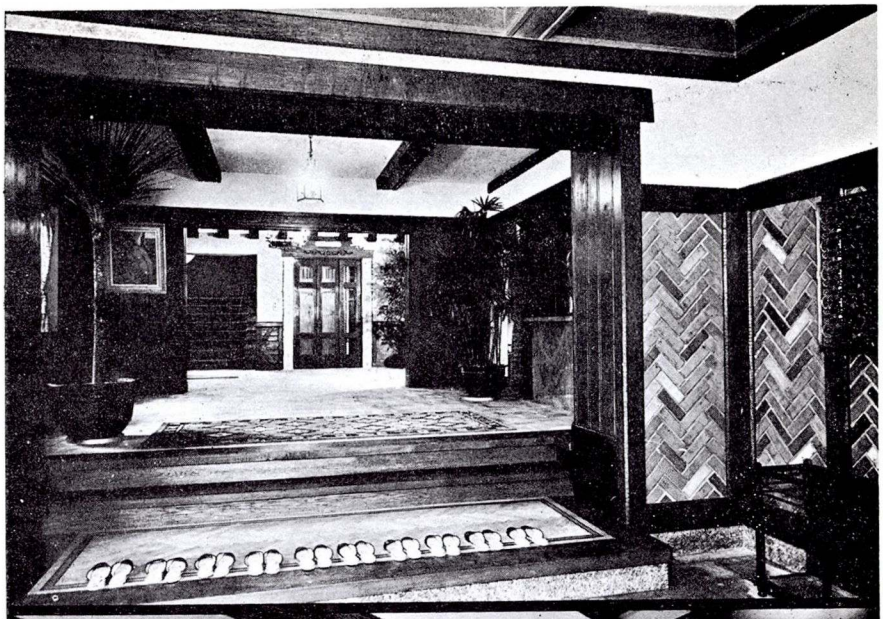


背面より見たる中央部外観

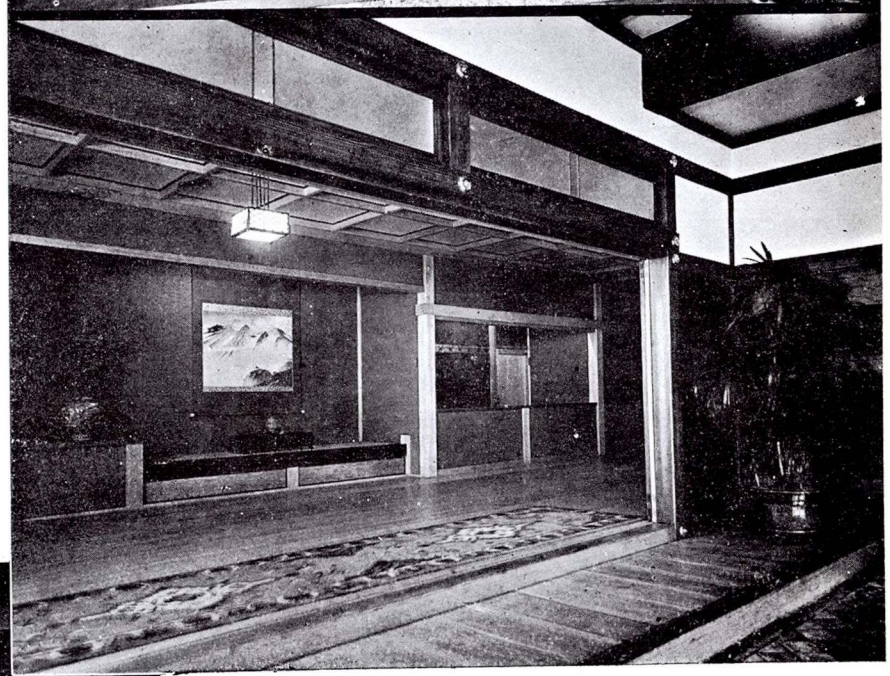


玄　　關

×2 “山　中　観　光　ホ　テ　ル” 設計・施工・大林組



南　玄　關

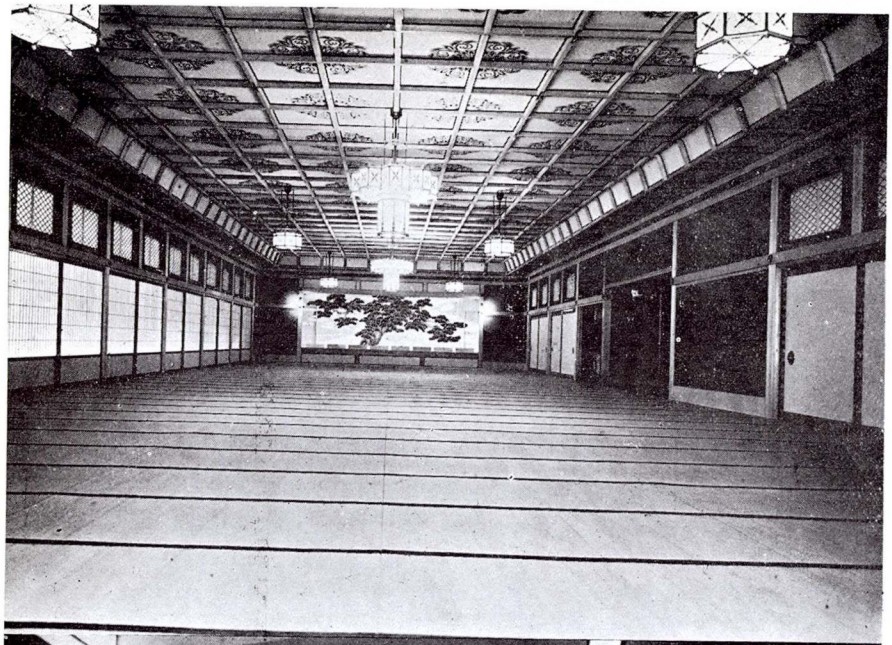


北　玄　關

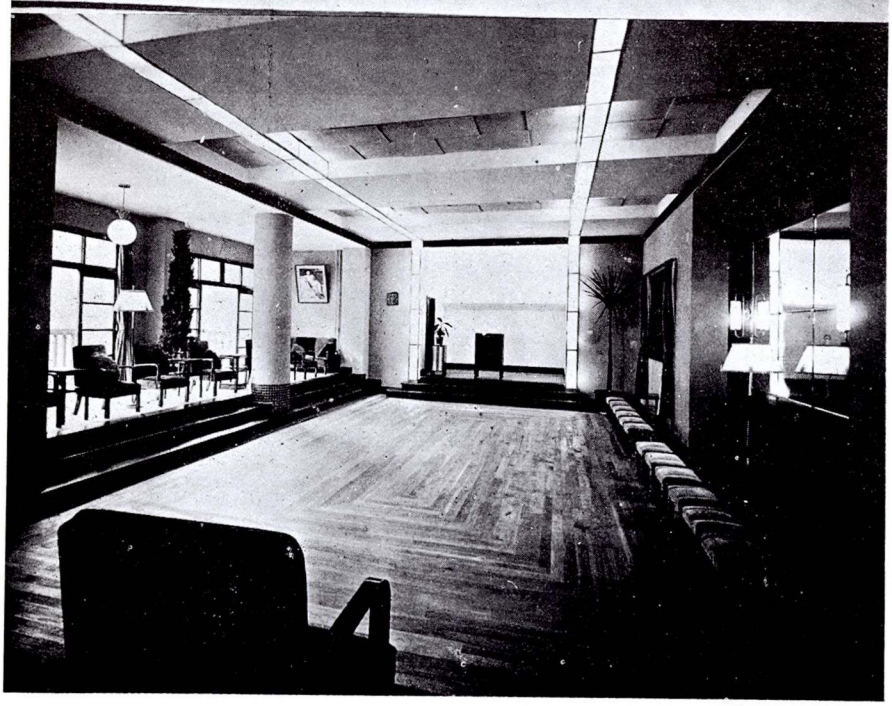


ロ　ビ　ー

“山　中　觀　光　ホ　テ　ル”　設計・施工・大林組

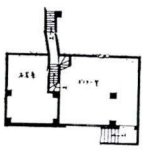


大　廣　間

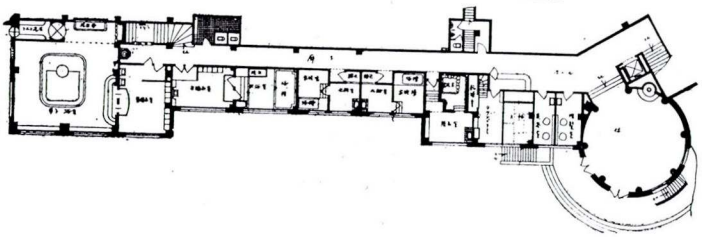


ダンスホール

地　下　第4階



地　下　第3階



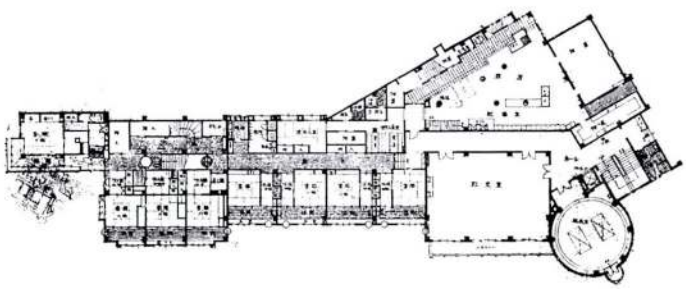
×4 “山　中　観　光　ホ　テ　ル” 設計・施工・大林組



南館地上2階
展望食堂娯楽室



待　合　室



地下1階

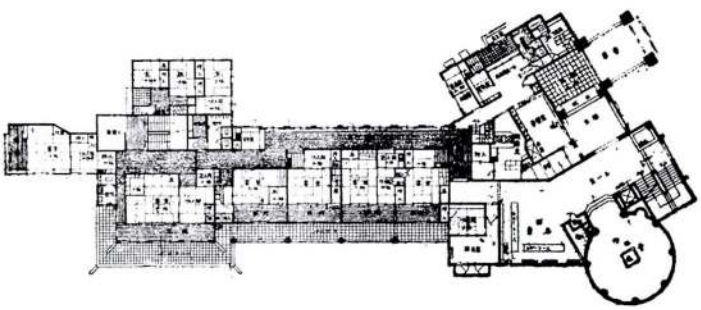
“山　中　観　光　ホ　テ　ル”　設計・施工・大林組



バ　　ー

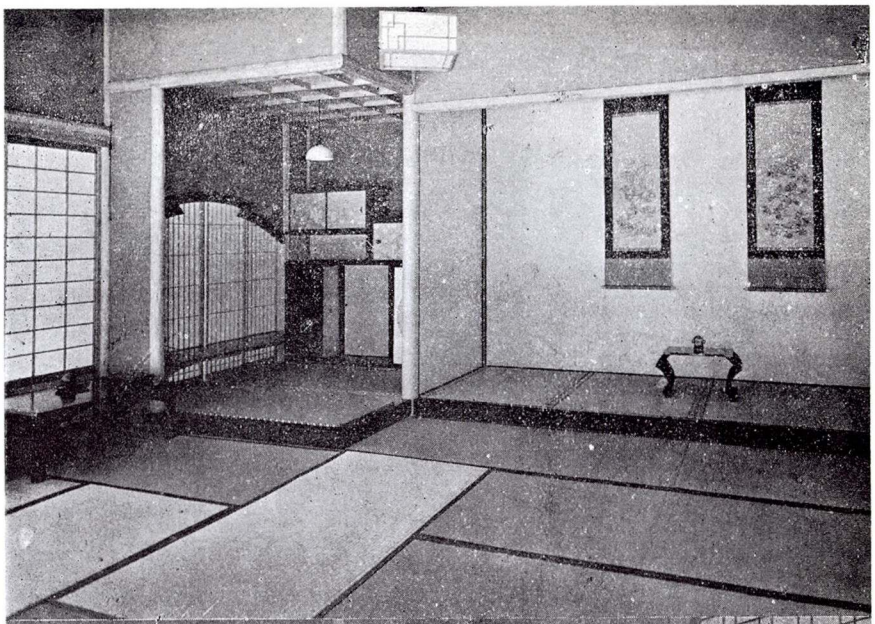


社　交　室

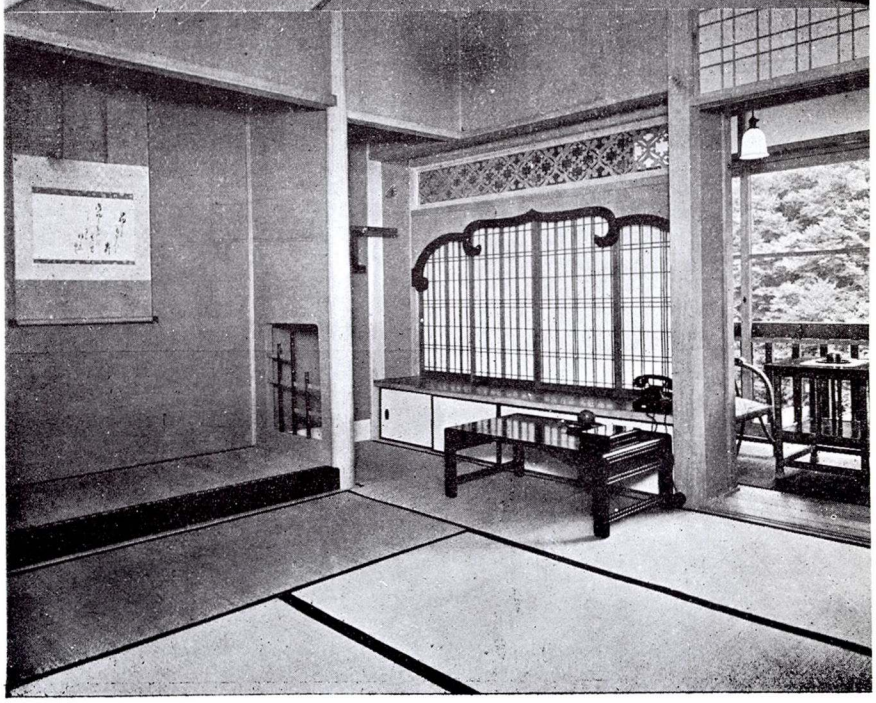


南館1階平面圖

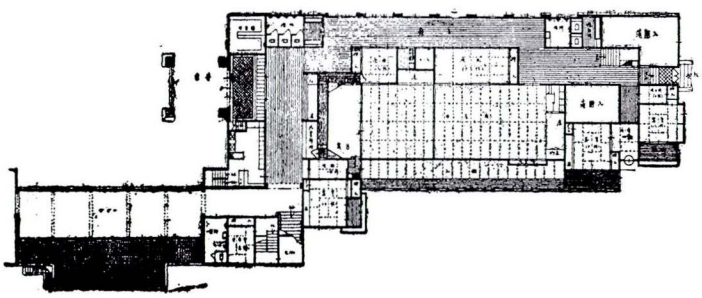
×6 “山　中　観　光　ホ　テ　ル”　設計・施工・大林組



和風客室の一部

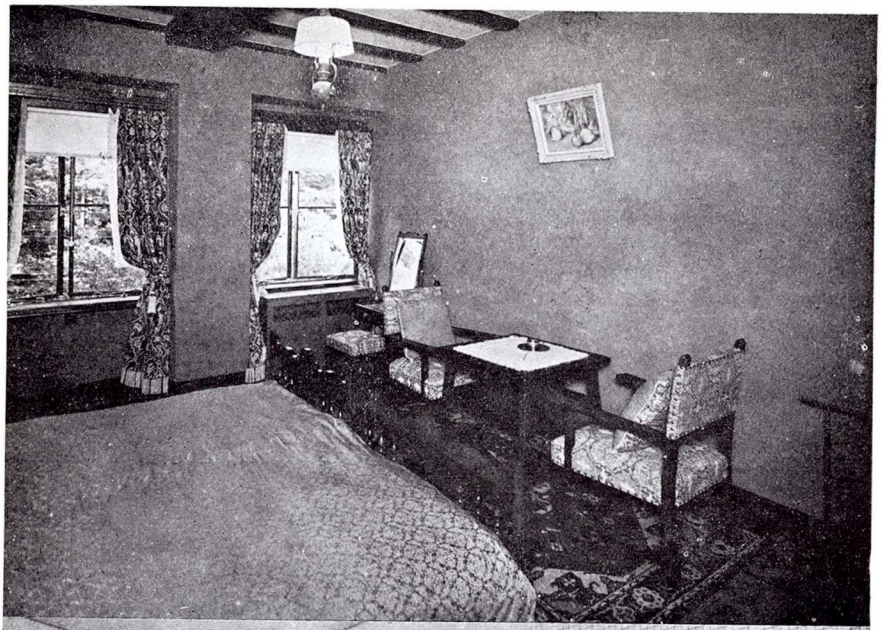


和風客室の一部

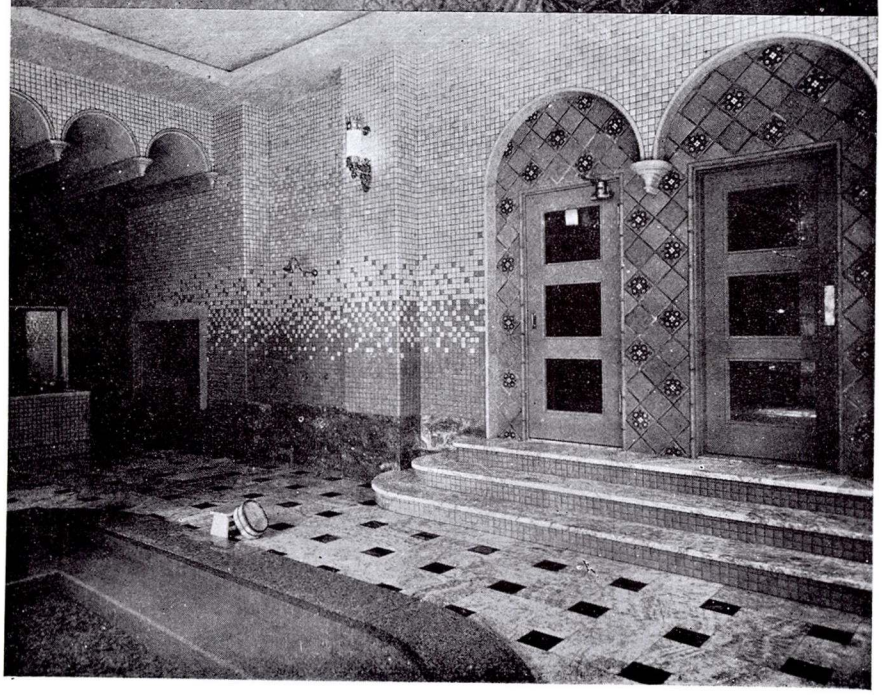


北館1階平面圖

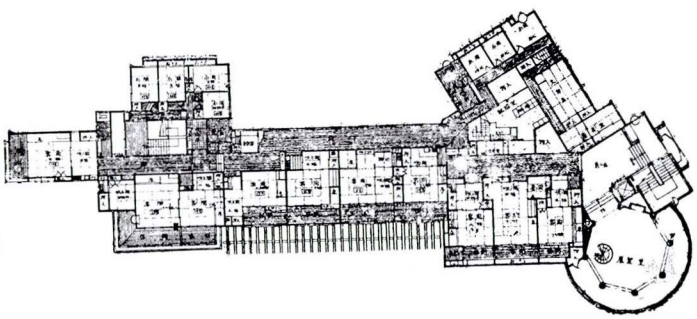
“山中観光ホテル” 設計・施工・大林組 フX



寢　　室



ターキツシバス付
男子大浴場

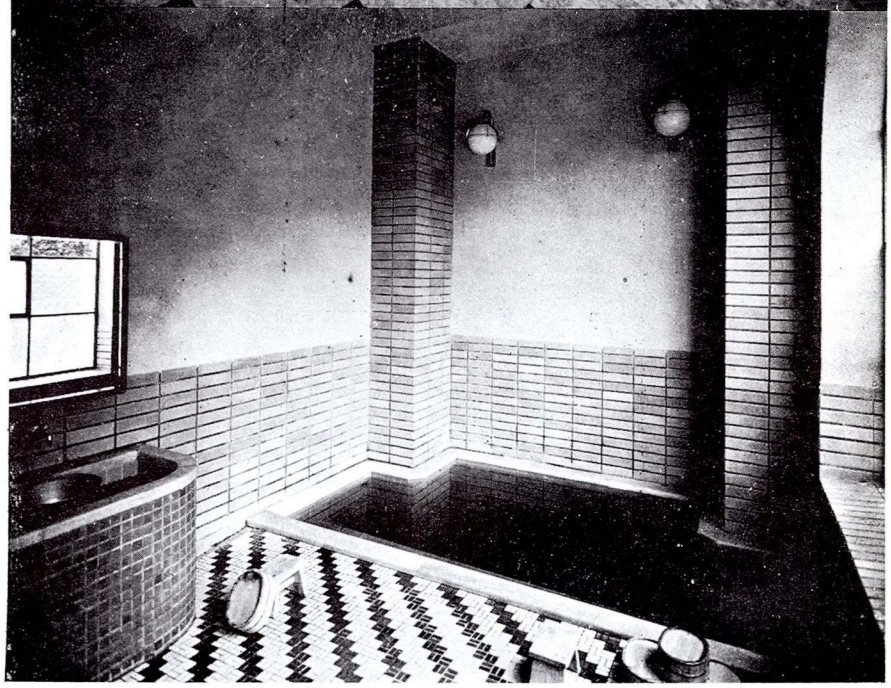


南館2階平面圖

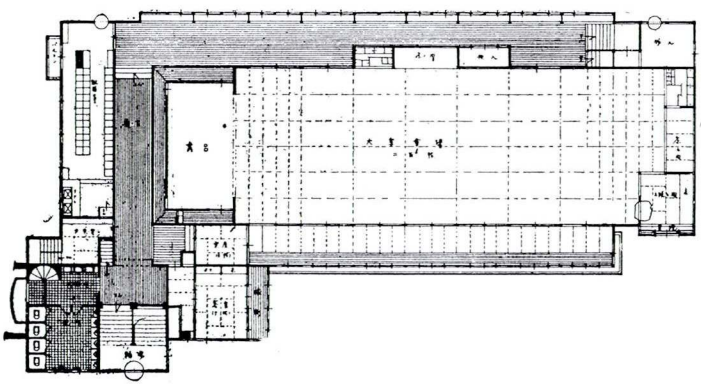
×8 “山　中　觀　光　ホ　テ　ル” 設計・施工・大林組



男子大浴場

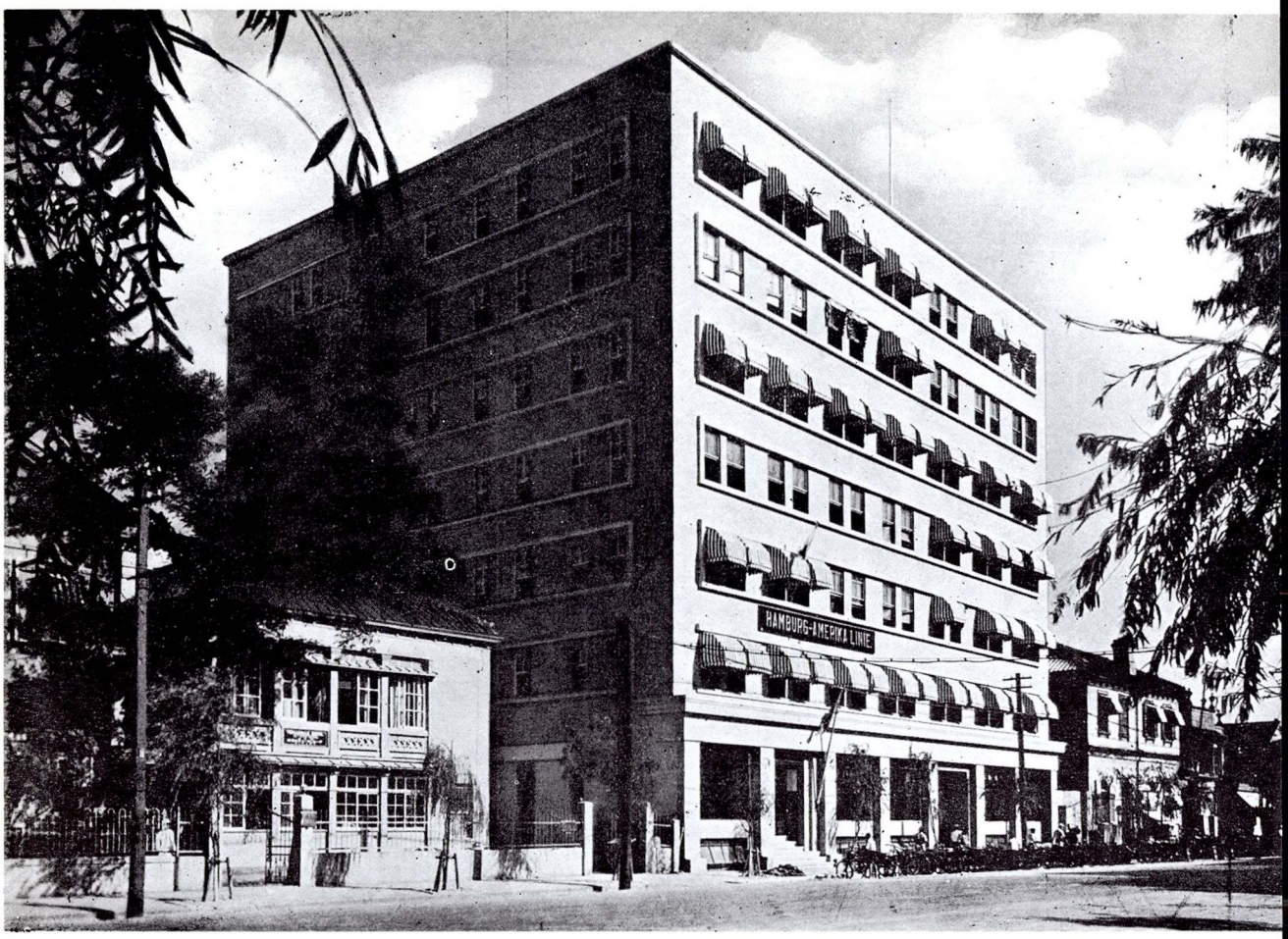


婦人浴場



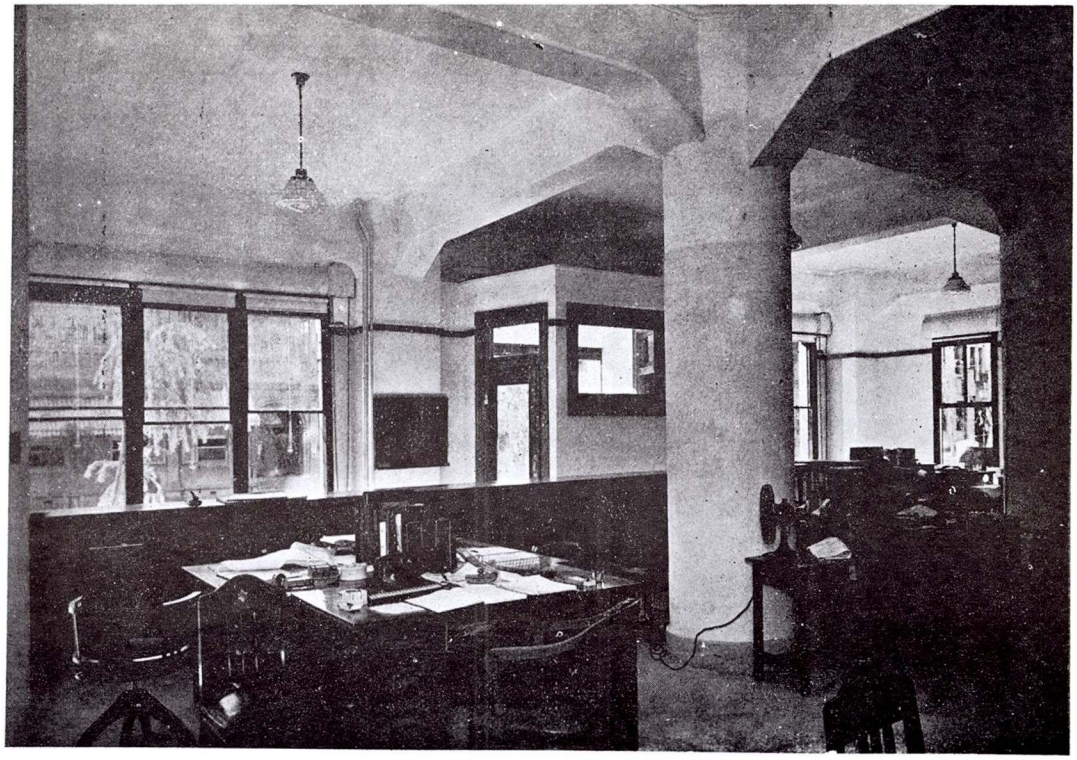
北館2階平面圖

“山中觀光ホテル” 設計・施工・大林組 9X

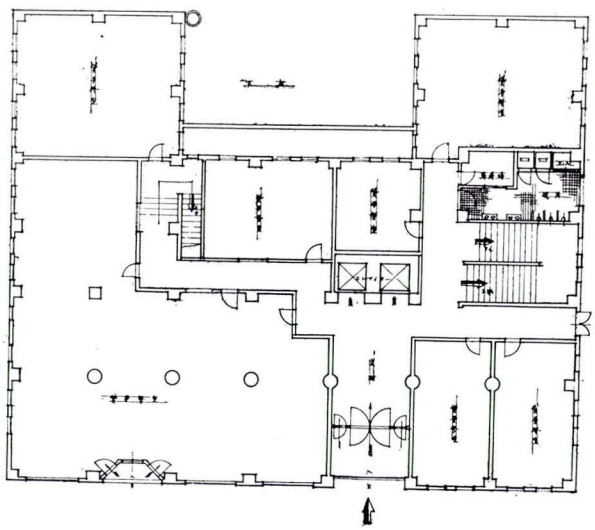


外　　觀

×10 “神　戸　日　本　ビ　ル”　設計・施工・南合名會社・監督・南暉太郎



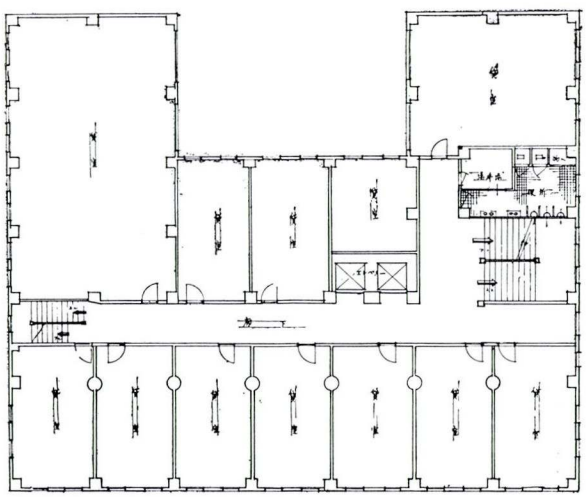
室 の 一 部 （南洋海運株式會社）



1階 平 面 圖

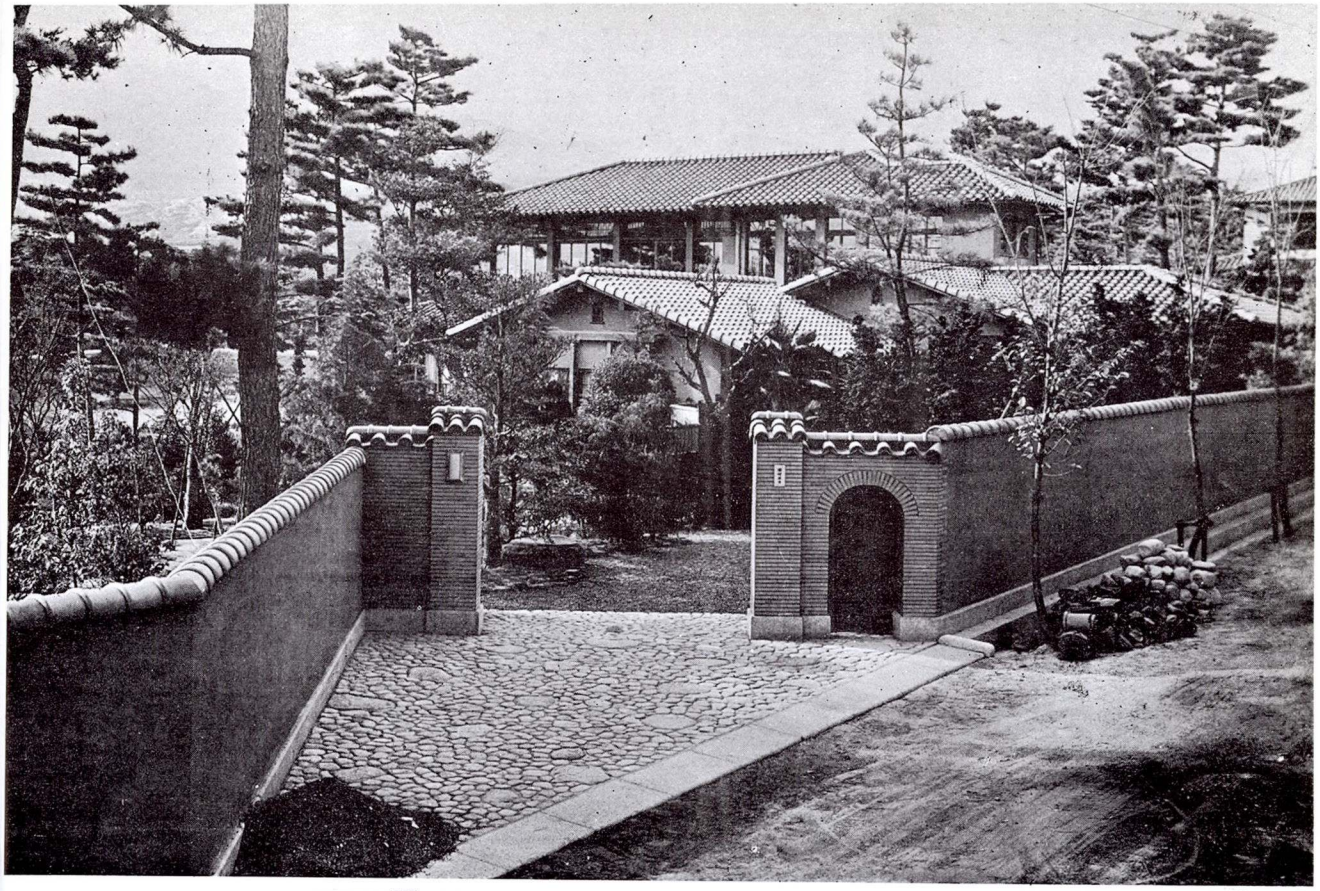


室 の 一 部 (Wilkinson Co.)

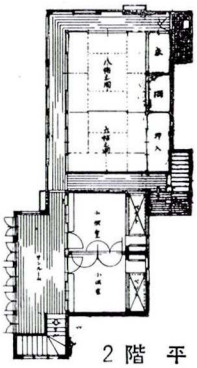


2·3·4·5·6 階平面圖

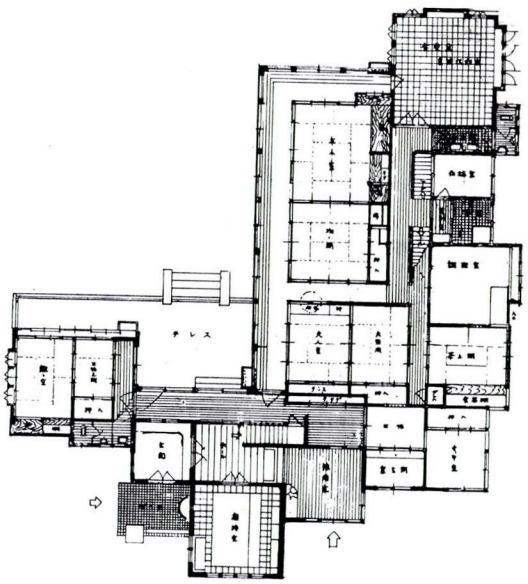
×12 “神 戸 日 本 ビ ル” 設計・施工・南合名會社・監督・南暉太郎



正　面　外　觀

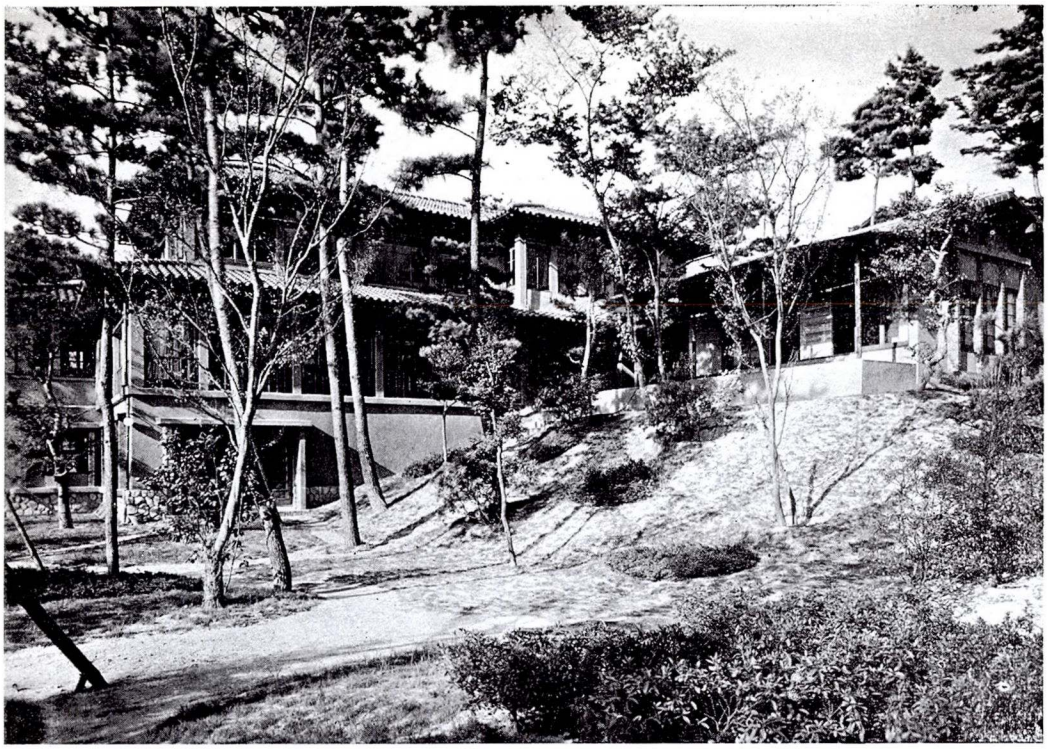


2階平面圖

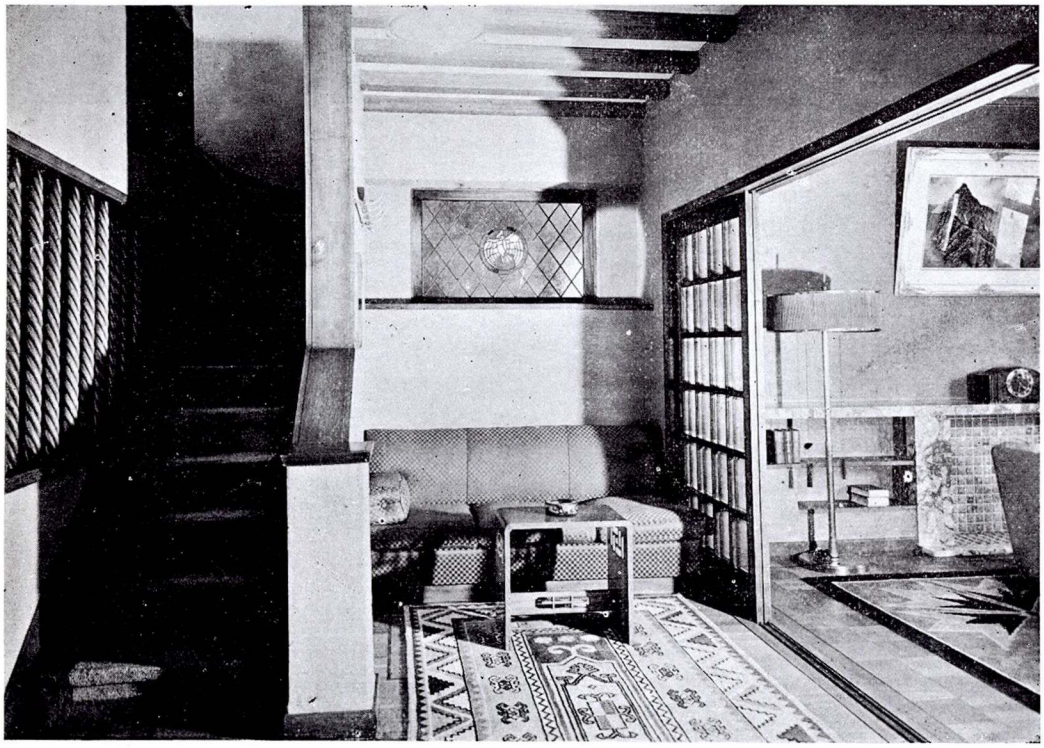


1階平面圖

“西村福治氏邸”（西宮市夙川）設計・石川建築事務所・施工・左雲組



庭園側

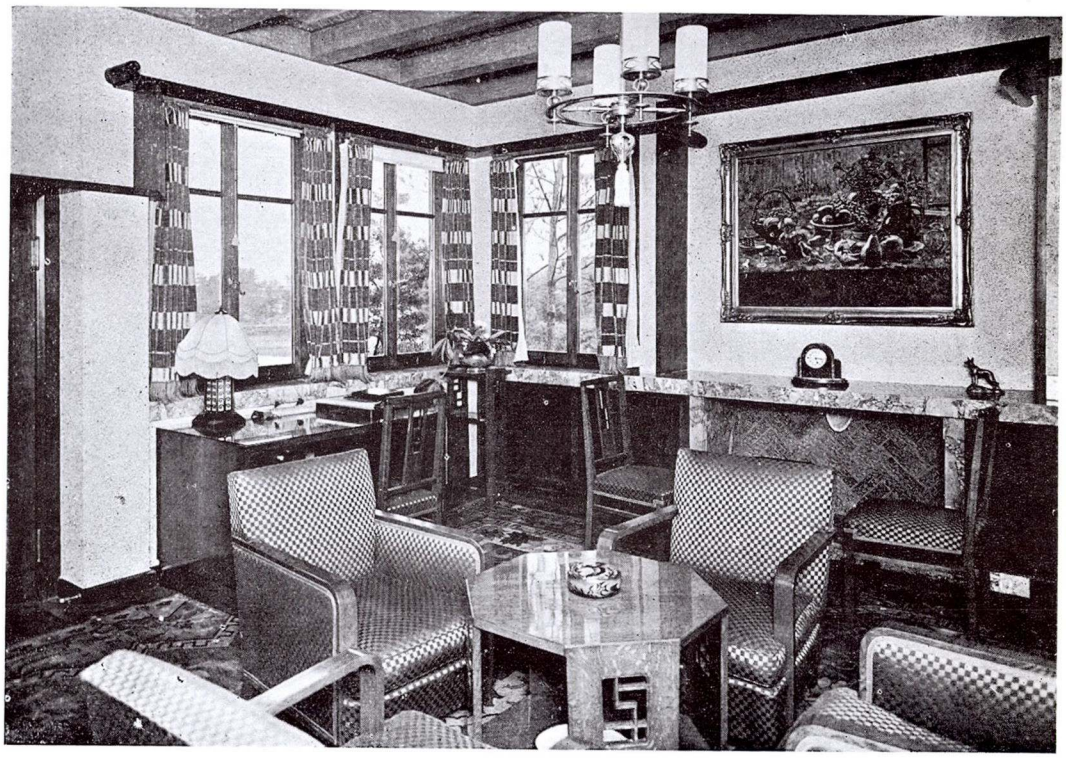


玄關ホール

×14 “西村福治氏邸” (西宮市夙川) 設計・石川建築事務所・施工・左雲組

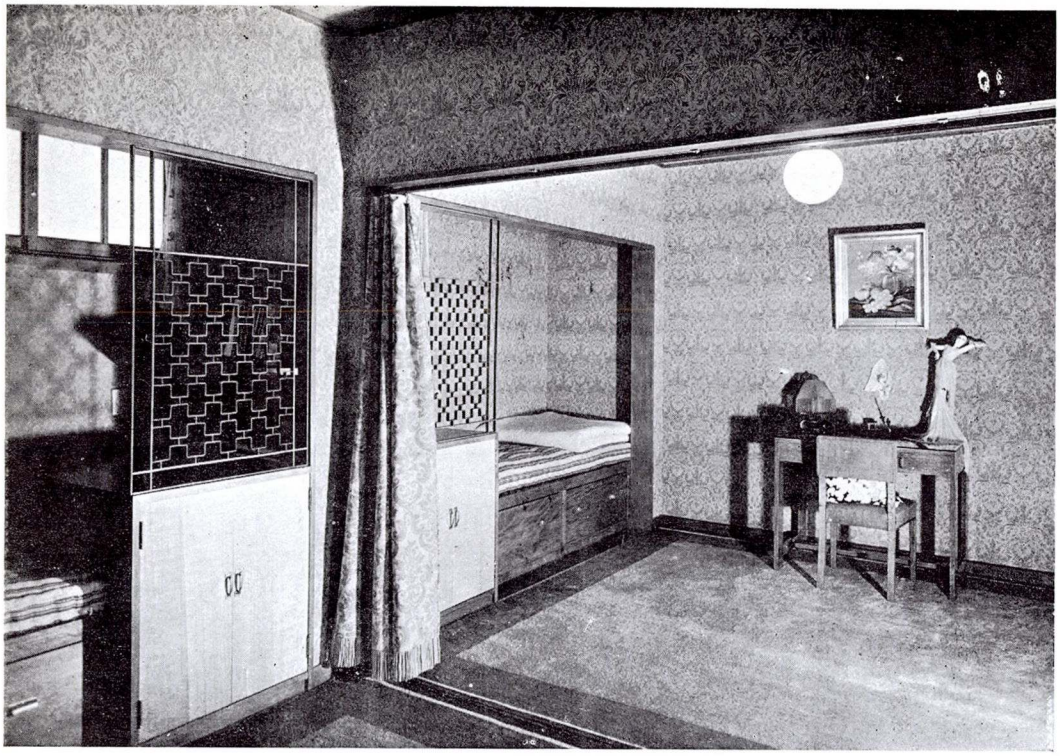


接　　室

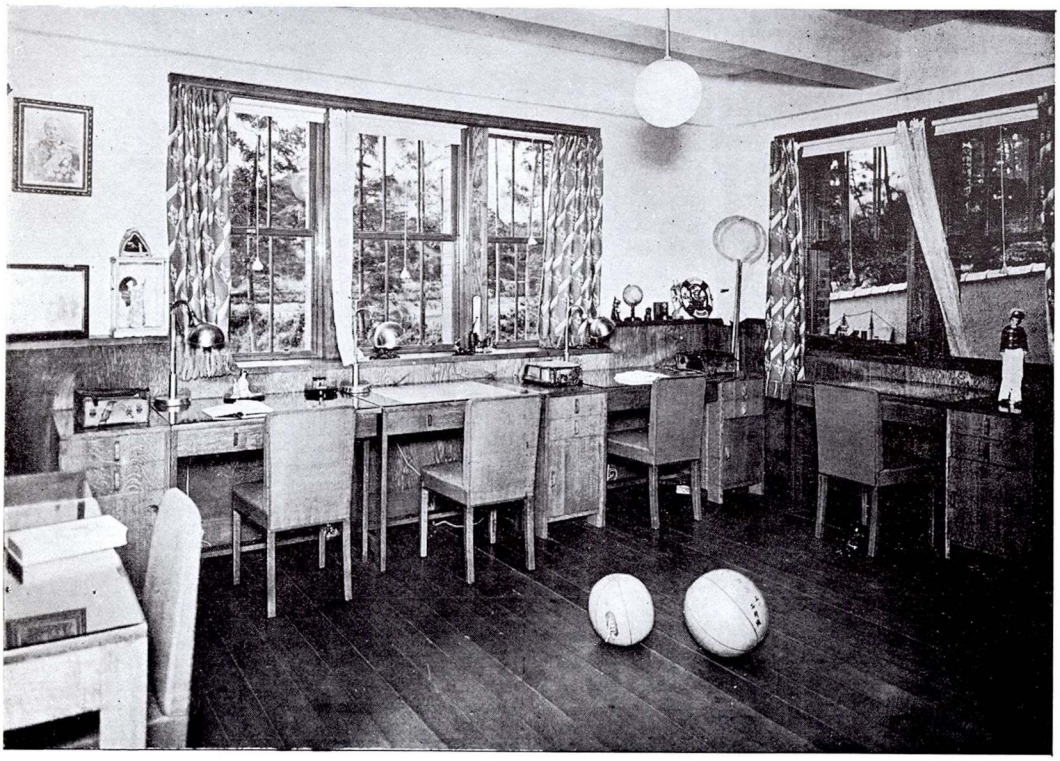


家　樂　室
娛　樂　堂

“西 村 福 冶 氏 邸”（西宮市夙川） 設計・石川建築事務所・施工・左雲組　15 x



子　供　室



勉　強　室

×16 “西 村 福 治 氏 邸” (西宮市夙川) 設計・石川建築事務所・施工・左雲組

構造　鐵筋コンクリート
外裝　明い黃色の煉瓦
平面　中央にローマ式の中庭をかこんで市政各課の事務室、市參事會室並に結婚式場を配置す。

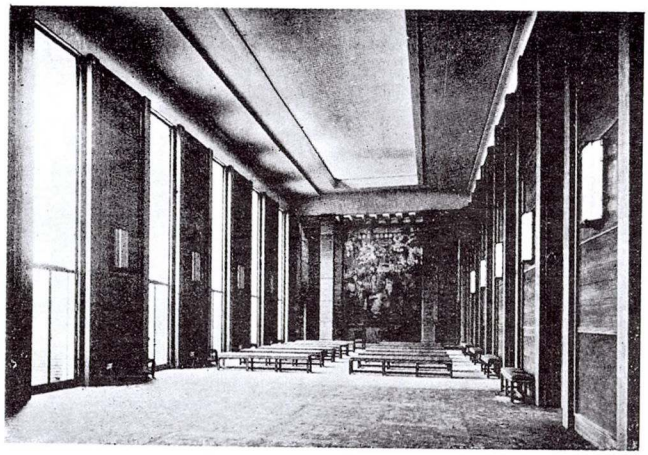
外觀に見る窓周りの水平線、塔屋の目立つた垂直線並に外裝の煉瓦の仕上げ方はオランダ、ドイツ近くは我國のモダーン建築に多く用ひる手法。プランの形も同樣である。共にフランスにあつてすこぶるフランスらしくない建築の適例である。

而し內部は流石にこの建築の所在地とその建築家達の國籍を物語つて居る。殊に結婚式場の間接照明のあるゆるやかなボールトと天井の繰型、並に小壁に着ける極めて簡單な照明器具等に一種のフランス的な氣品と優美さを見出せるであらう。

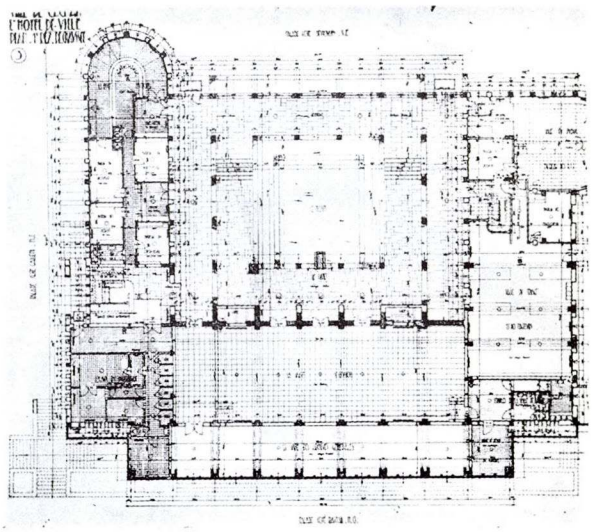
(Art et Décoration, 3, 1936より)



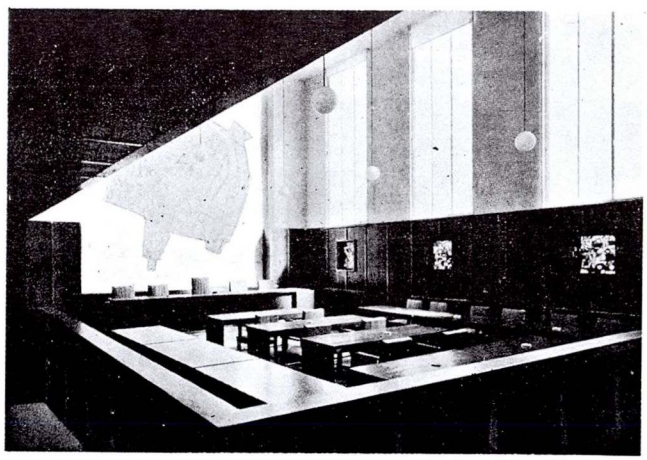
外　觀



結婚式場



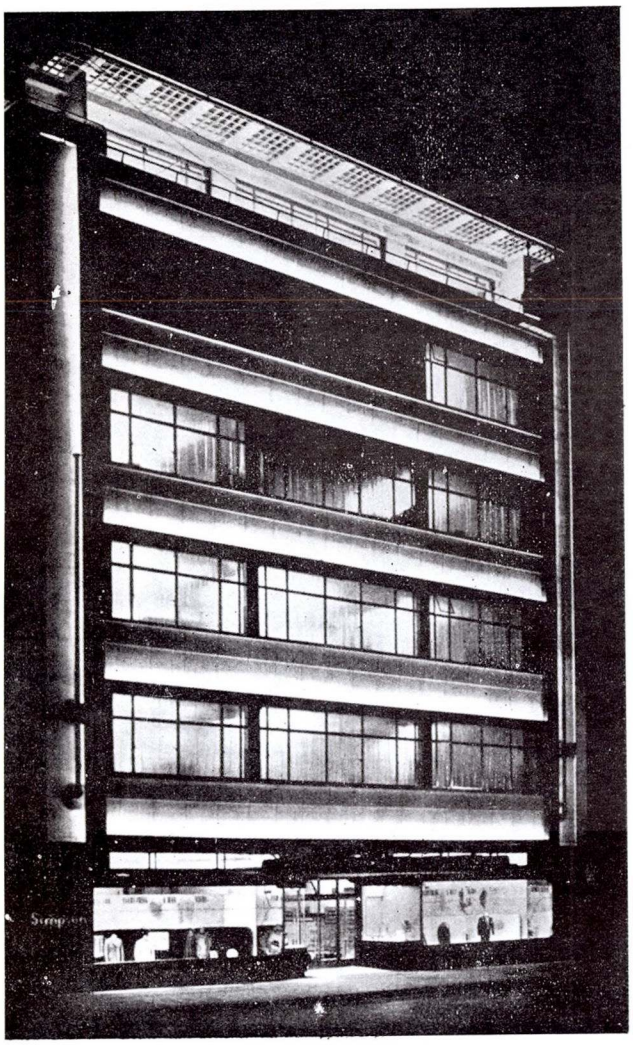
1階平面圖



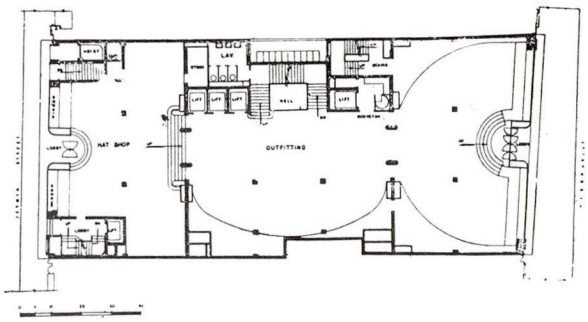
市參事會室

(フランス) Cachan の新市廳舍

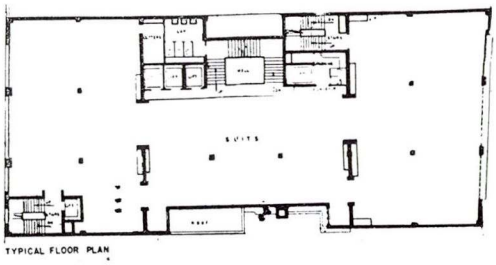
建築家　Mathon, Chollet 及 Chaussat



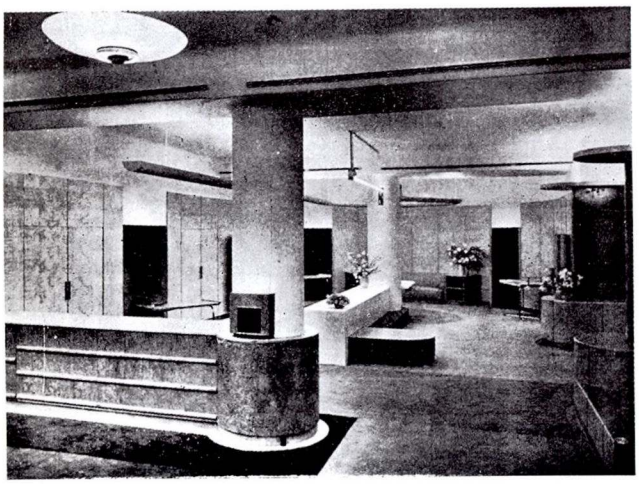
夜　　景



1階平面圖



代表平面圖



夜會服部

この建物は正面はロンドンの目抜き通ピカディリーに、背面は裏通りのジヤミン街に面してゐるのであるが、このピカディリー側は英國特有のポートランド石の外裝に、黑色大理石及金屬板を1階飾窓廻りに、纖細な技法を見せてゐる。

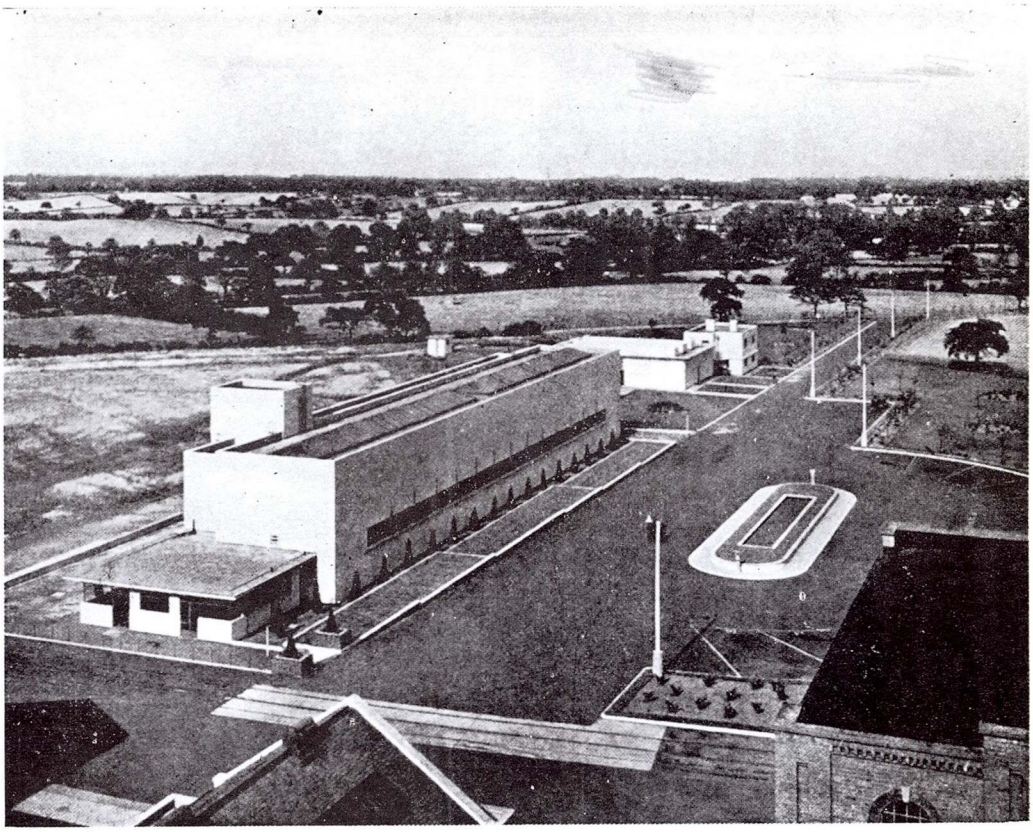
この寫眞でみても、Emberton のこの頃は、初期に比べて、技巧についても、餘程材料の取り扱ひが正確になつたことがうかがわれる。

(Architectural Record, August, 1936 より)

× 18 （イギリス） Piccadilly の雜貨店

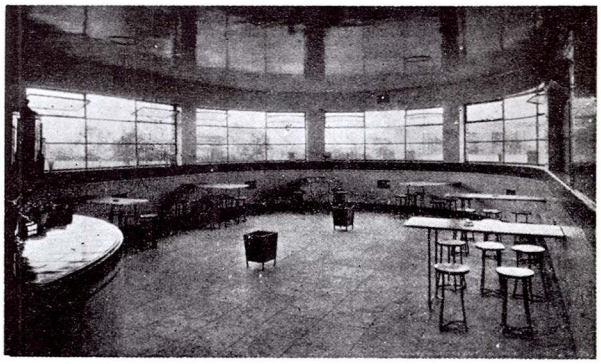
建築家 Joseph Emberton

外　　觀

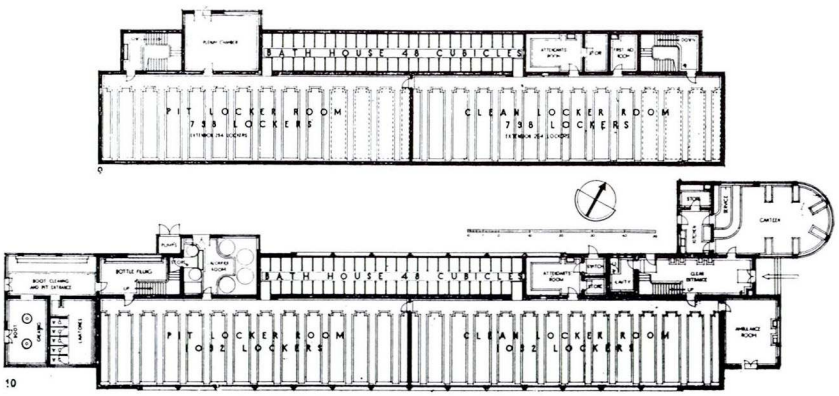


炭坑都市 Coventry に坑夫の福利施設として建設されたもので、1890人が使用出來る。構造は骨骼及床版が鐵筋コンクリート造、梁間及柱間には中空煉瓦を充す。1階2階各々に職工服用更衣室、通常服更衣室、浴室等があり、1 階の端には別に平家の酒保が附屬してゐる。

（Architectural Review, August, 1936 より）



酒　　保



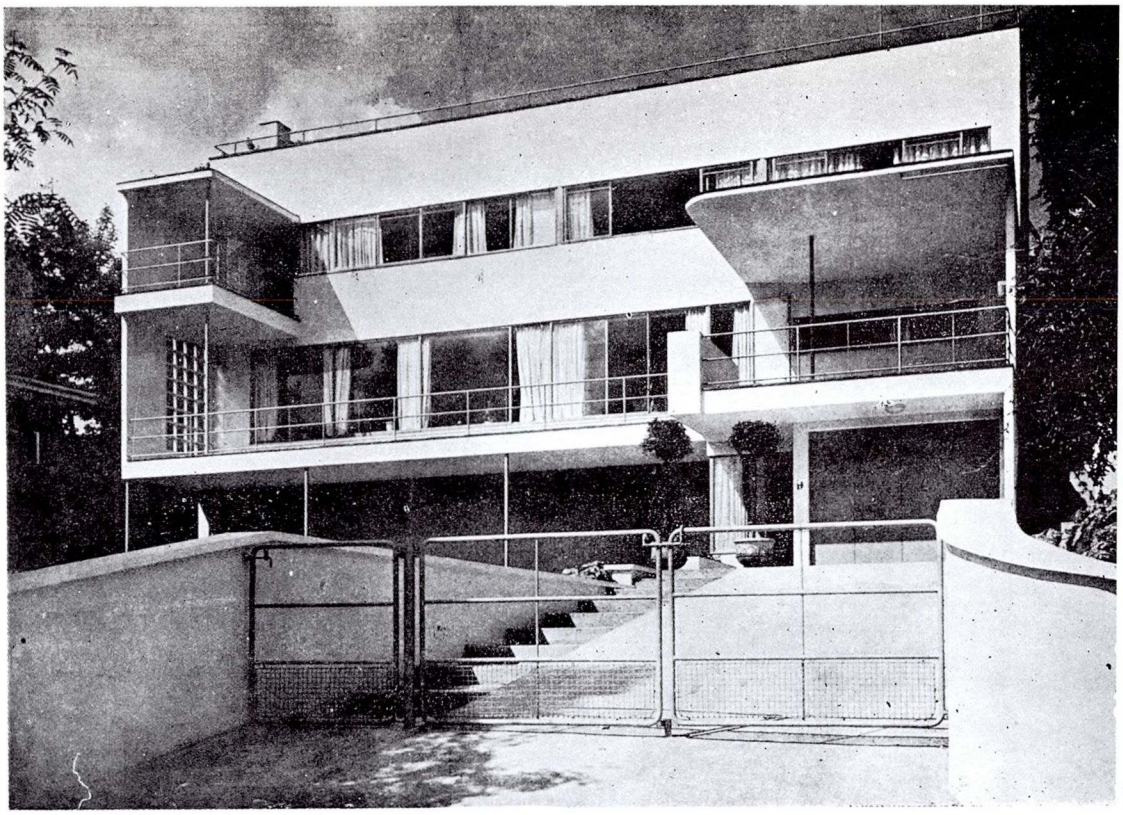
2 階 平 面 圖

1 階 平 面 圖

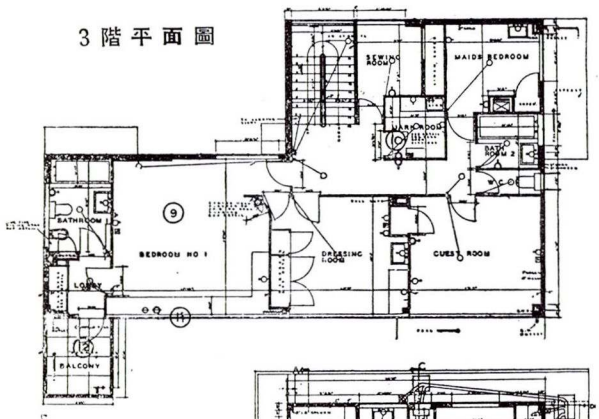
10

（イギリス）　坑口に設けられた浴室兼酒保　建築家　J. H. Forshaw 及 W. A. Woodland　19 X

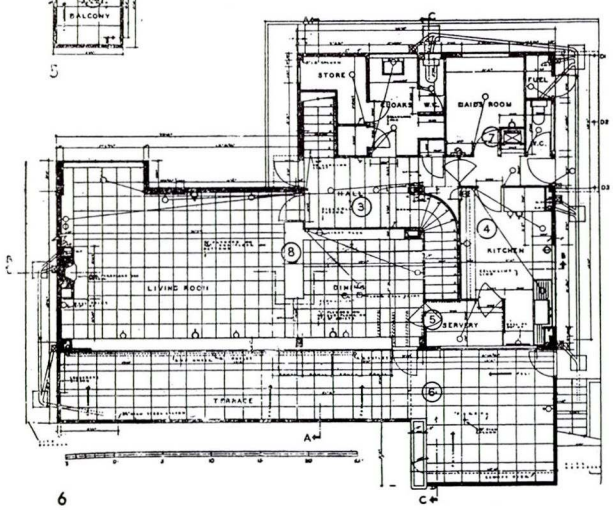
南側外觀



3階平面圖

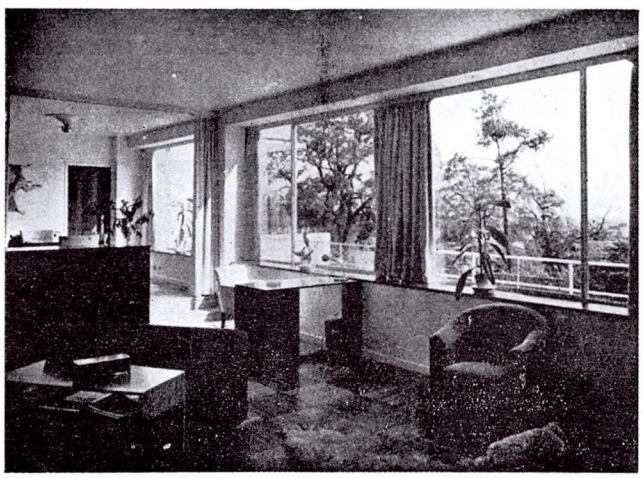


5



6

2階平面圖



居間內部

南側の道路から上りとなつてゐる傾斜地を利用して建てられ、2階の床面は北側では地盤面に一致してゐる。

1階は車庫、煖房機關室、倉庫、2階は居間、食堂、配膳室、食堂、女中室、物置、ホール等、3階は寢室3個、女中寢室、裁縫室等である。そして居室、食堂、寢室は何れも南面である。

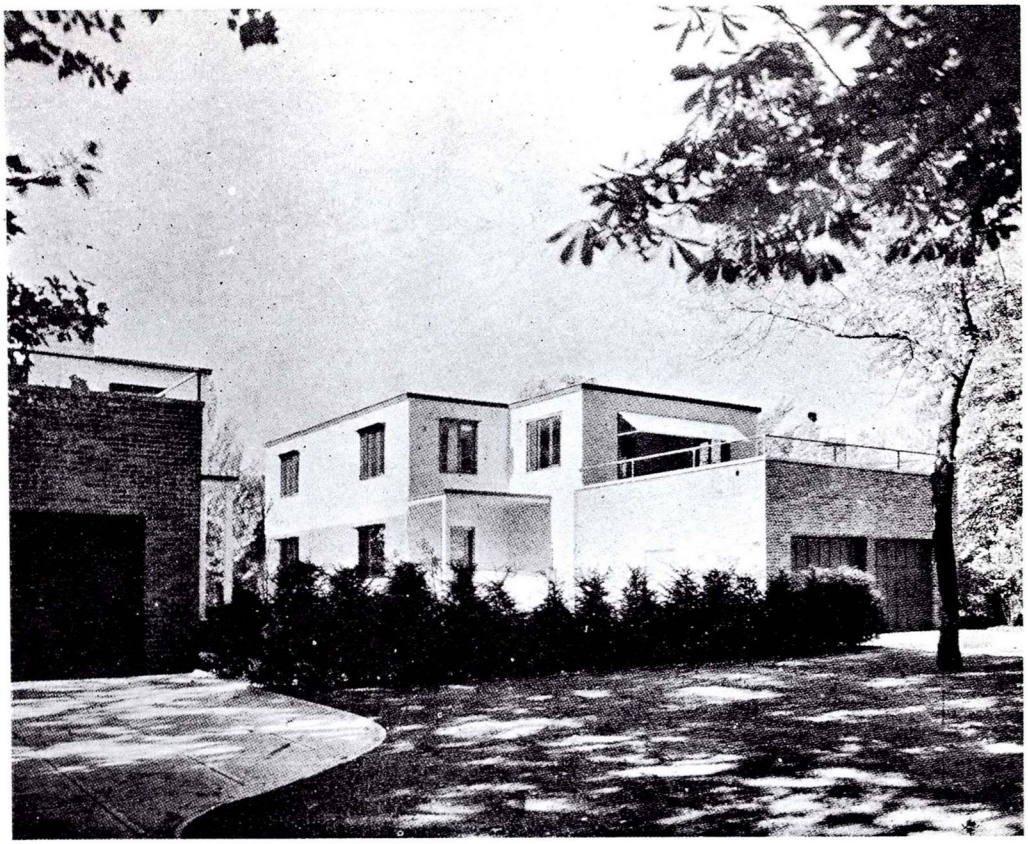
構造は鐵筋コンクリート造。

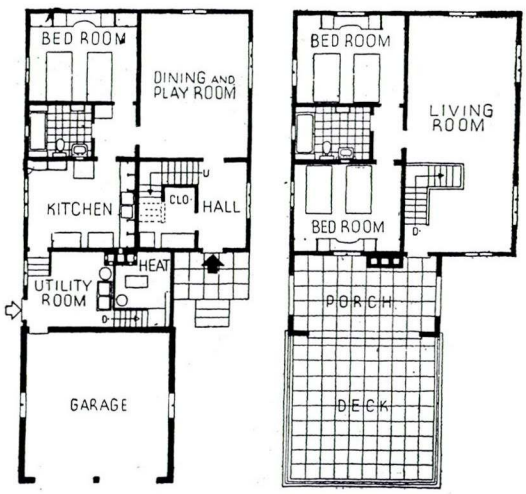
(Architectural Review, August, 1936 より)

× 20 (イギリス) Hampstead の住宅

建築家 E. M. Fry

外　　觀





1階平面圖　　2階平面圖

間口 100呎の所に同型のもの 2戸並んで建てられたものである。着工前には近隣の人々は、その建物の爲に附近の景觀が害はれはしないかと心配したものであつたが、出來上つて見ると挿圖に見られる如く、それは全く杞憂に過ぎなかつた。

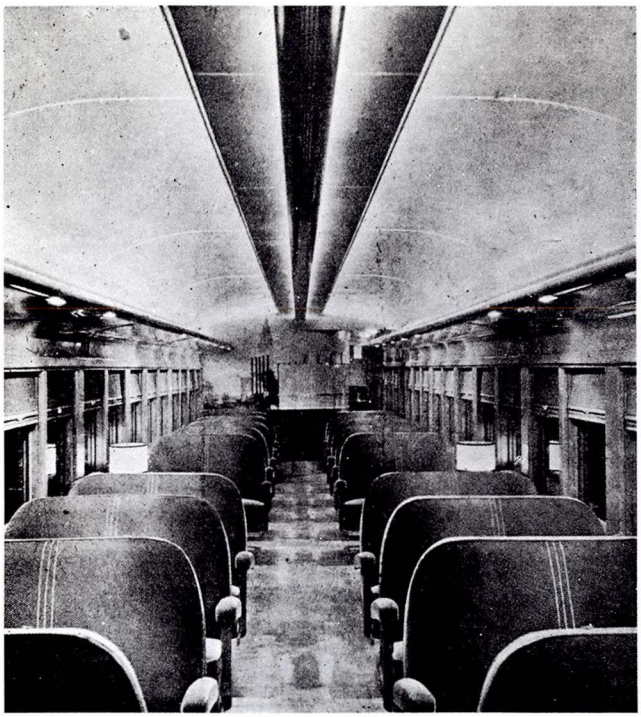
この住宅の設計が全くよく出來てゐるといふことは、1戸の借手が他の方をも客用として借りたことでも明かであらう。

自動車庫は煉瓦造。其他は木造で外壁は防水紙の上に下見板張、內部は壁天井共主としてプラスター仕上、屋根は四重のアスファルト防水の上にバラス敷、ポーチの床はカンバスを張り、居間から自動車庫屋上の露臺へ通ずる樣になつて居る。

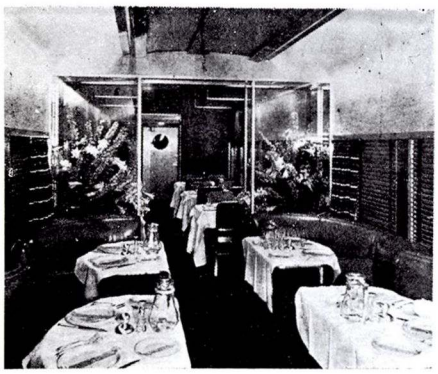
工費 13.200弗で容積29.09立方呎であるから、1立方呎當45セントの割合である。

（Architectural Forum, August, 1936 より）

（アメリカ） Cleveland の住宅



客車内部



食堂車内部

最近鐵道の悔り難い競爭相手として、盛んに旅客を吸收しつつある自動車、バス、飛行機等に對して、鐵道の唯一の對抗策は安い賃銀と快速力とを以て贅澤な旅行をなさしむることに懸つて居る。

ニューヨーク・セントラルのデトロイト、クリーブランド間の線に最近初めて使用された超流線型の新式列車「マーキュリー號」は、こうした目的で設計せられた列車中の最尖端を行くものであらう。

この列車の特徴の1つがその快スピードにあることは勿論であるが、それよりもその内部設備が大邸宅のそれを凌駕する程に完備した點を擧げなければならぬ。

先づ第1は、この限られた幅と長さとを持つた客車内が如何にも豐かな感じを持つ樣に工夫された點である。普通の客車が兩側に窓列のある變化のない長い四角い部屋であるのに對して、これは部屋に種々變化が與へられて居る。例へば、或客車では中央部に酒場を設け、或客車では別室を取つてその曲つた壁面の向ふにまだまだ部屋のあることを想像させてゐる。又、食堂車では車内を3つの變つた取扱方法に依つて變化を持たせて居る。この扱方は明に現代建築の「オープン・プラン」の手法を學んだものである。

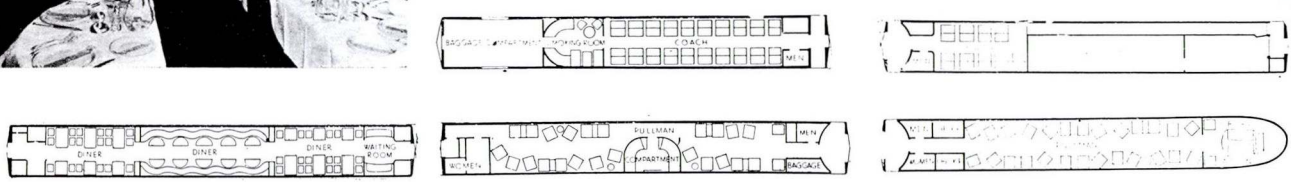
照明は圖の如く主として間接照明で、椅子の上を照し、室内を明くし、更に一部裝飾の役目を果して居る。照明と合せ用ふるに色彩を以てし、それを8臺の客車毎に少しづつ變へて行くことに依つて更に變化を增してゐる。

新しい、餘り使はれて居ない材料を盛んに使用したことも「アーキュリー號」の各客車に豪華な雰圍氣を與へることに役立つて居る。コルク、リノリウム、ゴムタイル、曲げられたベニヤ板、スポンヂ、新しい布地、プリズムグラス、アルミニウム等がこれである。

其他、中央の冷水裝置から飲料水が供給せられる點、各客車の入口に荷物及外套預室が設けられた點、食堂車に待合室を取つたこと、喫煙室の設けのあること、展望車の椅子の配置を窓外の景色を眺めるのに便ならしめ、又興を添へる爲に速度計を借與することなど、旅客の便利は非常に多い。

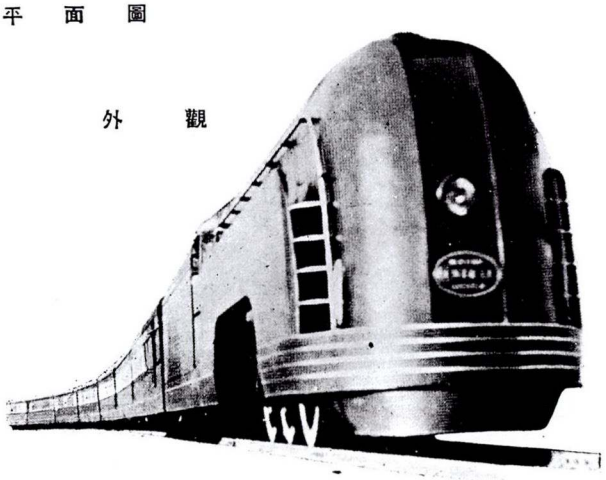
こうした新式の客車が數多く出現すると、その便利を享受した多數の旅行者はやがて自分の住宅の舊式の設備に疑を抱くに至るであらう。

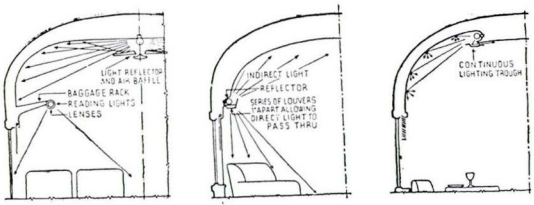
(Architectural Forum, August, 1936 より)



平面圖

外觀





照明裝置圖

× 22 （アメリカ） 新式列車「マーキユリー號」

建築家 Henry Dryfuss

"綠地帶"都市の敷地計畫

區劃整理局（Resettlement Administration）の新郊外委員會による計畫は今やワシントンの近郊、シンシナチー及ミルウオキー等に於ても實施されつゝある。
（The American city, August, 1936. Site Plans of "Greenbeet" Towns より）

區劃整理局（Ressettlement Administration）ではコロンビア州ワシントンの近郊、オハヨー州のシンシナチー及ウイスココンシン州のミルウオキー等に於て、廉價住宅の供給を目的とした郊外都市を建設しつゝある。是等の都市は住宅は勿論倉庫、店舖及都市公共用建築(community building) 等を有する完全なる都市として成立して居る。此の卓越せる事實は、區劃整理局がアメリカに於ける公益住宅政策に於て最も顯著なる貢獻をなした事の一つである。

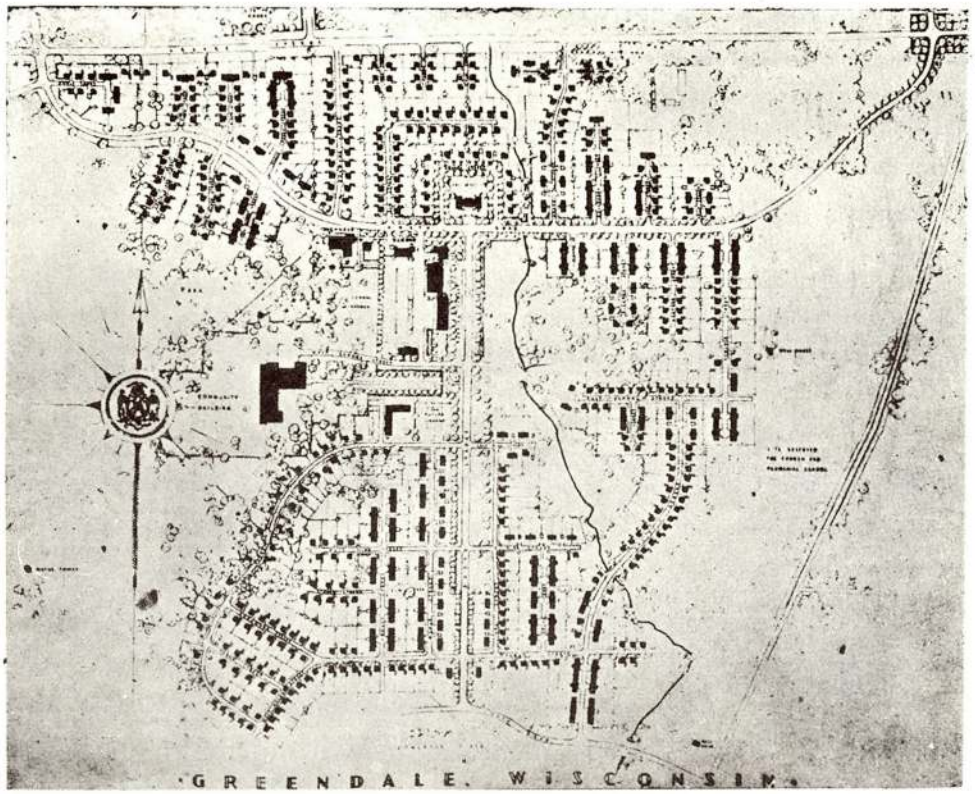
以上3つの計畫に共通する一般的特徵と云ふのは、いづれも都市自體に、望ましからざる惡狀態の發達によつて、住居地が損傷且つ侵害されて行くのを防ぐ爲めに都市自體が森林や農耕地帶で保護されて居ると云ふ事である。勿論此の性質は此處に示す都市計畫の設計に強く影響して居るのであるが、然し是等3都市の計畫及設計に於ける些少なる差異と云ふのは、地方的風土及地形、建築さるべき住宅の形體、在來より存在する道路網及其の他の要素より誘致結果したものに過ぎないのである。

都市建築の事業に最初に着手したのはコロムビア州ワシントン近郊の〃綠地帶〃都市（Greenbelt M. D.）であつた。現在では 450 戶の住宅が完成に近づきつゝあり且つ將來1,000戶の住宅が建築される豫定である。此の事業施行の爲め 4,000 人以上の勞働者が失業者登錄簿の中より同時に採用されたのであつた。シンシナチーの〃綠の丘〃（Green hills）及ミルウオキーの〃綠の谿〃（Greendale）等は、此の春より實際的に建設工事に着手し、今や是等の都市敷地の上に、最初の住宅計畫の形體が組立てられつゝあるのである。ニユージヤシー州の Bound Brook に企てられた第4の計畫[註1]は事業着手前に、コロムビア州の控訴院の反對等で中止の止むなきに到つた。

〃綠 の 谿〃（ミルウオキー）

ミルウオキーの中心より8哩、南部ミルウオキー及他の工業中心部より容易にドライヴの出來得る位置に、區劃整理局では、僅かな收入で、生活を辛うじて支持して居る家族の爲めに、廉價住宅都市なる〃綠の谿〃を建設し始めたのである。現在では供給し得る住宅

註 1 The American city, May, 1936, 59－61頁、June, 1936, 5頁、及建築と社會、昭和11年7月 49～55頁參照



第 1 圖　〃綠 の 谿〃（ウイスコンシン州）

として、僅か 750戸しか住宅が建築されて居らないが、都市面積 3,500 英町の上に、結局は 3,000 の家族の爲めの住宅を建築する豫定である。

都市建設の敷地は、むしろ平坦な地勢で、ミルウオーキー及他の都市への幹線道路を避けた、所謂〃綠の谿間〃である。森林のある小高い丘は最後に選擇された位置にして、其處は冬期寒い風が都市へ吹いて來るのを防ぎ且つ夏期のそよ風をまんべんなく都市全體に廣々と擴大さすのに役立つのである。

〃綠の谿〃の道路網計畫は、その土地が慣習又は地方的要求に適合した聚落を形成すべき新都市の設計と云ふ方策の上に樹立されて居つた。故に 3 つの主要幹線道路の形式は、(1) 幹線道路は重量交通道路とし、住宅は之れに殆んど面ぜざるもの、(2) collector 道路は之も亦交通路であるが、住宅が之れに面する場合もあるもの、そして (3)最後は住居道路それ自身で、之れは一般にクルードサツクの形式を取つて居る。此の形式の道路網が最も經濟的に計畫を施工し得るのであるが、此の經濟的と云ふ事が此の計畫の根本問題である。

商業集團地及都市中心地（community center）は補助的主要道路に沿ひ且つ住宅地より約半哩位ひ離れた都市の中心部に設けられてある。商業集團地には店舖、シネマ、旅館

及ガレージ又は野天市場、警察及消防署、及都市を管理する管理局等の建物が存在する。此の都市中心地は、原則として、小學校(elementary classroom), 産業美術、家政及純正美術室、圖書館及公會堂及體育館等の公共建築の集團すべき土地となつて居る。

〃綠の谿〃の計畫案を區劃整理局が、施工中なる他の2つの郊外都市と比較して、特異とするところは、此の計畫中には非常に多數の割合を以て獨立建住宅が含まれて居ることである。之はミルウオキー地方の住居者間に於て、獨立住宅を好むと云ふ要求が諮問カードに示された結果に外ならないのであつて、市は此の要求に從つて案を決定したものである。であるから都市計畫に於ても自然此の影響を多分に受けて居るのは當然なことであらう。

各々獨立建住宅には個々の庭園面積が用意されてあるとするならば、此の計畫の各所に大公園等を設ける必要はない譯である。兎に角、田園的聚落としての雰圍氣を保存する爲めに、此の獨立住宅建築の持つ特質が有效に作用して居る。此の事は次の事實を反映して居る。即ち休養地であるとか、體育運動場とか云ふ問題より離れて、風致に富んだ景勝公園 (landscaped Park) に注意を傾ける事が、都市郊外の何れの場合でも自然の狀態に於て兒童が遊び得る處として、更に多くの田園地又は牧場等を殘しておく事になるのであらう。

〃綠の谿〃に於ける給水及排水設備の問題に關しては、開發中であるから未だ滿足すべき結果に到達してない。

〃綠 地 帶〃(コロムビア州及ワシントン)

區劃整理局の計畫委員は、〃綠地帶〃が新しい都市として適合さすべく、コロムビア及メリーランドの兩事務官が互に協議した結果、境界線から北へ5哩の地區を全くワシントン～バルチモア地方計畫區域に編入せしめる事にした。

數種の豫定敷地が研究されて居る間に、最後の計畫案に關する意見が、數週間の研究の後一致したのである。で結局三日月形をした丘の高原地を主たる居住地域として選擇されたのであつた。此の敷地は 3つの顯著なる利益を提供して居る。即ちそれは道路、給水及排水系統等を整理する上に經濟的條件を滿足せしめ、日光と通風に就て完全な利益に浴し得る爲め、住宅の日照法を完全ならしめる事、そして掃除の世話を殆んど無くすると云ふ事等である。

町への動脈をなす幹線道路は、東に沿ふてある Edomonston 道路及南に沿ふた Branchville 通り等に對し敷地は三日月形に見渡す限り擴がつて居る。內部の通路 (thoroughfars) の配列に就ては充分注意して計畫が行きとゞいて居り、且つそれが、經濟的に設計されて居る。最初のスケツチに於ては道路を60哩も必要としたが、最後の計畫では僅か 6哩の道路を以つて更に有效な、同數の住宅に間に合ふ樣な設計が出來たのである。

車道は遙か離れて配置してあり、且つ一般的に、土地の高低(コンター)に從つて設けら

れてある。その結果、不整形の異狀に大きい區廓（ブロック）の連續が出現することゝなり、各々の區廓にはその端に 120戸程度の住宅が集團して居り、且つ區廓の中心部には公園や運動場の部分が自然に殘されて居るのである。小徑又は人道等が道路の側に配置される代りに內部にある公園等を貫通して居る。徒歩の人々を保護の爲め往來頻繁な交通道路と交叉する小徑の部分には underpasses が設けてある。

都市の公共用地又は商業の中心地は三日月形の都市敷地の中心に於ける自然的な位置に見出される。其處は各々の住宅から容易に徒歩で行ける位置で、店舖及病院、會社等の建設地として用立ち得ると同樣に、其處にある都市公共建築は二階建にして、晝間は小學校に夜間は社交又は娛樂休養の中心地としてのサーヴスに應じ得る樣な仕組になつてゐる。野球場、テニスコート及ランニングトラック等を持つ運動場は學校又は商業中心地に接近した都市公共用地に建設されるであらう。そして此の運動場は交通機關等による些少でもその危險を被る事なく遊び得る樣に道路より離れた安全な位置に建設されるのであらう。

今でも猶。容易に到達し得る都市中心地の西方には、新設のダムによつて人工的の湖が出來あがつた。此の湖の周圍の大部分が森林地帶で、ピクニックや遊園地として容易に開發出來るのである。此の湖邊は當に〃綠地帶〃の居住地としてのみならず、此の都市の他の部分にも出來るだけ接近してゐるのである。

第 2 圖　〃綠 地 帶〃都 市（ワシントン·コロンビア）



給水の問題に關しては、ワシントン郊外衞生委員會（Washington Suburban Sanitary Commission）による現存する公共的施設のものより供給を受ける事になつて居る。委員會によつて建設された主要管は此の土地の一番高い地點である Hurley Hill の上にまで竪管が導かれてあり、そこで水壓を高め都市全體に給水し得る工夫が施されてあるのである。又外側を經由して居る汚水處理場は都市の遙か西方に設置してあるが、其處は市部として最も低い低地である。Hurley Hill の上には訪問者の目標の爲め塔も亦建設される事になつて居るが、それが建設された場合には、ワシントンの遠方から無比な眺めとなる譯であらう。

都市の南部にある夥しき肥沃なる地域は、菜園（アロツトメント）の庭として利用し得る爲め離れて配置し、且つ野菜の栽培等によりて擧げ得る收穫より、定まつた月收の補充をなさんと希望する住民に此の菜園の利用が可能な様にしてある。都市を圍繞する多くの殘地は、公園であるとか或は娯樂休養地であるとかの利用にあてる爲め、天然の森林地として殘されてあつた。〃綠地〃の北部に沿ふて設置されてある國立農業調査局(The National Agricultural Reserch Center）は、森林及土地保存に於ける論證的（デモンストレーション）仕事の爲めに、都市の周圍に或程度の空地を利用し得る計畫を樹てたのである。

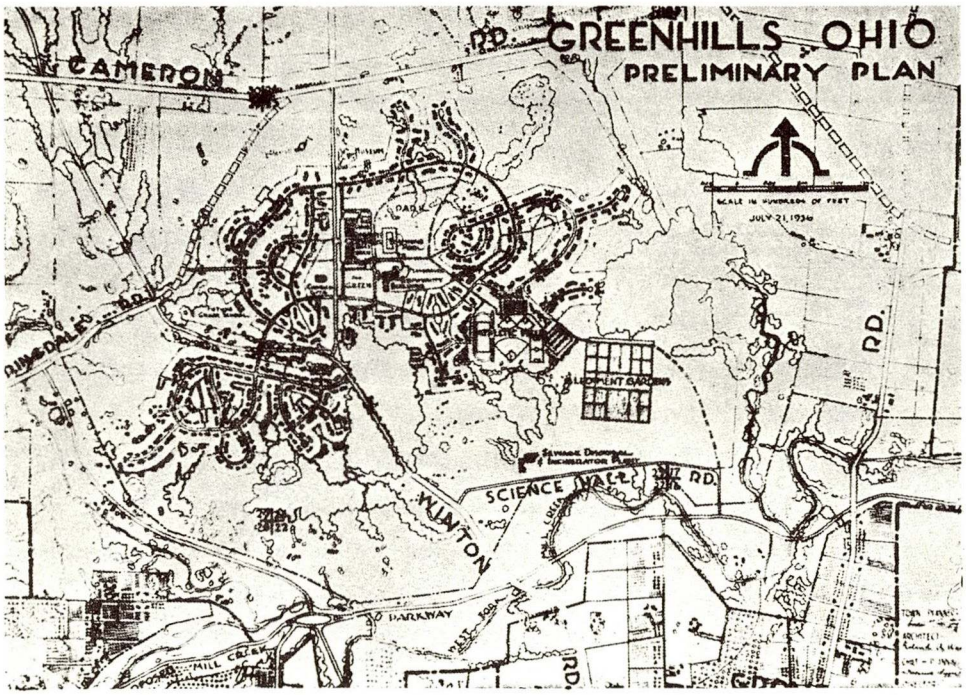
〃綠　の　丘〃（シンシナチー）

〃綠の丘〃の計畫の中心地は、シンシナチーの都市境界より北へ僅か4哩、そして下町の商業地から11哩のところにあるのである。約 6.000 英町の廣さを持つ此の土地はシンシナチーと9哩北にある稍々小都市なる Hamilton 市とを結ぶ二つの幹線道路との間に位置して居るのである。尙ほ工業地開發を目的として接續されてある幹線道路はシンシナチーの北西を貫通して居り、且つその工業地は將來〃綠の丘〃の住民の勞働豫定地でもある。

此の〃綠の丘〃は數千の家族を收容し得る能力を持つてゐる、が然し現在では僅か1,000家族分の住宅しか建てられない。

緩い傾斜（gently volling land）から嶮しき傾斜まで、地形の變化、或は在來道路の存在等が此の新しい都市計畫に相當の影響を與へてゐる。故に全體の敷地割は、不整形な種々なる形をした建設敷地より構成され且つそれが峽谷によつて分離されてゐるのである。此の建設敷地は比較的平坦な土地である計りでなく又周圍の田園的、素晴しき景色を俯瞰することが出來るのである。

二つの重要なる交通道路が、此の〃綠の丘〃豫定地として選定された時既に計畫面積の内に存在して居つたのである。南から北及北西にかけて此の計畫區域の中心を貫通してゐる補助的幹線道路が Winton Road と云ひ、Hamilton 郡の道路計畫(Hamilton Countys' Thoroughfare Plan）の境界線を通る幹線の一つにして西より計畫區域の中に這入つて來て Winton Road のところで終つてゐるのを Springdale Road と云ふのである。



第 3 圖　〃綠 の 丘〃（オハヨー州）

新しい道路網は緩い曲線の道路による構成で且つ土地の地形に從ひ不整形な建築敷地が連續して居るのである。であるから在來道路と計畫道路とが結合するところでは、自然不整形な大きい住宅地區としての區廓が殘される譯である。それ故に最も經濟的に此の〃綠の丘〃の計畫を遂行する爲めの道路網計畫に於ては、要求される勾配の問題、汚水處理の問題等が關連して來なければならないのである。だが然し住宅地道路網としてはニュージヤシー州のラツドバーンに於て採用したと同樣な所謂クルードサツク式が此處でも實用化ささされて居る。

都市全體を通じて、道路網計畫には特に樹木の効果をねらつた景色を以て形式ばらぬ愉快な雰圍氣を醸すべく指導されてあつたが、之は峽谷を自然の狀態に殘し且つこれらを娯樂休養の爲めに利用すべく設計することによつて容易に遂行し得るのである。最初の近隣住宅地の南に直接し、且つ全區域の南部を自然的に境界して居る。景勝の秀れた小河及その流域は遊園地又はピツクニツク用地として自然のまゝ保存されてある。

〃綠の丘〃に於ける都市中心地は原則に隨つて村の焦點たるところに中心地が設置されてあり、且つ又其の處は Winton と Springdale 道路の接合する附近である。此處には店舖及事務所及都市公共用建築等のある商業的中心地である。そして此の地點へ都市の各方面より容易に集合し得る樣に、充分なる駐車場（parking space）を留保してある。

學校と組合されて居る都市公共用建築物(Community building)は都市の殆んど確實な中心地に建設されてあり、且つその周圍には充分な空地が用意されてあるが、之れ等の空地

はまた、要求さへあれば、町の教會用の敷地として提供され得るのである。尙ほ小學校は接續されてある兒童遊園地は都市計畫として特色のあるものである。

他の〃線地帶〃都市に共通なる如く此の〃線の丘〃なる都市は田園及森林地の如き保護地によつて圍繞されて居るのであるから、菜園地としては平坦な地域が利用され且つ凸凹な傾斜地などは娯樂休養の地として留保されるのは當然なことであるが、農耕用地としては外部の離れた土地が占用されて居るのである。(龜井幸次郎)

譯者註

次に示す譯語は適譯にあらざると思ふが故に讀者諸兄の御教示を乞ふ。

1) **區劃整理局**—Resettlement Administration.
2) **都市公共建築**—Community buildi ng.
3) **〃線帶又は線地帶〃都市**—"Green belt" Town.
4) **〃線の谿〃**—Greendale.
5) **〃線の丘〃**—Green hills.
6) **國土農業調査局**—The National Agricultural Reserch Center

本號執筆者紹介

(五十音順)

龜井幸次郎	大阪府警察部建築課技師
小泉嘉四郎	大阪市臨時校園建設所
小林政一	東京工業大學教授
匂坂弘美	大阪府警察部建築課
田誠	國際觀光局長
瀧澤眞弓	神戸高等工業學校教授
中尾保	中尾建築事務所主
原隨園	文學博士・京都帝國大學文學部教授
本多正道	大阪市臨時校園建設所技師・本協會常務
森田慶一	工學博士・京都帝國大學教授
吉田信武	都市計畫大阪地方委員會

10月號

交　通　島

ミルヲーキーは如何にして複雑なる交通點に於ける車流竝に日夜增加する徒歩者の安全を保持統制するかを述べしもの。Howard F. Ilgner 氏記述。"The American City" 1936年8月號所載。

街路上の事故を防止するに必要なる一般的手段は、疾走せる車輛を他の運轉中の車輛、徒歩者或は其の他の靜止體より分離し、相互の接觸を避けるにあり、技術的見地より、之が實行法として、

1. 街路面の適當なる割當によるもの
   (a) 鋪裝標識によるもの　(b) 交通島によるもの
2. 交通標識によるもの　3. 交通信號によるもの　4. 立體交叉によるもの
5. 適當なる可視施設によるもの

等が最も一般的手法とされてゐる。

都市内に於ける自動車禍の約6割5分迄は徒歩者に關聯せるものであるが故に、賢明なる交通計畫を樹立せんには先づ徒歩者に對する熟慮を廻らさねばならねことは始めより明白な結果である。高架歩道や地下歩道は大量的に速刻に徒歩者問題を解決し得ないし、事實其の有効さは認められてゐても今尙其の實例に乏しい。速刻路面上に於ての圓滑なる交通手法の發展が目下の急務なのである。同樣に、車道の立體交叉も現今一般的都市街路としては考へられないし、又完全なる理想的立體街路を以て全市を蔽ふことは到底望み得ないこと故、結局都市交通の樞點は路面上の手段に存すると云はねばならぬ。

從つて、街路面の適當なる割當は交通安全問題上非常なる重大性をもつものであり、之がため從來は相當長年月に亘つて、交通ボタンを有する路面鋪裝標識が多く用ひられ來つた。交通禍を醫すべき交通ボタンも其の使用上の上の不注意から漸次姿を消すに至つたが、適當なる位置に配された適當なる意匠を存する電飾交通ボタンは今尙路面を配分するに最も有効なる裝置の一であると考へられるのである。

複雜なる交叉點や幅員大なる道路に於ける交通島による自動車交通の道筋の指定は、交通狀況の改良上重要なる手段となつてゐる。この道筋指定は各種の車輛交通を分離し、方向を定め、自動車に對してのみならず徒歩者に對しても一層の安全性をもたしめるに役立つものである。徒歩者は、自動車の通るべき道筋及方向を知りつつ、短距離の緣石間を渡ればよいので、從來の如く長距離の横斷路をもつ交叉點を、道筋及方向の一定しない混沌たる自動車交通に惱まされつつ横斷する必要はない。

ミルヲーキーにて使用されてゐる交通島は、自動車にとつて大なる危險なく而も故意に之を乘り超えられぬ程度の低構造となつて居り、其の緣には琥珀色の交通標識を質素に取り付け、夜は街燈線を之に連絡し島の存在及其の形や大きさを明示してゐる。而して幅員の廣大な道路に沿つた中央島には、普通この標識燈が二箇あり、其の存在と幅員とを知らしめ、又街路交叉點に於ける三角島には各稜に一つ宛の標識燈を設けてゐる。この標識燈は街路上の他の燈と紛れないやう、又自動車の前照燈による眩輝を防止し得る位置、普通交通島床面近くに置かれてゐる、

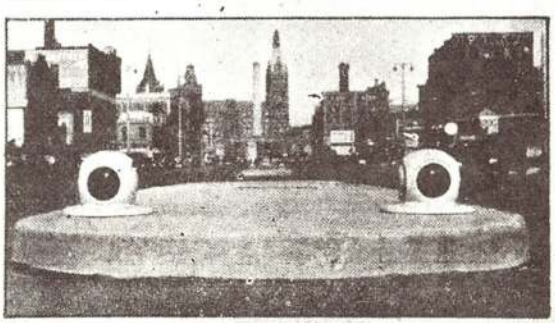
以下に、ミルヲーキーに於ける多少珍しい交通島の數例を、圖と共に揭げる。



第 1 圖 ・ ミルヲーキーに於て使用されつつある交通島及照明方法



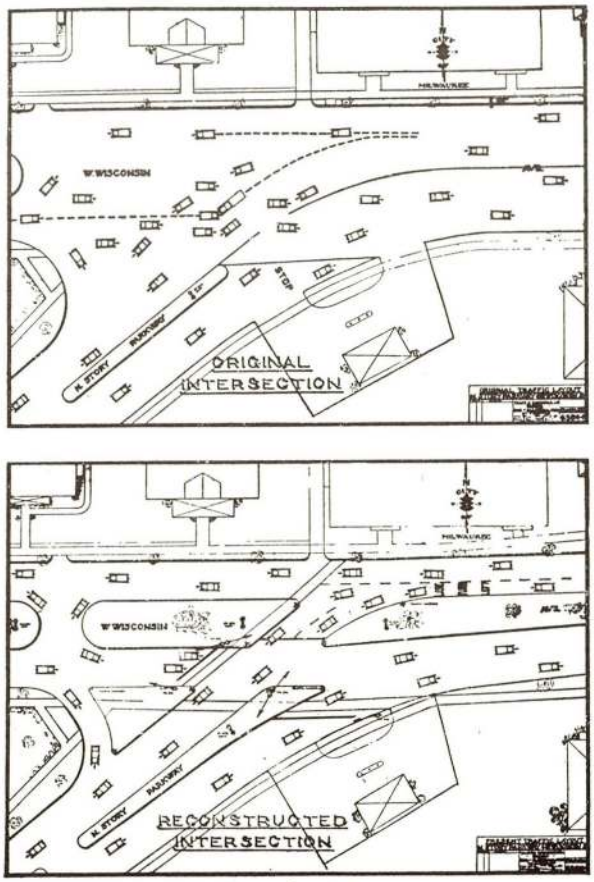
第 2 圖 ・ ノース・ストーリー公園街及ウエスト・ウイスコンシン通交叉點



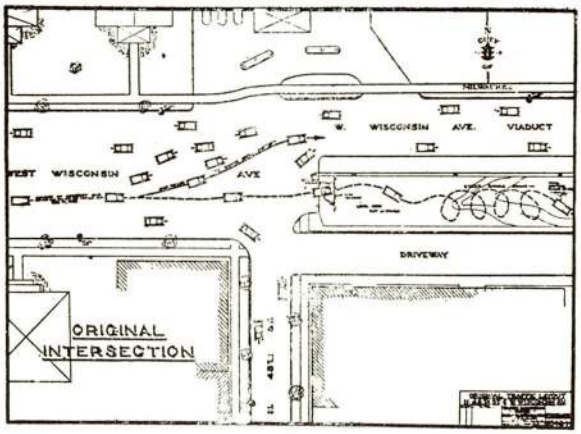
第 1 圖

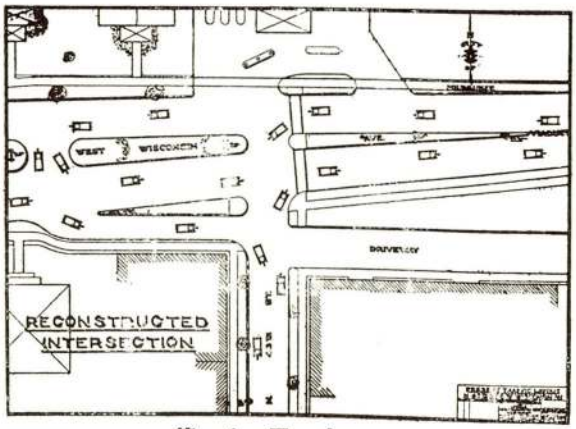
ある。自動車を自由に運動せしめ得るに充分な空地があれば交通上卿の困難さが伴はないものと考へられてゐた時代もあつたが、それは却つて徒歩者にとつても非常な混亂を招くものと現在では考へられるに至つた。

新交叉點(下段)――交叉點改築に際して、交通島の趣旨が圖に見る如くよく應用され、現在では最早自動車流が何處を流れるかとの疑問、或は街路を横斷するのにタキシーを呼ばればならぬ心配が解決したのである。之によつて、自動車接觸の危險面積の減少、交通信號による統制の容易と云ふ二事項の生れたことは特筆に値する。即ち、この地點は市内西部の要衝であり、交通最も頻繁であるに拘らず、交通信號の一循は僅に36秒間である。



第 2 圖



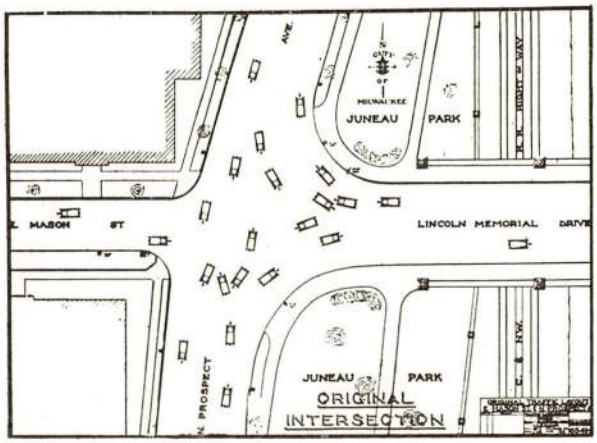


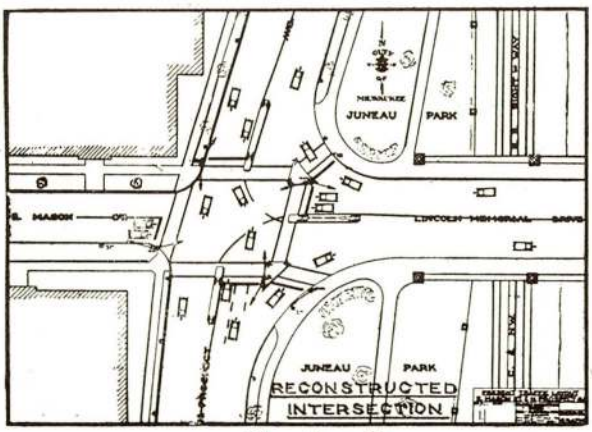
第 4 圖 A

第 3 圖 • ノース45街及ウエスト・ウイスコンシン通交叉點

舊交叉點(上段)——本圖は改良前の危險さをあらはしたもので、此處の位置を充分知らない者は屢々この罠に陷らざるを得ないやうに出來てゐた。

新交叉點(下段)——大公園通路を交叉點迄擴張し、陸橋の西端を次第に細くし、完全に圓滑なる交通流の方向指定が行はれたもので、この改良は最も成功せるものとして有名である。



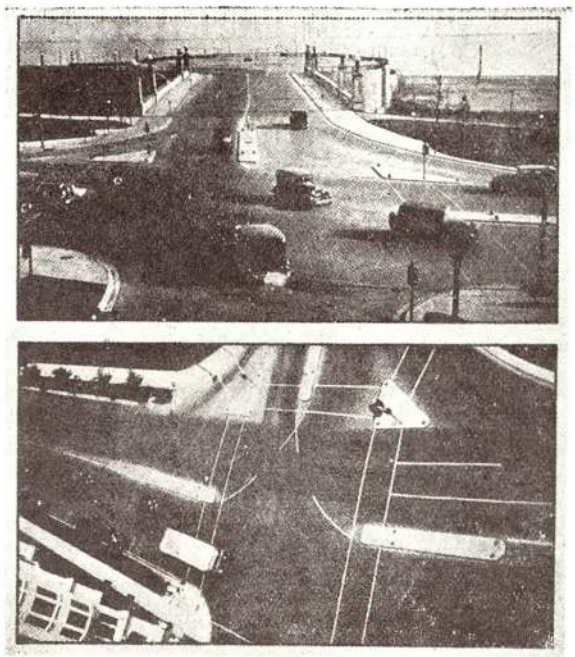


第 3 圖

第 4 圖 (A) • イースト・メゾン街及ノース・プロスペクト通交叉點

舊交叉點(上段)——この場合、舊交叉點は曠大な公開鋪裝となつてゐたのみで、自動車にとつても安全どころではなく、橫斷步行者にとつても極めて危險であつた。其の半徑の大なるため、反對方向の自動車がどのコースを走つて來るかが判明せず、自動車運轉者にとつても、徒步者にとつても甚だ不安であつた。

新交叉點(下段)——交通島を以て改造されたこの交叉點に於ける橫斷距離は、避難所間僅々30呎に低下し、特に挾まれた三角島によつて出來た右折小車道の幅員は20呎に過ぎず、從つて右折自動車はこの間を徒步者が橫斷する極く少しの時間だけ停止すれ

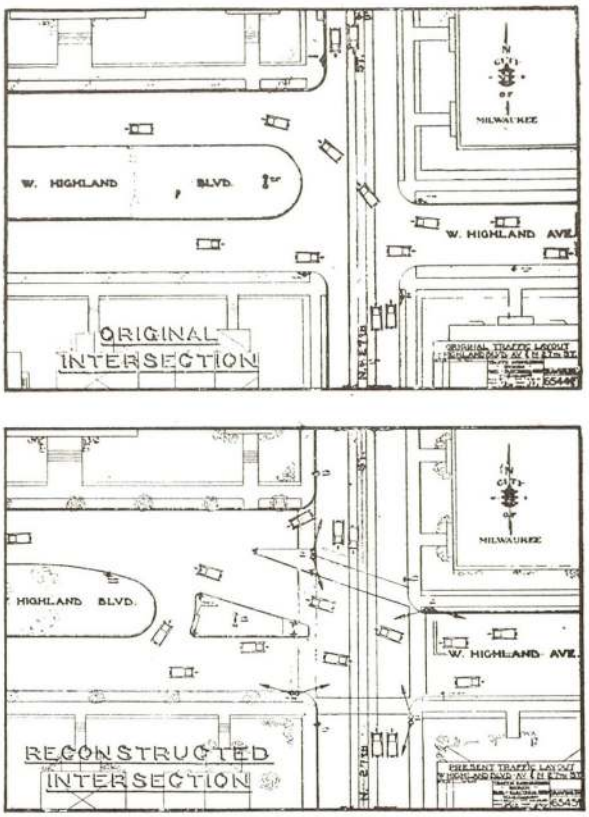


第 4 圖 B

ばよいことになつてゐる。事實上、右折せんとする自動車が目先に停止信號を認めた場合でも、暫く徐行すればよい程度である。

第 5 圖 A・ノース27番街及ウエスト・ハイランド通交叉點

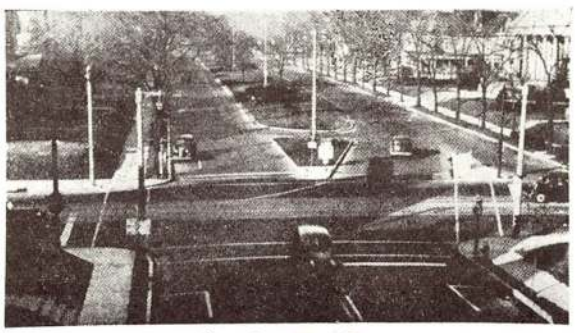
舊交叉點(上段)——自動車によつても徒歩者にとつても實に恐ろしい交叉點であつた。



第 5 圖 A

新交叉點(下段)——從來の標準中央島の尖端を區切り、他に1島を設けることによつて、圖に見るが如く、自動車は圓滑に運轉し得られ、又徒歩者は一定の進路と避難所を與へられることになつた。中央島の分割により、U廻轉をなさんとする自動車によつても、混雜せる交叉點にて行ふ必要がなく非常に便利となつたわけである。

(吉 田 信 武)



第 5 圖 B

特殊建築物規則

内務省令第三十一號

特殊建築物規則左ノ通リ定ム

昭和十一年九月十一日

内務大臣　潮　惠之輔

第一章　總　則

第一條　本令ハ市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依リ左ノ各號ノ建物ニ之ヲ適用ス

建物ノ一部ヲ左ノ各號ノ用途ニ供スルモノニ在リテハ其ノ部分ニ付亦同シ

一　學校

二　住戸又ハ住室ノ床面積ノ合計百五十平方メートル以上ノ共同住宅

三　床面積千平方メートル以上ニシテ建物ノ第三階以上ノ階ニ賣場ヲ有スル百貨店

四　自動車車庫但シ床面積二十平方メートル以下ニシテ專ラ小型自動車ヲ格納スルモノヲ除ク

建物ニシテ其ノ一部ヲ前項各號ノ用途ニ供スルモノニ付テハ地方長官ハ其ノ他ノ部分ニ對シ保安上相當ナル構造設備ヲ命ズルコトヲ得

第二條　避難階段ハ屋内避難階段、準屋内避難階段及屋外避難階段ノ三種トス

屋内避難階段ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ地上階ニ設クルモノニ付最上部ニ在リテハ第一號、第二號、第四號又ハ第五號ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

一　屋内トノ連絡ニハ露臺又ハ外氣ニ開放スル附室ヲ設クルコト

二　階段室及附室ハ耐火構造ノ壁體ヲ以テ之ヲ圍繞スルコト

三　階段室ニハ外氣又ハ附室ニ面シ適當ナル窓又ハ之ニ代ルベキ採光面ヲ設クルコト

四　階段室、露臺及附室ニハ屋内ニ面シ出入口以外ノ開口ヲ設ケザルコト

五　屋内ヨリ露臺又附室ニ通スル出入口ニハ自動閉鎖ノ甲種防火戸ヲ設クルコト

六　前號ノ出入口及露臺又ハ附室ヨリ階段室ニ通ズル出入口ニ設クル扉ハ地方長官ノ承認スル場合ヲ除クノ外第一階ニ向フ避難ノ方向ニ開ク設備ト爲スコト

七　階段ハ耐火構造ト爲シ第一階迄直通セシメ第一階ニ於テハ直接非常口ニ通ズルコト

準屋内避難階段ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ地上階ニ設クルモノニ付最上部又ハ第一階ニ在リテハ第一號、第三號又ハ第四號ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

一　階段室ハ外氣ニ面スル部分ノ除クノ外耐火構造ノ壁體又ハ甲種防火戸ヲ以テ之ヲ圍繞スルコト

二　階段室ニハ外氣ニ面シ適當ナル窓又ハ之ニ代ルベキ採光面ヲ設クルコト

三　階段室ノ屋内ニ面スル壁面ニ窓ヲ設クル場合ニハ其ノ面積ハ各一平方メートル以内トシ且鐵骨網入硝子造ノ嵌殺戸又ハ之ニ代ルベキ設備ノ戸ヲ設クルコト

四　屋内ヨリ階段室ニ通ズル出入口ニハ防火戸又ハ鐵骨網入硝子戸ヲ設ケ且地方長官ノ承認スル場合ヲ除クノ外自動閉鎖ノ設備ヲ爲スコト

五　前號ノ出入口ニ設クル扉ハ前項第六號ノ規定ニ準ズルコト

六　階段ハ耐火構造ト爲シ第一階迄直通セシメ第一階ニ於テハ適當ニ非常口ニ連絡スルコト

屋外避難階段ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ地上階ニ設クルモノニ付最上部ニ在リテハ第三號又ハ第四號ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

一　建物ノ外側ニ設クルコト

二　階段及踊場ノ有效幅員ハ六十センチメートル以上ト爲スコト

三　階段、踊場又ハ露臺ニ近接スル部分ノ壁面ニ窓ヲ設クル場合ニハ其ノ面積ハ各一平方メートル以内トシ且鐵骨網入硝子造ノ嵌殺戸又ハ之ニ代ルベキ設備ノ戸ヲ設クルコト

四　屋内ヨリ階段ニ通ズル出入口ニハ自動閉鎖ノ防火戸又ハ鐵骨網入硝子戸ヲ設クルコト

五　前號ノ出入口ニ設クル扉ハ第二項第六號ノ規定ニ準ズルコト

六　階段ハ耐火構造ト爲シ地盤面迄直通セシメ

道路、廣場ノ類ニ適當ニ連絡スルコト

第三條　非常口トハ左ノ構造設備ヲ有スル出入口ヲ謂フ

一　有效幅員ハ七十五センチメートル以上ナルコト

二　扉ハ內開ナラザルコト

三　道路、廣場ノ類ニ適當ニ連絡スルコト

第四條　壁體ヲ以テ遮斷セラルル建物又ハ防火壁、防火戶ノ類ヲ以テ區劃セラルル建物ニ付テハ階段、出入口又ハ此等ニ代ルベキ設備ニ關スル規定ハ遮斷又ハ區劃セラルル部分ニ對シ各別ニ之ヲ適用ス

防火壁、甲種防火戶ノ類ヲ以テ區劃セラルル建物ノ部分ニシテ隣接スル區劃ニ適當ニ連絡スル設備アルモノニ在リテハ地方長官ハ保安上支障ナシト認ムル場合ニ限リ其ノ部分ニ設クル出入口ヲ以テ避難階段又ハ非常口ト看做スコトヲ得

第五條　地方長官保安上必要アリト認ムルトキハ第一條各號ノ建物ニ對シ非常警報機、屋上水槽、貯水槽、消火栓、「スプリンクラー」ノ類ノ設備其ノ他防火上又ハ避難上必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第六條　假設的ノ建物ニ付テハ地方長官支障ナシト認ムルトキハ本令ノ規定ニ拘ラズ存續期限ヲ附シ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

第七條　本令ハ市街地建築物法施行規則第百四十九條ノ二ノ規定ニ依リ內務大臣ノ指定スル區域ニ對シテハ之ヲ適用セズ但シ同條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル建物又ハ地區ニ對シテハ地方長官ハ命令ヲ以テ本令ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ妨ゲズ

第二章　學　　校

第八條　建物ノ第三階以上ノ階ニ教室其ノ他生徒（學生、兒童ヲ含ム以下之ニ同ジ）ヲ收容スル室ヲ設クル學校ノ建物ハ其ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根（屋根ナキトキハ直上階ノ床以下之ニ同ジ）及階段ヲ耐火構造ト爲スベシ

第九條　小學校（小學校ニ類スル各種學校ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ在リテハ建物ノ第四階以上ノ階ニ教室其ノ他兒童ヲ收容スル室ヲ設クルコトヲ得ズ

第十條　校舍ノ本屋ト隣地境界線トノ距離ハ地方長官ノ承認スル場合ヲ除クノ外四メートル以上ト爲スベシ

第十一條　小學校ニ在リテハ兒童全員ノ避難用ニ供スル爲講堂、屋內體操場又ハ校舍ノ一部ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段ヲ耐火構造ト爲スベシ

前項ノ耐火構造ノ部分ト耐火構造ニ非ザル部分トノ境界ニ設クル出入口ニハ甲種防火戶ヲ設クベシ

第十二條　教室其ノ他生徒ヲ收容スル室ニハ廊下、廣間ノ類又ハ屋外ニ面シ二以上ノ出入口ヲ設クベシ

第十三條　小學校ニ在リテハ兒童ノ常用ニ供スル階段ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　第一階又ハ地盤面迄直通スル階段ノ數ハ各階ニ付教室數八以內ノトキハ二以上トシ教室數四又ハ其ノ端數ヲ增ス毎ニ一ヲ加フルコト但シ教室數三以內ノ場合ニ於テ一ノ階段ヲ設ケ別ニ避難上有效ナル設備ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二　階段及踊場ノ有效幅員ハ一・四メートル以上ト爲スコト

三　直階段ニ於ケル踊場ノ踏幅ハ一・二メートル以上ト爲スコト

四　蹴上ハ十六センチメートル以下ト爲スコト

五　高三メートルヲ超ユルトキハ高三メートル以內毎ニ踊場ヲ設クルコト

六　有效幅員二メートヲ超ユル階段ニハ中間ニ手摺ヲ設クルコト

第十四條　木造校舍第一階ニハ生徒ノ常用ニ供スル階段ニ近接シテ運動場其ノ他ノ空地ニ適當ニ連絡スル出入口ヲ設クベシ

第十五條　生徒ノ常用ニ供スル廊下ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　片廊下ニ在リテハ其ノ有效幅員ヲ一・八メートル以上ト爲スコト

二　中廊下ニ在リテハ其ノ有效幅員ヲ二・三メートル以上ト爲スコト

三　勾配ハ八分ノ一ヲ超エザルコト

第十六條　屋上運動場ノ周圍ニハ高一・一メートル以上ノ扶壁ヲ設クベシ

第十七條　木造校舍ノ構造強度ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ特別ノ手法ニ依ルモノ又ハ教室其ノ他ノ室ノ規模小ナルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　外壁ニハ堅固ナル筋違ヲ用フルコト

二　桁行十二メートルヲ超ユルトキハ間隔十二メートル以内毎ニ堅固ナル筋違ヲ用ヒテ構成シタル通壁ノ間壁ヲ設クルコト之ニ依リ難キ場合ニ於テハ適當ナル間隔ニ控柱、控壁ノ類ヲ設クルコト

三　特別ノ場合ヲ除クノ外桁行間隔二メートル以内毎ニ柱、梁及小屋組ヲ配シ堅固ナル方杖ヲ用ヒテ之ヲ繋結スルコト

四　床組及小屋梁組ハ堅固ナル燧材其ノ他ノ斜材ヲ用ヒテ構成シ第一號及第二號ノ壁體ニ緊著スルコト

五　二階建ニ於ケル柱ニシテ主要ナルモノハ通柱ト爲スコト

六　主要ナル柱ノ大サハ十五センチメートル角以上又ハ之ニ相當スル强度ヲ有スルモノト爲スコト

七　主要ナル柱ハ其ノ斷面積ノ四分ノ一以上ヲ缺取ラザルコト

八　主要ナル柱、梁、桁、土臺、筋違、方杖、燧材ノ類ノ繼手及仕口ハ「ボールト」、羽子板金物、短册金物ノ類ヲ用ヒ適當ナル方法ニ依リ緊著スルコト

第十八條　地方長官學校ノ種類、校舍若ハ教室ノ規模構造又ハ周圍ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキ又ハ特別ノ事由ニ依リ已ムヲ得ズト認ムルトキハ第九條又ハ第十一條乃至第十五條ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

第三章　共同住宅

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル共同住宅ノ建物ハ其ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段ヲ耐火構造ト爲スベシ

一　建物ノ第二階ニ於テ共同住宅ノ用ニ供スル部分ノ床面積六百平方メートルヲ超ユルモノ

二　建物ノ第三階以上ノ階ニ住戸又ハ住室ヲ設クルモノ

第二十條　住戸又ハ住室ノ居室（賣場、仕事場及炊事場ヲ除ク）ノ床ハ地盤面下ニ之ヲ設クルコトヲ得ズ

第二十一條　有效採光面積ノ計算ニ付市街地建築物法施行規則第十九條第三項ノ規定ノ適用ニ關シテ住戸又ハ住室ノ居室ハ住居地域外ニ在ルモノト雖モ住居地域內ニ在ルモノト看做ス

第二十二條　住戸又ハ住室ノ居室（賣場及仕事場ヲ除ク）ニハ外氣又ハ廊下、廣間ノ類ニ通ズル適當ナル換氣口ヲ設クベシ但シ地方長官其ノ構造設備ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條　共用ノ便所ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　外氣ニ面シ開放シ得ル窓ヲ設クルコト

二　床及床面ヨリ十センチメートル迄ノ部分ノ周壁ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ構成又ハ被覆スルコト

第二十四條　主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段耐火構造ノ共同住宅ニ在リテハ床面積六百平方メートルヲ超ユル階ハ六百平方メートル以內毎ニ防火壁、甲種防火戸ノ類ヲ以テ之ヲ區劃スベシ

前項ノ構造ニ該當セザル共同住宅ニシテ其ノ建築面積三百平方メートルヲ超ユルモノハ三百平方メートル以內毎ニ防火壁ヲ以テ之ヲ區劃スベシ

第二十五條　共同住宅ト共同住宅ニ非ザル部分トノ境界ヲ成ス壁體耐火構造ニ非ザルトキハ鐵網「モルタル」塗、漆喰塗、土塗其ノ他之ニ類スル構造ト爲スベシ住戸又ハ住室ノ境界ヲ成ス壁體ニ付亦同ジ

共同住宅ノ屋根耐火構造ニ非ザル場合ニ於テ桁行又ハ張間十二メートルヲ超ユルトキハ間隔十二メートル以內毎ニ防火上有效ナル設備ヲ以テ屋根裏ヲ區劃スベシ

第二十六條　建物ノ第二階ニ設クル別構ノ住戸又ハ住室床面積ノ合計百平方メートル以上ノ場合ニ於テ其ノ床耐火構造ニ非ザルトキハ其ノ直下階ノ天井ハ鐵網「モルタル」塗、耐火木材張其ノ他之ニ類スル構造ト爲スベシ

自動警報機ノ類ノ設備ヲ爲ス場合ニ於テ地方長官保安上支障ナシト認ムルトキハ前項ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

第二十七條　共同住宅ニ於テ常時火氣ヲ使用スル箇所ニハ防火上適當ナル設備ヲ爲スベシ

第二十八條　建物ノ第一階ニ住戸又ハ住室ヲ設クル共同住宅ニハ適當ノ箇所ニ其ノ階ノ各住戸又ハ住室ヨリ連絡スル二以上ノ非常口ヲ設クベシ但シ其ノ階ノ主要ナル壁體、床、柱及屋根耐火構造ニシテ地方長官保安上支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條　建物ノ第二階ニ別構ノ住戸又ハ住室

ヲ設クル共同住宅ニハ適當ノ箇所ニ其ノ階ノ各住戸又ハ住室ヨリ連絡スル二以上ノ階段ヲ設クベシ但シ第二階ノ主要ナル壁、床、柱、屋根及階段耐火構造ノ場合又ハ第二階ノ規模小ナル場合ニ於テ地方長官保安上支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ階段ハ建物ノ外側ニ設クルモノヲ除クノ外左ノ親定ニ依ルベシ

一　階段室ノ壁體ハ三方面以上ニ於テ鐵網「モルタル」塗、漆喰塗、土塗又ハ之ト同等以上ノモノト爲スコト

二　階段室ニハ外氣ニ面シ適當ナル窓又ハ之ニ代ルベキ採光面ヲ設クルコト

三　第一階ニ於テハ各別ノ非常口ニ適當ニ連絡スルコト

四　階段及階段ヨリ非常口ニ至ル部分ノ周圍ハ地方長官保安上支障ナシト認ムル場合ヲ除クノ外常時火氣ヲ用フル用途ニ供セザルコト

第三十條　建物ノ第三階以上ノ階ニ別構ノ住戸又ハ住室ヲ設クル共同住宅ニハ適當ノ箇所ニ第三階以上ノ各階ノ各住戸又ハ住室ヨリ連絡スル二以上ノ避難階段ヲ設クベシ但シ第三階又ハ第四階左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ階ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　第三階ニ於ケル住戸又ハ住室ノ床面積ノ合計四百平方メートル以下ノ場合ニ於テ適當ノ箇所ニ前條第二項ノ親定ニ依ル二以上ノ直通階段ヲ有スルトキ

二　第三階ニ於ケル住戸又ハ住室ノ床面積ノ合計二百平方メートル以下ノ場合又ハ第四階ニ於ケル住戸又ハ住室ノ床面積ノ合計百五十平方メートル以下ノ場合ニ於テ一ノ避難階段ヲ設ケ別ニ避難上有效ナル設備ヲ有スルトキ

第三十一條　共同住宅ノ敷地内ノ通路ニシテ非常口又ハ避難階段ニ連絡スルモノノ有效幅員ハ一・二メートル以上ト爲スベシ

第三十二條　住戸又ハ住室ノ床面積ノ合計百平方メートル以上ノ階ヨリ連絡スル常用ノ共用階段ノ有效幅員ハ一メートル以上ト爲スシ

第三十三條　住戸又ハ住室ノ床面積ノ合計百平方メートル以上ノ階ニ設クル常用ノ共用廊下ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　廊下ノ有效幅員ハ片廊下ニ在リテハ一・二メートル以上中廊下ニ在リテハ一・五メートル以上ト爲スコト

二　廊下ニハ其ノ各部分ヨリ十メートル以内ニ採光換氣上適當ナル窓其ノ他ノ開口ヲ設クルコト但シ天窓又ハ廊下ノ端部ニ設クル窓其ノ他ノ開口ニ付テハ地方長官ノ認定ニ依リ十メートルヲ三十メートル迄ト爲スコトヲ得

三　前號ノ窓其ノ他ノ開口（天窓ヲ除ク）ノ面積ハ一平方メートル以上ト爲スコト

廊下ニ接スル階段室、廣間等ニシテ採光換氣上適當ナル窓其ノ他ノ開口ヲ有スルモノアル場合ニ於テハ地方長官ノ認定ニ依リ之ニ通ズル部分ヲ以テ前項ノ窓其ノ他ノ開口ニ代フルコトヲ得

第三十四條　地方長官保安上必要アリト認ムルトキハ主要ナル壁體、床、柱、直上階ノ床及階段耐火構造ニ非ザル工場、倉庫、市場、料理店、飲食店其ノ他地方長官ノ指定スル用途ニ供スル建物ノ上階ニハ共同住宅ノ建築ヲ禁止スルコトヲ得

共同住宅ハ高架工作物内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ズ

第四章　百貨店

第三十五條　床面積五千平方メートル以上ノ百貨店ハ二方面以上ニ於テ道路ニ面スベシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ前項ノ百貨店ニ付駐車若ハ操車ノ用ニ供スル適當ナル餘地ノ存置又ハ之ニ代ルベキ設備ヲ命ズルコトヲ得

第三十六條　建物ノ第三階以上ノ階ニ賣場ヲ有スル百貨店ノ建物ハ其ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段ヲ耐火構造ト爲スベシ

第三十七條　床面積千五百平方メートルヲ超ユル階ハ千五百平方メートル以内毎ニ防火壁、甲種防火戸ノ類ヲ以テ之ヲ區劃スベシ但シ些少ノ超過ニシテ地方長官保安上支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十八條　建物ノ第一階ニ賣場ヲ設クル百貨店ニハ適當ノ箇所ニ其ノ階ノ賣場ヨリ連絡スル二以上ノ非常口ヲ設クベシ

第三十九條　建物ノ第五階以上ノ階ニ賣場ヲ設クル百貨店ニハ避難ノ用ニ供シ得ル適當ナル屋上廣場ヲ設クベシ

第四十條　百貨店ノ階段ハ特ニ地方長官ノ承認スル場合ヲ除クノ外避難階段ト爲スベシ

賣場ノ各部分ヨリ避難階段ニ至ル歩行距離ハ三十メートル以内ト爲スベシ

第四十一條　百貨店ニハ各階ノ賣場及第三十九條ノ規定ニ依ル屋上廣場ヨリ連絡スル二以上ノ避難階段ヲ設クベシ

建物ノ第五階以上ノ階ノ賣場ヨリ連絡スル避難階段ハ其ノ一以上ヲ屋內避難階段ト爲スベシ

建物ノ第五階以上ノ階ニテ其ノ階ノ床面積三千平方メートルヲ超ユルモノニハ超過面積三千平方メートル以內毎ニ第四階以下ノ階ノ用ニ供セザル屋內避難階段ヲ設クベシ此ノ場合ニ於テハ第四條第一項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第四十二條　避難階段ノ有效幅員ノ合計ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　地上階ニ在リテハ其ノ避難階段ヲ通ジ避難スベキ其ノ階以上ノ各階ノ床面積ノ合計百平方メートルニ付六センチメートル以上且其ノ階ノ床面積百平方メートルニ付三十センチメートル以上ト爲スコト

二　地階ニ在リテハ其ノ階ノ床面積百平方メートルニ付四十センチメートル以上ト爲スコト

避難階段ニ通ズル出入口ノ有效幅員ノ合計ハ各階毎ニ其ノ階ノ床面積百平方メートルニ付地上階ニ在リテハ二十七センチメートル以上地階ニ在リテハ三十六センチメートル以上ト爲スベシ

前二項ノ所要最小有效幅員ノ計算ニ關シテハ專ラ一又ハ二ノ階（地階ヲ除ク）ノ用ニ供スル避難階段又ハ之ニ通ズル出入口ニ付テハ其ノ有效幅員ニ一・五ヲ乘ジタルモノニ依ルモノトス

第一階ニ設クル非常口ノ有效幅員ノ合計ハ地上階及地階ノ床面積ノ合計百平方メートルニ付六センチメートル以上且地上階及地階中最大ノ階ノ床面積百平方メートルニ付四十センチメートル以上ト爲スベシ

第四十三條　前二條ノ規定ノ適用ニ關シテハ屋上廣場ハ之ヲ階ト看做ス

第四十四條　百貨店ニ在リテハ第四條第二項ノ規定ニ依リ出入口ヲ避難階段又ハ非常口ト看做ス場合ハ其ノ出入口ノ外第四十二條第一項又ハ第三項ノ所要最小有效幅員ノ三分ノ二以上ノ有效幅員ヲ有スル避難階段又ハ非常口アル場合ニ限ルモノトス

第四十五條　地方長官各階ノ床面積又ハ利用狀況、階段ノ數又ハ種類、露臺又ハ附室ノ面積等ニ依リ保安上支障ナシト認ムルトキハ第四十一條、第四十二條又ハ前條ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

第四十六條　床面積一萬平方メートル以上ノ百貨店ニハ適當ニ「スプリンクラー」ノ設備ヲ爲スベシ

「スプリンクラー」ノ設備ヲ爲ス場合ニ於テ地方長官保安上支障ナシト認ムルトキハ第三十七條、第四十一條、第四十二條又ハ第四十四條ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

第四十七條　賣場ノ天井ハ之ヲ吹拔ト爲スコトヲ得ス但シ第一階ノ天井ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十八條　中間階ニシテ其ノ床面積直下階ノ床面積ノ五分ノ一以上ノモノハ之ヲ階ト看做ス

第四十九條　餘興場、展覽場、客用食堂其ノ他多人數來集スル室ハ之ヲ賣場ト看做ス

第五章　自動車車庫

第五十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場所ニ面スル敷地ニハ地方長官ハ自動車車庫ノ規模、格納スベキ自動車ノ種類又ハ土地ノ狀況ニ依リ自動車車庫ノ建築ヲ禁止スルコトヲ得

一　幅員六メートル未滿ノ道路

二　道路ノ交叉點、曲角又ハ急坂

三　道路上ニ設クル電車停留場若ハ引返場、安全地帶、橫斷步道、橋詰又ハ踏切附近ノ道路

四　公園、小學校、幼稚園其ノ他地方長官ノ指定スル施設ノ出入口附近ノ道路

五　前各號ノ外交通上支障アリト認メ地方長官ノ指定スル道路

第五十一條　地方長官自動車車庫ノ規模、格納スベキ自動車ノ種類又ハ土地ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ車庫ノ前面ニ適當ナル餘地ヲ存セシムルコトヲ得

第五十二條　建物ノ第二階以上ノ階又ハ地盤面ヨリ六メートル以上ニ在ル箇所ニ設クル自動車車庫ノ建物ハ其ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段ヲ耐火構造ト爲スベシ

第五十三條　建物ノ第一階ニ設クル自動車車庫ノ建物ハ左ノ構造ト爲スベシ

一　床面積三百平方メートル以上ノモノハ其ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段ヲ耐火構造ト爲スコト

二　床面積百平方メートル以上ノモノハ其ノ主要ナル壁體ヲ耐火構造ト爲シ且柱、小屋及屋根又ハ天井ヲ不燃材料ヲ以テ構成スルコト

三　床面積五十平方メートル以上ノモノハ其ノ

主要ナル壁體、柱、小屋及屋根又ハ天井ヲ不燃材料ヲ以テ構成スルコト

四　床面積十五平方メートル以上ノモノハ其ノ主要ナル壁體ヲ不燃材料ヲ以テ構成シ又ハ壁體ノ内面ヲ鐵網「モルタル」塗其ノ他地方長官ノ承認スル構造ト爲シ且屋根又ハ天井ヲ不燃材料ヲ以テ構成又ハ被覆スルコト

五　床面積十五平方メートル未滿ノモノハ其ノ主要ナル壁體ノ内面及屋根又ハ天井ヲ不燃材料ヲ以テ構成又ハ被覆スルコト

六　前五號ノ規定ニ依ルノ外直上ニ二以上ノ階アル部分又ハ床面積五十平方メートル以上ノ直上階アル部分ハ其ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段ヲ耐火構造ト爲スコト

七　第一號乃至第五號ノ規定ニ依ルノ外床面積五十平方メートル未滿ノ直上階アル部分ハ其ノ主要ナル壁體及天井ヲ不燃材料ヲ以テ構成シ又ハ其ノ内面ヲ鐵網「モルタル」塗其ノ他地方長官ノ承認スル構造ト爲スコト

第五十四條　自動車車庫ノ構造設備ハ前二條ノ外左ノ規定ニ依ルベシ

一　床及地窖又ハ耐水材料ヲ以テ構成シ汚水排除ノ設備ヲ爲スコト

二　車庫ノ床地盤面下ニ在ル場合ニハ二方面以上ニ於テ外氣ニ通ズル適當ナル換氣口ヲ設ケ又ハ之ニ代ルベキ設備ヲ爲スコト

三　傾斜路ノ縱斷勾配ハ六分ノ一ヲ超エザルコト

四　外壁ノ窓又ハ出入口ニシテ隣地境界線又ハ隣接建物ニ面シ其ノ水平距離五メートル未滿ノ位置ニアルモノニハ左ニ揭グル設備ヲ爲スコト但シ公園、廣場等ノ空地ニ面スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

イ　第五十二條又ハ前條第一號、第二號若ハ第六號ニ該當スルモノノ窓又ハ出入口ニハ甲種防火戸ヲ設クルコト

ロ　前條第三號、第四號又ハ第七號ニ該當スルモノノ窓又ハ出入口ニハ防火戸又ハ鐵骨網入硝子戸ヲ設クルコト

ハ　前條第五號ニ該當スルモノノ出入口ニハ不燃材料ヲ以テ構成又ハ被覆シタル戸ヲ設クルコト

五　建物ノ第三階以上ノ階又ハ地盤面ヨリ十メートル以上ニ在ル箇所ニ設クルモノニ在リテハ之ヨリ連絡スル階段ヲ設ケ又ハ之ニ代ルベキ設備ヲ爲スコト

第五十五條　自動車車庫ニシテ建物ノ部分ニ設クルモノニ在リテハ前三條ノ外左ノ規定ニ依ルベシ

一　車庫ト車庫ニ非ザル部分トノ境界ニ設クル出入口其ノ他ノ開口ニハ前條第四號ノ規定ニ準ズル設備ヲ爲スコト

二　車庫ノ最下階ノ床及最上階ノ天井ニハ車庫ニ非ザル部分ニ通ズル開口ヲ設ケザルコト

三　車庫ニ非ザル部分ノ爲設クル非常用出入口ハ車庫内ニ之ヲ設ケザルコト

第五十六條　商品タル自動車又ハ揮發油ヲ使用セザル自動車ヲ格納スル自動車車庫ニ付テハ地方長官ハ前四條ノ制限ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

附　則

本令中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

本令ハ市街地建築物法適用前ヨリ存在スル建物及同法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ建築シタル建物ニ關シテハ增築、改築、修繕、用途ノ變更其ノ他現狀ニ變更ヲ加ヘザル限リ之ヲ適用セズ

内務省令第三十二號

市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依ル特殊建築物耐火構造規則中左ノ通改正ス

昭和十一年九月十一日

内務大臣　潮　惠之輔

第一條第一項第三號中「百貨店、」ヲ削リ同條同項第四號ヲ左ノ如ク改メ同條第二項中「第四號及」ヲ削ル

四　削除

第二條第一項第三號中「百貨店、」ヲ削リ同條同項第四號ヲ左ノ如ク改ム

四　削除

第三條第一項第三號ヲ左ノ如ク改ム

三　削除

第七條　本令ハ市街地建築物法施行規則第百四十九條ノ二ノ規定ニ依リ内務大臣ノ指定スル區域ニ對シテハ之ヲ適用セズ但シ同條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル建物又ハ地區ニ對シテハ地方長官ハ命令ヲ以テ本令ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ妨ゲズ

會　報

災害調査委員會（第9回）

時　8月29日午後6時30分～9時30分
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　波　江
幹　事　黒　田、玉　置
委　員　龜　井、矢　田

協議事項

1. 關西風水害調査書單行本發刊につき豫算、其他に關し協議し常務會に提出すべき案を決定す。

常　務　會（第16回）

時　9月7日午後5時10分～7時
所　建築材料陳列場
出席者　理　事　片岡會長、安井副會長
常　務　中澤主記、中西主記、内藤主記
加田主計、作間主計、清水主計
新名編輯、島田編輯、本多編輯
堀口編輯

議　事

1. 關西風水害調査書出版に關する件
2. 朝日ビル貸室料値上げに關する件
3. 木材市場品規格案建議及其促進に關する件
4. 本年度阪神防空演習に關する件
5. 第5回全國都市問題會議總會へ提出の研究問題10月號にて發表の件
6. 都市協會より無料廣告依頼の件
7. 會員詮衡

報　告

1. 9月例會準備報告
2. 7月分會計報告
3. 資産の分 5分利公債利率低下3分5厘公債に乗替の件

災害强度委員會（第5回）

時　9月8日午後7時30分～8時30分
所　協會倶樂部室
出席者　幹　事　黒　田
委　員　谷、山　田
篠　原、矢　田
内　藤

協議事項

1. 鹽泉記錄蒐集に關する件
1. 型枠の原稿に關する件

住宅委員會（第13回）

時　9月11日午後6時30分～9時30分
所　協會倶樂部室
出席者　幹　事　矢　田
委　員　荒　木、岡　田
貴賓院、中　野

協議事項

1. 住居讀本刊行に關する件

材料委員會（第12回）

時　9月17日午後6時50分～9時
所　朝日ビル倶樂部
出席者　委員長　高　橋
幹　事　松久保
委　員　楠　瀬、作　間
高　岡、道　田

協議事項

1. 木材規格案につき常務會の情勢を作間委員より説明あり、之に對する對策を協議す。

災害調査委員會（第10回）

時　9月18日午後6時30分～9時30分
所　協會倶樂部室
出席者　幹　事　黒　田、玉　置
委　員　龜　井、中　島
矢　田、山　田

協議事項

1. 關西風水害調査書發刊に關し常務會に提出の結果に付報告し之が對策に付協議す。

常　務　會（第17回）

時　9月21日午後5時40分～7時
所　建築材料陳列場
出席者　理　事　安井副會長
常　務　中澤主記、中西主記、内藤主記
加田主計、作間主計、島田編輯
本多編輯、堀口編輯

議　事

1. 秋季大會に關する件
2. 災害調査委員會より關西風水害調査報告書に關し具申の件

3. 住宅委員會より住宅に關する單行本發刊に付具申の件
4. 建築材料陳列場幹事會より廣告料支出に關し承認方の件
5. 建築學會內建築統計聯合委員會に關する件
6. 農林省大阪國有林產物販賣所より木材規格案寄贈方の件
7. 新名簿調製に關し全會員に照會の件
8. 倶樂部室幹事長より備品紛失届出の件
9. 會員詮衡

報　告

1. 9月例會報告
2. 阪神防空演習に關する報告
3. 8月分會計報告

會員動靜

入會者

會　員

相川　策一君　東成區勝山通9ノ72(自營)
小田健次郎君　西成區粉濱東之町5ノ103(自營)
久保田盛國君　神戸市林田區大塚町1ノ57(兵庫縣營繕課)
坂本一二三君　東成區勝山通9丁目72ノ11(自營)
三浦　春亥君　尼崎市難波新町3ノ262(吉田鐵工所)
三澤萬之進君　東成區東桃谷町4ノ196(自營)
望月初太郎君　旭區新森小路中3ノ41(大阪府建築課)
山崎　孝雄君　東淀川區十三西ノ町5ノ18(自營)
大道　廣輝君　普通贊助員より轉格
大隅　武夫君　神戸市須磨區磯馴町3ノ55(兵庫縣建築課)
川瀨　渉君　北區北扇町57(日本電力株式會社)
關原　猛夫君　住吉區平野流町115　小西政一方
前岡　幹夫君　神戸市灘區備後町　1ノ16六甲道アパート(兵庫縣建築課)
山際　光三君　住吉區遠里小野町395(竹中工務店)
横田　道夫君　旭區赤川町1040豐岡ハウス(都島工業學校)
大下順三郎君　普通贊助員より轉格

地方會員

姫野　達緒君　八幡市荒生町1丁目間組派出所內(間組小倉派出所)
辻本　三郎君　奈良縣添上郡大柳生村阪原山岡方(奈良縣古社寺修理技術員)
藤田　靜雄君　兵庫縣明石郡大久保村谷八木(兵庫縣建築課)
松下　克巳君　新京興安大路陸軍代用官舍お13號(康德不動產株式會社)

特別贊助員

海老原四郎君　旭區新森小路中1丁目　松下電器株式會社)
岡田　健三君　西區北堀江上通1ノ18　岡田組工務店)

普通贊助員

西村　隆君　香川縣坂出町若松町(坂出地方專賣局)

退會者

會　員

山下國太郎君

特別贊助員

龜山　武雄君

普通贊助員

倉田　裕邦君　福田　七郎君

轉居轉勤

會　員

伊藤　久治君　府下吹田町榮町1189(八木工務所)
杉　喜代一君　西淀川區大仁本町3ノ46 電氣工士養成所構內大倉土木株式會社作業所
中野順次郎君　北區善源寺町8ノ55
宮氏　幸雄君　神戸市湊區鵯越町69ノ1(兵庫縣營繕課)
村田　繁規君　京都府相樂郡當尾村西小淨瑠璃寺修理事務所
森　三郎君　市外守口町瀧井488　村田德松方
呼子　正君　住吉區橋本町5(電天下茶屋3166)
上野　馨君　宇治山田市東洋紡績山田工場錢高組詰所
大石　忠夫君　西區江戸堀下通5丁目　セントラルハウス
三島　剛君　神戸市須磨區大手町2ノ117
今西　太一君　西成區粉濱本町4ノ60

佐野　後三君　兵庫縣武庫郡甲東村段上字新池32ノ17
辻　卯藏君　大阪府建築課
進木孝太郎君　神戸市灘區上野通3ノ18(合資會社進木組代表社員)

地方會員

本田　富雄君　平壤府壽町朝鮮殖產銀行平壤支店
松江　秀季君　佐世保市八幡町3(佐世保海軍建築部)
清水　幸重君　東京市淀橋區百人町3ノ273
永澤　龍雄君　東京市小石川區宮下町51太田穗積方
岩城　種三君　富山市清水町4

特別賛助員

小松　四郎君　東區瓦町2三和ビル　東洋リノリューム株式會社內
森田　友造君　住吉區阪南町中1ノ32

普通賛助員

西村　勳君　神戸市須磨區板宿町3ノ132
前川　敬藏君　靜岡縣新居町濱名紡績新居工場社宅8號
村田　眞一君　旭區大宮町7ノ92
佐藤　佐七君　廣島縣佐伯郡大竹町第8區2210
小野　五作君　滋賀縣彦根町西馬場11ノ1
高濱　利道君　東京市芝區白金臺町2ノ8
田中潤一朗君　田中製作所
小柴　秀隆君　京都市右京區上桂宮ノ後町5ノ2
西口巳一郎君　東區森ノ宮西ノ町567
松永　嶸君　靜岡縣新居町濱名紡績新居工場工事場東畑建築事務所

都市武裝促進委員會

本年9月20日及21日昭和11年度阪神防空演習擧行せられしを以て本協會は都市武裝促進委員會に於て都市の堅牢なる建築物の必要即ち都市武裝の促進運動の爲パンフレット（下記の通）を作り9月18日大阪市、堺市、尼崎市、西宮市、神戸市の學校、官公衙其他に配布し廣く閱讀せられんことを依頼したり

尙防空演習當日（折惡しく雨天の爲22日）數萬の宣傳ビラ（下記の文字を入れたるもの）を飛行機により上記五市の空中より撒布宣傳に努めたり

パンフレット內容

空襲と都市の武裝

1. はしがき

最近飛行機は驚異的發達を遂げ、國土防衛の上に一大變革を來し、都市は敵の空襲下に暴露されるやうになつたのであります。之に對して歐洲各國は國土並に都市を防衛する爲、盛に防空演習を擧行し、空襲の防護に適應するやう都市の大改造をして居るといふ狀態であります。我國に於ても、近年陸軍防空演習に刺戟せられて、識者の間に都市の防護といふことが盛に唱導せらるゝのは悅ばしい現象であります。

1. 弓矢時代の兵戰と都市武裝

古來兵戰に對する都市の防護は、各時代の攻擊武器に應じ、都市の構築上に著しい影響を現して居るのであります。例へば弓矢を以て武器として居つた時代には、君主は其住民を膝下に集めて、彼等の外敵を防ぐに種々手段を見出したのであります。歐洲各都市及支那に於ては、都市の周圍に城壁或は城砦、堀等を環らして之を護り、我國に於ては市の中心部に於て此城壁を設け、外敵を防ぐことに努めたのであります。我國の城下町は總べて此形式であります。支那の萬里の長城の如きは其規模の雄大なることに於て、又國家的施設として餘りに有名であります。尙城下町以外に於ても我國に於ける堺市は自由開港都市でありながら、都市の周りに防護の堀を設けて外敵を防ぐに努めたのであります。

1. 火砲時代の兵戰と都市武裝

其後十五世紀になつて火砲が發明せられ、都市住民に非常な脅威を與へ從來の都市の防護方法に一大變革を來したのであります。當時、火砲の攻擊に對し都市防禦として案出せられた理想都市は多角放射路線式の形式であります。それは都市の外圍に函館の五稜閣の如き星形の煉瓦造城壁を環らし稜端に砲を据へて防ぐのでありましてパリ、ローマなどに其例を見るのであります。當時の五稜閣は火砲防禦用城砦の最新式の形式であります。

然るに其後火砲は著しい發達をして、都市それ自身の內に於て外敵を防ぐことは到底不可能により、戰爭の形式も一變して野外戰となり、日淸、日露の戰役には滿洲の野に戰爭をなし國民は國內に安閑として居られたのであります。

1. 近代戰と都市武裝

然るに航空機の異常なる發達は戰爭形式を擴大立體化し、將來戰は開戰前に敵國空軍の襲擊を受くるものと覺悟せなければならぬ。都市は國の政治、經

濟機構の中樞であり軍事上の根元地であるから、敵は第一に國の心臟部を刺し國民を混亂脅威せしめ、戰爭意識を奪つて、勝を一氣に決せんとするは明らかであります。浮塵子の如く空襲する敵機を防いで一機も入れぬと誰れが言ひ切り得るものがあらうか。必ずや敵の小數機は防空網を突破して都市に襲ひ掛かるものと覺悟せなければならぬ。歐洲大戰に於てパリ、ロンドンの百餘回に亘る獨機の空襲に對しても都市の建築物が耐火構造の爲、火災の延燒を免れ、よく持久して最後の戰勝を捷ち得たるも都市建築物の不燃燒に負ふのであります。此戰慄すべき都市攻撃武器に對して今日の我が都市は果してどんな情況であらうか。

1. 我國現時の都市武裝情況

我國都市の現狀を見ますと大正九年都市計畫並に市街地建築物法の適用せられて公園、道路、廣場、避難道路など公共的設備は稍々改善進歩せられたものがありますが、都市の火災を局部に止め、延燒を防止すると同時に避難を安全ならしむる防火地區は市民自身に於て耐火構造の建築物を以て充實しなければならぬのであります。近頃耐火的の高層建築が著しく增加する傾向にあるが、尙防火地區の一割にも充たない遲々たる情況であつて防火地區の完成は百年河清を俟つが如しと考へられるのであります。

其他一般の建築は元より都市の大部分は木造建築物の集團であつて平時に於ける地震、雷、火事、風水等の如き天災に對して何等の抵抗力を有つて居らない、實に國防上の重大欠陷は木造都市建築と謂ふべきであるのであります。かの關東大震災に於て死者十餘萬、資財五十五億を燒失し、又函館の大火、關西の大風水害など思ひ起すとき慄然たるものがあります。我々は何時起るかも知れぬ天災、及國家非常時に想倒するとき枕を高くして眠ることが出來ないのであります。

1. 都市武裝は市民の義務

西歐文明國に比し、我國に於て最も進歩の遲れて居るものは、都市を構成する建築物の改善であります。建築術は世界的指導の地位にまで進歩して居るが、建築の改善が遲々たるのは、建築物は各人が建築し之を所有するから、急に舊殻を脫して文化的建築物に遷り難い點もあらうが、都市の大部分は德川時代と殆んど變りがない木造建築であります。之が改善は當事者の絕へざる努力と理解ある市民各自の協力に俟つこと大なるものがあります。就中建築者は此脅威を認識し卒先して鐵筋コンクリート造などの耐火構造建築物を建てる樣に努めなければならぬ、勿論そこには避難用の地下室、防毒室などを備へなければ充分ではありません。

近頃鐵筋コンクリート構造は著しく發達して通常木造の五割增位の價格にて建築が出來ますし、それに建物の耐久力、保險率の安いこと、維持費の少ないことなどに考へますと、鐵筋コンクリートは木造よりも反つて安くつくのでありますから、防火地區内の人は勿論、地區外の人と雖も都市市民は自己の生命財產を護る見地から、進んで耐震、耐火建築たる鐵筋コンクリートを以て建築することは市民の重大なる義務であると考へられるのであります。

1. む す び

此國家非常時に當り祖國日本指導の第一線にある我々都會人が、此戰慄すべき脅威を自覺し、卒先して防火、防空の建築物普及に邁進し、都市自體の武裝施設の完成を期せねばならぬと信ずるのであります。

宣傳ビラの内容

まもれ都市

○あはてずおそれず我家をまもれ
逃げたあとから起る火事

○燈火管制準備はよいか
防火防毒すぐ用意

○天災地變に燃えない家は
空のまもりに無敵陣
燃えない家を建てませう

社法人團 日本建築協會
大阪市北區中之島朝日ビル四階

後記

◆オリンピックの建築は回を重ねる毎に著しい發達の足跡を殘して來て、ベルリンオリンピックの建物に於て遂に一つの頂點に到達したかのやうにさへ感じられる。がしかし、進歩發達の餘地はまだまだいくらもある事であらうし、今東京オリンピックをひかへて我々建築家が知らんと欲し、云はんと欲する事も又此の點であらう、勿論東京オリンピックの建築は、計畫に於ても、又意匠に於ても、ベルリンのそれの模倣に終つたり、皮相な日本樣式の玩弄物となつたりしてはならぬが、既に日向の聖地より聖火リレーの模倣計畫が傳へられる等、下手をすると東洋趣味のベルリンオリンピックにあらぬとも限らぬ。
本號をオリンピック特輯號として先づその本格的再檢討を行はんとした所似である。

◆本號は早急の計畫であつたために建築家以外の人々、特に實際競技に關係された人々の聲を殆ど聞く事が出來なかつたし、建築家からも東京オリンピックの建築は此くあるべしと云ふやうな意見も殆ど得られなかつた事は殘念である

◆原隨園氏の「オリンピア祭の競技」は權威者の記事として古代ギリシヤの競技を知る上に絶好の資料であり、森田慶一氏、瀧澤眞弓氏、中尾保氏の記事亦それぞれ專門的知識を傾けられた好記事として共に本號の眞髓をなすものであり、從つてオリンピック競技の本覽を窺ふに充分であらう。

◆競技場建築に造詣深い小林政一氏から得た「オリンピック競技設備に就て」は次のオリンピック建築設備に對して多くのヒントを與へる意見として讀者にすゝめたい。

◆木下東作氏、田誠氏の寄稿は兩氏各獨自の立場から建築家に呼びかける言葉として本號を一層意義あらしめるもの。

◆和田氏、匂坂氏のオリンピック村、及冬期オリンピックの建築に關する記事は比較的一般の注意をひかなかつた今年のオリンピックのいはゞ外廓的建設物に對する紹介として意義があらう

◆龜井氏、小泉氏等の記事は共にオリンピックに關係ある問題をとらへて讀者に訴へたもの。

◆尙卷頭揭載の寫眞の多くは大阪朝日新聞社、中尾保氏、伊藤和夫氏等の好意によつて得たもので、特に第一回オリンピック競技場の寫眞の如きは得難い貴重な寫眞である。重ねてこゝに御好意を謝する次第である。

◆次號は構造に關する特輯號となる筈であるから御期待を乞ふ。（本多正道）

建築と社會

第19輯第10號

毎月1回1日發行　定價　1册 50錢（郵稅2錢）
12册 6圓（同 24 錢）
昭和11年9月25日印刷　昭和11年10月1日發行

發行・編輯
印刷人　小板常男
大阪市北區朝日ビル日本建築協會內
印刷所　大石堂印刷所
大阪市北區玉江町1丁目11番地
發行所　社團法人　日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル
電話長ヰ濱(23)4501番(9)
振替口座大阪39975番
特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀2440番
振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に揭載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告揭載料金

普通	1頁	1回	15·00
普通	½頁	1回	8·00
普通（前附第1頁）	1頁	1回	45·00
普通（前附第2頁）	1頁	1回	40·00
普通（後附第1及最終頁）	1頁	1回	25·00
アート（中挿）	½頁	1回	20·00
表紙2	1頁	1回	60·00
表紙3	1頁	1回	45·00
表紙4	1頁	1回	80·00
建築事務所錄	1欄	1回	1·50
（建築關係業者案內）	1欄	1回	5·00

廣告揭載御申込は本會直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

建築と社會第19輯第10號　廣告索引

ア　旭硝子株式會社……26
　朝日建材株式會社……前附 1
　淺野スレート株式會社……21
　有田製陶所……44
　淺海商會……30
イ　岩元工業株式會社……30
　伊藤元商店……28
エ　榮進社……25
　英進商會……33
　荏原製作所……52
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
　大阪伊丹商店……18
　大阪組立コンクリート製作所……40
　大阪都市協會……7
　大野製作所……前附 2
　奥村重兵衞商店……32
カ　金岡養樹園……中挿
　勝田製作所……表紙 4
キ　桐田商會……47
　協和製作所……39
ク　黒川化學工業所……23
　久保商店……39
　窪島プレス工業所……45
コ　工英社……51
　後藤商店……28
　金剛商會……15
サ　佐渡島西店……20
　佐久間パプコ工業株式會社……50
　坂本商會大阪支店……33
　坂田ベンチレーター製作所……42
　三機工業株式會社大阪支店……表紙 2
ス　須賀商會……49
セ　政正合資會社……41
　清光社……42
タ　田島應用化學工業所大阪支店……前附 4
　大和工業株式會社……9.10.11.
　大洋組建材部……18
　ダンロップ護謨株式會社……中挿
　チヨーホー商會……43
ト　東洋リノリユーム株式會社……27
　東京電氣株式會社……35
ナ　内外土木建築材料合資會社……13
　南滿鑛業株式會社……24
　中野石材販賣店……38
ニ　日本建築紙工株式會社……41
　日刊土木建築時報社(近代建築畫譜)……前附 5
　日本セメント防水劑製造所……8
　日本放熱器商會大阪支店……31
　日本窒素肥料株式會社……表紙 3
　日本陶織社……15
　日本パイプ製造株式會社……46
　日本ドアーチエツク製作所……48
　西原衞生工業所……16
　西孫商店建築金物部……23
ノ　野澤幸三郎商店……22
ハ　汎建製作所……44
　長谷川利彦商會……38
ヒ　日立製作所……19
　平松釣戸車製作所……20
フ　藤田商會……12
　福原商店大阪支店……43
ホ　邦光化學工業所……14
マ　松井商店……40
ミ　三井物産株式會社……36
ヤ　矢橋大理石商店……37
　大和護謨製作所……34
ヨ　横河橋梁製作所……29
　米本榮商店……37
ラ　ライトラバー工業合資會社……17
リ　理化學興業株式會社……前附 3
レ　玲光社(木内眞太郎)……24